静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第51集

赤土政所遺跡・一反田遺跡

菊　　川　　市

平成19～20年度（掛川浜岡線原発関連道路整備事業）及び
平成24年（掛川浜岡線原発関連道路整備事業）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

（第２分冊）

２０１６

静岡県埋蔵文化財センター

目　次

第６章　赤土政所遺跡・一反田遺跡の調査成果
第１節　赤土政所遺跡のまとめ …… 263
第２節　一反田遺跡のまとめ …… 265
第３節　遺物のまとめ …… 266

第７章　自然科学分析の成果
第１節　一反田遺跡出土金属製品（耳環）の蛍光Ｘ線分析 …… 269
第２節　赤土政所遺跡・一反田遺跡出土鉄滓の金属学的調査 …… 277
第３節　赤土政所遺跡・一反田遺跡出土種実の同定 …… 293
第４節　赤土政所遺跡・一反田遺跡出土動物骨・貝殻の同定 …… 300
第５節　赤土政所遺跡・一反田遺跡の放射性炭素年代測定 …… 304
第６節　赤土政所遺跡・一反田遺跡出土木材の樹種同定 …… 306

参考文献 …… 347

図版

抄録・奥付

挿　図　目　次

第 232 図　赤土政所遺跡第２面掘立柱建物変遷図 …… 264
第 233 図　出土墨書土器集成図１ …… 266
第 234 図　出土墨書土器集成図２ …… 267
第 235 図　出土木製品分類図 …… 268
第 236 図　出土耳環分析箇所 …… 269
第 237 図　出土耳環分析結果① …… 271
第 238 図　出土耳環分析結果② …… 272
第 239 図　出土耳環分析結果③ …… 273
第 240 図　出土耳環分析結果④ …… 274
第 241 図　出土耳環分析結果⑤ …… 275
第 242 図　出土耳環分析結果⑥ …… 276
第 243 図　試料No.１鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 283
第 244 図　試料No.２鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 284
第 245 図　試料No.３鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 285
第 246 図　試料No.４鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 286
第 247 図　試料No.５鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 287
第 248 図　試料No.６鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 288
第 249 図　試料No.７鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 289
第 250 図　試料No.８鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 290
第 251 図　試料No.９鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果 …… 291

挿　表　目　次

第５表　墨書土器一覧表 …… 267
第６表　出土耳環形状計測表 …… 269
第７表　出土耳環蛍光Ｘ線分析結果表 …… 270
第８表　出土鉄滓一覧表 …… 277
第９表　出土鉄滓の平均化学組成表（wt%） …… 279
第 10 表　出土鉄滓の鉱物相の EPMA 分析結果表（wt%） …… 280
第 11 表　同時代遺跡出土鉄滓の化学組成表（wt%） …… 282
第 12 表　出土鉄滓の鉱物相 EPMA 分析結果表 …… 292
第 13 表　赤土政所遺跡出土種実同定結果一覧 …… 294
第 14 表　一反田遺跡出土種実同定結果一覧表 …… 295
第 15 表　検出動物分類群一覧表 …… 300
第 16 表　出土骨貝類同定結果一覧表 …… 301
第 17 表　一反田遺跡出土ウマ計測表 …… 301
第 18 表　出土炭化物の放射性炭素年代測定結果一覧表 …… 304
第 19 表　出土炭化物の暦年較正結果一覧表 …… 305
第 20 表　出土木製品の樹種組成一覧表 …… 324
第 21 表　出土木製品の用途別樹種組成一覧表 …… 326
第 22 表　出土用途不明品の樹種組成一覧表 …… 328
第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表 …… 349
第 24 表　赤土政所遺跡出土木製品観察表 …… 364
第 25 表　赤土政所遺跡出土石器・石製品観察表 …… 368
第 26 表　赤土政所遺跡出土土製品観察表 …… 369
第 27 表　赤土政所遺跡出土金属製品観察表 …… 369
第 28 表　赤土政所遺跡掘立柱建物計測表 …… 369
第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表 …… 370
第 30 表　一反田遺跡出土木製品観察表 …… 382
第 31 表　一反田遺跡出土石器・石製品観察表 …… 385
第 32 表　一反田遺跡出土土製品観察表 …… 385
第 33 表　一反田遺跡出土金属製品観察表 …… 385
第 34 表　一反田遺跡堀立柱建物計測表 …… 385
第 35 表　赤土政所遺跡出土木製品樹種等一覧表 …… 386
第 36 表　一反田遺跡出土木製品樹種等一覧表 …… 388

挿写真目次

写真６　試料№.１鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 283
写真７　試料№.２鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 284
写真８　試料№.３鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 285
写真９　試料№.４鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 286
写真 10　試料№.５鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 287
写真 11　試料№.６鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 288
写真 12　試料№.７鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 289
写真 13　試料№.８鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 290
写真 14　試料№.９鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織 …… 291
写真 15　赤土政所遺跡出土種実・骨 …… 297
写真 16　一反田遺跡出土種実 …… 298
写真 17　一反田遺跡出土塊状炭化物 …… 299
写真 18　一反田遺跡出土骨貝類 …… 303
写真 19　出土木材　顕微鏡写真１ …… 329
写真 20　出土木材　顕微鏡写真２ …… 330
写真 21　出土木材　顕微鏡写真３ …… 331
写真 22　出土木材　顕微鏡写真４ …… 332
写真 23　出土木材　顕微鏡写真５ …… 333
写真 24　出土木材　顕微鏡写真６ …… 334
写真 25　出土木材　顕微鏡写真７ …… 335
写真 26　出土木材　顕微鏡写真８ …… 336
写真 27　出土木材　顕微鏡写真９ …… 337
写真 28　出土木材　顕微鏡写真 10 …… 338
写真 29　出土木材　顕微鏡写真 11 …… 339
写真 30　出土木材　顕微鏡写真 12 …… 340
写真 31　出土木材　顕微鏡写真 13 …… 341
写真 32　出土木材　顕微鏡写真 14 …… 342
写真 33　出土木材　顕微鏡写真 15 …… 343
写真 34　出土木材　顕微鏡写真 16 …… 344
写真 35　出土木材　顕微鏡写真 17 …… 345
写真 36　出土木材　顕微鏡写真 18 …… 346

写真図版目次

［赤土政所遺跡］
図版１　赤土政所遺跡・一反田遺跡遠景（調査前、北から）
図版２　１．１区第４面　完掘状況全景（北から）
　２．2-1 区第４面　完掘状況全景（南東から）
図版３　１．2-2 区第４面　完掘状況全景（北から）
　２．2-3 区第４面　完掘状況全景（北から）
図版４　2-3 区第４面　完掘状況全景（北から）
図版５　１．2-2 区第４面　SH401 完掘状況（東から）
　２．2-2 区第４面　SH401 及び周辺遺物出土状況（北西から）
　３．１区第４面　SK404 完掘状況（北から）
図版６　１．１区第４面　SK404 遺物出土状況（南東から）
　２．2-1 区第４面　SK407・408 遺物出土状況（西から）
　３．2-1 区第４面　SK409 遺物出土状況（西から）
図版７　１．2-1 区第４面　SD403 完掘状況（北から）
　２．2-1 区第４面　SD403 土層堆積状況（東から）
図版８　１．2-1 区第４面　SD403 遺物出土状況①（北西から）
　２．2-1 区第４面　SD403 遺物出土状況②（東から）
　３．2-1 区第４面　SD403 遺物出土状況③（東から）
図版９　１．2-1 区第４面　SD404 完掘状況（東から）
　２．2-1 区第４面　SD404 遺物出土状況（東から）
　３．2-1 区第４面　SD404 土層堆積状況（西から）
図版 10　１．2-2 区第４面　水田完掘状況①（北から）
　２．2-3 区第４面　水田完掘状況②（北から）

図版 11　１．3-1 区第４面　水田完掘状況③（北から）
２．2-2 区第４面　水田（水田 412）に残された足跡（北から）
図版 12　１．第４面　水田畦畔断割状況①（東から）
２．第４面　水田畦畔断割状況②（東から）
３．第４面　水田畦畔断割状況③（西から）
図版 13　１．１区第３面　完掘状況全景（北から）
２．2-1 区第３面　完掘状況全景（南東から）
図版 14　１．2-2 区第３面　完掘状況全景（北から）
２．2-3 区第３面　完掘状況全景（北西から）
図版 15　１．2-1 区第３面　SH301 完掘状況（南西から）
２．2-1 区第３面　SH301 遺物出土状況（北西から）
３．2-1 区第３面　SH302（東から）
図版 16　１．2-1 区第３面　SH302（北東から）
２．2-1 区第３面　SH303（南東から）
３．2-1 区第３面　SH304（北から）
図版 17　１．2-1 区第３面　SH304 遺物出土状況①（北から）
２．2-1 区第３面　SH304 遺物出土状況②（西から）
３．2-1 区第３面　SK309 完掘状況（南東から）
図版 18　１．１区第３面　SK303 完掘状況（東から）
２．１区第３面　SK303 遺物出土状況（南東から）
３．１区第３面　SK306 完掘状況（西から）
図版 19　１．１区第３面　SK306 遺物出土状況（南東から）
２．2-1 区第３面　SK314 遺物出土状況（南東から）
３．2-1 区第３面　SK316 完掘状況（南西から）
図版 20　１．2-1 区第３面　完掘状況（南東から）
２．2-1 区第３面　SX301 完掘状況（南東から）
３．１区第３面　SD302･303 完掘状況（北東から）
図版 21　2-1 区第２面　完掘状況全景（南東から）
図版 22　１．１区第２面　完掘状況全景（北西から）
２．2-2 区第２面　完掘状況全景（北から）
図版 23　１．2-3 区第２面　完掘状況全景（北西から）
２．3-1 区第２面　完掘状況全景（北から）
図版 24　１．１区第２面　掘立柱建物群（SB203 ～ 205）検出状況（北から）
２．１区第２面　掘立柱建物群（SB203 ～ 205）完掘状況（北から）
図版 25　１．１区第２面　掘立柱建物群（SB201・202）完掘状況（北から）
２．１区第２面　掘立柱建物（SB210）完掘状況（南東から）
図版 26　2-1 区第２面　掘立柱建物群（SB211 ～ 214）完掘状況（南東から）
図版 27　１．１区第２面　SB204-P2 土層断面（東から）
２．１区第２面　SB205-P3 土層断面（東から）
３．１区第２面　SB210-P2 土層断面（東から）
図版 28　１．2-1 区第２面　SB211-P2 土層断面（東から）
２．2-1 区第２面　SB211-P4 土層断面（東から）
３．2-1 区第２面　SB211-P5 土層断面（南西から）
４．2-1 区第２面　SB212-P7 礎板出土状況（東から）
５．2-1 区第２面　SB212-P1 及び SB213-P3 柱・礎板出土状況（北から）
６．2-1 区第２面　SB214-P1 土層断面（東から）
図版 29　１．１区第２面　SK203 完掘状況（南東から）
２．2-1 区第２面　SK207 遺物出土状況（北東から）
３．2-1 区第２面　SK207･208 完掘状況（東から）
図版 30　１．2-1 区第２面　SK208 遺物出土状況（北から）
２．2-1 区第２面　SK210 遺物出土状況①（南西から）
３．2-1 区第２面　SK210 遺物出土状況②（東から）
図版 31　１．2-1 区第２面　SK211 遺物出土状況（北西から）
２．2-1 区第２面　SK212 遺物出土状況（南西から）
３．2-3 区第２面　SA201 中央部土層断面（南から）
図版 32　１．2-3 区第２面　SA201 中央部断割状況（北西から）
２．１区第２面　SX201 完掘状況（南から）
３．１区第２面　SX202 遺物出土状況（南から）
図版 33　１．区第２面　水田完掘状況（西から）
２．2-2 区第２面　SD206 完掘状況（北西から）
図版 34　１．2-2 区第２面　SD206 遺物出土状況①（北東から）
２．2-2 区第２面　SD206 遺物出土状況②（北から）
３．2-2 区第２面　SD206 遺物出土状況③（南東から）
４．2-2 区第２面　SD206 遺物出土状況④（東から）
５．2-2 区第２面　SD206 遺物出土状況⑤（北から）

６．2-2 区第２面　SD206 遺物出土状況⑥（東から）
図版 35　１．１区第１面　完掘状況全景（北から）
２．2-1 区第１面　完掘状況全景（北から）
図版 36　１．2-2 区第１面　完掘状況全景（北から）
２．2-3 区第１面　完掘状況全景（北から）
図版 37　１．3-1 区第１面　完掘状況全景（北から）
２．3-1 区第１面　SR110 完掘状況全景（北東から）
３．3-1 区第１面　SR110 完掘状況西側細部（北東から）
図版 38　１．１区第１面　SX102 完掘状況（南東から）
２．１区第１面　SX103 遺物出土状況（南から）
３．１区第１面　SD103・104 遺物出土状況（南東から）
図版 39　第４面　SK404・407・408 及び SD404 出土土器
図版 40　第４面　SD403 出土木製品
図版 41　第４面　SD403 出土土器①
図版 42　第４面　SD403 出土土器②及び包含層出土土器・石製品・土製品
図版 43　第３面　SH301・302 出土土器
図版 44　第３面　SH304 出土土器
図版 45　第３面　SK303・312 ～ 314・319 及び包含層出土土器・土製品
図版 46　第２面　掘立柱建物出土柱・礎板
図版 47　第２面　掘立柱建物及び土坑出土土器①
図版 48　第２面　土坑出土土器②（SK208）
図版 49　第２面　土坑出土土器③・土製品・鉄滓（SK208・210・211）
図版 50　第２面　SD206 出土土器①
図版 51　第２面　SD206 出土土器②
図版 52　第２面　SD206 出土土器③
図版 53　第２面　SD206 出土土器④
図版 54　第２面　SD206 出土土器⑤・鉄滓・石製品及び第１面　包含層出土石器
図版 55　第２面　SD206 出土木製品①
図版 56　第２面　SD206 出土木製品②
図版 57　第２面　SD206 出土木製品③
図版 58　第２面　SD206 出土木製品④
図版 59　第２面　SD206 出土木製品⑤
図版 60　第２面　SD206 出土木製品⑥
図版 61　第２面　SX201・202 及び包含層出土土器
図版 62　第１面　SB104、SD110・120・123、小穴、SR103・104・108 出土土器・土製品
図版 63　第１面　SR110 出土木製品
図版 64　第１面　SR110 出土土器及び包含層出土土器①
図版 65　第１面　包含層出土土器②
図版 66　第１面　包含層出土土器③・土製品・金属製品
［一反田遺跡］
図版 67　１．北区（5-1・2 区）第２面　完掘状況全景（北から）
２．北区（４区）第２面　完掘状況全景（北から）
図版 68　１．北区（４区）第３面　SK309 完掘状況（西から）
２．北区（5-1・2 区）第３面　SD301 完掘状況（東から）
３．北区（5-1・2 区）第３面　SD302 完掘状況（北から）
図版 69　１．北区（４区）第３面　SD303 完掘状況（東から）
２．北区（４区）第３面　SD304 遺物出土状況（南から）
３．北区（４区）第３面　SD305 完掘状況（北東から）
図版 70　１．北区（5-1・2 区）第１面　完掘状況全景（北から）
２．北区（４区）第１面　完掘状況全景（北から）
図版 71　１．北区（5-1・2 区）第１面　SD101 完掘状況（東から）
２．北区（5-1・2 区）第１面　SD101 土層堆積状況（西から）
図版 72　１．北区（5-1 区）第１面　SD101 遺物出土状況①（東から）
２．北区（5-1 区）第１面　SD101 遺物出土状況②（北から）
３．北区（5-2 区）第１面　SD101 遺物出土状況③（南西から）
４．北区（5-2 区）第１面　SD101 遺物出土状況④（南東から）
５．北区（5-2 区）第１面　SD101 遺物出土状況⑤（西から）
６．北区（5-1 区）第１面　SD101 遺物出土状況⑥（西から）
図版 73　１．北区（5-2 区）第１面　SD101 遺物出土状況⑦（東から）
２．北区（5-2 区）第１面　SD101 遺物出土状況⑧（南西から）
３．北区（5-2 区）第１面　SD101 遺物出土状況⑨（北東から）

４．北区（5-2 区）第１面　SD101
遺物出土状況⑩（北から）
５．北区（5-2 区）第１面　SD101
遺物出土状況⑪（南西から）
６．北区（5-2 区）第１面　SD101
遺物出土状況⑫（北東から）
図版 74　第３面　SD304 出土土器及び第１面　SD101
出土土器①（上層①）
図版 75　第１面　SD101 出土土器②（上層②）
図版 76　第１面　SD101 出土土器③（上層③、下層①）
図版 77　第１面　SD101 出土土器④（下層②）
図版 78　第１面　SD101 出土土器⑤（下層③）
図版 79　第１面　SD101 出土土器⑥（下層④）
図版 80　第１面　SD101 出土土器⑦（下層⑤）
図版 81　第１面　SD101 出土土器⑧（下層⑥）
図版 82　第１面　SD101 出土土器⑨（下層⑦）
図版 83　第１面　SD101 出土土器⑩（下層⑧）
図版 84　第１面　SD101 出土土器⑪・土製品・石製品
・金属製品（下層⑨及び上層④）
図版 85　第１面　SD101 出土木製品①
図版 86　第１面　SD101 出土木製品②
図版 87　第１面　SD101 出土木製品③
図版 88　第３面　溝出土土器及び第１面　SD101 出土
土器⑫（下層⑩）及び溝・性格不明遺構
・包含層出土土器・石器・石製品
図版 89　南区第３面　完掘状況全景（北西から）
図版 90　１．南区第３面　水田完掘状況全景(北西から)
２．南区第３面　水田畦畔断割状況①(西から)
３．南区第３面　水田畦畔断割状況②(西から)
図版 91　１．南区第３面　SA301 完掘状況（北から）
２．南区第３面　SA302 完掘状況（北西から）
図版 92　南区第２面　完掘状況全景（北西から）
図版 93　１．南区第２面　SR201 完掘状況（北から）
２．南区第２面　SA201 完掘状況（北から）
３．南区第２面　SA202 完掘状況（東から）
図版 94　１．南区第２面　SR202 完掘状況（北から）
２．南区第２面　SR202 遺物出土状況
（北西から）
３．南区第１面　SK112 完掘状況（北から）
４．南区第１面　SK119 完掘状況（北から）
５．南区第１面　SK117 完掘状況（北から）
６．南区第１面　SK117 遺物出土状況（東から）
図版 95　南区第１面　掘立柱建物群完掘状況全景
（北西から）
図版 96　１．南区第１面　SB102・103・105 完掘状況
（北から）
２．南区第１面　SB104 完掘状況（北西から）
図版 97　１．南区第１面　SB102-P2 完掘状況（北から）
２．南区第１面　SB102-P3 完掘状況（北から）
３．南区第１面　SB102-P4 完掘状況（北東から）
４．南区第１面　SB102-P5 完掘状況（北東から）
５．南区第１面　SB102-P7 完掘状況（南から）
６．南区第１面　SB104-P1 完掘状況（北西から）
図版 98　１．南区第１面　SD105 土層断面（D-D’）
（南東から）
２．南区第１面　SD104 完掘状況（東から）
３．南区第１面　SB103 付近墳砂確認状況
（北東から）
図版 99　第３面　SA301 出土木製品①
図版 100　第３面　SA301 出土木製品②、包含層及び第
２面　SA201・202、包含層出土土器・木製品
図版 101　第２面　SR201 出土土器①
図版 102　第２面　SR201 出土土器②
図版 103　第２面　SR201 出土土器③
図版 104　第２面　SR201 出土土器④
図版 105　第２面　SR201 出土土器⑤
図版 106　第２面　SR201 出土土器⑥
図版 107　第２面　SR201 出土木製品及び小穴出土土器、
包含層出土鉄滓
図版 108　第２面　SR202 及び第１面掘立柱建物
・溝出土土器
図版 109　第１面　掘立柱建物出土柱・礎板
図版 110　第１面　溝・土坑及び包含層出土土器
・土製品・金属製品・木製品
図版 111　第１面　包含層出土土器①
図版 112　１．第１面　包含層出土土器②
２．主な貿易陶磁器・瀬戸美濃系陶器（中世）
図版 113　墨書土器　赤外線写真①
図版 114　墨書土器　赤外線写真②
図版 115　墨書土器　赤外線写真③及び木製品
赤外線写真
図版 116　遺構出土種子
図版 117　馬骨・土器籠目及び一反田遺跡第１面 SD101
出土木製品

第６章　赤土政所遺跡・一反田遺跡の調査成果

第１節　赤土政所遺跡のまとめ

赤土政所遺跡・一反田遺跡は平成 20 ～ 22・24 年度の４年間にわたり、現地調査を実施してきた。これによって当遺跡は古墳時代前期～中世に至る複合遺跡であることが明らかとなった。本節以降、これまで報告してきた事実記載のまとめとして、遺跡の内容について検討する。

（１）水田と集落

赤土政所遺跡の第４面で確認した小区画水田は、発掘調査当初は弥生時代後期の水田と考えられていたが、出土した土器などから古墳時代前期末～中期前半に位置付けられる。また水田を覆う土砂から採取した炭化物の年代は 400 ～ 520 年ぐらいの年代が出ているとの情報を得ている（註１）。同遺構面では竪穴建物 SH401 が検出されており、出土した土器の年代からも古墳時代前期末～中期前半である。こうした成果から、当地に初めて人の手が入り開発した年代は、古墳時代前期末という事実が判明した。

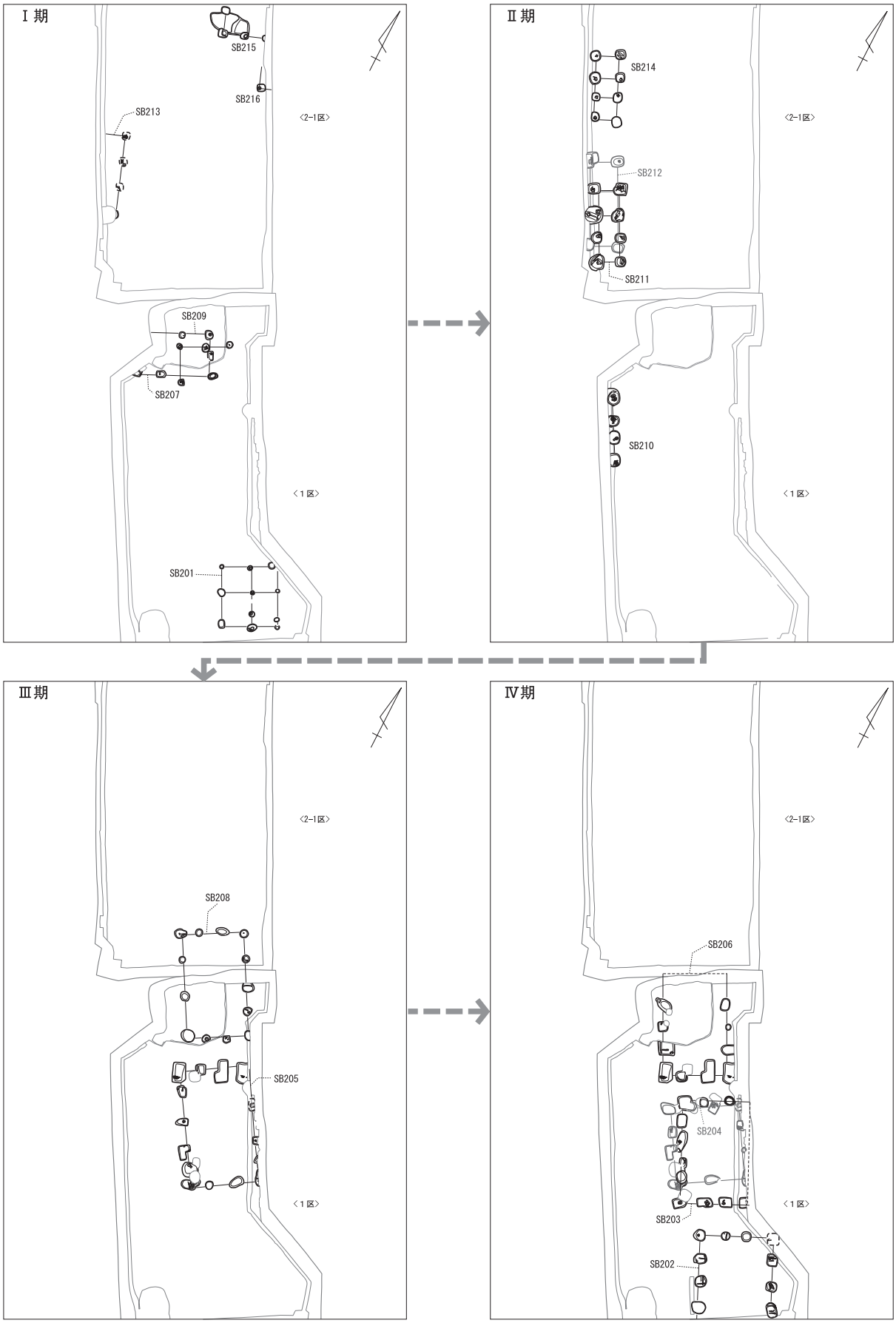
続く第３面でも竪穴建物が検出された。竪穴建物は４軒（SH301 ～ 304）あり、覆土内から古墳時代中期（５世紀末～６世紀前半）の土器が見つかっている。土器は土師器のみで須恵器は混入していないことから、須恵器が流入してくる直前の時期の竪穴建物ということがわかった。

ただし、調査時の所見では、調査区内で確認された噴砂の影響で調査区の一部が沈んで高さが異なることで遺構面の高さが凹凸になってしまった可能性がある。そのため第３面で確認できなかった遺構を第４面で確認した可能性は排除できない。こうしたことから今後の周辺部での調査結果を待ち、更に検討を加えていくことが必要であることを補足したい。今回の調査では、沖積地に古墳時代前期から中期の竪穴建物や水田が見つかるという成果があったものの、水田・集落のごく一部が見つかったに過ぎない。恐らく集落の中心地はさらに北東側の丘陵地から低丘陵とその縁辺部であろうと予測できる。今後、この範囲には集落跡が見つかる可能性が高く、注意を払うべき場所である。

（２）掘立柱建物

赤土政所遺跡の第２面で確認した掘立柱建物は 16 棟である。柱穴に切り合い関係が確認でき、少なくとも数回にわたって建て替えられたことが判明するが、重複する柱穴の切り合い関係が判別しにくく、一部前後関係が分からないものもある。柱穴の形態は、方形・長方形のもの（SB202 ～ 206・208・210・211・212・214）と、円形のもの（SB201・207・209・213・215・216）が確認できる。SB201 は１区の南東に位置する。第２面で確認したが、柱穴がここで報告する掘立柱建物と大きさ、形態ともに大きく異なる。主だった掘立柱建物とその重複関係は以下の通りである。これらの建物群は２－１区の北端で検出した２条の溝（SD201・202）よりも南側に展開している。この溝より北側には目立った遺構がない。こうした状況から建物群はこれより北側には存在せず、SD201・202 が区画溝の役割を持ち、建物は１区・２－１区以南に広がるものと想定される。ただし、調査区の幅が最大 14m 程であることや、南側が調査区外になることから、東西方向、南方向にどこまで広がるかは現段階で想定できない。

以上の結果から掘立柱建物は、同一場所で３回から４回ほど建て替えが行われたことが確認できた。柱穴の出土遺物から最終段階の建て替えは平安時代後半から終り頃であることも判明した。３回の建て



第 232 図　赤土政所遺跡　第２面掘立柱建物変遷図

替えが行われ、各建物が 20 ～ 30 年で建て替えられたとすれば、平安時代中頃（９世紀）に建設が始まり、終り頃（11 世紀前半）まで建物が存続した可能性があり、主要時期は 10 世紀前半から 10 世紀後半と考えられる。掘立柱建物の柱穴の形状や柱根の樹種、切り合い関係を考慮した結果、時期別の変遷を第 232 図に示した。また南側に居住あるいは実務を行う建物、北側に総柱の倉庫が配置されていた可能性も想定できる。このように一度に複数の建物が建設されるとともに計画的な建物配置が伺え、建て替え時に同一場所で維持されていること、方形の掘形の採用や柱の構造などから、これらの建物は官衙関連あるいは豪族居宅関連の建物である可能性が高い。

（３）中世以降

遺跡の変遷過程からみた「赤土荘」とのかかわりについては、直接的に示す遺構・遺物は見つかっていないことから、現段階では判断しがたい。文献上では「内田荘」の立荘が、12 世紀末頃とされる。領主は「三井寺」である。「千僧供領赤土荘」の記載が見えるのが、1198 年であり、内田荘の立荘園は第２面の時期よりも後になる。「赤土荘」が、文献で確認されるのが、1471 年であり、今川氏が横地氏を滅亡させるなど、菊川流域の一円化が行われていく過程で、「赤土荘」も今川氏の所領と化したか、あるいは大きな変質を遂げた可能性が高い。

第２節　一反田遺跡のまとめ

（１）掘立柱建物

一反田遺跡では第１面の区画溝で囲まれた屋敷地を検出できた。その内部には直径 30 ㎝ほどの柱で構成される掘立柱建物が７棟以上と、それらを取り囲む木柵塀を確認した。溝 SD105 は幅約２ｍで、深いところで 60 ㎝ほどであった。溝で囲まれた範囲は南北 30 ｍ程で、東西は８ｍ程の検出であった。本来は東西南北とも同程度の広さであったと仮定すれば、屋敷地は 900 ㎡（約 280 坪）以上であったことが想定できる。屋敷内の掘立柱建物は、少なくとも３箇所で建物が建てられていたことが判明し、それらは複数回にわたって建て替えられたことが確認できた。柱穴から出土した遺物から鎌倉時代後期に建て替えが行われた可能性が高いことも分かった。屋敷地と同時期の遺物は、今回の調査区よりも東側で確認されており、さらに貿易陶磁などが多く採取できることから、今回の屋敷地が政所の一部であったとしても、政所の中心は西側にあった可能性がある。地名としての政所は１区から 2-1 区の西側水田の辺りである（註２）。

（２）自然流路

5-1･5-2 区の第１面で検出した自然流路 SD101 は周辺河川の旧流路であろう。最大幅 12 ｍ、深さ 1.6 ｍの流路からは土器や木製品が大量に見つかった。流れは上層が平安時代、下層が奈良時代で、特に下層からは多くの土器に混じって木製祭祀具も多く見つかった（註３）。また流路内より出土した馬の頭骨は、その場所あるいはかなり近い場所で祭祀行為が行われていたことを物語っている。祭祀は豊作を願うものや治水や雨乞いといった水にまつわるもの、穢れを祓うものなど多岐にわたっている。祭祀具に混じって多くの墨書土器も見つかった。こうした祭祀行為と掘立柱建物群との関連は、現段階では推測の域を出ないが、関連を持つものと考えられる。８世紀代に奈良の都から「祓え」の習慣が全国的に広がっていたことは各地の調査で明らかになっている。その風習が当地にも伝わっていたことが今回の発見でも明らかとなった。なかでも「鳥形木製品」は県内初出土ではないかと思われる。全国的にみても奈良時代の遺跡から「鳥形木製品」が出土した例はそれほど多くはなく、そのすべてが「郡衙跡」である点が注目される。下層では古墳時代の土器も多く含まれており、上流部に古墳時代の集落遺跡が存

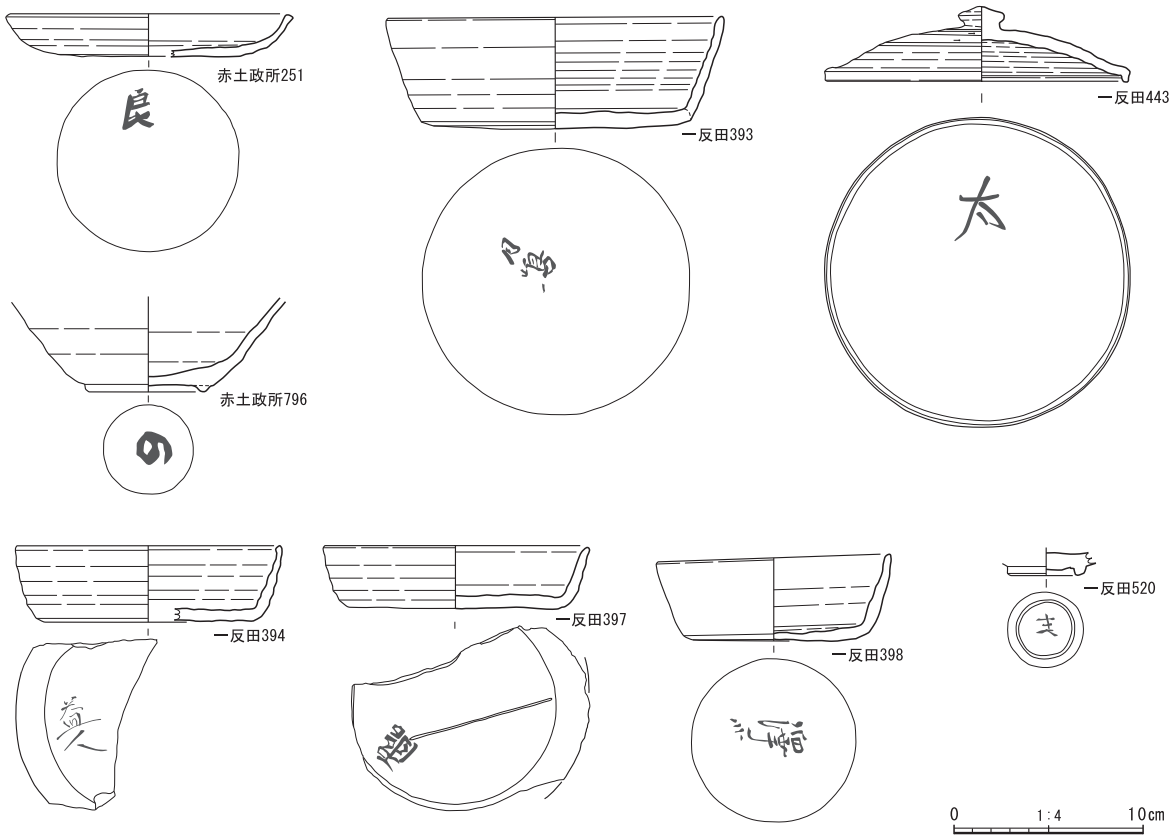
在する可能性が極めて高い。前節でも述べたが、今回の調査で見つかった流路が集落の近くを流れていたことは間違いなく、流路のごく一部が見つかったに過ぎない。おそらく集落の中心域は流路の上流部にあたる北東側の丘陵地から低丘陵とその縁辺部であろうと考えられる。今後、この地区には集落跡が見つかる可能性が高く、細心の注意を払う必要がある。

第３節　遺物のまとめ

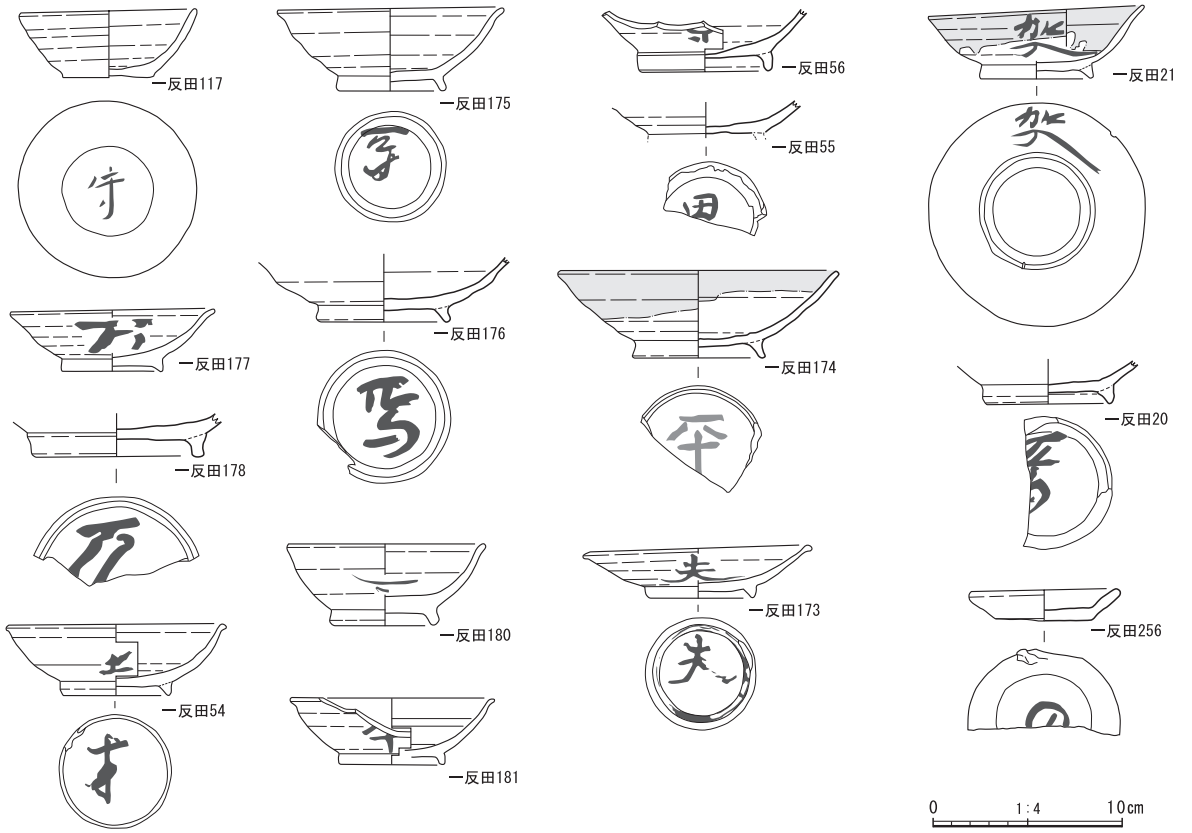
赤土政所遺跡・一反田遺跡より出土した遺物は各章で事実記載をしてきたが、本節では主だった注目される遺物についてまとめておく。

弥生時代の土器は近隣に標識遺跡でもある嶺田遺跡が存在するものの、今回の調査では、ごくわずかに出土した程度である。当地に開発の手が入るのは古墳時代前期末であることから、出土した弥生土器は細片であり、上流部からの流出であると思われる。

古墳時代の遺物は赤土政所遺跡で検出した竪穴建物や旧流路跡から出土している。竪穴建物 SH301 ～ 304 は一括土器として貴重である。また第２面の自然流路 SD206 からも古墳時代の土器や木製品がまとまって出土している。流路内の土器の年代から、SD206 は６世紀後半～末および７世紀初頭までの自然流路（河川）で、７世紀の早い段階には埋没していたと考えられる。覆土内の出土遺物は日常的な土器や生活具などとともに祭祀的な土器や木製品などが混在している。こうした状況から本遺構は集落に極めて近い位置にあった流路と考えられる。おそらく、上流域に６世紀後半～末、７世紀初頭の集落が存在する可能性が極めて高い。今後、遺跡の周辺域については集落遺跡の存在する可能性を持って取り扱う必要がある。



第 233 図　出土墨書土器集成図１



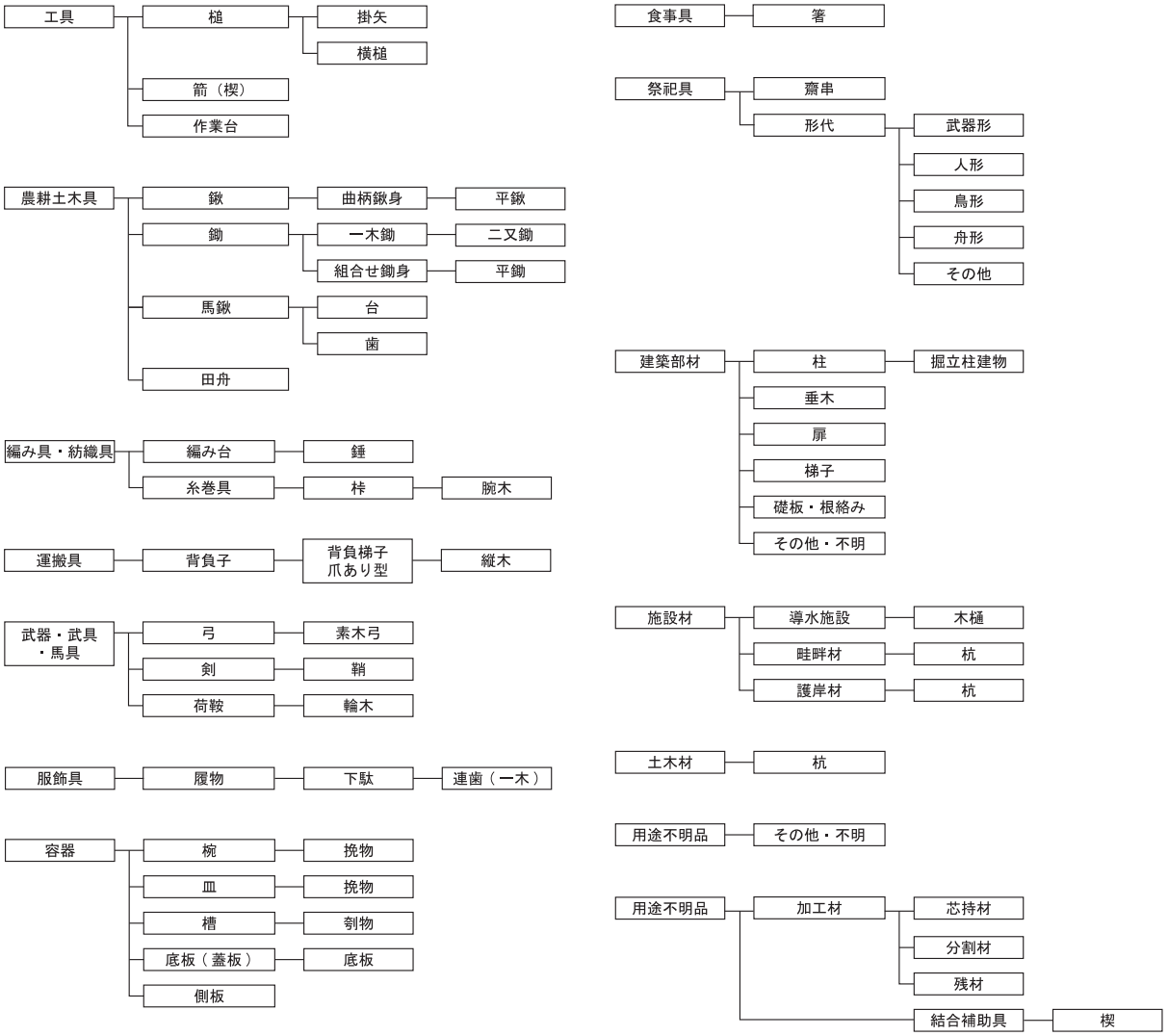
第 234 図　出土墨書土器集成図２

一反田遺跡の SD101 の上部から出土した耳環は、蛍光 X 線分析の結果、材質が古墳時代には珍しい錫製であることが確認された。錫製耳環としては磐田市上神増Ｅ２号墳例（静岡埋文研 2010）に次いで県内４例目である。錫製品は残存状況がよい場合には銀色を呈することから銀と、錆びると黒色を呈することから鉄と間違えられやすいため、県内にも錫製品であることが判明していない製品も多いことが想定される。錫製品は近年の自然科学分析により、九州と東北で事例が増加しており、馬具、装身具（耳環・釧）などに利用されたことが明らかになりつつある。近年、増加傾向にあるが、一方で一般的な製品ではないことも確かである。

奈良・平安時代の遺物は、主に一反田遺跡の SD101 や包含層より土器や木製品などが出土している。なかでも墨書土器が数多く、奈良文化財研究所の協力により両遺跡の墨書土器の赤外線調査・文字判読指導をいただいた（第 233･234 図）。「月島か月鳥」としていたものが「月嶋」、「主」としていたものが「支田」、「中」としていたものが「守」、「澤」、「益人」などが判読できた。直接は読めなかったが「瓦」偏に「器」である文字などを確認した。さらに墨書土器の

第５表　墨書土器一覧表

遺跡	挿図No.	遺物名	文字	備考
赤土	251	須恵器　皿	良	
赤土	796	山茶碗　碗	の	
一反田	20	山茶碗　碗		
一反田	21	灰釉陶器　碗	賀	
一反田	54	灰釉陶器　碗	才・才	
一反田	55	灰釉陶器　碗	田ヵ（男？）	
一反田	56	灰釉陶器　碗	上	
一反田	117	土師器　坏	守ヵ	
一反田	173	灰釉陶器　皿	夫・夫	
一反田	174	灰釉陶器　碗	平	朱墨
一反田	175	灰釉陶器　碗	馬ヵ	
一反田	176	灰釉陶器　碗	馬	
一反田	177	灰釉陶器　碗	万	
一反田	178	灰釉陶器　碗	万	
一反田	180	灰釉陶器　碗	二	
一反田	181	山茶碗　碗	本ヵ	
一反田	256	山茶碗　小皿	■	
一反田	393	須恵器　杯身	月嶋	
一反田	394	須恵器　杯身	澤口	
一反田	397	須恵器　杯身	■（瓦偏に器）	
一反田	398	須恵器　杯身	益人	
一反田	443	須恵器　坏蓋	太	
一反田	520	白磁　碗	夫ヵ	



第 235 図　出土木製品分類図

文字の書体は、奈良時代のものは細く鋭いものが多いが、平安時代になると太く力強い書体に変化していることがわかった。

中世以降で注目されるのは、両遺跡で最も数多く出土している灰釉陶器である。特に赤土政所遺跡の第２面で検出した掘立柱建物の存続年代を示す重要な資料である。土師質の灰釉陶器などもみられる。ただ、当遺跡の灰釉陶器は山茶碗に近い時期でもあり、形状だけでは判断に苦しむものもある。山茶碗は地元産の東遠江系と渥美・湖西産があるが、比率からして渥美・湖西産のほうが多くある。供給元が地元よりも県外産が多いことが特徴として見られる。

近世陶磁器も決して数は多くないが両遺跡で出土している。青磁や白磁､天目茶碗の破片も見られる。なかでも菊川流域では古瀬戸産の卸皿が出土した遺跡は少なく、この遺物が出土した遺跡の性格を探ると共通性が出てくる可能性があり興味深い。

註

1　産業技術総合研究所の藤原治先生が津波堆積物の可能性があるとのことで採取し、独自に分析をされている。

2　菊川市職員塚本和弘氏よりご教授いただいた。

3　赤土政所遺跡・一反田遺跡より出土した木製品は第 235 図に示した分類により記述している。

第７章　自然科学分析の成果

第１節　一反田遺跡出土金属製遺物（耳環）の蛍光Ｘ線分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１　はじめに

一反田遺跡は、菊川市赤土に所在し、鎌倉時代の区画溝で囲まれた屋敷跡や、平安時代頃の河川跡（SD101）などが出土している。

本報告では、河川跡（SD101）上位より出土した耳環（第 178 図 250）を対象として、蛍光Ｘ線分析を行い、材質の検討を行う。

２　試料

遺物（耳環）は、古墳時代から古代の遺物が確認される流路跡（SD101）上位の包含層から出土したものである。

耳環の計測値を第６表に、測定箇所の詳細を第 236 図に示す。

第６表　出土耳環形状計測表

計測位置	サイズ	備考
内径	15.5 mm	
外径	26.7 mm	
円環の直径	5.5mm	断面形はほぼ円形
質量	8.84 g	
計算密度	5.4 g /cm3	
突き合わせ部の隙間	1mm	

３　分析方法

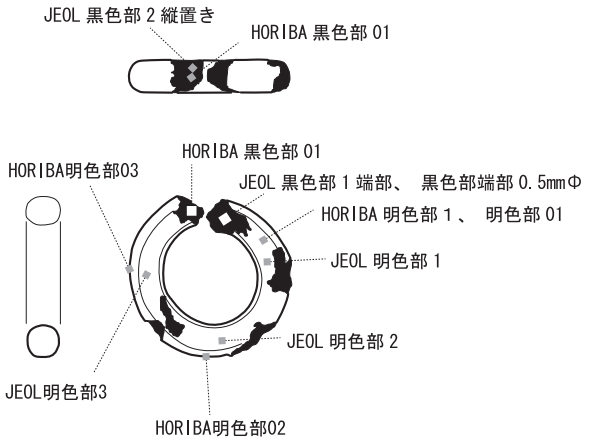
分析には、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析システム JSX-3201（日本電子株式会社製）を用いて、真空下、管電圧 30kV・4mA、線束 2mm φで、600 秒、または 1000 秒測定する。一部、0.5mm φの線束を用いた。

また、Ｘ線分析顕微鏡 XGT-2500W（株式会社堀場製作所）を用いて、管電圧 50kV・1mA、線束 100 μm φで、大気中において 600 秒測定する。分析場所 01 では、深さ方向の元素分布を検討する目的で、管電圧を 50、30、15kV と変えて測定を行った。同時に定性分析により元素の同定を行い、ファンダメンタル・パラメーター法（FP 法）を用いて、元素の存在比を半定量的に求めた。分析については、東京大学総合研究博物館の吉田邦夫氏の協力を求めた。

４　結果および考察

各スペクトル図と半定量結果を、第 237 ～ 242 図に示し、これらを第７表にまとめた。スズ（Sn）が 53 ～ 97%、ケイ素（Si）が 2 ～ 36%、アルミニウム（Al）が 1 ～ 10%、鉄（Fe）が 0.2 ～ 8%である。純スズ製の耳環であると思われる。

（１）HORIBA で測定した明色部分は、白色度に大小がある。分析箇所 03 ＞ 01 ＞ 02 の順に白色度が低くなり、分析箇所 01 はクリーム色、分析



第 236 図　出土耳環分析箇所

第７表　出土耳環蛍光Ｘ線分析結果表

	JEOL								HORIBA					
元素	明色部１	明色部１	明色部２	明色部３	明色部３	黒色部１	黒色部	黒色部２	明色部 01	明色部 01	明色部 01	明色部 02	明色部 03	黒色部 01
		繰り返し			繰り返し	端部	端部 0.5 Φ	縦置き	50Kv	30Kv	15Kv			端部
Al	5.1	5.3	4.7	4.7	4.8	0.8	0.8	1.3	8.2	8.5	8.8	10.3	4.2	0.8
Si	22.1	21.9	15.7	14.5	14.5	2.5	2.7	4.2	19.3	21.7	21.1	31.2	14.3	2.2
P														
S	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	nd						
K														
Ca	3.5	3.4	1.3	1.1	1.1	0.4	0.3	0.5						
Ti	1.8	1.6	0.7	0.8	0.8				0.8	0.6	0.7	0.6	0.6	0.0
V	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1									
Mn		0.3	nd	0.0	0.0		0.1							
Fe	8.3	7.8	6.3	6.0	6.1	0.8	0.7	1.2	2.1	2.0	1.8	4.5	2.3	0.2
Cu	0.1			0.1	0.1		0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
Zn	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
As	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1								
Sn	58.2	58.8	70.8	72.4	72.4	95.2	95.0	92.7	69.5	67.2	67.5	53.2	78.4	96.7
Pb	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3							
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

箇所 02 は褐色を帯びている。白色度が低いほど、ケイ素（Si）とアルミニウム（Al）、鉄（Fe）の比率が高く、スズ（Sn）の含量が減少する。

（２）破損して、内部が露出した箇所である黒色部は、スズ（Sn）の比率が 95％に達する。

（３）ケイ素（Si）と鉄（Fe）の比率は、明色部、黒色部に関わらず高い相関性を示す。

（４）上記（１）～（３）を考慮すると、ケイ素（Si）と鉄（Fe）、アルミニウム（Al）は、土壌や地下水など、埋蔵環境に起因するものである可能性が高い。

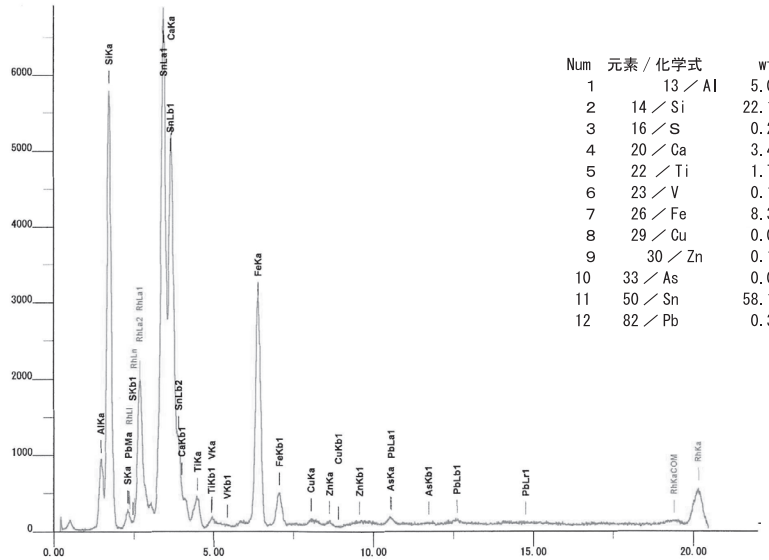
（５）明色部の深さ方向の元素分布には違いが見られない。

（６）二つの分析機器システムの FP 法による半定量分析結果は、特にアルミニウム（Al）と鉄（Fe）の値に違いが見られるが、測定が真空下で行われたかあるいは大気中で行われたかの違い、FP 法のアルゴリズムの違いによるものである。正確な定量値を求めるには、標準試料を用い、検量線を作成して測定する必要がある。

スズ（Sn）は、白色のいくらか青色光沢をもつ金属である。また、スズは一般に酸化スズ（Ⅳ）の目に見えない薄膜で覆われている。この酸化スズ（Ⅳ）は白色で、２価の酸化スズ（Ⅱ）は黒色で、空気中で加熱すると酸化スズ（Ⅳ）になる。色から考えると、表層の白色層は、酸化スズ（Ⅳ）で、内部の黒色部分は、酸化スズ（Ⅱ）と考えられるが、どのようなメカニズムで、このような二層構造が形成されたのかは不明である。白色部、黒色部を、それぞれＸ線回折により分析すれば、２価のスズか４価のスズかを判定することが出来る。

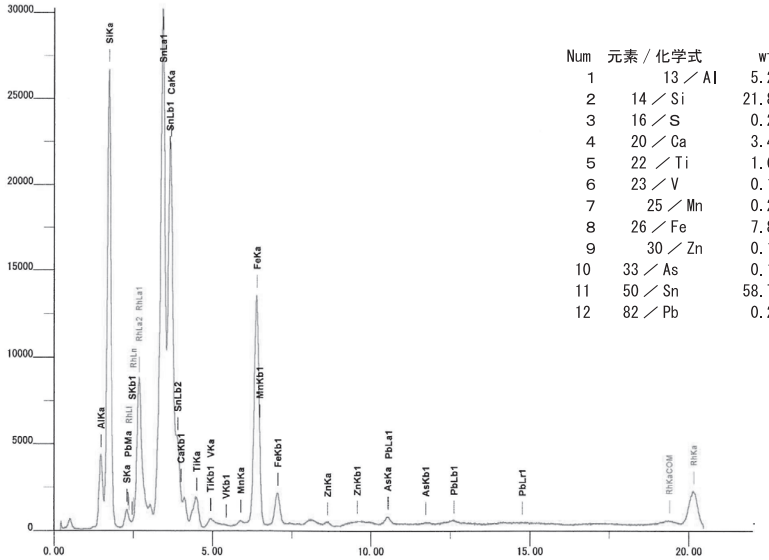
成瀬（1989）は、出土品に見られるスズについて概観し、「永嶋氏は星の宮神社古墳以外にも栃木県下、千葉県下の６～７世紀代の古墳の出土金属製品を数多く手がけ、鉄製の耳環と見られたものから全て錫（Sn）を検出し、従来鉄製と考えられている耳環のほとんどは鉄地錫巻ではないかと考え、さらに純錫製の耳環も見いだしている。千葉県山武郡芝山町山田古墳群四号墳主体部出土の耳環が錫製であることは三辻利一氏により化学的に明らかにされている。市原市大厩遺跡第二号墳主体部の一対の耳環および同四号墳主体部出土の一対の耳環は錫製である」と指摘している。

永嶋（1986）では、鉄地スズ巻きの耳環について、透過Ｘ線像を撮影し、蛍光Ｘ線分析を行っている。そのなかで、「栃木県下、千葉県下の古墳出土の鉄製耳環についての調査（未発表）でも、調査例すべてが鉄地スズ張であったことを考えると、既報告の鉄製耳環のすべてが鉄地スズ張である可能性が高い。なお、両県下の古墳出土品のなかには、スズ製品（スズ無垢の小型遺物）が確認されており（未発表）」



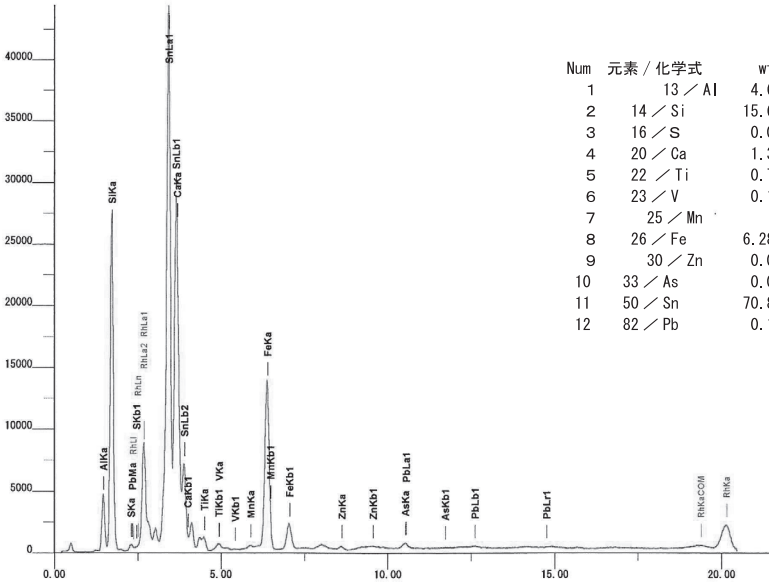
Num	元素／化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13／Al	5.0607	10.6784	0.0060584	6686	0.4345
2	14／Si	22.1306	44.8610	0.0479440	54718	0.2501
3	16／S	0.2843	0.5048	0.0005727	1572	0.1292
4	20／Ca	3.4747	4.9357	0.0093893	12912	0.2496
5	22／Ti	1.7764	2.1114	0.0019939	4709	0.3365
6	23／V	0.1874	0.2094	0.0002172	610	0.2877
7	26／Fe	8.3001	8.4616	0.0127922	44342	0.2006
8	29／Cu	0.0898	0.0805	0.0001763	650	0.1757
9	30／Zn	0.1182	0.1029	0.0002568	942	0.1667
10	33／As	0.0757	0.0575	0.0002123	718	0.2553
11	50／Sn	58.1815	27.9086	0.1878077	124628	0.7397
12	82／Pb	0.3206	0.0881	0.0016613	2042	0.6345

第 236 図１
場所：蛍光Ｘ線スペクトル（JEOL）明色部１
メモ：２㎜Φ　明色部１
測定条件：電圧；30.0kV　電流；4.000mA
ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ; 240.00sec　パス；Vac
分析元素：Al・Si・S・Ca・Ti・V・Fe・Cu・Zn・As・Rh・Sn・Pb



Num	元素／化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13／Al	5.2966	11.2038	0.0074600	34302	0.2493
2	14／Si	21.8905	44.4849	0.0556523	264649	0.1438
3	16／S	0.2921	0.5200	0.0006928	7924	0.0733
4	20／Ca	3.4466	4.9081	0.0109559	62777	0.1432
5	22／Ti	1.6341	1.9471	0.0021478	21136	0.1939
6	23／V	0.1082	0.1212	0.0001469	1720	0.1658
7	25／Mn	0.2912	0.3025	0.0005041	6657	0.1269
8	26／Fe	7.8412	8.0136	0.0141911	204960	0.1153
9	30／Zn	0.1081	0.0944	0.0002765	4227	0.0955
10	33／As	0.1159	0.0883	0.0003832	5396	0.1462
11	50／Sn	58.7612	28.2569	0.2231639	617043	0.4244
12	82／Pb	0.2144	0.0591	0.0013102	6708	0.3632

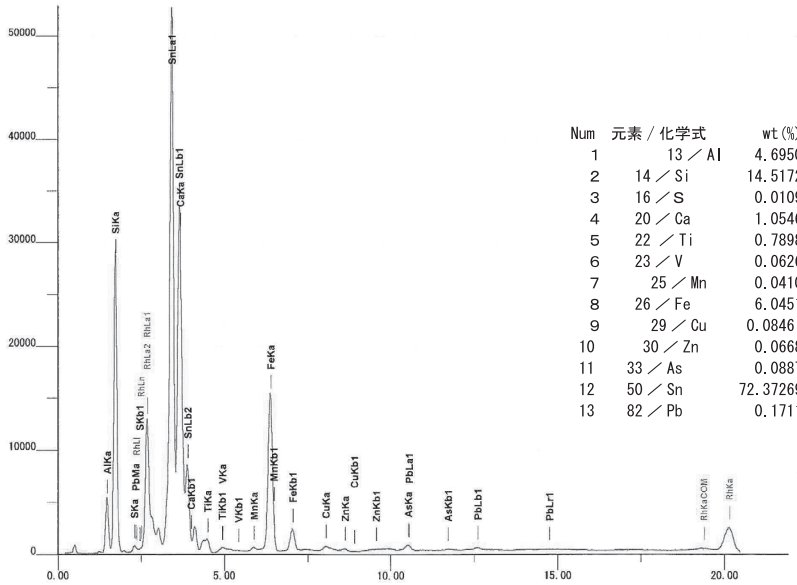
第 236 図２
場所：蛍光Ｘ線スペクトル（JEOL）明色部１
メモ：２㎜Φ　明色部１　繰り返し
測定条件：電圧；30.0kV　電流；4.000mA
ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ; 1000.00sec　パス；Vac
分析元素：Al・Si・S・Ca・Ti・V・Mn・Fe・Zn・As・Rh・Sn・Pb



Num	元素／化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13／Al	4.6580	11.5404	0.0097022	44612	0.3404
2	14／Si	15.6997	37.3676	0.0601437	286008	0.1927
3	16／S	0.0332	0.0692	0.0001271	1454	0.0917
4	20／Ca	1.3017	2.1711	0.0063426	36343	0.1887
5	22／Ti	0.7428	1.0366	0.0013956	13733	0.2740
6	23／V	0.1425	0.1871	0.0002763	3235	0.2345
7	25／Mn	nd				
8	26／Fe	6.2829	7.5206	0.0164581	237702	0.1690
9	30／Zn	0.0880	0.0900	0.0003327	5087	0.1306
10	33／As	0.0878	0.0784	0.0004284	6032	02001
11	50／Sn	70.8419	39.8998	0.4143873	1145772	0.5564
12	82／Pb	0.1215	0.0392	0.0010957	5610	0.4968

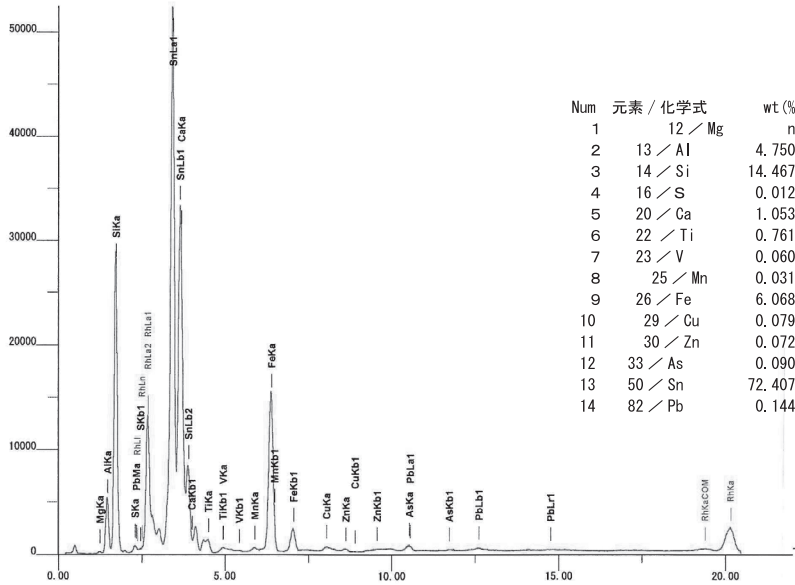
第 236 図３
場所：蛍光Ｘ線スペクトル（JEOL）明色部２
メモ：２㎜Φ　明色部２
測定条件：電圧；30.0kV　電流；4.000mA
ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ; 1000.00sec　パス；Vac
分析元素：Al・Si・S・Ca・Ti・V・Mn・Fe・Zn・As・Rh・Sn・Pb

第 237 図　出土耳環分析結果１



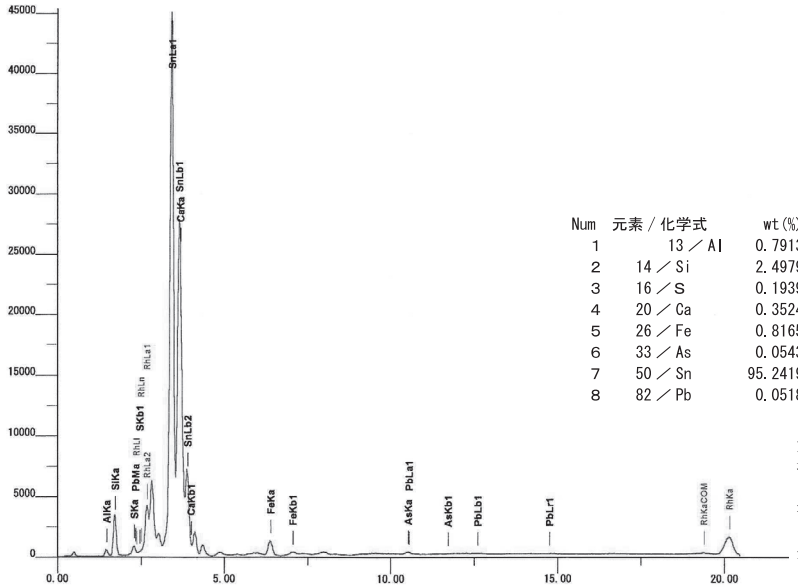
Num	元素／化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13／Al	4.6950	11.9315	0.0114012	52424	0.3117
2	14／Si	14.5172	35.4425	0.0649310	308773	0.1763
3	16／S	0.0109	0.0234	0.0000495	566	0.0828
4	20／Ca	1.0546	1.8042	0.0060255	34527	0.1718
5	22／Ti	0.7898	1.1307	0.0017253	16978	0.2516
6	23／V	0.0626	0.0842	0.0001410	1650	0.2154
7	25／Mn	0.0410	0.0512	0.0001193	1715	0.1628
8	26／Fe	6.0451	7.4222	0.0184274	266144	0.1476
9	29／Cu	0.0846	0.0913	0.0003370	5182	0.1260
10	30／Zn	0.0668	0.0701	0.0002944	4500	0.1196
11	33／As	0.0887	0.0812	0.0005037	7093	0.1834
12	50／Sn	72.37269	41.8110	0.4967768	1373577	0.6063
13	82／Pb	0.1711	0.0566	0.0017967	9200	0.4557

第 236 図１
場所：蛍光Ｘ線スペクトル（JEOL）明色部３
メモ：２mmΦ
測定条件：電圧；30.0kV　電流；4.000mA
ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ; 1000.00sec　パス；Vac
分析元素：Al・Si・S・Ca・Ti・V・Mn・Fe・Cu・Zn・As・Rh・Sn・Pb



Num	元素／化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	12／Mg	nd				
2	13／Al	4.7500	12.0705	0.0114076	52454	0.3597
3	14／Si	14.4670	35.3179	0.0639606	304159	0.2017
4	16／S	0.0120	0.0256	0.0000536	613	0.0946
5	20／Ca	1.0539	1.8029	0.0059581	34140	0.1963
6	22／Ti	0.7611	1.0895	0.0016443	16182	0.2877
7	23／V	0.0609	0.0820	0.0001358	1590	0.2463
8	25／Mn	0.0312	0.0389	0.0000898	1186	0.1861
9	26／Fe	6.0689	7.4511	0.0182996	264299	0.1687
10	29／Cu	0.0792	0.0854	0.0003118	4794	0.1441
11	30／Zn	0.0723	0.0758	0.0003151	4816	0.1367
12	33／As	0.0909	0.0832	0.0005109	7194	0.2097
13	50／Sn	72.4077	41.8290	0.4917841	1359772	0.5785
14	82／Pb	0.1449	0.0479	0.0015049	7705	0.5208

第 236 図２
場所：蛍光Ｘ線スペクトル（JEOL）明色部３
メモ：２mmΦ　明色部３　繰り返し
測定条件：電圧；30.0kV　電流；4.000mA
ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ; 1000.00sec　パス；Vac
分析元素：Mg・Al・Si・S・Ca・Ti・V・Mn・Fe・Cu・Zn・As・Rh・Sn・Pb



Num	元素／化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13／Al	0.7913	3.0835	0.0012030	5532	0.4576
2	14／Si	2.4979	9.3505	0.0074069	35223	0.2443
3	16／S	0.1939	0.6357	0.0006571	7516	0.1016
4	20／Ca	0.3524	0.9243	0.0013297	7619	0.2391
5	26／Fe	0.8165	1.5372	0.0014720	21259	0.2294
6	33／As	0.0543	0.0762	0.0001912	2692	0.2718
7	50／Sn	95.2419	84.3664	0.4365649	1207092	0.6966
8	82／Pb	0.0518	0.0263	0.0003377	1729	0.6750

第 236 図３
場所：蛍光Ｘ線スペクトル（JEOL）黒色部１端部
メモ：２mmΦ　黒色部１　端部
測定条件：電圧；30.0kV　電流；4.000mA
ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ; 1000.00sec　パス；Vac
分析元素：Al・Si・S・Ca・Fe・As・Rh・Sn・Pb

第 238 図　出土耳環分析結果２

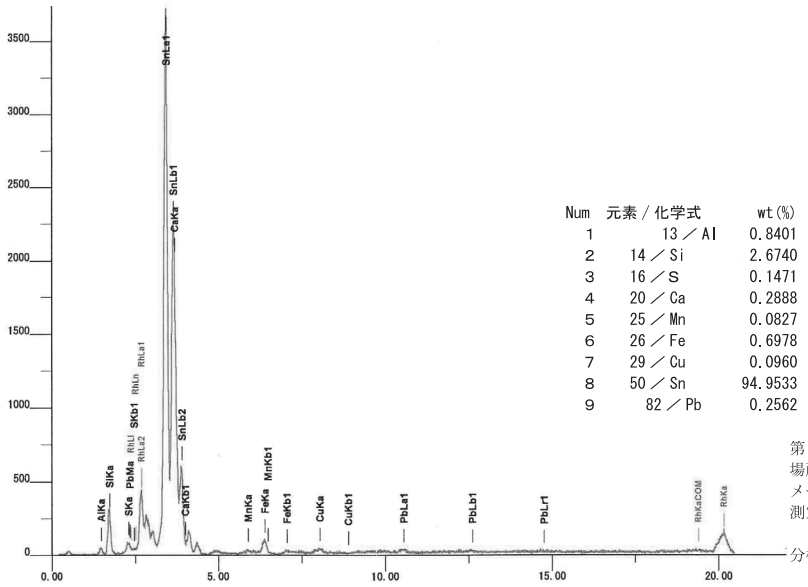
としており、６～７世紀の栃木県、千葉県では、よく見られる製品のようである。

引用文献

永嶋正春　1986 「Ｘ線機器による非破壊分析」『星の宮神社古墳・米山古墳』 65-74 頁　栃木県教育委員会

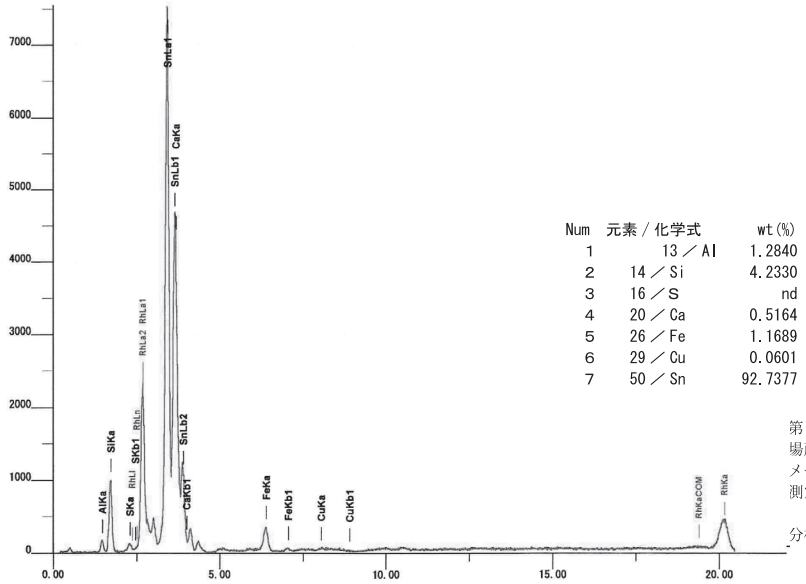
成瀬正和　1989 「わが国上代の工芸材料としての錫」『正倉院年報』11　23-34 頁

※本報告は、パリノ・サーヴェイ株式会社の分析結果報告書を、静岡県埋蔵文化財センターが遺跡内容等について若干修正をしたうえで、報告書の体裁に合わせて編集した。



Num	元素／化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13／Al	0.8401	3.1252	0.0016915	464	0..3902
2	14／Si	2.6740	9.9844	0.0109661	3109	0.2084
3	16／S	0.1471	0.4812	0.0006879	469	0.0869
4	20／Ca	0.2888	0.7556	0.0015027	513	0.2046
5	25／Mn	0.0827	0.1578	0.0001960	154	0.2166
6	26／Fe	0.6978	1.3103	0.0017422	1500	0.1952
7	29／Cu	0.0960	0.1585	0.0003286	301	0.1590
8	50／Sn	94.9533	83.8973	0.6000901	98917	0.5961
9	82／Pb	0.2562	0.1297	0.0023071	704	0.3788

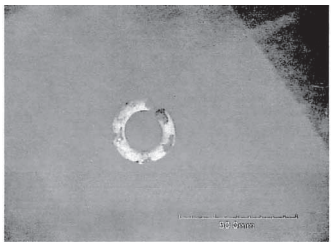
第 236 図１
場所：蛍光Ｘ線スペクトル（JEOL）明色部３
メモ：0.5mmΦ　黒色部　端部
測定条件：電圧；30.0kV　電流；4.000mA
ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ; 1000.00sec　パス；Vac
分析元素：Al・Si・S・Ca・Mn・Fe・Cu・Rh・Sn・Pb

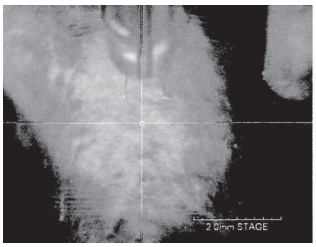


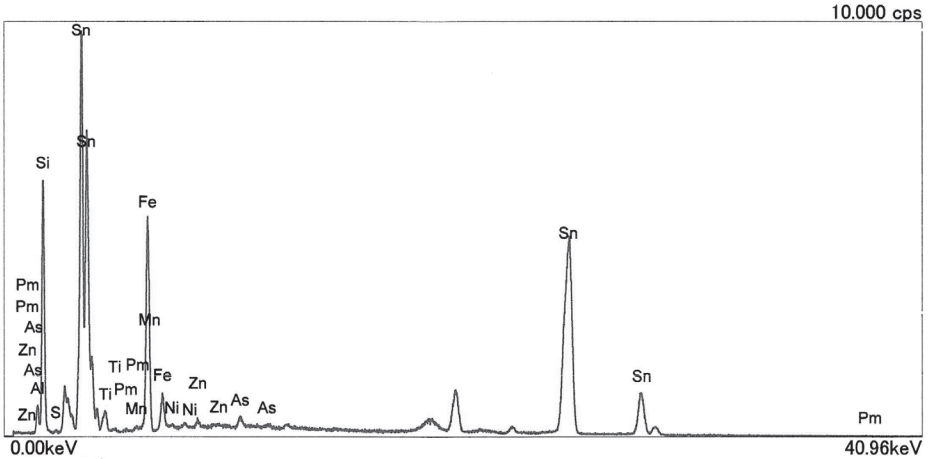
Num	元素／化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	13／Al	1.2840	4.6911	0.0003379	1554	0.3833
2	14／Si	4.2330	14.8574	0.0021580	10262	0.2061
3	16／S	nd				
4	20／Ca	0.5164	1.2702	0.0003349	1919	0.2017
5	26／Fe	1.1689	2.0633	0.0003362	5290	0.1913
6	29／Cu	0.0601	0.0932	0.0000257	395	0.1562
7	50／Sn	92.7377	77.0249	0.0729627	201740	0.5885

第 236 図２
場所：蛍光Ｘ線スペクトル（JEOL）明色部３
メモ：２mmΦ　縦置き
測定条件：電圧；30.0kV　電流；4.000mA
ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ; 1000.00sec　パス；Vac
分析元素：Al・Si・S・Ca・Fe・Cu・Rh・Sn

第 239 図　出土耳環分析結果３

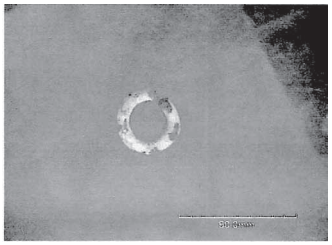


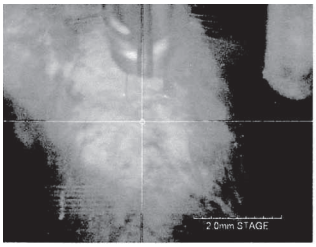


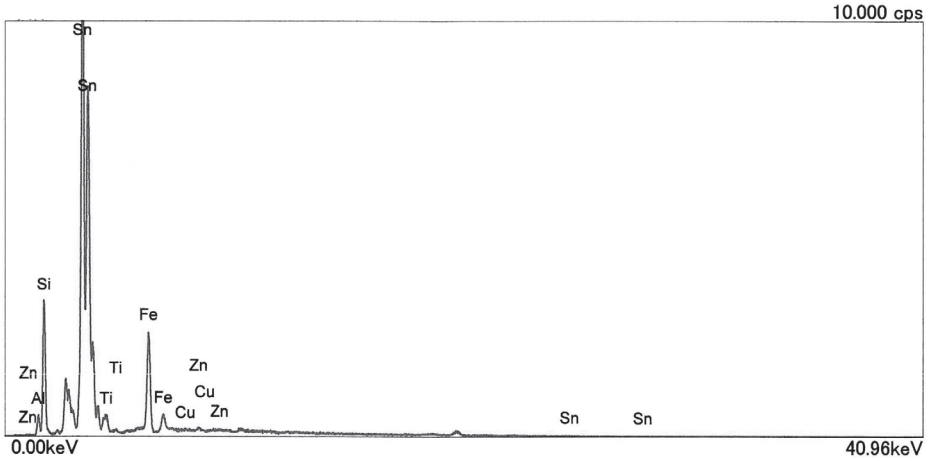


第 236 図１
場所：耳環 04.SPX　50kV100μm- 明色部１
測定条件：測定時間；600s　パルス処理時間；P3
XGT 径；100μm　X線管電圧；50kV
電流：1.0mA　　定量補正法：スタンダードレス

元素／化学式	ライン	質量濃度（%）	２σ（%）	強度（cps/mA）
13／Al	K	10.18	0.85	8.85
14／Si	K	36.34	0.98	73.71
16／S	K	0.09	0.11	0.79
22／Ti	K	0.66	0.17	7.45
25／Mn	K	0.04	0.04	1.16
26／Fe	K	2.51	0.12	85.62
28／Ni	K	0.01	0.03	0.66
30／Zn	K	0.04	0.08	2.43
33／As	K	0.06	0.03	4.56
50／Sn	L	49.94	1.19	133.70
82／Pm	L	0.11	0.20	0.65



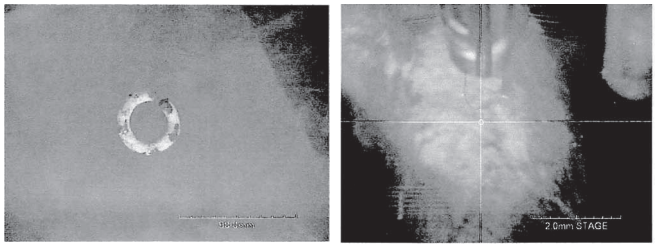


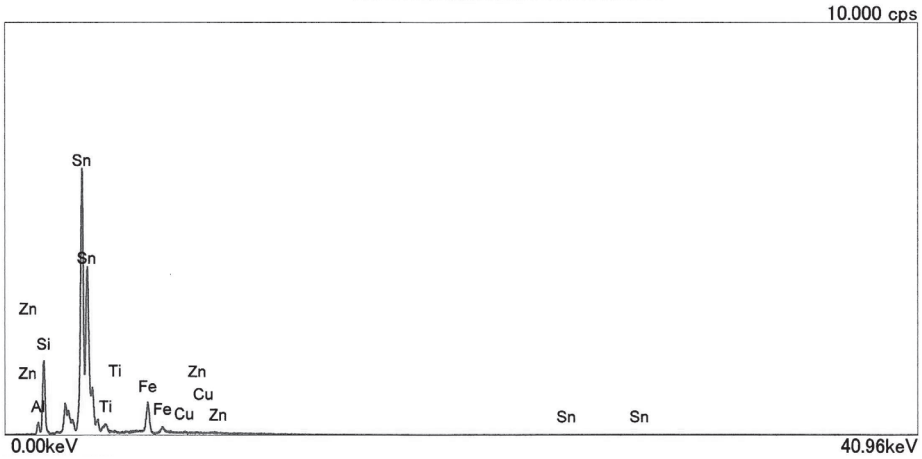


第 236 図２
場所：耳環 002.SPX　30kV100um- 明色部 01
測定条件：測定時間；600s　パルス処理時間；P3
XGT 径；100μm　X線管電圧；30kV
電流：1.0mA　　定量補正法：スタンダードレス

元素／化学式	ライン	質量濃度（%）	２σ（%）	強度（cps/mA）
13／Al	K	8.50	0.79	6.12
14／Si	K	21.65	0.76	38.82
22／Ti	K	0.56	0.20	4.60
26／Fe	K	1.98	0.13	39.16
29／Cu	K	0.01	0.05	0.30
30／Zn	K	0.05	0.05	1.40
50／Sn	L	67.24	1.06	164.26

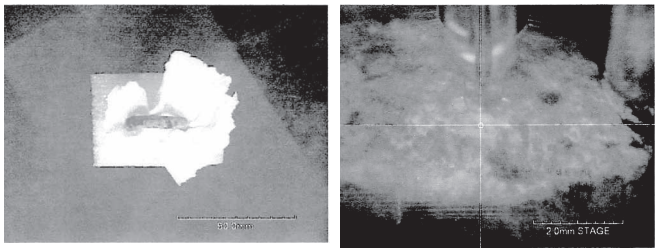
第 240 図　出土耳環分析結果４

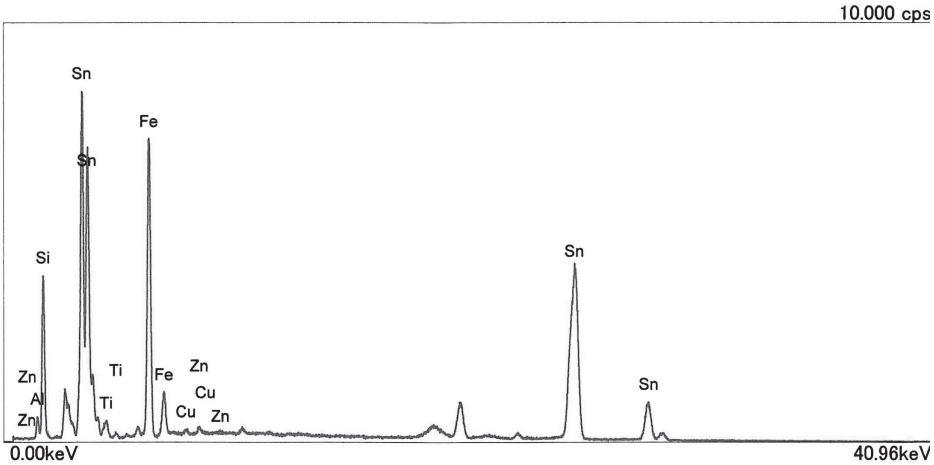




第 236 図１
場所：耳環 03.SPX　15kV100μm- 明色部 01
測定条件：測定時間；600s　パルス処理時間；P3
XGT 径；100μm　Ｘ線管電圧；15kV
電流：1.0mA　　定量補正法：スタンダードレス

元素 / 化学式	ライン	質量濃度 (%)	2σ (%)	強度 (cps/mA)
13 ／ Al	K	8.78	1.03	3.61
14 ／ Si	K	21.12	1.00	21.53
22 ／ Ti	K	0.69	0.34	2.66
26 ／ Fe	K	1.80	0.24	11.13
29 ／ Cu	K	0.05	0.10	0.29
30 ／ Zn	K	0.04	0.11	0.17
50 ／ Sn	L	67.52	1.40	89.05

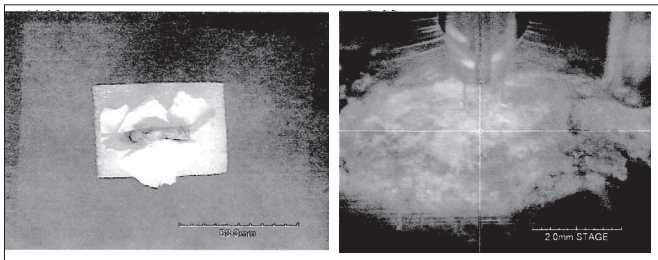


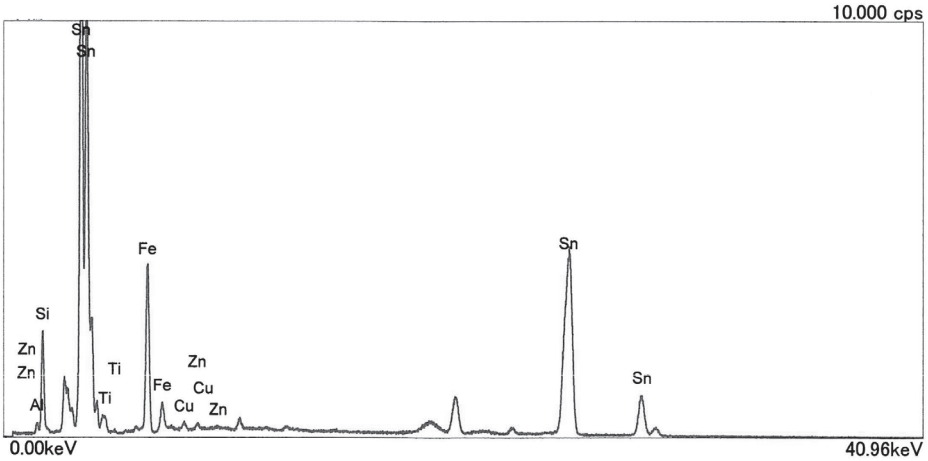


第 236 図２
場所：耳環 002.SPX　50kV100um- 明色部 02
測定条件：測定時間；600s　パルス処理時間；P3
XGT 径；100μm　Ｘ線管電圧；50kV
電流：1.0mA　　定量補正法：スタンダードレス

元素 / 化学式	ライン	質量濃度 (%)	2σ (%)	強度 (cps/mA)
13 ／ Al	K	10.33	0.98	6.76
14 ／ Si	K	31.16	1.01	48.34
22 ／ Ti	K	0.64	0.22	5.61
26 ／ Fe	K	4.53	0.19	118.06
29 ／ Cu	K	0.04	0.04	1.72
30 ／ Zn	K	0.06	0.05	2.78
50 ／ Sn	L	53.23	1.31	114.64

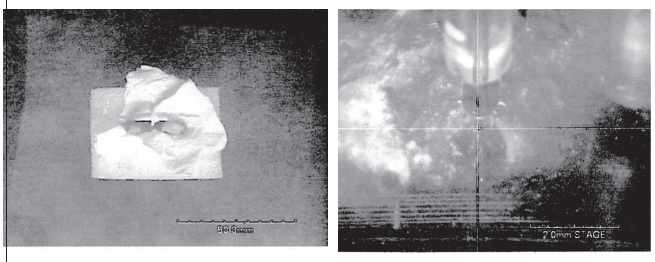
第 241 図　出土耳環分析結果５

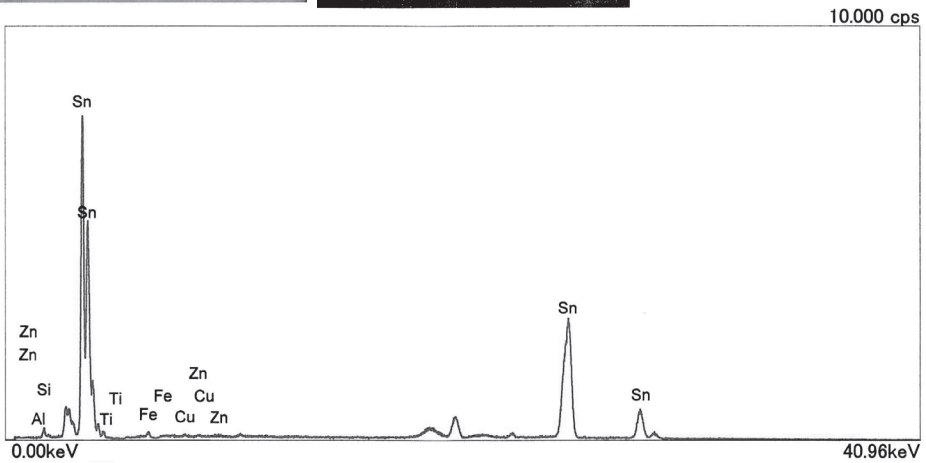




第 236 図 1
場所：耳環 005.SPX　50kV100μm- 明色部 03
測定条件：測定時間；600s　パルス処理時間；P3
XGT 径；100μm　X 線管電圧；50kV
電流：1.0mA　　定量補正法：スタンダードレス

元素 / 化学式	ライン	質量濃度 (%)	2σ(%)	強度 (cps/mA)
13 ／ Al	K	4.22	0.73	3.12
14 ／ Si	K	14.34	0.59	28.42
22 ／ Ti	K	0.61	0.19	5.77
26 ／ Fe	K	2.33	0.12	66.63
29 ／ Cu	K	0.06	0.03	2.78
30 ／ Zn	K	0.05	0.04	2.40
50 ／ Sn	L	78.39	0.89	234.49





第 236 図 2
場所：耳環 006.SPX　50kV100um- 黒色部（端部）01
測定条件：測定時間；600s　パルス処理時間；P3
XGT 径；100μm　X 線管電圧；50kV
電流：1.0mA　　定量補正法：スタンダードレス

元素 / 化学式	ライン	質量濃度 (%)	2σ(%)	強度 (cps/mA)
13 ／ Al	K	0.76	1.11	0.20
14 ／ Si	K	2.22	0.58	1.68
22 ／ Ti	K	0.04	0.09	0.14
26 ／ Fe	K	0.20	0.09	1.98
29 ／ Cu	K	0.04	0.06	0.63
30 ／ Zn	K	0.03	0.03	0.60
50 ／ Sn	L	96.71	1.23	116.95

第 242 図　出土耳環分析結果６

第２節　赤土政所遺跡・一反田遺跡出土鉄滓の金属学的調査

日鉄住金テクノロジー株式会社

１　経緯

赤土政所遺跡は静岡県菊川市に位置し、丹野川左岸に広がる赤土地区の平野部に位置する遺跡で、奈良～平安時代の掘立柱建物群、古墳時代の竪穴建物、水田などが確認された。奈良時代～平安時代には掘立柱建物が集中することから、集落の中心的な建物ではないかと想定されている。赤土政所遺跡に近接する一反田遺跡では、奈良・平安時代の祭祀遺物（木製の鳥形や人形）が出土した溝や中世の区画溝で囲まれた屋敷跡などが確認されている。

本報告は赤土政所遺跡の第１・２面、一反田遺跡の第１・２面の遺構等から検出した鉄滓類を中心に金属学的調査を行なったものである。

２　調査試料の内訳

第８表に調査試料の一覧を示す。赤土政所遺跡出土品は鉄滓３点、発泡スラグ３点、炉材片１点の合計７点である。一反田遺跡の出土品は、小塊（微粒子凝集体、№８）１点、鉄滓（№９）１点、の合計２点である。

第８表　出土鉄滓一覧表

試料№	遺物番号	遺跡名	地区名	調査面	遺構名	大きさ（mm）	重量（gr）	種類	おおよその時期
1	876	赤土政所遺跡	2-1 区	第１面	撹乱	40 × 36 × 24	21.4	鉄滓	中世
2	333	赤土政所遺跡	2-1 区	第２面	SK210	68 × 63 × 24	127.2	鉄滓	平安以降
3	331	赤土政所遺跡	2-1 区	第２面	SK210	37 × 28 × 19	9.8	ガラス	平安以降
4	332	赤土政所遺跡	2-1 区	第２面	SK210	40 × 27 × 16	9.7	ガラス	平安以降
5	877	赤土政所遺跡	2-1 区	第１面	撹乱	29 × 20 × 18	7.3	炉材片	中世以降
6	751	赤土政所遺跡	１区	第１面	包含層	36 × 24 × 20	25.6	鉄滓	中世以降
7	431	赤土政所遺跡	2-2 区	第２面	SD206	36 × 24 × 18	6.3	ガラス	奈良～平安
8	453	一反田遺跡	3-2 区	第２面	包含層	24 × 22 × 12	5.1	微粒子	奈良～平安
9	548	一反田遺跡	3-2 区	第１面	SD104	53 × 29 × 24	32.4	鉄滓	近世

３　調査項目および試料調製法

調査試料７点は外観的特徴を観察・記録し、代表的な箇所について断面組織・硬さ・平均成分・鉱物相の分析を実施した。以下に詳細を示す。

（１）外観観察

肉眼および実体顕微鏡にて、遺物の形状・大きさ・表面状況を観察・記録した。

デジタルカメラ　　DMC-FX8 型（パナソニック製）

実体顕微鏡　　VHX-500 型（キーエンス製）

（２）断面マクロ・ミクロ組織観察

平均的な箇所について、約 15 × 15 ㎜の大きさにダイヤモンドカッターにて切り出し２分割し、組織観察用および成分分析用に供した。組織観察用は、洗浄･乾燥後、真空下でエポキシ系樹脂を含浸させ、断面が観察面になるように組織を固定する。固化後、鏡面になるまで研磨し組織を現出した後、光学顕微鏡にて観察・記録した。

（３）成分分析

ダイヤモンドカッターで切り出した成分分析用試料は、洗浄・乾燥後メノウ乳鉢により 100 メッシュ以下に微粉砕して成分分析に供した。分析成分および方法は以下のとおりである。

ア　分析成分

T・Fe、M・Fe・FeO・Fe_2O_3、SiO_2・Al_2O_3、CaO・MgO・MnO・TiO_2、V・Cu・P_2O_5、Cr_2O_3、Na_2O、K_2O、T・S、T・C の 18 成分である。

イ　分析方法

M・Fe、FeO、T・C；容量法（JIS　M8213）
他の成分　　；蛍光 X 線分析法（JIS　M4444）

（４）鉱物相の硬さ測定

代表的な組織について硬さを測定する。条件および装置は以下の通りである。

測定条件；荷重　100gr　、測定点　３点
装　　置；ビッカース硬度計　　AMT-7FS 型（マツザワ製）

（５）鉱物相の分析（半定量分析）

前記組織観察用に使用した埋め込み試料について、X 線マイクロアナライザー（EPMA）による鉱物相の構成成分を行う。測定条件・装置は以下の通りである。

測定条件；加速電圧　15kV　照射電流　0.01A
装　　置；X 線マイクロアナライザー（EPMA）　JXA-8100 型（日本電子製）

４　調査結果と考察

各遺物（９点）の外観と断面マクロ・ミクロ組織を写真６～14 に、第９表に平均化学組成を示す。また、第 10 表には各鉱物相の成分と硬さ、および第 243 ～ 251 図に検出元素のＸ線スペクトルを示す。各遺物は以下のような特徴がある。

（１）№.１鉄滓（遺物番号 876、写真６）

大きさは 40 × 36 × 24 ㎜、重さ 21.4gr を測る。表面は茶褐色で油脂感のあるツララ状の塊で、一部に湯玉が付着している。断面マクロ組織をみると、大小の丸みを帯びた空孔が多く存在し、大きな空孔内壁には薄く鉄錆が存在する。

平均化学組成のうち、全鉄（T・Fe）は 56.67％と高くチタン分（TiO_2）は 0.26％と低い。造滓成分（SiO_2 ＋ Al_2O_3 ＋ CaO ＋ MgO ＋ Na_2O ＋ K_2O の合計）は 19.14％と少ない（第９表）。構成鉱物は、微細なウスタイト（理論化学組成；FeO）と大きな結晶粒子のファヤライト（理論化学組成；2FeO・SiO_2）およびガラス質珪酸塩からなりチタン化合物は存在しない。ウスタイト中のチタン分（TiO_2）は 0.54％と僅かである。また、ガラス質珪酸塩中のカルシウム分（CaO）は 5.85％と少ない。一方、鉱物祖の硬さは、ウスタイト（FeO）が 468Hv、ファヤライト（2FeO・SiO_2）が 727Hv、ガラス質珪酸塩が 609Hv であった（第 10 表）。上面に小さな湯玉が数点固着していること、空孔内壁に薄く鉄錆が存在することから、鉄浴近傍で生成した上部の鉄滓と考えられる。静岡県森町の北垣遺跡（静岡県埋蔵文化財センター 2012）から出土した鉄滓（№.14・15）と同様の組成を有する（第 11 表）。

（２）№.２鉄滓（遺物番号 333、写真７）

大きさは 68 × 63 × 24 ㎜、重さ 127.2gr を測る。赤土政所遺跡出土の７点の遺物の中では最も大きく重い鉄滓である。表面は茶褐色で椀型を呈し、上面には灰色を呈する発泡スラグが付着しているとともに、底面には小石が付着している。断面マクロ組織をみると、上面には炉材が溶融・固着したと思われる組織が存在し、細長い暗灰色結晶のファヤライト（2FeO・SiO_2）が析出している。

第９表　出土鉄滓の平均化学組成表（wt%）

試料No.	T・Fe	M・Fe	FeO	Fe_2O_3	SiO_2	Al_2O_3	CaO	MgO	MnO	TiO_2	V
1	56.67	0.23	51.93	22.98	13.42	4.18	0.64	0.47	0.05	0.26	0.009
2	40.51	0.46	39.43	13.43	34.11	5.47	1.02	0.65	0.06	0.23	0.003
3	2.28	<0.05	<0.10	3.02	75.45	11.52	1.46	1.08	0.09	0.41	0.003
4	39.23	0.41	34.11	17.59	35.86	6.38	0.59	0.49	0.04	0.33	0.006
5	5.96	<0.05	<0.10	7.26	65.77	15.07	2.25	2.14	0.08	0.63	0.007
6	66.63	0.23	56.45	32.21	5.09	1.56	0.59	0.16	0.16	0.14	0.006
7	5.17	<0.05	<0.10	6.45	58.81	16.85	2.73	1.56	0.23	0.95	0.014
8	2.33	0.19	1.81	1.05	65.56	10.02	3.75	1.05	0.04	0.32	0.003
9	47.17	0.43	46.62	15.02	19.78	4.3	1.93	0.56	0.43	0.2	0.003

試料No.	Cu	P_2O_5	Cr_2O_3	Na_2O	K_2O	T・C	T. S	TiO_2/T・Fe	MnO/T・Fe	造滓成分	
1	0.022	0.472	0.021	<0.05	0.378	<0.05	0.025	0.005	0.001	19.14	
2	0.033	0.409	0.021	<0.05	1.532	<0.05	0.022	0.006	0.001	42.83	
3	0.091	0.365	0.042	2.03	2.718	0.34	0.001	0.175	0.039	94.62	
4	0.035	0.394	0.021	<0.05	1.014	<0.05	0.012	0.008	0.001	44.38	
5	0.086	0.151	0.049	1.93	3.614	1.05	0.006	0.106	0.013	90.77	
6	0.008	0.216	0.017	<0.05	0.093	<0.05	0.023	0.002	0.024	7.54	
7	0.089	0.498	0.036	5.45	3.691	<0.05	0.024	0.184	0.044	89.09	
8	0.093	0.071	0.045	<0.05	1.793	<0.05	0.257	0.137	0.017	82.23	
9	0.037	0.557	0.023	<0.05	1.314	<0.05	0.113	0.004	0.009	27.93	

注）造滓成分＝SiO_2＋Al_2O_3＋CaO+MgO＋Na_2O＋K_2O

平均化学組成のうち、全鉄（T・Fe）は40.51%と若干低く、チタン分（TiO_2）も0.23%と低い。造滓成分は42.83%と多く、炉材成分がかなり溶け込んでいることが伺える（第９表）。構成鉱物は、微細なウスタイト（FeO）、短冊状のファヤライト（2FeO・SiO_2）およびガラス質珪酸塩からなりチタン化合物は存在しない。ウスタイト（FeO）中のチタン分（TiO_2）は0.52%と少ない。また、ガラス質珪酸塩中のカルシウム分（CaO）は6.29%と少なく前記の№.１鉄滓と同様である。一方、鉱物相の硬さは、ウスタイト（FeO）が506Hv、ファヤライト（2FeO・SiO_2）が776Hv、ガラス質珪酸塩が407Hvであった（第10表）。炉材近傍にて生成したものと考えられる。

（３）№.３鉄滓（遺物番号331、写真８）

大きさが37×28×19㎜、重さ9.8grを測る。表面は灰色で丸みを帯びた凹凸を呈し無数の空孔を伴う発泡スラグである。断面マクロ組織をみると、殆どがガラス化しており、微細な空孔が多く存在する「アワオコシ」のような組織を呈している。

平均化学組成は、全鉄(T・Fe)が2.28%と低く、逆にシリカ分(SiO_2)が75.45%と高くアルミナ分(Al_2O_3)は11.5%、チタン分（TiO_2）は0.41%と低い値である。また、造滓成分は94.62%とほぼ炉材成分に近い値を示している（第９表）。構成鉱物は、ガラス質珪酸塩と微細な珪石で構成される。この鉱物相の硬さは、ガラス化した部分で1174Hv、珪石粒子が1193Hvであった（第10表）。したがって、本遺物は炉材の一部が被熱により溶融したものと考えられる。

（４）№.４鉄滓（遺物番号332、写真９）

大きさは40×27×16㎜、重さ9.7grを測る。表面は茶褐色の塊（鉄滓）と灰色の塊（発泡スラグ）が合体したものである。本調査では灰色部分について行った。断面マクロ組織をみると、炉材成分が被熱により反応した部分と微細な鍛造剥片の粒子（酸化鉄）と炉材とが溶融・合体した部分からなる。平均化学組成をみると、全鉄（T・Fe）は39.23%と低くチタン分（TiO_2）は0.33%と低い。また、造滓成分は44.38%である。平均組成だけをみると（第９表）、一般的な鉄滓組成に相当する。構成鉱物は、鍛造剥片の反応物と思われるもの（酸化鉄）、およびガラス質珪酸塩ならびに微細な珪石粒子からなる。酸化鉄中のチタン分（TiO_2）が0.76%と低く、ガラス質や珪石中のチタン分（TiO_2）は検出されない。鉱物相の硬さは、酸化鉄が645HV、ガラス質が662Hv、珪石粒子が1232Hvであった。したがって、こ

第 10 表　出土鉄滓の鉱物相の EPMA 分析結果表（wt%）

試料No.	鉱物相	FeO	SiO_2	Al_2O_3	CaO	MgO	TiO_2	P_2O_5	Na_2O	K_2O	硬さ（Hv）
1	ウスタイト	97.9	0.56	0.99	・・・	・・・	0.54	・・・	・・・	・・・	466
	ファヤライト	65.2	31.5	0.51	0.68	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	727
	ガラス	34.2	40.6	13.8	5.85	・・・	・・・	0.88	1.86	2.91	609
2	ウスタイト	98.1	0.65	0.72	・・・	・・・	0.52	0.51	・・・	・・・	506
	ハヤライト	66.6	32.1	・・・	0.62	0.69	・・・	・・・	・・・	・・・	776
	ガラス	14.9	51.4	21.1	6.29	・・・	・・・	1.36	0.98	3.61	407
3	ガラス	・・・	69.7	23.2	5.01	・・・	・・・	・・・	1.72	0.34	1174
	珪石	・・・	100	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	1193
4	酸化鉄	94.3	1.34	3.64	・・・	・・・	0.76	・・・	・・・	・・・	645
	ガラス	10.8	67.4	16.1	1.68	0.43	・・・	・・・	・・・	3.62	662
	珪石	1.14	98.9	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	1232
5	ガラス１	6.47	64.9	19.6	0.83	2.03	1.07	・・・	1.15	3.96	653
	ガラス２	1.56	89.4	5.18	0.43	0.45	0.35	・・・	0.61	2.02	693
6	ウスタイト	97.2	2.32	0.52	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	455
	ファヤライト	66.6	31.4	・・・	0.61	1.38	・・・	・・・	・・・	・・・	645
	ガラス	13.5	56.7	21.9	4.92	・・・	・・・	2.98	・・・	・・・	636
7	ガラス	5.27	52.7	26.3	5.27	1.08	0.81	1.18	5.21	2.17	747
8	粒子１	・・・	76.7	15.2	・・・	・・・	・・・	・・・	0.62	7.51	1086
	粒子２	・・・	100	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	1232
9	ウスタイト	97.9	0.58	1.04	・・・	・・・	0.49	・・・	・・・	・・・	452
	ファヤライト	67.5	29.6	・・・	1.14	1.78	・・・	・・・	・・・	・・・	765
	ガラス	31.5	41.6	13.6	8.06	・・・		1.45	0.75	2.59	632

注）・・・印；検出限界以下を示す

の遺物は炉材近傍で生成した鉄滓成分と発泡スラグが合体したものである。

（５）No.５鉄滓（遺物番号 877、写真 10）

大きさは 29 × 20 × 18mm、重さ 7.3gr を測る。炉材片で、表面は赤褐色から黒灰色を呈し、赤褐色部は炉材の未反応部分、黒灰色は被熱により溶融した部分と考えられる。溶融部の一部を採取して調査に供した。断面マクロ組織をみると、赤褐色部は一部が溶融しているものの元の炉材組織を残した状態である。一方、黒灰色部は微細な丸い空孔を伴うガラス質組織となっている。平均化学組成をみると、全鉄（T・Fe）は 5.96%、シリカ分（SiO_2）が 65.77%、アルミナ分（Al_2O_3）が 15.07%である。溶融部の鉱物相は、半溶融の珪石粒子とガラス化したものの混合相となっている。ガラス化が進んだ組織のシリカ分（SiO_2）は 64.9%、アルミナ分（Al_2O_3）は 19.6%、また、半溶融珪石粒子部分のシリカ分（SiO_2）が 89.4%、アルミナ分（Al_2O_3）は 5.18%であった。鉱物祖の硬さ（溶融部）は、653 ～ 693Hv であった。これらの結果から、本遺構に用いられた炉材成分は、シリカ分（SiO2）が 60 ～ 65%、アルミナ分（Al2O3）が 10 ～ 15%、これに珪石粒子を混合したものと推測される。

（６）No.６鉄滓（遺物番号 751、写真 11）

大きさは 36 × 24 × 20mm、重さ 25.6gr を測る。表面は茶褐色から黒褐色を帯びた比較的緻密な油脂感のある小塊である。断面マクロ組織をみると、小さな丸い空孔が存在し、一部の空孔内壁には鉄錆が薄く存在する。平均化学組成は、全鉄（T・Fe）が 66.63%と鉄分の高い鉄滓である。チタン分（TiO_2）は 0.14%と低い。造滓成分は 7.54%と低い。構成鉱物はウスタイト（FeO）、ファヤライト（2FeO・SiO_2）およびガラス質珪酸塩からなりチタン化合物は存在しない。鉱物相に含有する微量元素が少ないことから比較的上層にて生成した（低温度および短時間）ものと考えられる。鉱物相の硬さは、ウスタイト（FeO）が 455Hv、ファヤライト（2FeO・SiO_2）が 645Hvm、ガラス質珪酸塩が 636Hv であった。本遺物は鉄滓生成時の比較的初期に生成した流状スラグ的（低粘性）のものと考えられる。

（７）No.７鉄滓（遺物番号 431、写真 12）

大きさは 36 × 24 × 18mm、重さ 6.3gr を測る。表面は黒灰色で無数の空孔が存在する。非常に脆く、こすると一部が微細粒子となって剥離する。断面マクロ組織をみると、大きな空孔が形成されており、結合組織も脆弱で研磨途中に脱落するものもあった。平均化学組成は、全鉄（T・Fe）が 5.17%と低く、

シリカ分（SiO_2）は58.81％、アルミナ分（Al_2O_3）は16.85％と高く、ほぼ、炉材成分に相当する。結合相はガラス化しているが、空孔を巻き込んだ脆弱な組織となっている。鉱物相の硬さは747Hvと低い値であった。恐らく、炉材の微粉末が凝集・塊状化し、軽い被熱により焼結をしたものと考えられる。本遺物は、他の６点と異なり奈良～平安時代のものといわれている。一反田遺跡の同年代から出土した小塊（№８）とほぼ同等の組成と特徴を有する。

（８）№８鉄滓；微粒子凝集体（遺物番号453、写真13）

大きさは24×22×12㎜、重さ5.1grを測る。表面は黒灰色で全体的に空孔の多い小塊である。断面マクロ組織をみると、大小の粒子（0.1～0.5mm）が凝集したもので、粒子同士の結合は進んでいない。粒子は半透明を帯びたものや、一部がガラス化しているものまでみられる。

平均化学組成のうち、全鉄（T・Fe）は2.33％と低く、チタン分は0.32％と低い。シリカ分（SiO_2）とアルミナ分（Al_2O_3）を主体とする粒子で、耐火物（炉材）の組成に近い。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋Na_2O＋K_2Oの合計）は82.23％と多い（第９表）。EPMA分析の結果、これらの粒子は、一部ガラス化した粒子はシリカ分（SiO_2）とアルミナ分（Al_2O_3）を主体とする炉材由来の微粒子、ならびに未反応の珪石粒子等である。代表的な粒子の硬さは、1086～1232Hvと硬いものであった。本遺物の出土年代は奈良～平安時代のものとされている。恐らく、鍛冶作業に必要な炉材粉末の一部が何らかの理由で凝集・固化したものと考えられる。なお、赤土政所遺跡の同年代遺物（№７）にも、同様のものが検出されている。

（９）№９鉄滓（遺物番号548、写真14）

大きさは53×29×24㎜、重さ32.4grを測る。表面は茶褐色を帯び、上部は流状スラグ(低粘性のもの)の様相を呈し、底面は木炭が付着している椀形鉄滓の破片である。断面マクロ組織をみると、大小の丸みを帯びた空孔が多く存在し、結晶粒子は小さく、比較的短時間で生成・固化に至った鉄滓と考えられる。

平均化学組成のうち、全鉄（T・Fe）は41.17％と若干低く、チタン分（TiO_2）は0.20％と低い。造滓成分は27.93％で、鉄分からの分離が良好であった鉄滓といえる。構成鉱物は、微細なウスタイト(FeO)、長柱状のファヤライト（2FeO・SiO_2）およびガラス質珪酸塩からなりチタン化合物は存在しない。ウスタイト（FeO）中のチタン分（TiO_2）は0.49％と少ない。また、ガラス質珪酸塩中のカルシウム分(CaO)は8.06%とやや多い。一方、鉱物相の硬さは、ウスタイト（FeO）が452Hv、ファヤライト（2FeO・SiO_2）が765Hv、ガラス質珪酸塩が650Hvであった（第10表）。

本遺物の年代は近世とされている。他遺跡から出土した鉄滓（第11表）と成分的にあまり差はなく、平均的な鍛冶作業で生成した鉄滓と考えられる。

５　まとめ

（１）赤土政所遺跡

赤土政所遺跡の平安～中世にかけての遺構から出土した遺物についての金属学的調査を行なった。その結果、鉄滓と判断されるものは№１・２・６の３点で、発泡スラグが２点（№３・７）、鉄滓と発泡スラグの合体したもの１点（№４）、炉材溶融物が１点（№５）であった。

３点の鉄滓は平安～中世の遺物といわれており、他遺構から出土した鉄滓（第11表）よりも総じて小型のものであり、殆どが破片として出土しており、鍛冶作業の終了でできた完形品ではないので断定はできないが、ほぼ同様の組成を有しており、鍛冶作業工程における精錬鍛冶的なものと考えられた。

一方、鉄滓を伴わない単独の発泡スラグが多く出土した。この組成からみて、本遺構の鍛冶作業に用いられた炉材成分は、シリカ分（SiO_2）が60～65％、アルミナ分（Al_2O_3）が10～15％程度、それに珪石を加えて成型したものと推測された。

（２）一反田遺跡

一反田遺跡の奈良～平安時代といわれている小塊（№.8）と、近世といわれている鉄滓（№.９）についての金属学的調査を行なった。その結果、№.８は炉材から発生した微粒子と珪石が凝集化した産物であった。これは､近傍に位置する赤土政所遺跡から出土した小塊（№.７）と同様のものであった。また、近世のものとされている№.９鉄滓は、比較的造滓成分の少ない効率のよい鍛冶作業で生成した鉄滓と思われた。

引用文献

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2002 『笠井若林遺跡』

静岡県埋蔵文化財センター　2012 『北垣遺跡』

焼津市総務部市史編纂室　2003 「小川城」『焼津市史』資料編

横浜市ふるさと歴史財団　1999 『中ノ宮遺跡発掘調査報告書』

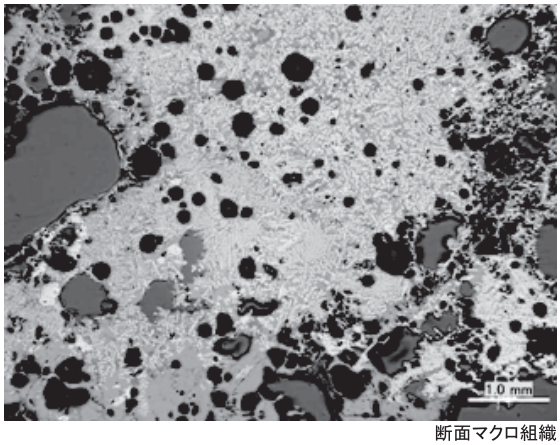
横浜市ふるさと歴史財団　2000 『茅ヶ崎城』

※本報告は、日鉄住金テクノリサーチ株式会社の分析結果報告書を、静岡県埋蔵文化財センターが遺跡内容について若干修正をしたうえで、報告書の体裁に合わせて編集した。

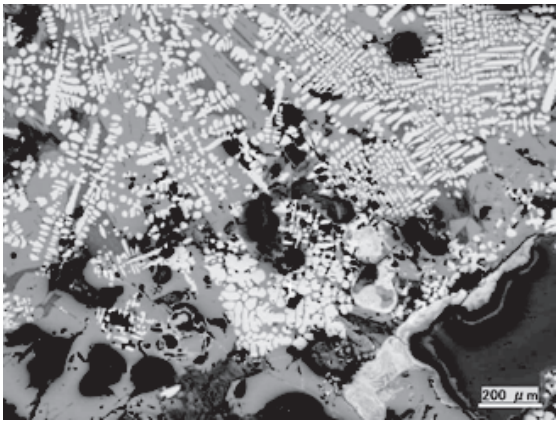
第 11 表　同時代遺跡出土鉄滓の化学組成例（wt%）

遺跡名	所在地	T・Fe	M・Fe	FeO	Fe_2O_3	SiO_2	Al_2O_3	CaO	MgO	TiO_2	文献
茅ヶ崎城	神奈川	53.57	0.67	50.75	19.23	15.93	4.14	2.64	1.04	0.44	1
笠井若林遺跡	静岡	50.2	0.46	53	12.9	21.7	5.12	1.18	0.88	0.23	2
小川城	静岡	57.9	・・・	51.65	24.58	9.19	1.49	1.43	1.41	0.11	3
中ノ宮遺跡	神奈川	54.3	0.44	57.5	13.7	20.8	3.02	0.55	0.77	0.28	4
北垣遺跡	静岡	47.3	0.46	54.8	5.96	26.2	4.96	2.44	1.68	0.42	5

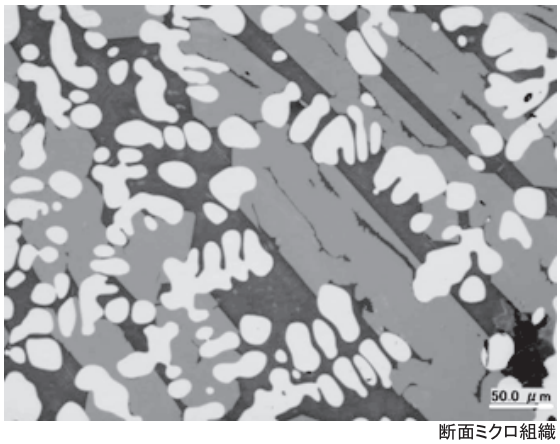
外観



断面マクロ組織

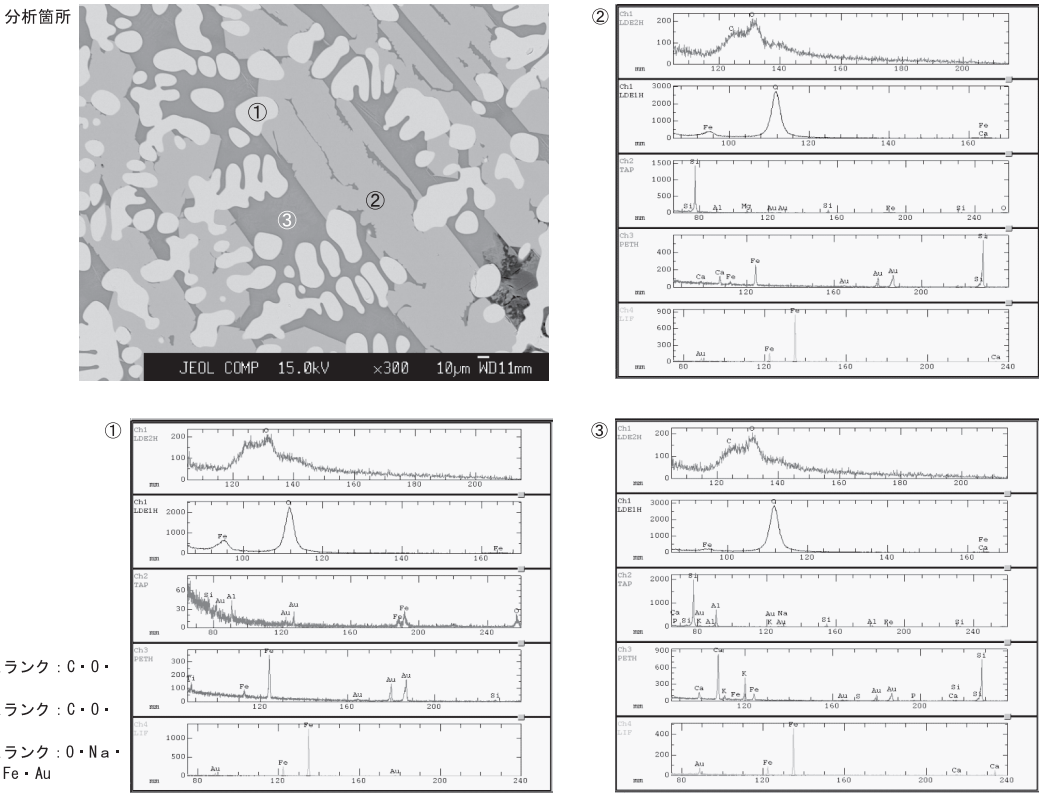


断面ミクロ組織

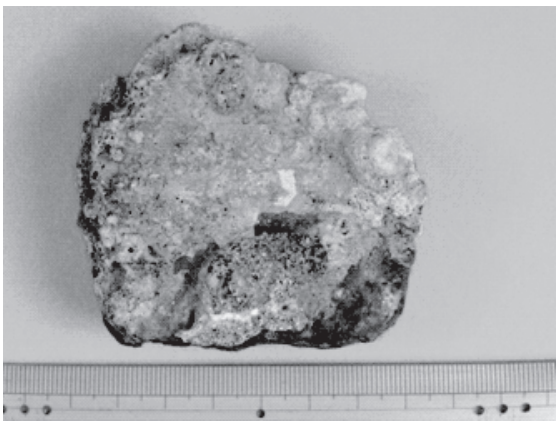


断面ミクロ組織

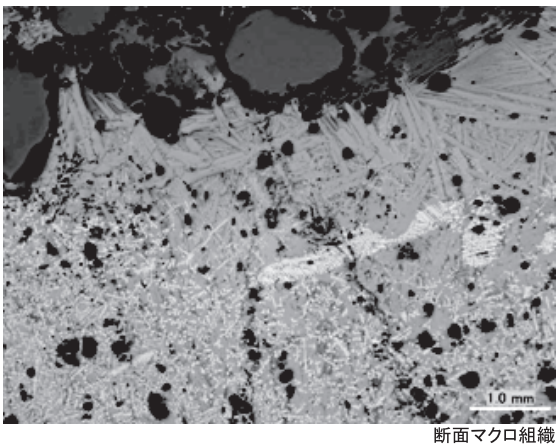
写真６　試料No.１鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織



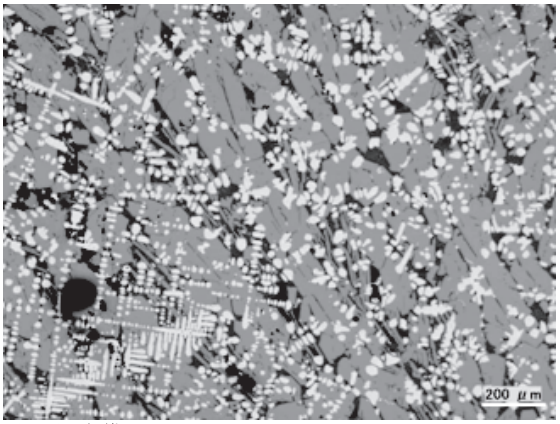
第 243 図　試料No.１鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果



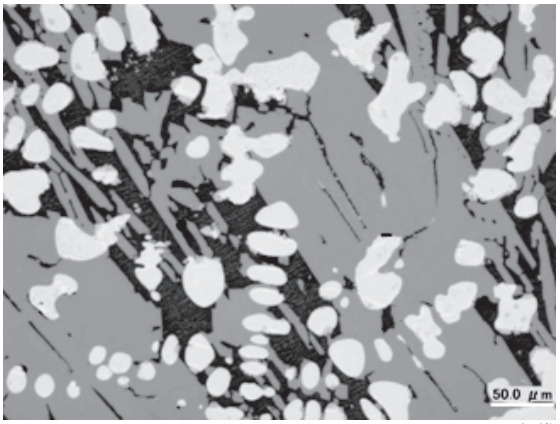
外観



断面マクロ組織



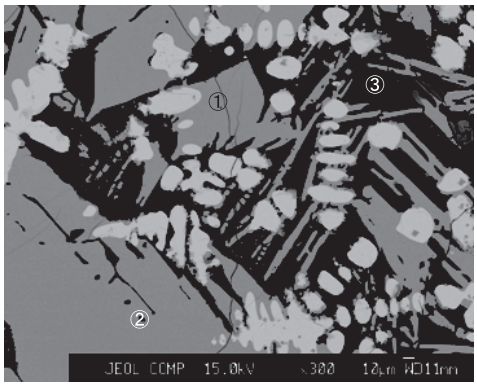
断面ミクロ組織



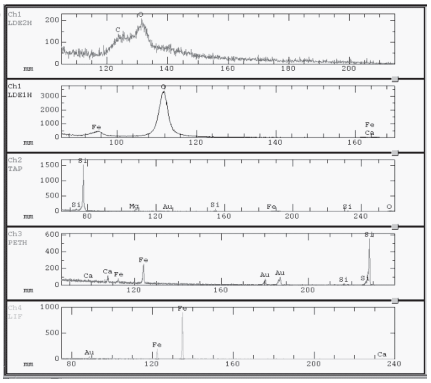
断面ミクロ組織

写真７　試料No.２鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織

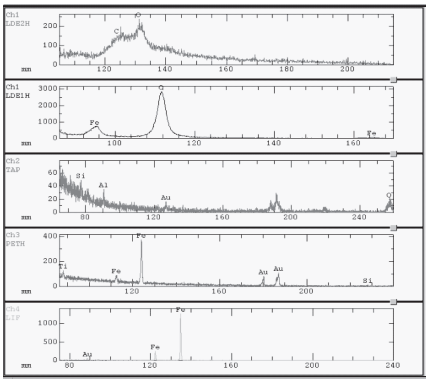
分析箇所



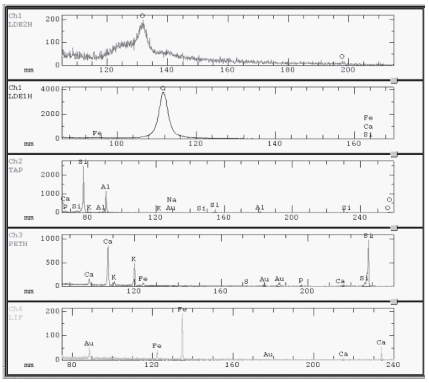
②



①

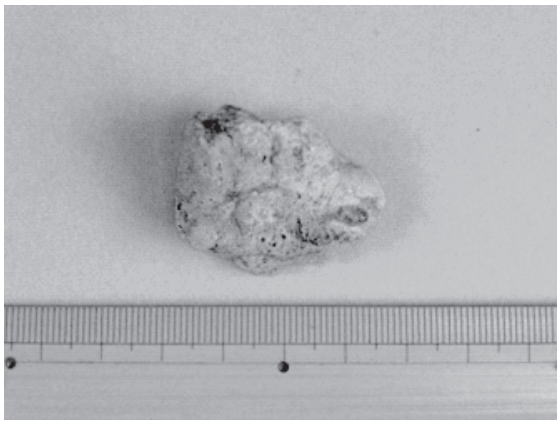


③

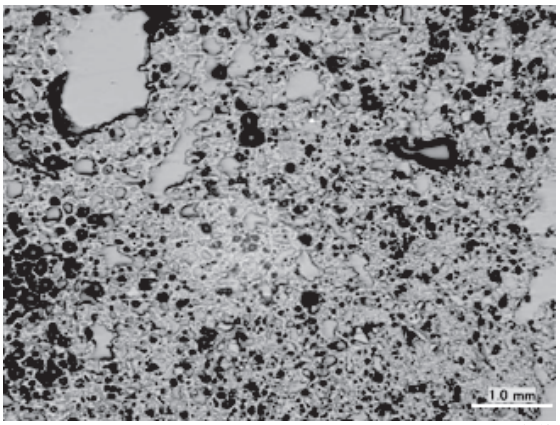


試料 No. ２
①　※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Al・Si・Ti・Fe・Au
②　※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Mg・Si・Ca・Fe・Au
③　※ID-Doctor※　Ａランク：O・Na・Al・Si・P・S・K・Ca・Fe・Au

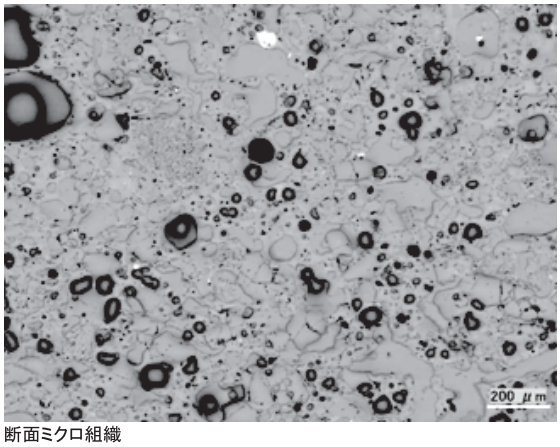
第 244 図　試料No.２鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果



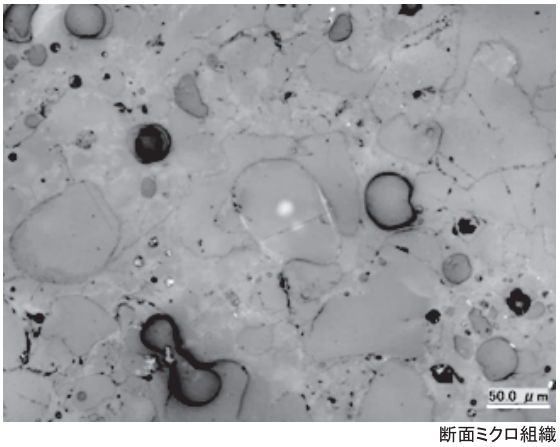
外観



断面マクロ組織



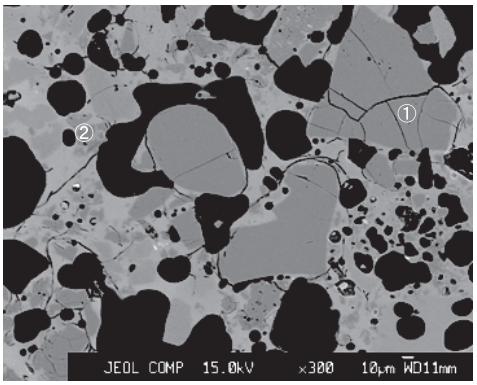
断面ミクロ組織

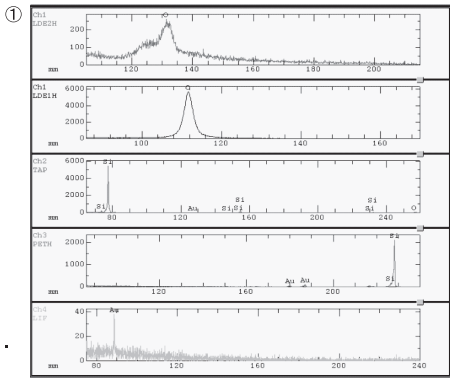


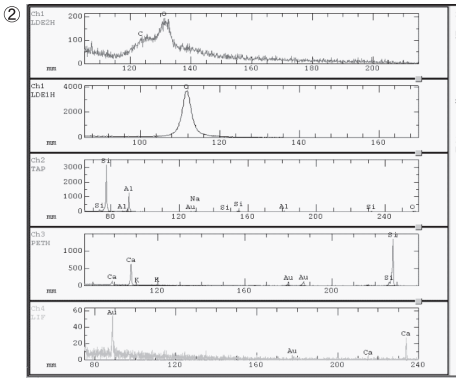
断面ミクロ組織

写真８　試料No.３鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織

分析箇所

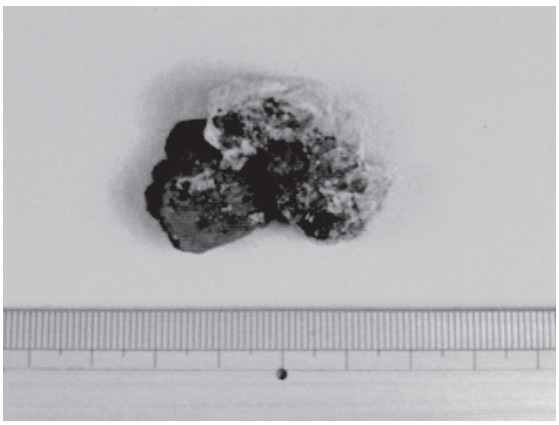




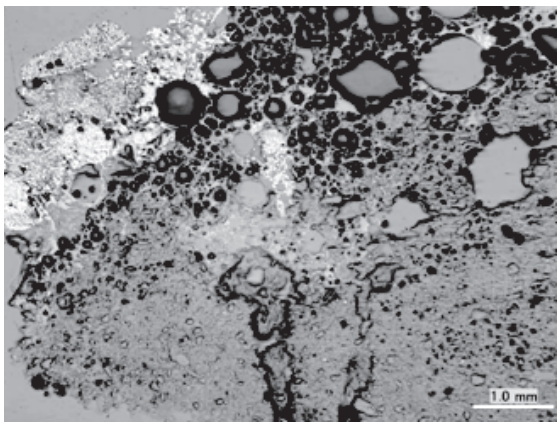


試料 No. ３
①　※ID-Doctor※　Ａランク：O・Si・Au
②　※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Na・Al・Si・K・Ca・Au

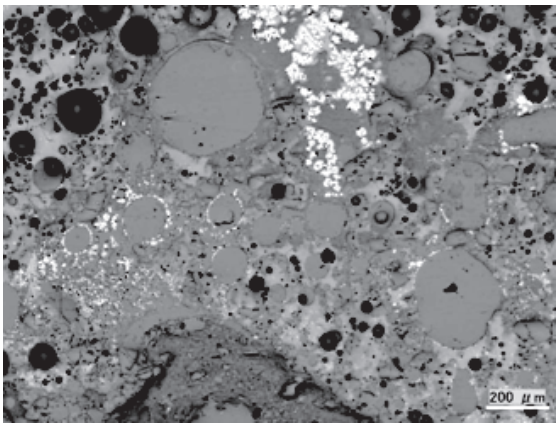
第 245 図　試料No.３鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果



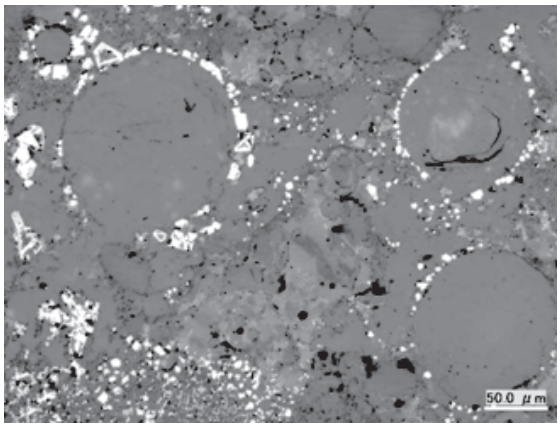
外観



断面マクロ組織



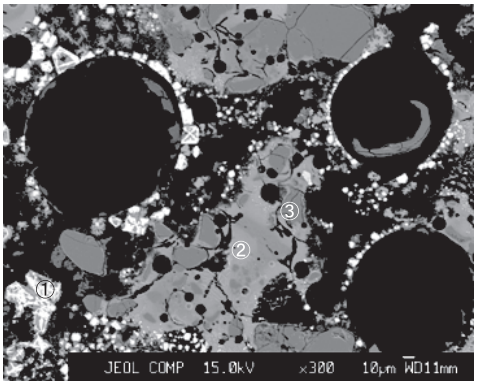
断面ミクロ組織



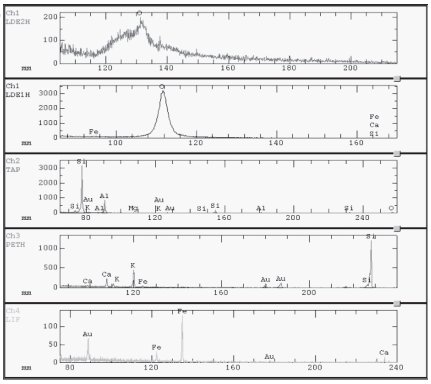
断面ミクロ組織

写真９　試料No.４鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織

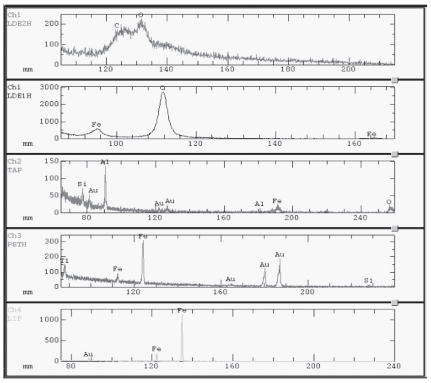
分析箇所



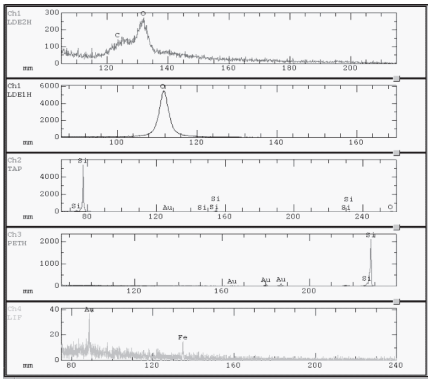
②



①

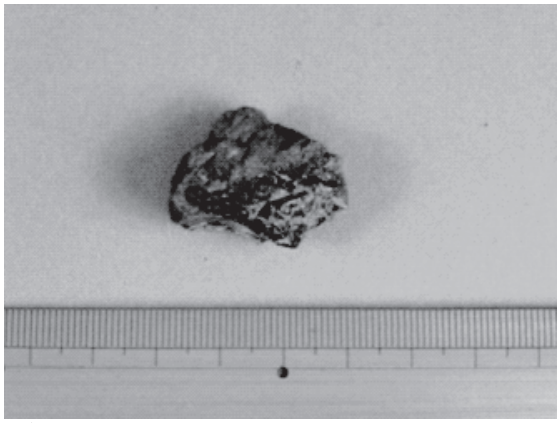


③

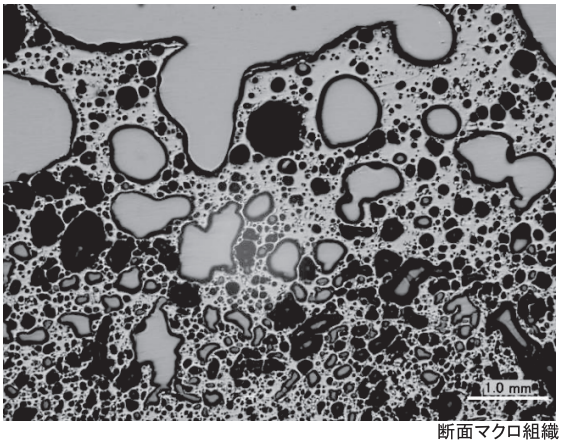


試料 No. ４
① ※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Al・Si・Ti・Fe・Au
② ※ID-Doctor※　Ａランク：O・Mg・Al・Si・K・Ca・Fe・Au
③ ※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Si・Fe・Au

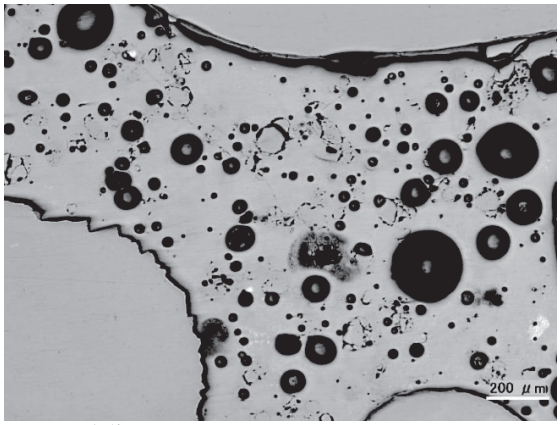
第 246 図　試料No.４鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果



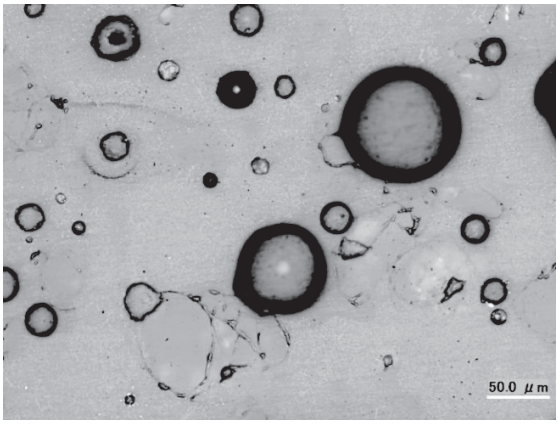
外観



断面マクロ組織



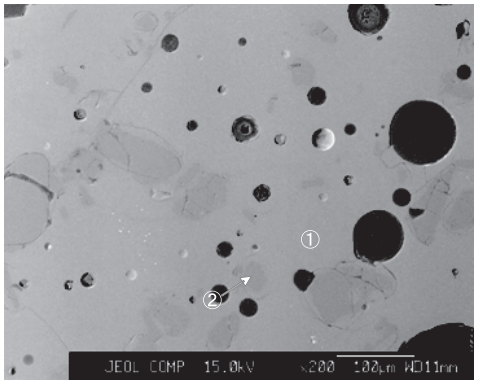
断面ミクロ組織



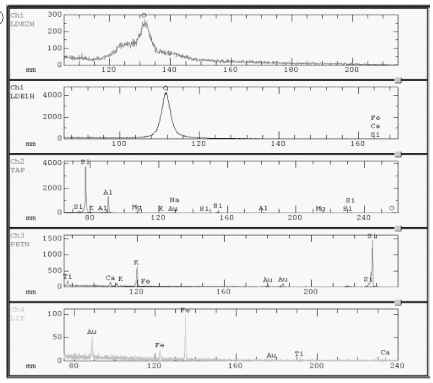
断面ミクロ組織

写真 10　試料No.５鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織

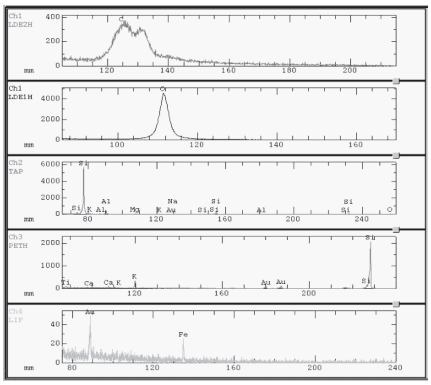
分析箇所



①

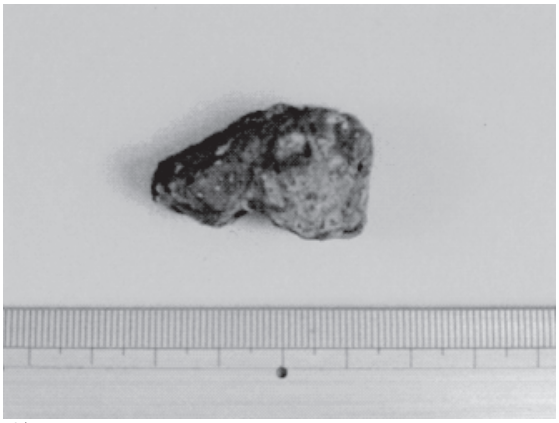


②

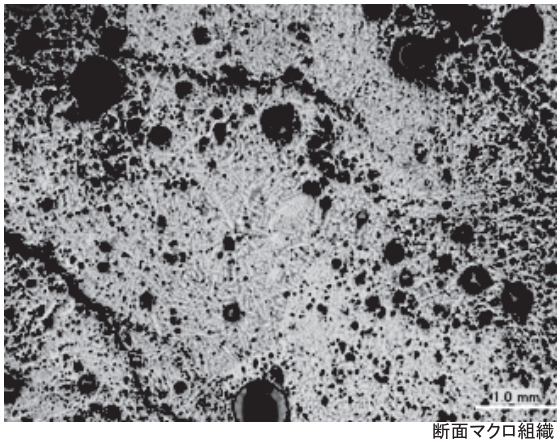


試料 No. ５
①　※ID-Doctor※　Ａランク：O・Na・Mg・Al・Si・K・Ca・Ti・Fe・Au
②　※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Na・Mg・Al・Si・K・Ca・Ti・Fe・Au

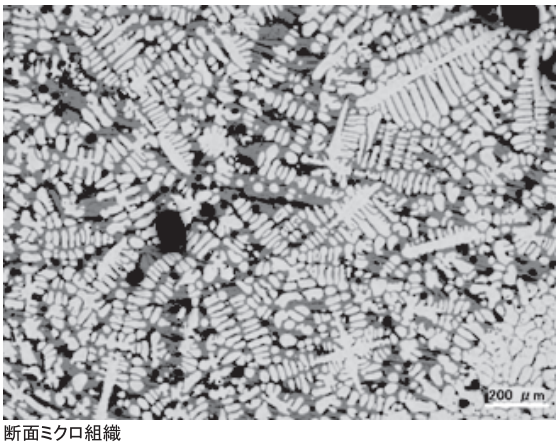
第 247 図　試料No.５鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果



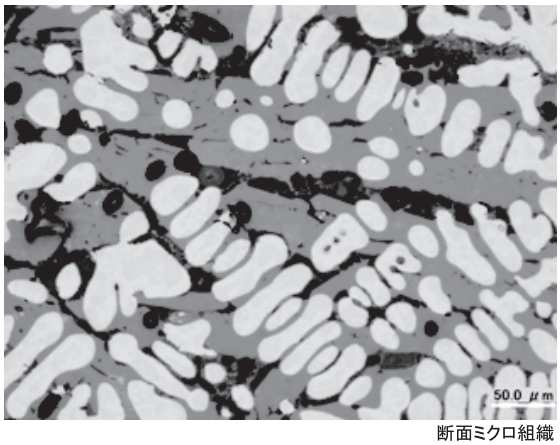
外観



断面マクロ組織



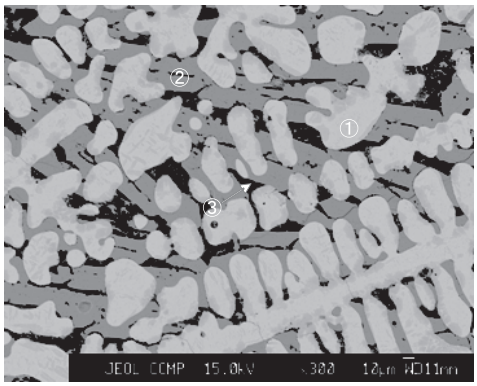
断面ミクロ組織



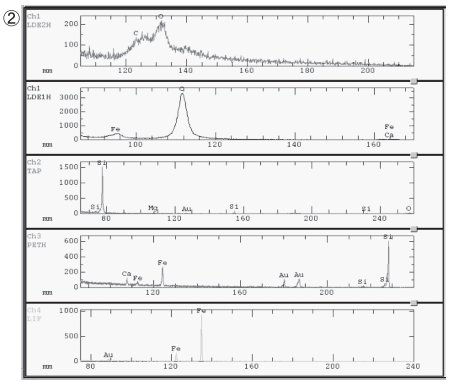
断面ミクロ組織

写真 11　試料No.６鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織

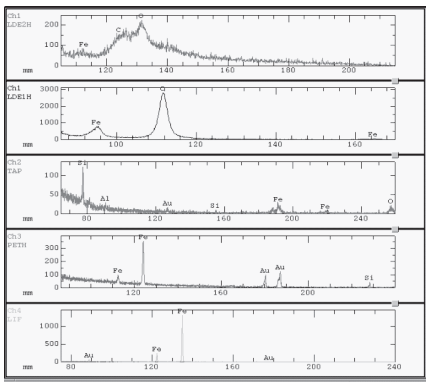
分析箇所



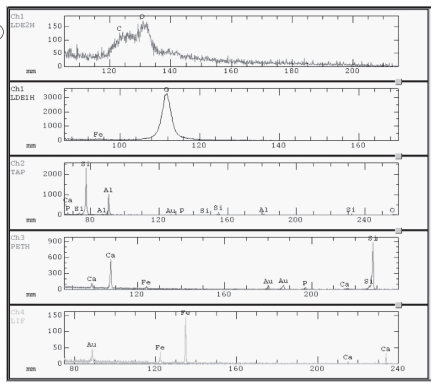
②



①

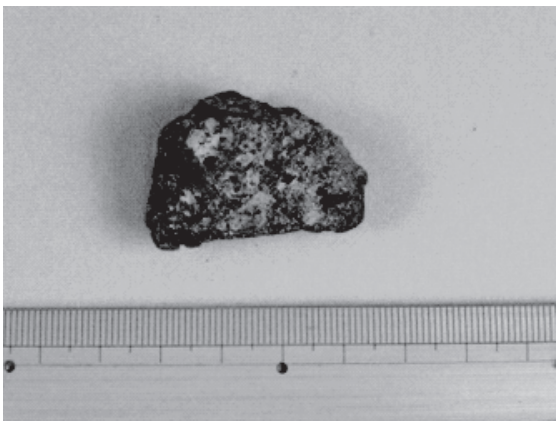


③

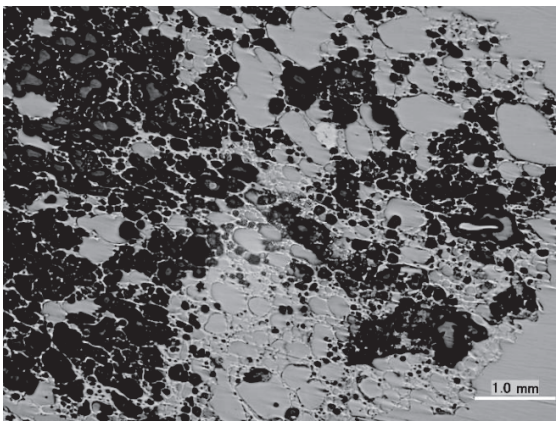


試料 No. 6
① ※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Al・Si・Fe・Au
② ※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Mg・Si・Ca・Fe・Au
③ ※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Al・Si・P・Ca・Fe・Au

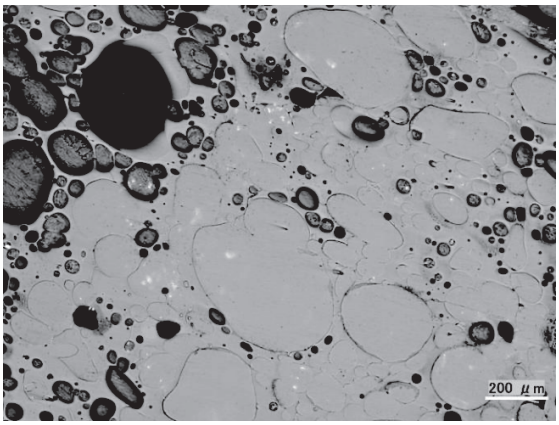
第 248 図　試料No.６鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果



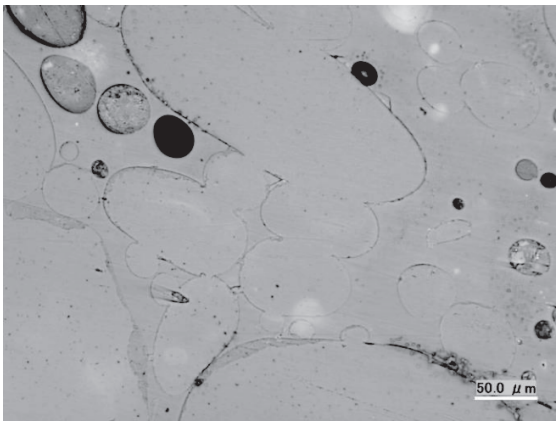
外観



断面マクロ組織



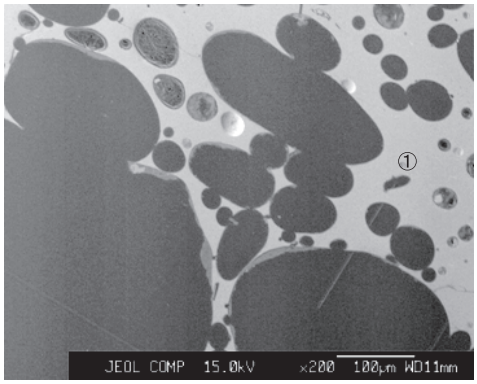
断面ミクロ組織



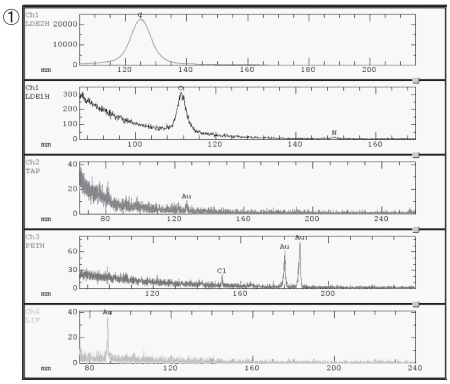
断面ミクロ組織

写真 12　試料No.７鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織

分析箇所

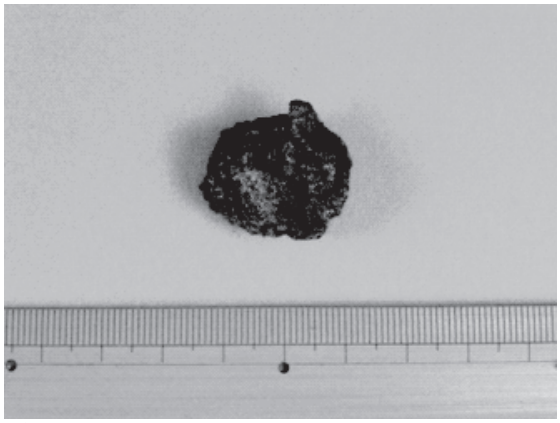


①

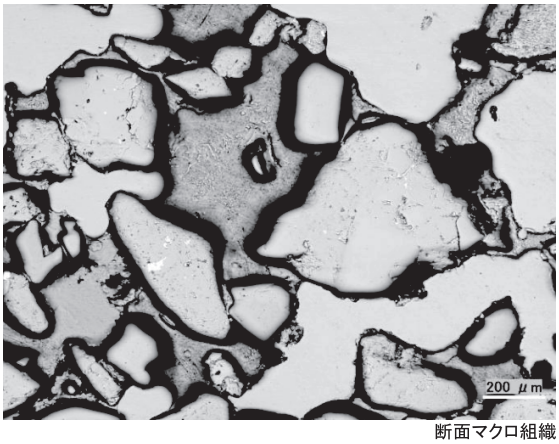


試料 No. 7
①　※ID-Doctor※　Ａランク：C・N・O・Cl・Au

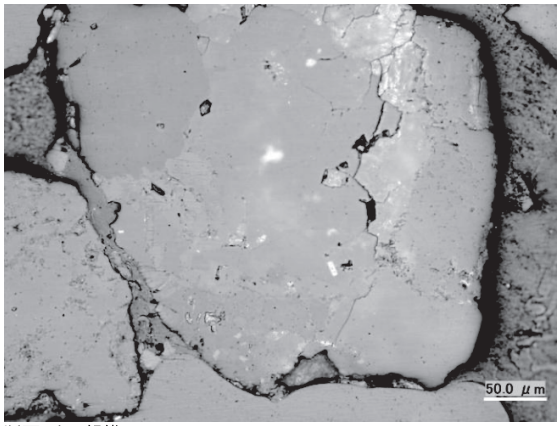
第 249 図　試料No.７鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果



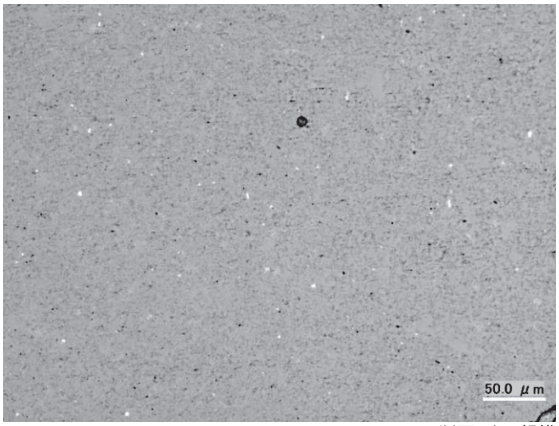
外観



断面マクロ組織



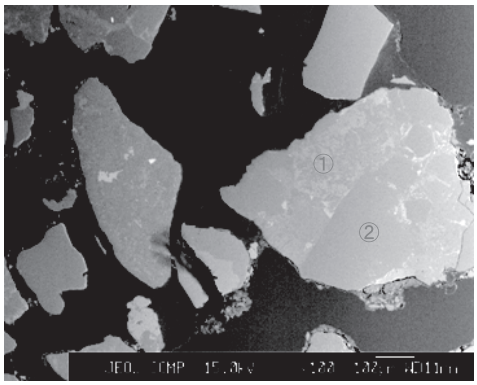
断面ミクロ組織



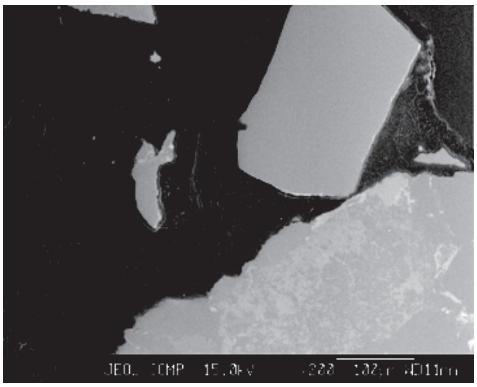
断面ミクロ組織

写真 13　試料No.８鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織

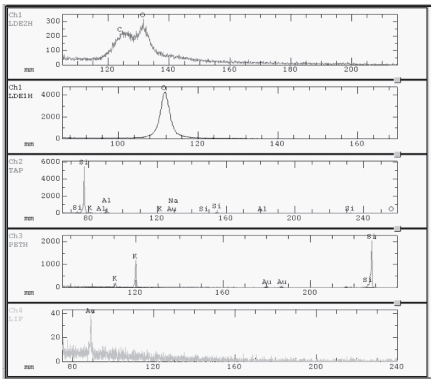
分析箇所



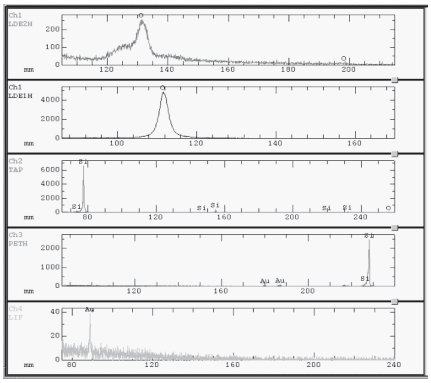
②



①

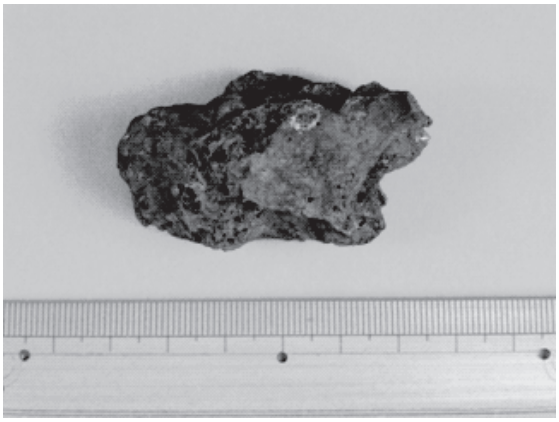


③

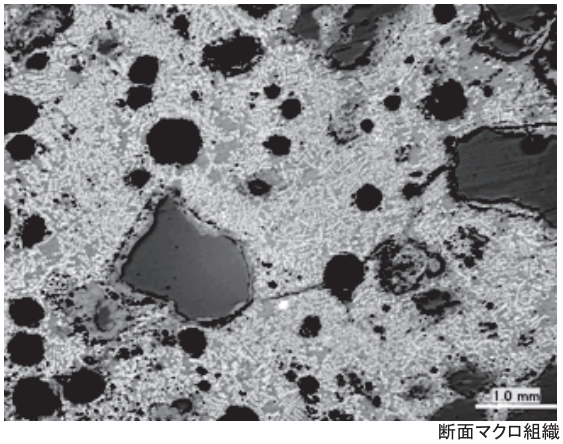


試料 No.８
①　※ID-Doctor※　Ａランク：C・O・Na・Al・Si・K・Au
②　※ID-Doctor※　Ａランク：O・Si・Au

第 250 図　試料No.８鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果

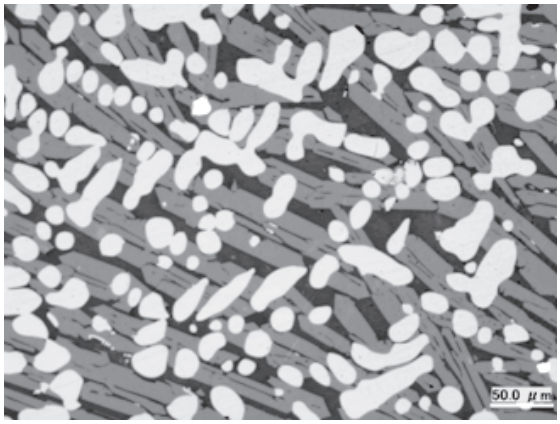


外観



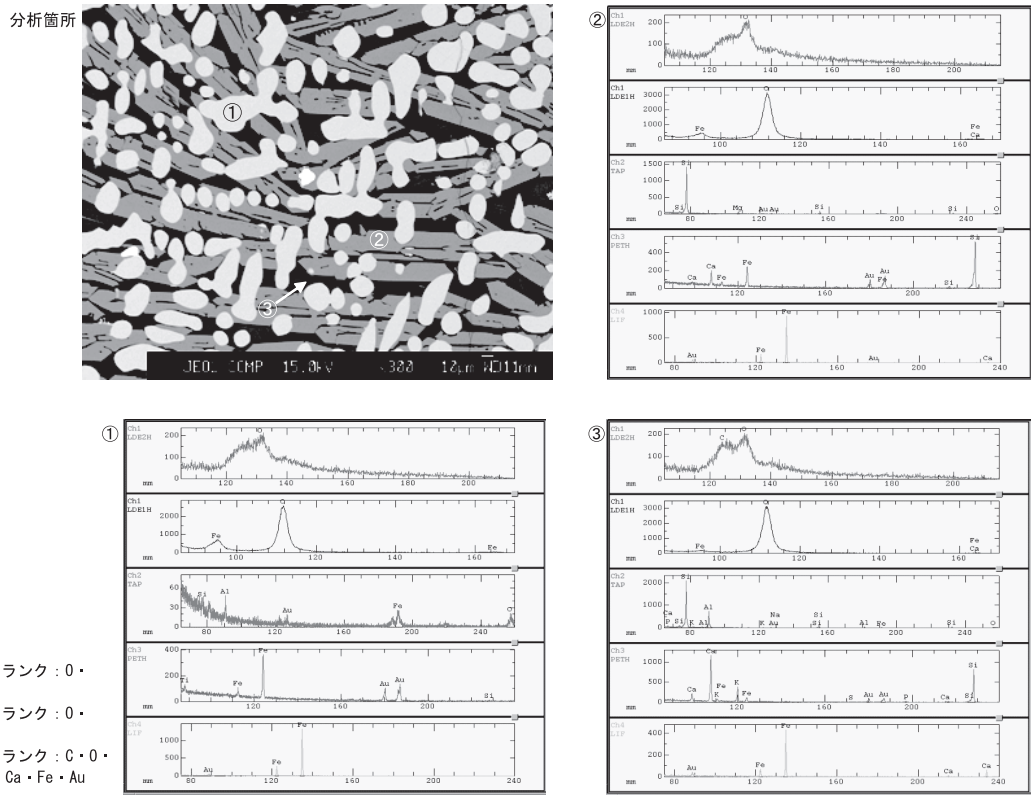
断面マクロ組織

断面ミクロ組織



断面ミクロ組織

写真 14　試料No.９鉄滓の外観と断面マクロ・ミクロ組織



第 251 図　試料No.９鉄滓　鉱物相の EPMA 分析結果

第 12 表　出土鉄滓の鉱物相 EPMA 分析結果表

試料 No.	測定箇所	照射電流	ZAF OXIDE						
			Element	Al2O3	SiO2	TiO2	FeO	Tatal	Norm.F
1	①	9.323E-08A	Mass (%)	0.988	0.563	0.536	97.913	100.000	1.304
			Cation	0.327	0.158	0.113	22.970	23.566	-
2	①	9.309E-08A	Mass (%)	0.721	0.654	0.496	98.129	100.000	1.281
			Cation	0.239	0.184	0.105	23.064	23.592	-
3	①	9.305E-08A	Mass (%)	-	100	-	-	100.000	1.16
			Cation	-	12.000	-	-	12.000	-
4	①	9.329E-08A	Mass (%)	3.637	1.335	0.763	94.264	100	1.387
			Cation	1.155	0.360	0.155	21.239	22.908	-
6	①	9.733E-08A	Mass (%)	0.496	2.315	-	97.189	100	1.275
			Cation	0.162	0.64	-	22.478	23.478	-
9	①	9.692E-08A	Mass (%)	1.04	0.58	0.493	97.887	100	1.27
			Cation	0.344	0.163	0.104	22.952	23.562	-

試料 No.	測定箇所	照射電流	ZAF OXIDE										
			Element	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	FeO	Tatal	Norm.F
1	②	9.304E-08A	Mass(%)	-	2.145	0.497	31.452	-	0.682	-	65.223	100.000	1.225
			Cation	-	0.628	0.115	6.174	-	0.143	-	10.708	17.708	-
2	②	9.315E-08A	Mass(%)	-	0.686	-	32.073	-	0.618	-	66.623	100.000	1.182
			Cation	-	0.202	-	6.333	-	0.131	-	11.002	17.002	-
4	②	9.32E-08A	Mass(%)	-	0.428	16.052	67.400	3.603	1.678	-	10.839	100.000	1.254
			Cation	-	0.087	2.566	9.140	0.624	0.244	-	1.229	13.889	-
5	①	1.072E-07A	Mass(%)	1.151	2.034	19.616	64.871	3.963	0.827	1.066	6.471	100.000	1.137
			Cation	0.299	0.407	3.100	8.698	0.678	0.678	0.119	0.108	14.133	-
	②	1.072E-07A	Mass(%)	0.611	0.452	5.176	89.409	2.017	0.426	0.351	1.156	100.000	1.105
			Cation	0.148	0.084	0.760	11.129	0.320	0.057	0.033	0.162	12.692	-
6	②	9.701E-08A	Mass(%)	-	1.381	-	31.365	-	0.614	-	66.64	100.000	1.194
			Cation	-	0.408	-	6.212	-	0.130	-	66.64	17.788	-
9	②	9.714E-08A	Mass(%)	-	1.778	-	29.564	-	1.144	-	67.514	100.000	1.208
			Cation	-	0.533	-	5.939	-	0.246	-	11.343	18.061	-

試料 No.	測定箇所	照射電流	ZAF OXIDE										
			Element	Na_2O	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	FeO	Tatal	Norm.F
1	③	9.318E-08A	Mass (%)	1.364	13.838	40.635	0.877	0.326	2.905	5.848	34.207	100.000	1.155
			Cation	0.434	2.674	6.663	0.122	0.040	0.608	1.027	4.691	16.258	-
2	③	9.300E-08A	Mass (%)	0.977	21.069	51.39	1.362	0.421	3.597	6.291	14.894	100.000	1.185
			Cation	0.273	3.584	7.417	0.166	0.046	0.662	0.973	1.798	14.919	-
3	②	9.329E-08A	Mass (%)	1.724	23.244	69.685	-	-	0.344	5.004	-	100.000	1.292
			Cation	0.427	3.503	8.909	-	-	0.056	0.685	-	13.581	-
4	③	9.327E-08A	Mass (%)	-	-	98.857	-	-	-	-	11.942	100.000	1.159
			Cation	-	-	11.942	-	-	-	-	0.115	12.058	-
6	③	9.333E-08A	Mass (%)	-	21.863	56.733	2.976	-	-	4.917	13.512	100.000	1.417
			Cation	-	3.535	7.781	0.346	-	-	0.723	1.550	13.934	-
9	③	9.705E-08A	Mass (%)	0.782	13.593	41.582	1.450	0.426	2.591	8.068	31.509	100.000	1.179
			Cation	0.245	2.587	6.714	0.198	0.052	0.534	1.396	4.255	15.981	-

試料 No.	測定箇所	照射電流	ZAF OXIDE						
			Element	C	N	O	Cl	Tatal	Norm.F
7	①	1.072E-08A	Mass (%)	82.01	8.11	9.642	0.238	100.000	1.639
			Atom (%)	85.179	85.179	7.518	0.084	100.000	

試料 No.	測定箇所	照射電流	ZAF OXIDE							
			Element	O	N	Al	Si	K	Tatal	Norm.F
8	①	1.070E-07A	Mass (%)	45.166	0.545	4.807	42.845	6.636	100.000	1.639
			Atom (%)	59.810	0.502	3.775	32.317	3.596	100.000	-
8	②	1.066E-07A	Mass (%)	47.905	-	-	52.095	-	100.000	1.639
			Atom (%)	61.751	-	-	38.249	-	100.000	-

第３節　赤土政所遺跡・一反田遺跡出土種実の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、赤土政所遺跡・一反田遺跡（静岡県菊川市所在）の発掘調査で出土した種実遺体を実施し、植物利用に関する資料を作成する。

１　試料

試料は、赤土政所遺跡より出土した種実遺体 18 個（№.１～ 18）と、一反田遺跡より出土した種実遺体 30 個（№.19 ～ 48）、塊状炭化物２点（№.49・50）の、計 50 点である。試料は、全て乾燥した状態で容器に入っている。各試料の詳細は、結果とともに第 13・14 表に示す。

２　分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。塊状炭化物は、状態を考慮し、非破壊による双眼実体顕微鏡およびマイクロスコープ（KEYENCE,VHX-1000）による観察を実施し、一部脱落した炭化種実をピンセットで抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）、鈴木ほか（2012）等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。また、主な種実遺体の長さ、幅、厚さ等をデジタルノギスで計測した結果を一覧表に併記する。分析後は、種実遺体を分類群毎に容器に戻して返却する。

３　結果

同定結果を第 13・14 表に示す。また、種実遺体各分類群の写真を写真 15 ～ 17 に示し、計測値を第 13･14 表に併記して同定根拠とする。２遺跡 50 試料を通じて、裸子植物２分類群（マツ属複維管束亜属、イヌガヤ）５個、被子植物 11 分類群（オニグルミ、イチイガシ、アカガシ - ツクバネガシ、アカガシ亜属、コナラ属、ウメ、モモ、トチノキ、エゴノキ、イネ、ヒエ）46 個、計 51 個の種実遺体と塊状炭化物２点が同定された。栽培種は、ウメの核が２個、モモの核が 16 個、炭化核が１個と、多量のイネの穎・胚乳が集結した塊状炭化物が１点、多量のヒエの穎・胚乳が集結した塊状炭化物が１点確認された。種実遺体の保存状態は、乾燥による収縮や裂開のため、不良な個体が多い。以下に、遺跡別出土状況を述べる。

（１）赤土政所遺跡（写真 15）

18 試料を通じて、木本６分類群（針葉樹のイヌガヤ、広葉樹のオニグルミ、イチイガシ、アカガシ亜属、モモ、エゴノキ）18 個が同定され、栽培種のモモの核が９個確認された。以下に、遺構別出土状況等を述べる。

SD403（2-1 区；第４面）（№.１～５）　栽培種のモモの核が４個と、常緑高木のアカガシ亜属の殻斗が１個確認された。№.２のモモの核の背面には、ネズミ類による食痕と考えられる円形の孔がみられる。

SD206（2-2 区；第２面）（№.６～ 10）　栽培種のモモの核が３個と、常緑高木のイチイガシの果実が１個、常緑低木のイヌガヤの種子が１個確認された。

SB211-P1/SB212-P3（2-1 区；第２面）（№.11 ～ 15、17）　落葉高木のオニグルミの核の破片が５個と、

第 13 表　赤土政所遺跡出土種実同定結果一覧表

No.	区	面	遺構名	遺物No.	写真	分類群	部位・状態			個数	長さ（mm）		幅（mm）		厚さ（mm）		備考
1	2-1	4	SD403	N015	1-5	アカガシ亜属	殻斗	完形		1	3.8	+	9.3	+	−		頂部欠損
2	2-1	4	SD403	N015	1-13	モモ	核	完形		1	18.3		15.3		14.2		表面摩耗 ネズミ類食痕？（背面） 頂部丸い
3	2-1	4	SD403	N020	1-8	モモ	核	完形		1	20.7		18.9		15.4		頂部丸い
4	2-1	4	SD403	N016	1-9	モモ	核	完形		1	19.7		19.2		17.0		頂部丸い
5	2-1	4	SD403	N020	1-7	モモ	核	完形		1	24.5		21.6		18.8		頂部やや尖る
6	2-2	2	SD206	N036	1-4	イチイガシ	果実	完形		1	14.1		8.8		−		裂開，基部突出 着点径 4.1mm 花柱残存長 1.3mm
7	2-2	2	SD206	N035	1-1	イヌガヤ	種子	完形		1	15.3		9.5		7.9		表面割れている （乾燥のため）
8	2-2	2	SD206	N036	1-6	モモ	核	完形		1	24.8		19.0		16.4		頂部やや尖る
9	2-2	2	SD206	N036	1-10	モモ	核	完形		1	22.0		18.6		15.0		頂部やや尖る
10	2-2	2	SD206	N035	1-11	モモ	核	完形		1	22.9		19.2		16.5		頂部やや尖る
11	2-1	2	SB211-P1 SB212-P3	N012	1-3	オニグルミ	核	破片		1	27.4	+	15.7	+	11.4	+	欠損（5 ～ 1 時、隔壁）
12	2-1	2	SB211-P1 SB212-P3	N012	−	オニグルミ	核	破片		1	13.0	+	−		−		
13	2-1	2	SB211-P1 SB212-P3	N012	−	オニグルミ	核	破片		1	17.5	+	−		−		頂部（10 ～ 12 時）のみ残存
14	2-1	2	SB211-P1 SB212-P3	N012	−	オニグルミ	核	破片		1	18.3	+	−		−		
15	2-1	2	SB211-P1 SB212-P3	N012	1-2	オニグルミ	核	破片		1	24.7	+	24.0	+	10.5	+	欠損（ほぼ全周、隔壁），半分厚
16	2-1	2	SB211-P3	N011	1-12	モモ	核	完形		1	21.0		19.0		16.5		頂部丸い
17	2-1	2	SB211-P1 SB212-P3	N008	1-14	エゴノキ	種子	完形		1	8.2		5.5		−		着点径 3.4mm
18	3-1	2	第２面 包含層	N029	−	モモ	核	破片		1	16.8	+	12.4	+	−		収縮・摩耗著しい

注）計測はデジタルノギスを使用した。欠損等は残存値に「＋」で示す。

落葉小高木のエゴノキの種子が１個確認された。No.11 とNo.15 のオニグルミには、核周囲や隔壁等の欠損がみられ、打撃痕の可能性がある。

SB212-P3（2-1 区；第２面）（No.16）　栽培種のモモの核が１個確認された。

第２面包含層（3-1 区；第２面）（No.18）　栽培種のモモの核の破片が１個確認された。乾燥による収縮・摩耗が著しい。

（２）一反田遺跡（写真 16・17）

32 試料を通じて、木本 10 分類群（針葉樹のマツ属複維管束亜属、イヌガヤ、広葉樹のオニグルミ、アカガシ - ツクバネガシ、アカガシ亜属、コナラ属、ウメ、モモ、トチノキ、エゴノキ）33 個の種実遺体と、草本２分類群（イネ、ヒエ）の塊状炭化物２点が同定された。栽培種は、ウメの核が２個、モモの核が７個、炭化核が１個と、多量のイネの穎・胚乳が集結した塊状炭化物が１点、多量のヒエの穎・胚乳が集結した塊状炭化物が１点確認された。以下に、遺構別出土状況等を述べる。

SR201（3-2 区；第２面）（No.19）　栽培種のモモの核が１個確認された。

第２面包含層（3-2 区；第２面）（No.20）　炭化した栽培種のモモの核が１個確認された。

SD101（5-1/2 区；第１面）（No.21 ～ 48）　栽培種のウメの核が２個、モモの核が６個と、常緑低木のイヌガヤの種子が２個、常緑高木のマツ属複維管束亜属の球果が１個、種鱗が１個、アカガシ - ツクバネガシの果実が１個、アカガシ亜属の果皮片が１個、常緑または落葉高木のコナラ属の果実が１個、果皮片が５個、落葉高木のオニグルミの核の破片が２個、トチノキの果実が１個、落葉小高木のエゴノキの種子が８個の、計 31 個が確認された。No.32 のウメは、核の側面から背面にかけて円形の孔がみられ、ネズミ類による食痕と考えられる。No.22 のオニグルミは、核内の隔壁が欠損しており、打撃痕の可能

第 14 表　一反田遺跡出土種実同定結果一覧表

No.	区	面	遺構名	遺物No.	写真	分類群	部位・状態			個数	長さ（mm）		幅（mm）		厚さ（mm）		備考
19	3-2	2	SR201	N026	2-10	モモ	核	完形		1	20.1		17.7		14.1		頂部やや尖る
20	3-2	2	第２面 包含層	N025	2-8	モモ	核	完形	炭化	1	22.7		16.9		12.8		頂部尖る
21	5-1・2	1	SD101	N022	2-4	オニグルミ	核	破片		1	27.7		20.9		9.4	+	半分
22	5-1・2	1	SD101	N005	2-5	オニグルミ	核	破片		1	24.7		22.1		9.9		半分，欠損（隔壁）
23	5-1・2	1	SD101	N007	2-7	モモ	核	完形		1	24.2		18.2		14.4		頂部やや尖る，表面摩耗
24	5-1・2	1	SD101	N005	2-9	モモ	核	完形		1	24.3		19.3		14.9		頂部尖る
25	5-1・2	1	SD101	N005	2-1	マツ属複維管束亜属	球果	完形		1	40.3	+	30.9		−		乾燥のため裂開している
26	5-1・2	1	SD101	N003	−	モモ	核	完形		1	20.9	+	17.3	+	12.0	+	表面摩耗
27	5-1・2	1	SD101	N009	−	モモ	核	完形		1	21.8	+	14.5	+	8.2	+	乾燥のため収縮
28	5-1・2	1	SD101	N003	−	モモ	核	完形		1	19.3	+	14.0	+	12.2	+	小型，表面摩耗
29	5-1・2	1	SD101	N005	2-11	モモ	核	破片		1	17.1		15.6		6.9	+	半分，小型，頂部丸い 種子窪み：長さ 12.4mm，幅 9.2mm
30	5-1・2	1	SD101	N022	−	コナラ属	果皮	破片		4	12.3	+	−		−		乾燥のため渦巻状
31	5-1・2	1	SD101	N005	−	ウメ	核	完形		1	14.1		9.6		7.2		乾燥のため収縮
32	5-1・2	1	SD101	N007	2-6	ウメ	核	完形		1	15.7		12.0	+	9.9	+	ネズミ類食痕（側面）
33	5-1・2	1	SD101	N007	2-12	トチノキ	果実	完形		1	17.2		18.2		−		下部側面欠損
34	5-1・2	1	SD101	N008	2-3	アカガシ -ツクバネガシ	果実	完形		1	13.9		12.7		−		裂開している 頂部太く（径 2.8mm）突出
35	5-1・2	1	SD101	N012	−	イヌガヤ	種子	完形		1	16.4		9.4		8.1		食痕（両側面）?
36	5-1・2	1	SD101	N008	2-2	イヌガヤ	種子	完形		1	17.1		9.7		7.8		
37	5-1・2	1	SD101	N005	−	マツ属複維管束亜属	種鱗	破片		1	15.9	+	9.9	+	−		
38	5-1・2	1	SD101	N008	−	アカガシ亜属	果皮	破片		1	10.2	+	−		−		
39	5-1・2	1	SD101	N008	−	コナラ属	果皮	破片		1	9.7	+	−		−		
40	5-1・2	1	SD101	N008	−	コナラ属	果実	完形		1	7.5		6.9		−		花柱欠損，着点径 3.7mm
41	5-1・2	1	SD101	N003	−	エゴノキ	種子	完形		1	11.4		6.3		−		着点径 3.2mm
42	5-1・2	1	SD101	N003	−	エゴノキ	種子	完形		1	11.8		5.9		−		着点径 3.1mm
43	5-1・2	1	SD101	N003	−	エゴノキ	種子	完形		1	11.6		6.6		−		着点径 3.8mm
44	5-1・2	1	SD101	N003	2-13	エゴノキ	種子	完形		1	8.4		5.7		−		着点径 2.9mm
45	5-1・2	1	SD101	N003	−	エゴノキ	種子	完形		1	9.9		5.5		−		着点径 2.7mm
46	5-1・2	1	SD101	N003	−	エゴノキ	種子	完形		1	10.0		6.3		−		着点径 2.7mm
47	5-1・2	1	SD101	N003	−	エゴノキ	種子	完形		1	10.4		6.4		−		着点径 3.7mm
48	5-1・2	1	SD101	N003	−	エゴノキ	種子	完形		1	9.6		5.5		−		着点径 3.0mm
49	3-2	1	SK119	N023	3-1 ～4	イネ	穎 ・胚乳	塊状	炭化	50+	26.0	+	−		−		粘土塊に付着
50	3-2	1	SK119	N024	3-7 ～9	ヒエ	穎 ・胚乳	塊状	炭化	1000+	26.0	+	−		−		粘土塊に付着

注）計測はデジタルノギスを使用した。欠損等は残存値に「＋」で示す。

性がある。

SK119(3-2 区；第１面）（№.49・50）　塊状炭化物２点のうち、№.49 は、全て栽培種のイネの穎（籾）が付着した胚乳（炭化米）に同定された。一方、№.50 は、全て栽培種のヒエの穎が付着した胚乳に同定された。いずれも、粘土塊に多量の炭化穎・胚乳が集結した塊状炭化物が最大 2.6 cm程度の範囲で付着する状況で、他の分類群・部位や虫類等の混入物は認められなかった。イネ、ヒエともに、個々の穎果の保存状態は比較的良好で、隣接し同一方向に配列する部分も確認されるが、向きが区々な部分もあるため、果序（穂）の状態までの断定はできなかった。塊状炭化物表面から想定される穀粒数は、№.49 のイネは 50 個程度、№.50 のヒエは数百～千個以上である。

４　考察

赤土政所遺跡・一反田遺跡の種実遺体群には、栽培種のウメ、モモ、イネ、ヒエが確認された。両遺跡より出土したモモと、一反田遺跡の SD101 より出土したウメは、栽培のために持ち込まれた渡来種とされ、観賞用の他、果実や種子が食用、薬用、祭祀等に利用される。一反田遺跡の SK119 より出土し

たヒエは、湿った場所に生育するイヌビエが栽培化された説もあり、イネは渡来種とされる。これらの穀類は、胚乳が食用として利用される植物質食糧である。ウメ、モモ、イネ、ヒエは、周辺で栽培されていたか、近辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食料と示唆され、遺構内への投棄または埋納などの人為的行為に由来する可能性がある。また、一反田遺跡の第２面包含層より出土したモモの核と、SK119 より出土したイネ、ヒエは炭化していることから、火を受けたとみなされる。特に、SK119 のイネとヒエは、多量の穎（籾）が付いた胚乳が密着する塊状炭化物で出土したことから、籾がついた生の状態で食用されずに火を受けたと推定される。

栽培種を除いた種実遺体群は、赤土政所遺跡より５分類群（イヌガヤ、オニグルミ、イチイガシ、アカガシ亜属、エゴノキ）、一反田遺跡より８分類群（マツ属複維管束亜属、イヌガヤ、オニグルミ、アカガシ - ツクバネガシ、アカガシ亜属、コナラ属、トチノキ、エゴノキ）が確認され、全て木本のみから構成される。

針葉樹は、常緑高木のマツ属複維管束亜属と、耐陰性が強く、暗く湿った広葉樹林内でみられる常緑低木のイヌガヤが確認された。複維管束亜属には、日当たりの良い海岸の砂浜や岩上などに生育するクロマツと、尾根筋などの土壌の痩せた場所や乾燥地などに生育する二次林要素のアカマツと、両種の雑種があるが、本地域の分布および出土球果の形状からは、種の特定に至らなかった。広葉樹は、常緑広葉樹林（照葉樹林）の主要な構成種である常緑高木のイチイガシとアカガシ - ツクバネガシを含むコナラ属アカガシ亜属と、河畔林要素の落葉高木であるオニグルミ、トチノキ、落葉小高木のエゴノキが確認された。これらの樹種は、両遺跡周辺の照葉樹林内や、丹野川流域の河畔林等に生育していたと考えられる。

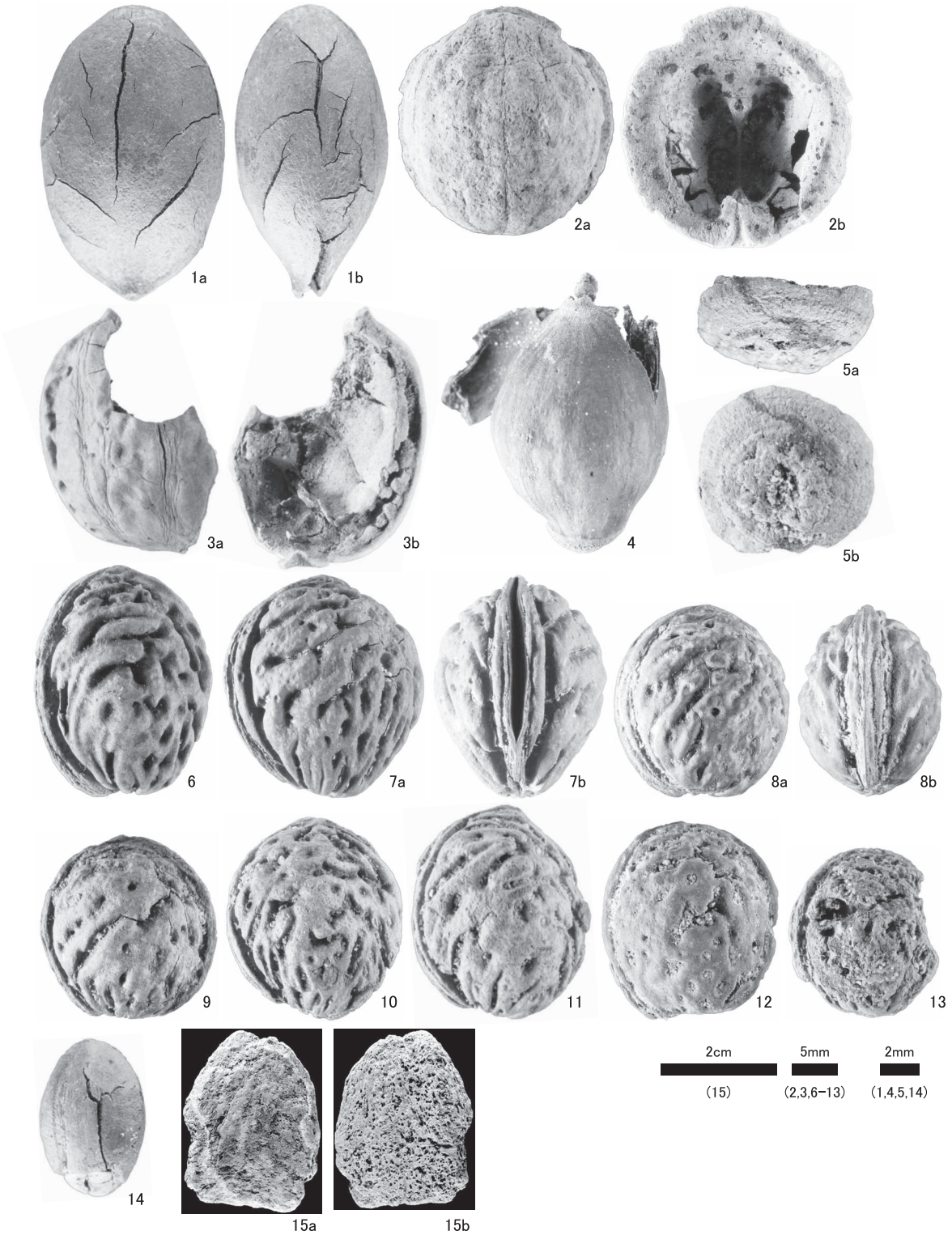
なお、堅果類のオニグルミ、イチイガシは、あく抜きせずに子葉が食用可能で、アカガシ - ツクバネガシを含むコナラ属アカガシ亜属とトチノキは、あく抜きをすることで子葉が食用可能となる。その他に、イヌガヤは外種皮が食用可能である。エゴノキの種子は食用に適さないが、エゴサポニンを含む果皮が洗濯や魚採等に利用可能である。オニグルミ以外の出土種実には、人が直接利用した痕跡は確認されなかった。オニグルミには、打撃痕と考えられる核が確認されたことから、人が食用のために利用した可能性がある。

引用文献

石川茂雄　1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 , 328p.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000 『日本植物種子図鑑（2010 年改訂版）』東北大学出版会 , 678p.

鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文　2012 『ネイチャーウォッチングガイドブック　草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実 632 種－』誠文堂新光社 , 272p.

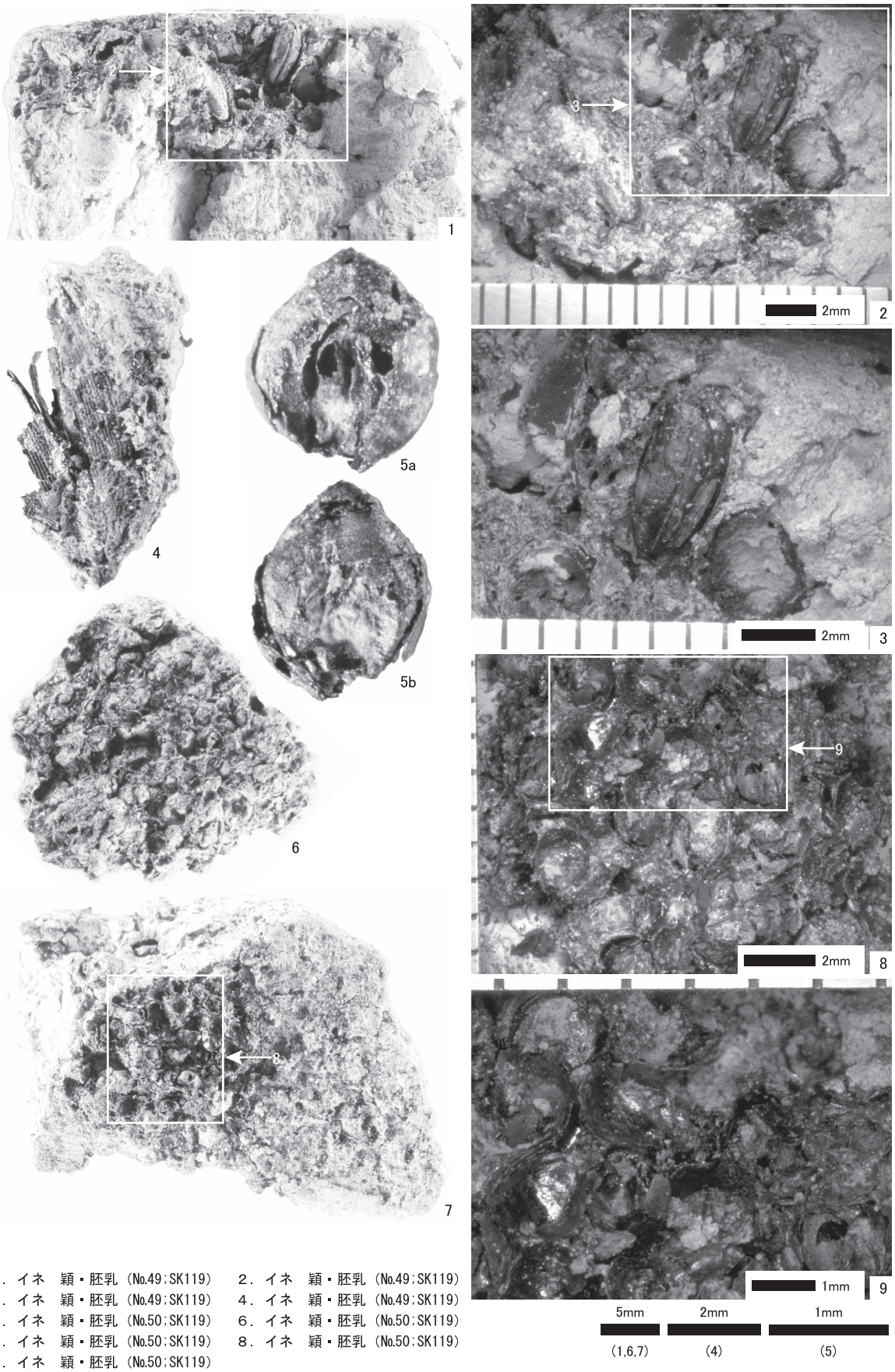


１．イヌガヤ　種子（No.７;SD206）
２．オニグルミ　核（隔壁欠損）（No.15;SB211-P1/SB212-P3）
３．オニグルミ　核（欠損）（No.11;SB211-P1/SB212-P3）
４．イチイガシ　果実（No.６;SD206）
５．アカガシ亜属　殻斗（No.１;SD403）
６．モモ　核（No.８;SD206）
７．モモ　核（No.５;SD403）
８．モモ　核（No.３;SD403）
９．モモ　核（No.４;SD403）
10．モモ　核（No.９;SD206）
11．モモ　核（No.10;SD206）
12．モモ　核（No.16;SB211-P３）
13．モモ　核（食痕？）（No.２;SD403）
14．エゴノキ　種子（No.17;SB211-P1/SB212-P3）
15．獣類不明骨（No.14;SD206）

写真 15　赤土政所遺跡出土種実・骨

１．マツ属複維管束亜属　球果（No.25;SD101）
２．イヌガヤ　種子（No.36;SD101）
３．アカガシーツクバネガシ　果実（No.34;SD101）
４．オニグルミ　核（No.21;SD101）
５．オニグルミ　核（隔壁欠損）（No.22;SD101）
６．ウメ　核（食痕）（No.32;SD101）
７．モモ 核（No.23;SD101）
８．モモ　核（炭化）（No.20;包含層）
９．モモ 核（No.24;SD101）
10．モモ　核（No.19;SR201）
11．モモ 核（No.29;SD101）
12．トチノキ　果実（No.33;SD101）
13．エゴノキ　種子（No.44;SD403）

写真 16　一反田遺跡出土種実



１．イネ　穎・胚乳（No.49;SK119）　２．イネ　穎・胚乳（No.49;SK119）
３．イネ　穎・胚乳（No.49;SK119）　４．イネ　穎・胚乳（No.49;SK119）
５．イネ　穎・胚乳（No.50;SK119）　６．イネ　穎・胚乳（No.50;SK119）
７．イネ　穎・胚乳（No.50;SK119）　８．イネ　穎・胚乳（No.50;SK119）
９．イネ　穎・胚乳（No.50;SK119）

写真 17　一反田遺跡出土塊状炭化物

第４節　赤土政所遺跡・一反田遺跡出土動物骨・貝殻の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、赤土政所遺跡・一反田遺跡（静岡県菊川市所在）の発掘調査で出土した骨貝類の同定を実施し、当時の動物利用に関する資料を作成する。

１　試料

試料は、一反田遺跡 SD101 の 5-1 区第１面・5-2 区第１面から採取された８試料（№.１～７、８～12)、3-2 区２面包含層から採取された１試料（№.13)、赤土政所遺跡 SD206 の 2-2 区第２面から採取された１試料（№.14）の合計 10 試料である。この内、№.１は、ウマ下顎骨が水漬状態となっている。この他は、全て乾燥状態で、№.８～ 12 が約５点の貝殻片、それ以外は１試料約１点の骨あるいは貝類であり、骨の破片数は 14 片以上である。なお、試料の詳細は結果とともに表示する。

２　分析方法

№.１および№.２は、保存状態が極めて悪いことから、バインダー№.17 に数日間浸漬して補強を行い、自然乾燥を行った後、一般工作用接着剤を用いて接合・復元を行う。試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、貝類の生態等に関しては、奥谷ほか (2000)、奥谷編著 (2004)、紀平ほか (2009) などを参考とする。

３　結果

10 試料を通じて、腹足綱１種類（チリメンカワニナ）、二枚貝綱１種類（種類不明）、哺乳綱２種類（ウマ・ウシ）が確認された（第 15 表）。同定結果を第 16 表に示す。以下、地点・種類ごとに示す。

（１）一反田遺跡

チリメンカワニナ　殻の破片である。比較的形が残るものが５点（№.８～ 12）残り、それらの破片が他にみられる。

二枚貝綱　種類不明の破片（№.13）である。比較的頑丈な殻である。

ウマ　下顎骨（№.１）、後肢の基節骨（№.２）、左脛骨（№.７）が確認される。№.１のウマ下顎骨は、保存状態が悪く、一部復元できない破片もみられたが、同一個体の破片である。左側がよく残り、右側は連合部付近が残る。左側には、第２前臼歯～第３後臼歯まで植立する。第２前臼歯が若干浮いている状態である。№.２の後肢基節骨は、ほぼ完存する。№.７の左脛骨は、遠位端部のみが残る。なお、ウマの計測値を第 17 表に示す。

ウシ　右後臼歯の破片（№.３）である。

獣類　種類不明で、部位不明破片（№.４）、四肢

第 15 表　検出動物分類群一覧表

軟体動物門	Phylum Mollusca
腹足綱	Class Gastropoda
前鰓亜綱	Subclass Prosobranchia
盤足目	Order Discopoda
カワニナ科	Family Pleuroceridae
チリメンカワニナ	Semisulcospira bensoni reiniana
二枚貝綱	Class Bivalvia
種類不明	Ord. et. fam. indet.
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
哺乳綱	Class Mammalia
ウマ目（奇蹄目）	Order Perissodactyla
ウマ科	Family Equidae
ウマ	Equus caballus
ウシ目（偶蹄目）	Order Artiodactyla
ウシ科	Family Bovidae
ウシ	Bos taurus

第 16 表　出土骨貝類同定結果一覧表

No.	遺跡名	区	面	遺構名	遺物番号	種類	部位	左 右	部分	数量		被熱	備考
1	一反田遺跡	5-1	1	SD101	N-010・011	ウマ	下顎骨	左	破損	1			左 P2-M3 植立
								右	連合部	1			
									破片	27+			
2	一反田遺跡	5-1	1	SD101	N-004	ウマ	基節骨（後肢）		ほぼ完存	1			
3	一反田遺跡	5-2	1	SD101	N-023	ウシ	上顎後臼歯	右	破片	1	+		
4	一反田遺跡	5-1	1	SD101	N-013	獣類	不明		破片	1		○	
5	一反田遺跡	5-1	1	SD101	N-015	獣類	四肢骨		破片	1		○	
6	一反田遺跡	5-2	1	SD101	N-032	大型獣類	肋骨		破片	1			切断，全長 44.86
7	一反田遺跡	5-2	1	SD101	N-035	ウマ	脛骨	左	遠位端	1			
8-12	一反田遺跡	5-1	1	SD101	N-006	チリメンカワニナ	殻		破片	5	+		
13	一反田遺跡	3-2	2	第２面包含層	N-024	二枚貝綱	殻		破片	1	+		
14	赤土政所遺跡	2-2	2	SD206	N-040	獣類	不明		破片	1			

注）P：前臼歯　M：後臼歯

骨片（No.５）が確認される。２試料とも白色ないし灰黒色を呈し、表面に微細なひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す。

大型獣類　肋骨の破片（No.７）である。切断されている。全長 44.86mm を測る。

（２）赤土政所遺跡

獣類　種類、部位ともに不明の破片１点（No.14）である。

４　考察

チリメンカワニナは、本州・四国・九州に分布し、流れの緩やかな川や池沼などの砂泥底・泥底に棲息するとされる。溝内に生育していた可能性がある。二枚貝綱は、種類不明であるが、比較的頑丈な殻で、殻皮や真珠光沢を持たないことから、淡水性二枚貝であるイシガイ科とは異なる可能性が高い。食料資源等として持ち込まれた可能性もある。

ウマは、物資やヒトを運ぶ役割、軍用、農耕用など、多様な用途が考えられる。下顎骨、脛骨、後肢基節骨が検出されているが、同一個体かは判断できない。いずれも大きさからみて成獣に達していたと考えられる。この内、第２前臼歯の臼歯高を西中川ほか（1991）の結果に基づくと、下顎骨（No.１）は 14 ～ 15 歳程度となり、比較的高齢馬であったとみられる。また、西中川ほか（1991）、林田・山内（1957）の計算式に基づくと、No.１の下顎骨が体高 125cm 程度、No.２の後肢基節骨が体高 115cm 程度、No.７の左脛骨が体高 110cm 程度となる。いずれもトカラ馬程度の小型馬と推定される。

ウシもウマと同様に物資やヒトを運ぶ役割、軍用、農耕用など、多様な用途が考え

第 17 表　一反田遺跡出土ウマ計測表

番号	部位	計測箇所		計測値（mm）	
No.1	左下顎骨	P2 臼歯高		13.33	
		全臼歯列長	P2-M3	155.40	
		後臼歯列長	M1-3	76.66	
		前臼歯列長	P2-4	78.74	
		下顎枝高	Gov.-Cn.	208	
		下顎枝高	Gov.-Cr.	220	±
		下顎枝長	Cm.-M3al	132	±
		下顎体高（M3）	HM3	84.93	
		下顎体高（M1）	HM1	76.43	
		下顎体高（P2）	HP2	55.41	
No.2	基節骨（後肢）	全長		76.88	
		近位端幅		46	±
		遠位端幅		44	±
No.7	左脛骨	遠位端幅		55	±

られる。ただし、上顎歯牙１点のみの検出であり、詳細不明である。

獣類では、焼骨が２点（№４・５）検出される。食料資源等として利用された後、焼かれたとみられる。また、大型獣類の肋骨片（№６）は、両端が切断される。

引用文献

林田重幸・山内忠平　1957 『馬における骨長より体高の推定法』鹿児島大学農学部学術報告書　6 , 146-156.

紀平　肇・松田征也・内山りゅう　2009 『日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類改訂版』ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ１　株式会社ピーシーズ , 159p.

西中川　駿・本田道輝・松元光春　1991 『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成２年度文部省科学研究費補助金（一般研究Ｂ）研究成果報告書 , 99p.

奥谷喬司・窪寺恒己・黒住耐二・斎藤　寛・佐々木猛智・土田英治・土屋光太郎・長谷川和範・濱谷　巌・速水　格・堀　成夫・松隈明彦　2000 『日本近海産貝類図鑑』奥谷喬司編　東海大学出版会 , 1173p.

奥谷喬司編著　2004 『改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類』株式会社世界文化社 , 399p.

１．チリメンカワニナ殻（No.８～25;SD101）
２．二枚貝類殻（No.13;第2面包含層）
３．獣類不明（No.４;SD101）
４．獣類四肢骨（No.５;SD101）
５．大型獣類肋骨（No.６;SD101）
６．ウマ右下顎骨（No.１;SD101）
７．ウマ左下顎骨（No.１;SD101）
８．ウマ左脛骨（No.７;SD101）
９．ウマ後肢基節骨（No.２;SD101）
10．ウシ右後臼歯（No.３;SD101）

写真 18　一反田遺跡出土骨貝類

第５節　赤土政所遺跡・一反田遺跡の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、赤土政所遺跡・一反田遺跡（静岡県菊川市所在）の発掘調査で出土した炭化物の放射性炭素年代測定を実施し、遺構の年代に関する資料を作成する。

１　試料

試料は、一反田遺跡の 3-1 区第４面包含層（№.１）、SX301（№.２）、SR3202（№.３）より出土した炭化材３点と、3-2・3 区の第３面水田直上の土壌より採取した炭化物１点の、計４点である。

２　分析方法

放射性炭素年代測定は AMS 法で実施する。試料表面の汚れをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。塩酸や水酸化ナトリウムを用いて、試料内部の汚染物質を化学的に除去する（酸―アルカリ―酸処理）。

試料を燃焼させたあと、真空ラインで不純物（水など）を取り除き、CO^2 を精製する。これを鉄で還元してグラファイトを生成する。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径１㎜の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、小型タンデム加速器にて測定する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX- Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に 13C/12C の測定も行うため、この値を用いてδ 13C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68％）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1(Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正は、CALIB REV7.0 のマニュアルにしたがい、１年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差σ、2 σ双方の値を計算する。

第 18 表　出土炭化物の放射性炭素年代測定結果一覧表

№.	遺物番号	遺構名	試料の質	前処理	補正年代	δ 13 C	Code №.
					BP	(‰)	
№.1	N30	第 4 面包含層	炭化材	AAA	1,490 ± 20	-27.15 ± 0.10	PLD-28439
№.2	P0498	SX301 P-28	炭化材	AAA	1,675 ± 20	-27.01 ± 0.15	PLD-28440
№.3	N31	SR3202	炭化材	AAA	1,205 ± 20	-26.05 ± 0.15	PLD-28441
-	N027	第 3 面水田直上	炭化物	AAA	1,515 ± 20	-26.37 ± 0.10	PLD-28442

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。

2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第 19 表　出土炭化物の暦年較正結果一覧表

遺構名	補正年代 (BP)		暦年較正年代												相対比	Code No.
第４面 包含層	1,491 ± 19	σ	cal	AD	560	－	cal	AD	598	cal	BP	1,390	－	1,352	1.000	PLD-28439
		2 σ	cal	AD	542	－	cal	AD	616	cal	BP	1,408	－	1,334	1.000	
SX301 P-28	1,676 ± 19	σ	cal	AD	347	－	cal	AD	370	cal	BP	1,603	－	1,580	0.459	PLD-28440
			cal	AD	377	－	cal	AD	398	cal	BP	1,573	－	1,552	0.541	
		2 σ	cal	AD	333	－	cal	AD	414	cal	BP	1,617	－	1,536	1.000	
SR3202	1,205 ± 19	σ	cal	AD	773	－	cal	AD	779	cal	BP	1,177	－	1,171	0.070	PLD-28441
			cal	AD	789	－	cal	AD	830	cal	BP	1,161	－	1,120	0.539	
			cal	AD	837	－	cal	AD	867	cal	BP	1,113	－	1,083	0.390	
		2 σ	cal	AD	734	－	cal	AD	735	cal	BP	1,216	－	1,215	0.005	
			cal	AD	769	－	cal	AD	886	cal	BP	1,181	－	1,064	0.995	
第３面 水田直上	1,515 ± 19	σ	cal	AD	540	－	cal	AD	580	cal	BP	1,410	－	1,370	1.000	PLD-28442
		2 σ	cal	AD	434	－	cal	AD	455	cal	BP	1,516	－	1,495	0.047	
			cal	AD	469	－	cal	AD	487	cal	BP	1,481	－	1,463	0.054	
			cal	AD	534	－	cal	AD	603	cal	BP	1,416	－	1,347	0.899	

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1 (Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3)1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。

4) 統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2 σは 95% である。

5) 相対比は、σ、2 σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

σは統計的に真の値が 68%の確率で存在する範囲、2 σは真の値が 95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、σ、2 σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は､将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表された値を記す。

３　結果

同位体効果による補正を行った測定結果を第 18 表に、較正暦年代を第 19 表に示す。（補正）年代は、第４面包含層は 1,490 ± 20yrBP、SX301 は 1,675 ± 20yrBP、SR3202 は 1,205 ± 20yrBP、第３面水田直上は 1,515 ± 20yrBP を示す。測定誤差をσの年代でみると、第４面包含層は calAD560-598、SX301 は calAD347-398、SR3202 は calAD773-867、第３面水田直上は calAD540-580 で、SX301 が４世紀半ば～末頃、第３面水田直上は６世紀半ば～後半頃、第４面包含層が６世紀後半～末頃、SR3202 が８世紀後半～９世紀後半頃に相当する。

第６節　赤土政所・一反田遺跡出土木材の樹種同定

鈴木三男（東北大学植物園）

静岡県菊川市赤土所在の赤土政所・一反田遺跡から出土した古代の木製品・木材の樹種を調べた。赤土政所・一反田遺跡は菊川の支流丹野川が形成した標高 10m ほどの沖積平野にあり、現況水田である。赤土政所遺跡と一反田遺跡は同じ遺跡の北西側の部分と南東側の部分で別個に名前が付けられていたが、発掘調査の結果同一遺跡であることが判明したものである。丹野川は本遺跡の北側を西流し、北から流れてくる牛渕川と合流した後、南流し、菊川と合流して遺跡から約 6km 南で太平洋に流れ込む。遺跡の南東 800m ほど、北東 500m ほどのところには標高 50m ほどの緩やかな丘陵がある。木材は溝遺構、掘立柱建物の柱穴等からの出土品である。

１　同定された植物種

１．ウラジロ　Diplopterygium glaucum (Houtt.) Nakai　ウラジロ科：写真 19-1a ～ c（試料番号 13579, 13611）

試料の断面はゆがんだ楕円形で、片側はほぼ平坦である（平坦側が向軸側＝葉の表側）。外周に表面平滑な１層の表皮があり、表皮細胞は下表皮層の細胞と顕著な形態の違いがない。下表皮の組織は、外側は表皮同様に形が小さく細胞壁も厚く、内側に向かって順次細胞径が大きくなり、細胞壁が薄くなっていき、内側の薄壁で径の大きい皮層の基本組織へと移行する。維管束は１本で、U字の両端を内側に巻き込んだ形である。内皮は部分的に壊れ、そこでは維管束が基本組織から分離している。木部は中原型で小～中型の仮道管が両端を巻き込んだU字状に連なり、その内外に篩部がある。以上の形質からシダ類ウラジロ科のウラジロの「葉柄」と同定した。

ウラジロは関東地方以西の暖地の山野に広く生育するシダ植物で、正月飾りに使われるなど、人びとになじみの深い植物である。葉は、葉柄が通直で長さ１ｍほどになり、その先端に大きな一対の羽状の羽片と中央に翌年に延びる芽をもち、数年にわたって毎年１段ずつ上に伸びて葉を展開する。葉は常緑で表は浅緑色、裏は粉白色となることからこの名がある。葉柄は太さ５㎜程度になり、断面が真円でないものの非常に硬く表面は黒紫色で平滑で光沢がある。

ウラジロの葉柄は三島市の鶴喰広田遺跡からも出土しており「漆塗り箸」と思われたが、漆塗りでは無い。当遺跡からも２点出土しているが、長さ８㎝と７㎝で両端に明確な切断痕は認められなかった。しかし、屋外で食事時に箸がない場合、手近にあるウラジロの葉柄を切ってあるいは折り取って箸の代用にすることはしばしばあり、本出土品がそのようなものであった可能性は否定できない。

２．アカマツ　Pinus densiflora Siebold et Zucc.　マツ科：写真 19-2a ～ c（試料番号 15367）

年輪が明瞭な針葉樹材で、水平・垂直両樹脂道を持つ。早材部、晩材部とも幅広く、早材から晩材への移行はやや明瞭である。放射組織は単列と紡錘形があり、柔細胞、放射仮道管、それに水平樹脂道を囲む分泌細胞からなる。放射組織の上下に１～数層の放射仮道管があり、その細胞内壁には顕著な鋸歯状肥厚がある。放射柔組織の水平壁は平滑で薄く、分野壁孔は大型の窓状で１分野に１個ある。以上の形質より、マツ科のマツ属複維管束亜属のアカマツの材と同定した。

アカマツは本州から九州までの低地から山地にかけて広く分布する針葉樹で、遷移の初期に現れる陽樹で、また二次林に特に多い。材は木理通直、肌目は粗く、心材の保存性は良く、特に水湿に強いので、建築材（特に基礎、土台回りなど）、土木用材、器具材などに幅広い用途がある。本遺跡出土材は 23 点で、

杭が 11 点、棒状の木材が６点、板材が３点、礎板、箸状木製品、加工材が１点ずつある。

３．クロマツ　Pinus thunbergii Parl.　マツ科：写真 19-3a ～ c（試料番号 15725）

アカマツによく似た針葉樹材で、垂直、水平の樹脂道を持つ。早材、晩材とも幅広く、早材から晩材への移行はゆるやかである。放射組織は単列と紡錘形があり、後者に水平樹脂道がある。単列放射組織は放射柔細胞と放射仮道管からなり、分野壁孔は大型の窓状である。放射仮道管の内壁は比較的厚く肥厚するが滑らかで著しい歯牙状とはならないことでアカマツから区別される。これらの形質からマツ属複維管束亜属のクロマツの材と同定した。

クロマツは北海道を除く全国の主に海岸部に自生あるいは植栽される常緑針葉樹で、幹径１m、樹高 30 m以上になる。近世になり全国の砂浜海岸に防風・防砂林として植えられたことから天然分布との区別が難しい。材はアカマツ同様だが樹脂分がそれより多い。本遺跡出土材はアカマツとほぼ同数の 22 点で、杭が 12 点、礎板が６点などでアカマツと同様の使われ方をしている。

３’．マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. Diploxylon　マツ科

アカマツとクロマツの区別点は放射仮道管の内壁の歯牙状肥厚の顕著さの違いであるが、材の保存が悪く、細胞壁が劣化するとこの歯牙状突起は失われてしまうため、区別が困難となる。一方、ヒメコマツなど、マツ属の単維管束亜属とは早晩材の幅や放射仮道管内壁が肥厚しないなどで区別される。したがって、アカマツかクロマツのいずれかではあるが保存不良のため区別できなかったものを「マツ属複維管束亜属」とした。

本遺跡出土材は 40 点で、うち杭（杭？含む）が 25 点、礎板が８点などでアカマツ、クロマツと同様であり、当遺跡ではアカマツ、クロマツ材を区別しないで利用していたと思われる。

４．ツガ属　Tsuga　マツ科：写真 20-4a ～ c（試料番号 15589）

年輪が明瞭な針葉樹材で、早材から晩材への移行は非常にはっきりしている。垂直、水平の樹脂道をともに欠き、時として傷害樹脂道が現れる。放射組織は単列で、柔組織からなる本体部分の上下の縁に０～２細胞層の放射仮道管がある。放射仮道管は接線面で非常に小さな幅の狭い三角形に見える。柔細胞の垂直、水平壁は厚く肥厚し、多数の単壁孔があるモミ型壁孔となる。これらの形質からツガ属の材と同定した。

ツガ属には関東以西の本州、四国、九州の暖帯上部から温帯下部にかけて広く分布するツガ Tsuga sieboldii Carr. と、本州中部の亜高山帯に分布するコメツガ Tsuga diversifolia (Maxim.) Masters があり、静岡県内では山地帯にツガが、亜高山帯にはコメツガが生えている。両者の材構造は酷似しており、区別は困難である。

ツガは幹径 80 ㎝、樹高 30 mくらいの大高木になり、材は木理通直で重硬、保存性は中位である。建築材、箱ものなどの各種器具材等に用いる。当遺跡出土材は礎板２点と用途不明品の板材 12 点である。

５．イヌマキ属　Podocarpus　マキ科：写真 20-5a ～ c（試料番号 14423）

材が均質で年輪界が全く目立たない針葉樹材で、晩材部は年輪界附近の数細胞しかなく、早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は横断面で扁平な四角形で量が多く、年輪内全体に均一に散在するが、スギ科やヒノキ科のもののように黒褐色の樹脂様物質が蓄積されることはないので、横断面では見つけにくい。また樹脂細胞の水平壁はイヌガヤと違い、薄く平滑で、数珠状に肥厚することはない。放射組織は背の低い単列で、柔細胞のみから成り、分野壁孔は、小型のヒノキからトウヒ型、１分野あたり１～２個存在する。以上の形質から、マキ科のイヌマキ属の材と同定した。

イヌマキ属には関東地方南部以南の沿岸部の温暖地に生育するイヌマキ Podocarpus macrophyllus (Thunb.) Lambert と、紀伊半島南部より南西に分布するナギ Podocarpus nagi (Thunb.) Zoll. et Moritzi の２種があり、静岡県地方では後者もしばしば植栽されているが、その自然分布から本遺跡出

土材はイヌマキと考えられる。イヌマキの材は年輪が不明瞭で木理通直、硬く緻密で粘りがあり特に水湿に強く、また、シロアリにも強い。

本遺跡出土材は 72 点と、針葉樹ではスギ、ヒノキに次いで多い。杭（杭？含む）が 22 点あり、礎板が４点のほか柱材など４点がある。また用途が分からない材片や、棒などが 39 点あり、他に下駄、網代台（？）、折敷などもある。

６．ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Siebold et Zucc.　ヒノキ科：写真 20-6a ～ c（試料番号 15370）

水平･垂直の両樹脂道を持たない針葉樹材で、早材から晩材への移行は比較的急で年輪界は明瞭だが、晩材部の量が少ないので年輪そのものは目立たない。樹脂細胞が早材部から晩材部にかけて接線方向に緩く集まって散在し、その水平壁は数珠状に肥厚する。放射組織は単列で、放射柔組織のみからなり、分野壁孔は中型のヒノキ～トウヒ型で、１分野に１～２個ある。これらの形質から、ヒノキ科ヒノキ属のヒノキと同定した。

ヒノキは関東地方北部から九州屋久島までの温帯域に広く分布するが､特に中部地方の山地帯に多い。材質が優れ､古代の幾内地方を中心に大型建築物の建築材や建具､各種器具材､細工物､木簡や形代､斎串､曲物など、広く用いられてきている。本遺跡出土材は 76 点あり、曲物の側板、底、蓋板などが 17 点、斎串（斎串？含む）が 10 点のほか、人形、鳥形などの祭祀具が８点（合計 18 点）、馬鍬の部品と桙が１点ずつ、用途不明品の板材などが 29 点、その他、礎板、杭などである。

７．サワラ　Chamaecyparis pisifera Siebold et Zucc.　ヒノキ科：写真 21-7a ～ c（試料番号 13613）

ヒノキよく似た針葉樹材で、水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は少ないがヒノキより年輪界が目立つ。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。分野壁孔は中型のヒノキ型～スギ型で、１分野当たり普通２個存在し、ヒノキよりもやや孔口が大きく、開口部の長軸は水平に近くなる。以上の形質からヒノキ属のサワラの材と同定した。

サワラは本州中部の山地帯上部に分布するが長野県を除いては資源量は多くない。材は木理通直で割裂性良く､ヒノキより軽軟で切削加工は容易であるが､光沢､香りはない。水湿に強いので桶類に､また､香りがないので飯櫃や箸に用いられる。ヒノキに比べ材質は劣り、ヒノキの代用とされるほか、スギ同様の用途がある。本遺跡出土材は曲物底板２点、足付きの台の部材２点、方形の容器の部材１点、それに杭と柱根１点、合計７点である。

７’．ヒノキ属　Chamaecyparis　ヒノキ科

基本構造はヒノキ、サワラと同様だが保存が悪く、細胞壁が劣化していて分野壁孔での区別が十分に出来なかったもので、ヒノキかサワラのいずれかである。出土材は曲物、斎串、礎板の３点でヒノキ、サワラと同じ用途である。

８．スギ　Cryptomeria japonica（Linn.f.）D.Don　ヒノキ科：写真 21-8a ～ c（試料番号 13496）

水平・垂直の両樹脂道を持たない針葉樹材で、早材から晩材への移行はゆるやかなものからかなり急なものまでの変異があり、特に年輪幅が狭いものでは急、広いものでは緩やかとなる。樹脂細胞は晩材部に接線方向にややまとまりながら散在している。樹脂細胞の水平壁はやや厚くなり、微小な単壁孔があるが、通常は平滑で、数珠状に肥厚することはあまりない。放射組織は単列で放射柔細胞のみからなる。放射柔細胞の水平壁、垂直壁は平滑で壁孔は見られない。分野壁孔は大型のスギ型で１分野あたり通常２個あり、開孔部の長軸は水平に近い方向になる。以上の形質より、ヒノキ科スギ属のスギの材と同定した。

スギは日本特産の針葉樹で、青森県南部から九州屋久島まで広く分布し、特に本州日本海側と東海地方に多い。成長が早く、幹径１ｍ、樹高 30 ｍを超える大木になる。材は木理通直、軽軟で肌目は粗である。割裂自在で切削加工性が良い。大材が得易く、建築材を始め、各種器具材に縄文時代以来、北陸、東海地方でよく利用されてきている。当遺跡出土材は 79 点で、杭、礎板などの建築・土木材に 14 点、曲物・容器に 10 点、箸が１点、斎串などに９点、それに用途が分からない板材や棒などが 42 点ある。用途として一部ヒノキ、サワラと重なるが建築、土木やさまざまな部材に重点がある利用である。

９．アスナロ　Thujopsis dolabrata (Lin. Fil.) Siebold et Zucc.　ヒノキ科：写真 21-9a ～ c（試料番号 15910）

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材で、早材から晩材への移行はやや急、晩材部はヒノキよりは多く、スギよりは少ない傾向にあり、幅の狭い年輪ではヒノキ同様晩材部は少ない。早材部仮道管はヒノキ、サワラより細い。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。放射組織は柔細胞のみから成り、分野壁孔はヒノキ、サワラより小さく、ヒノキ型～トウヒ型で、１分野当たり２～４個ある。以上の形質からヒノキ科のアスナロの材と同定した。

アスナロは日本特産の樹種で、基準変種の狭義のアスナロ Thujopsis dolabrata var. dolabrata と変種のヒノキアスナロ Thujopsis dolabrata var. hondai Makino がある。いずれも樹高 30 ｍ、幹径 80 ㎝になる高木で、狭義のアスナロは東北南部以南の本州、四国、九州に分布し、静岡県の山岳地にも分布する。変種のヒノキアスナロは道南から東北地方、佐渡、能登半島に分布し、静岡県には無い。アスナロの材は木理通直で肌目は精、やや軽軟で割裂容易、芳香をもち、加工性は良く、仕上がりは美しい。特に水湿に強い。建築材の骨格部分のみならず装飾的部分、各種器具材、特に桶など水回りに使うものに特用され、土木用材としても重要である。当遺跡出土材は杭の２点と用途不明品の木材１点である。

９’．ヒノキ科　Cuppressaceae

年輪の明瞭な針葉樹材で、樹脂細胞が晩材部付近に散在し、樹脂細胞は黒褐色の物質で充填され、水平壁が結節状になることからヒノキ科であることは分かるが、保存が悪く分野壁孔等、詳細な形質が十分観察できないため、ヒノキ科のいずれの樹種であるかが不明なものである。当遺跡出土材は斎串？が１点である。

９’’．ヒノキ科樹皮　Bark of Cuppresaceae

断面矩形の繊維細胞が１細胞の厚さで接線方向に間断なく長く連なり、繊維細胞層と繊維細胞層の間には黒褐色の物質を持つ細胞層と細胞内容物を持たない細胞層が潰れてある。前者は柔細胞、後者は篩細胞にそれぞれ該当し、断片的に観察されるそれらの遺存状況から、繊維細胞層−篩細胞層−柔細胞層−篩細胞層−繊維細胞層の繰り返しで組織が成り立っていることが認められる。このような形質から出土資料はヒノキ科の樹皮であると同定した。

材ではヒノキ科としてヒノキ、サワラ、スギ、アスナロの４種が同定されているが、これら４種とも樹皮の構造は出土資料に一致し、種の識別は出来ないことからヒノキ科の樹皮とした。出土資料は「板材」とされるもの１点で、これは樹皮付きの材から樹皮部分が剥がれたものと思われる。

10．イヌガヤ　Cephalotaxus harringtonia (Knight) K.Koch.　イヌガヤ科：写真 22-10a ～ c（試料番号 15863）

イヌマキ同様に保存性がたいへん良い針葉樹材で、年輪は極めて不明瞭、晩材と認められる部分はほんのわずかである。年輪内に樹脂細胞が多く散在するが細胞内容物が黒褐色になることはなく、またイヌマキのように扁平な四角形とはならないので横断面では全く目立たない。樹脂細胞の水平壁は数珠状に肥厚する。仮道管内壁には顕著ならせん肥厚があるが、本出土材では細胞壁の劣化が激しく、明瞭に

らせん肥厚が見えない。分野壁孔は小型のトウヒ型であるが劣化した部分ではスギ型にも見え、一分野あたり 1-2 個ある。以上の形質から、イヌガヤ科のイヌガヤの材と同定した。

イヌガヤは本州から九州の暖温帯に分布する小高木で、変種のハイイヌガヤ Cephalotaxus harringtonia var. nana (Nakai) Rheder が本州日本海側から北海道の多雪地帯に分布する。いずれも材質が硬く粘りがあるので縄文時代から古代にかけて全国的に丸木弓に多用されるとともに杓子、匙などの木器にも用いられる。本遺跡出土材は用途不明品の板材、材片が４点である。

11. モクレン属　Magnolia　モクレン科：写真 22-11a ～ c（試料番号 15267）

薄壁多角形～楕円形の小道管が単独あるいは放射方向に２～４個複合して均一に分布する散孔材で、年輪界付近で道管径はやや小さくなるが年輪内での道管径の変動はほとんどない。道管の穿孔は単一、側壁の壁孔は階段状、らせん肥厚はない。放射組織は２～３細胞幅で接線断面ではスマートな紡錘形をしており、同性である。以上の形質からモクレン属の材と同定した。

モクレン属には全国の冷温帯から暖温帯上部にかけて広く分布するホオノキ Magnolia obovata Thunb.、それよりもやや標高の低いところに多いコブシ Magnolia kobus DC.、コブシよりもやや標高が高く、また日本海側の多雪地帯に多いタムシバ Magnolia salicifolia (Siebold et Zucc.) Maxim. などが分布する。静岡県の山地にはホオノキが普通にあるが、コブシはやや希である。ホオノキは幹径 50 ㎝、樹高 20 ｍを超える落葉高木で、幹が通直である。材は軽軟緻密で木理通直、肌目は精で早晩材の差が少なくて年輪が目立たず、切削加工容易な良質の材である。建築、各種器具材に用いられるが、下駄、版木、小細工ものの特用がある。当遺跡出土材は用途不明品の板材１点である。

12. クスノキ　Cinnamomum camphora (L.) Siebold et Zucc.　クスノキ科：写真 22-12a ～ c（試料番号 15661）

丸くやや厚壁の中型の道管が単独あるいは２個放射方向に複合して比較的まばらに均一に分布する散孔材で、年輪始めに大型の道管が並び、年輪界に向けて道管径が小さくなる傾向がある。道管の穿孔は単一、希に横棒の少ない階段状が混じり、側壁の壁孔は小孔紋で交互状、道管内にはチローシスが発達し、横断面でもよく見える。柔組織は周囲状でときどき大型の油細胞が混じり、径が大きいので横断面で道管のように見えることがある。放射組織は２～３細胞幅の異性、背が低く、接線断面の形状は紡錘状であり、直立細胞に大きく膨らんだ油細胞が混じる。遺跡出土材でも芳香を保持している。以上の形質からクスノキ科のクスノキの材と同定した。

クスノキは関東南部以南の暖帯に生育する常緑高木で、社寺、公園、屋敷林に良く植えられるので、天然分布の範囲は分からなくなっている。成長が早く、幹径１ｍ、樹高 20 ｍを超える大木となる。社寺等には直径２ｍを越える大木がありしばしば天然記念物等に指定される。材は堅硬で耐久力、保存性にすぐれ、光沢があって芳香を持ち、建築材、和洋家具、箱物、木魚などの各種器具材に良く用いられる。

本遺跡出土材は礎板と思われる板材が８点、用途不明品の木材が２点である。クスノキの礎板への利用はそのすぐれた耐湿性から材質に合った利用といえる。

13. クスノキ科Ａ　Lauraceae　A：写真 23-13a ～ c（試料番号 15458）

丸く壁がやや厚い小道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合してまばらに均一に分布する散孔材で、年輪界は目立たない。道管の穿孔は単一あるいは横棒が 10 本以下の階段状で、道管側壁の壁孔は大振りの小孔紋で交互状に配列し、道管内壁には微細ならせん肥厚がある。柔組織は周囲状でときどきやや大型になって精油を含んだ油細胞が混じる。放射組織は背が低く、２～３細胞幅の紡錘形で、異性、上下端にある直立細胞に膨らんだ油細胞が混じる。以上の形質からクスノキ科のクスノキ以外の材と同定した。

クスノキ科には多くの属、種があるがクスノキ以外の材の基本構造は共通で互いによく似ている。

静岡県に分布するクスノキ科の常緑高木にはヤブニッケイ Cinnamomum japonicum Siebold ex Nakai、タブノキ Machilus thunbergii Siebold et Zucc.、アオガシ（ホソバタブ）Machilus japonica Siebold et Zucc.、シロダモ Neolitsea sericea (Blume) Koidz.、イヌガシ Neolitsea aciculate (Blume) Koidz.、バリバリノキ Actinodaphne longifolia (Blume) Nakai、カゴノキ Actinodaphne lancifolia (Siebold et Zucc.) Meisn.、落葉高木にはカナクギノキ Lindera erythrocarpa Makino、落葉低木にはクロモジ Lindera umbellate Thunb.、アブラチャン Lindera praecox (Siebold et Zucc.) Blume、シロモジ Lindera triloba (Siebold et Zucc.) Blume、ヤマコウバシ Lindera glauca (Siebold et Zucc.) Blume、ダンコウバイ Lindera obtusiloba Blume などがある。

これらは種によって道管の太さや油細胞の出現頻度にわずかな違いがある。道管の接線径の最大が 90-110 μｍ程度の樹種にカナクギノキ、タブノキ、バリバリノキ、ヤブニッケイなどがあり、80 μｍ前後の種にカゴノキ、シロダモが、70 μｍ以下の樹種には落葉性のクロモジ、シロモジ、アブラチャン、ダンコウバイなどがある。これらの道管径と出土材の道管径を比べると出土材では接線径が 70 μｍ以下というものは無いことから出土材は全て常緑樹であると考えられる。

さらに接線径が 100 μｍ以下のものと 100 μｍ以上のものとの間にはどうもギャップがあるように思えることから 100 μｍ以下のものを「クスノキ科Ａ」、以上のものを「クスノキ科Ｂ」として区別してみた。一方、油細胞の出現頻度はクスノキ科の中でクスノキでは非常に多いのに対し、他の樹種では一般のそれほど多くはないが、同じ種でも個体による変動差が大きいものの、カゴノキのようにかなり高頻度なものもあるのに対し、アオモジのように非常に頻度の低いものもある。そこで、道管径はＡとＢの中間くらいで、油細胞の頻度が非常に多い 15664 の試料を「クスノキ科Ｃ」として区別した。これがある特定の樹種に相当するのか、あるいは種内変異の例なのかは不明である。

クスノキ科Ａにはヤブニッケイ、シロダモ、イヌガシなどが該当するのではないかと考えている。いずれも照葉樹林を特徴づける常緑高木～小高木で、精油成分を持つので芳香があり、保存性はよいがクスノキほどではない。建築材（床柱）、器具材、細工物などに使われることがあるがあまり重要なものではない。本遺跡出土材は杭が２点、礎板が１点、用途不明品の木材が２点である。

14. クスノキ科Ｂ　Lauraceae　B：写真 23-14a ～ c（試料番号 15679）

上述のごとく、これにはタブノキ、カナクギノキ、バリバリノキなどが該当するのではないかと考えている。いずれも常緑の高木で、タブノキは照葉樹林を代表する樹木であり、海岸部に多い。タブノキは建築材、家具、器具材、細工物などに使われる。本遺跡出土材は梯子が１点と用途不明品の木材が７点である。

15. クスノキ科Ｃ　Lauraceae　C：写真 23-15a ～ c（試料番号 15664）

上述のごとく、バリバリノキが相当するのではないかと考えている。バリバリノキは建築材、家具、器具材、土木用材などに使われる。本遺跡出土材は杭（？）１点である。

16. アワブキ　Meliosma myriantha Siebold et Zucc.　アワブキ科：写真 24-16a ～ c（試料番号 15628）

楕円形～多角形の小道管が単独あるいは放射方向に数個複合して密度低く均一に分布する散孔材で、随伴状木部柔組織が目に付く。道管の穿孔は多くは単一で横棒が 10 本以下の階段状が混じる。放射組織は１～３細胞幅の異性で、非常に背が高く、構成細胞は大振りで、全体として粗雑である。これらの形質からアワブキ科のアワブキの材と同定した。アワブキ属には落葉小高木のアワブキ、常緑小高木のヤマビワ Meliosma rigida Siebold et Zucc. があり、出土材は階段状穿孔が少ないことなどからアワブキであると判断した。

アワブキは本州～九州の暖帯～温帯に自生する落葉小高木で幹径 30cm、樹高 10m ほどになる。材は

やや重くて肌目は粗く、小細工ものや薪炭材にしかならない。本遺跡出土材は杭１点である。

17・ユズリハ属　Daphniphyllum　ユズリハ科：写真 24-17a ～ c（試料番号 13915）

薄壁多角形の微細な道管が単独あるいは２個放射方向に複合して均一に分布する散孔材で、年輪界附近で道管径が小さくなるが、年輪界は全く目立たない。道管の穿孔は横棒の数が 20 本ほどの階段状。放射組織は１～２細胞幅で異性、単列部は直立細胞と方形細胞から、多列部は平伏細胞で構成される。これらの形質からユズリハ科のユズリハ属の材と同定した。

ユズリハ属には関東地方以南の暖地に多い常緑高木のユズリハ Daphniphyllum macropodum Miq. とその亜種で本州日本海側から北海道にかけて分布する常緑低木のエゾユズリハ Daphniphyllum macropodum subsp. humile（Maxim. ex Franch. et Sav.）Hurus.、暖帯の海岸林に多いヒメユズリハ Daphniphyllum teijsmanii Zoll. ex Kurz. があり、ユズリハは幹径 50 ㎝、樹高 15 ｍほどになり、しばしば屋敷、庭などに植えられ、その葉は正月飾りに使われる。材は柔らかく、器具材、薪炭材などの用途しかない。本遺跡出土材は扉の材１点と用途不明品の加工材２点である。

18. ゴンズイ　Euscaphis japonica（Thunb.）Kanitz.　ミツバウツギ科：写真 -18a ～ c（試料番号 15310）

やや小型で楕円形の道管がほぼ単独でやや疎らに均一に散在する散孔材で年輪界は全く目立たない。道管の穿孔は 20 ～ 30 本ほどの横棒のある階段状。放射組織は上下端の１～ 10 細胞高の単列の翼部を持つ異性で多列部は平伏細胞からなり、10 細胞幅くらいと非常に大きい。これらの形質からミツバウツギ科のゴンズイの材と同定した。

ゴンズイは樹高８ｍ、幹径 15 ㎝ほどになる落葉小高木で、関東地方以西の暖地の山野に生え、二次林に多い。材はやや重く割裂困難で、これといった用途はない。本遺跡出土材は杭１点である。

19. フジ　Wisteria floribunda（Willd.）DC.　マメ科：写真 25-19a ～ c（試料番号 15621）

歪んだ大型の道管がほぼ１層、年輪の始めにあり、晩材部では薄壁多角形の小道管が多数集まった塊となっている環孔材で、年輪幅の広い部分では中型の道管が数個複合してある。道管の穿孔は単一、木部柔組織と小道管は層階状に配列する傾向を持つ。放射組織は幅が 10 細胞以上になって背が非常に高く、鞘状となる。これらの形質からマメ科のフジ属の材であることがわかる。

フジ属には本州～九州に広く分布するフジ（ノダフジ）と近畿地方～九州に分布するヤマフジ Wisteria brachybotrys Siebold et Zucc. があるが両者の材構造は酷似しており区別は付かない。ただ、分布域の違いから本遺跡出土材はフジであると考えた。フジの材は材内篩部を持ち、異常な肥大成長をすることから耐朽性等に劣り、木材としての用途は特にない。本遺跡出土材は杭？とされるもの１点で、杭ではなく、自然木であろう。

20. モモ　Amygdalus persica L.　バラ科：写真 25-20a ～ c（試料番号 13605）

年輪始めに中型の丸い道管が１～３層に並び、その外には小さい丸い道管が単独あるいは数個が様々な方向に複合したものが比較的密に均一に分布する半環孔材である。道管の穿孔は単一、内壁にらせん肥厚がある。放射組織は異性で、幅１～５細胞くらいで背は比較的高くて大型となり、接線面では比較的綺麗な紡錘形となる。これらの形質からバラ科のモモの材と同定した。ウメ、スモモもよく似るが年輪はじめの大きい道管のサイズがモモでは大きいこと等で区別される。

モモは中国原産の果樹で幹径 20 ㎝、樹高 10 ｍほどになる。もっぱら果樹として利用されているため木材の性質、用途に関する情報はほとんどない。モモの核は縄文時代前期（長崎県伊木力遺跡）以降知られていて、弥生時代以降では多くの遺跡から出土している。当遺跡出土材は用途不明の木材１点である。

21. ヤマザクラ　Cerasus jamasakura（Siebold ex Koidz.）H.Ohba　バラ科：写真 25-21a ～ c（試

料番号 15398)

丸い小道管が単独あるいは数個が様々な方向、主に放射方向に複合して均一に分布する散孔材で、道管の密度は高い。道管の穿孔は単一、内壁にらせん肥厚を持つ。またしばしば茶褐色の物質が道管内にある。放射組織は１～４細胞幅で同性に近い異性、接線断面で比較的綺麗な紡錘形となる。これらの形質からバラ科サクラ属のヤマザクラの材と同定した。

ヤマザクラは東北地方南部以南九州屋久島までの暖帯～温帯に分布する落葉広葉樹で、幹径 60 ㎝、樹高 20 ｍほどになる。芯材が赤褐色を帯びる散孔材で、やや緻密、堅硬で割裂容易で加工性良く、保存性も高くて光沢がある。建築物の内装部分、洋家具、机、椅子、仏壇、橋、杓子、漆器木地、盆、楽器、彫刻、下駄など実に多様な用途がある。また樹皮は「樺細工」に用いられる。

本遺跡出土材は用途不明品の木材１点である。

22. サクラ属　Cerasus　バラ科：写真 26-22a ～ c（試料番号 15359）

丸い小道管が単独あるいは主に放射方向に数個複合して密度高く様々な模様となって均一に分布する散孔材で、道管の穿孔は単一、側壁の壁孔は大振りの小孔紋で交互状、内壁にらせん肥厚がある。木部柔組織は散在状で、放射組織は１～５細胞幅くらいの同性にやや近い異性、その構成細胞は大振りである。これらの形質からバラ科のヤマザクラを除くサクラ属の材と同定した。道管径はヤマザクラより小さい。

我が国にはサクラ属の樹種は多くあり、静岡県地方には落葉高木のヤマザクラ、カスミザクラ Cerasus leveilleana (Koehne) H.Ohba、オオシマザクラ Cerasus speciosa (Koidz.) H.Ohba、落葉低木のマメザクラ Prunus incise Thunb. などがあるが、ヤマザクラを除いては種を識別する特徴的な形質が見られないので、種の特定は困難である。材質はヤマザクラと同様で、本遺跡出土材は用途不明の棒状木製品１点である。

23. サクラ属樹皮　Bark of Cerasus　バラ科：写真 26-23a ～ c（試料番号 15823）

出土資料はいわゆる樹皮が巻き込んだもので、このようなものは自然状態では作られることはないので、人為により切り取られた樹皮を目的に使用するために素材として用意しておいたものと認めることができる。巻き込んだ樹皮の長軸方向に対する横断面（樹木の立木状態では幹の長軸方向に直角で木材では放射断面に当たる）では年輪のような成長輪のある層構造をしている。構成細胞は全て潰れているが、断面は長方形であったと推定され、大きさ、壁の厚さがほとんど同じくらいの一種類の細胞で出来ている。細胞の内容物はない。また、針葉樹の放射組織に当たるものもない。板目面で見るとこの細胞は紡錘形をしており、木口面では細長い短冊形をしている。これらのことから、これは広葉樹の樹皮の外樹皮（コルク層）であることが分かる。

広葉樹ではどの樹木も多かれ少なかれ内樹皮の外層にコルク形成層ができて、それがその外側にコルク層を形成するが、多くの樹種ではコルク形成層が活動して少量のコルク層を形成するうちに、樹皮のさらに内側に新たなコルク形成層をつくり、それが新たなコルク層を形成するので最初のコルク形成層は死滅するということを不規則におこなうので、コルク層が規則正しく蓄積することはない。それに対してサクラ属やカバノキ属ではコルク形成層は１層しか作られず、それが永年に渡り活動を続けるので層構造をした厚いコルク層ができる。本出土資料はまさにそういったものである。さらに、カバノキ属ではあたかも針葉樹のカラマツ属やツガ属の木材のように、コルク層の成長輪の始めには直径が大きくて薄壁の細胞をつくり、成長輪の後半部分では厚壁で直径の小さい細胞を作るので、成長輪がはっきりし、また成長輪の始めの部分の薄壁の細胞が壊れやすく、しばしばそこが壊れて薄膜状に剥がれる。サクラ属ではそれに対して成長輪の始めと後半との直径及び壁孔の差がほとんどなく、あたかもイヌガヤやイヌマキなどの木材の年輪のように、成長輪は目立たず、また、組織が壊れて薄片として剥がれるこ

とも無い。本出土資料は正に後者に該当することから、サクラ属の樹皮（コルク層）と同定した。

縄文時代の「飾り弓」や古代の曲物、組み物などでいわゆる「樺皮」が巻かれたり、綴じ紐に使われる例が多くある。これらの素材については肉眼的観察から「桜皮」、「樺皮」と称せられ、その素材植物を、科学的根拠を以て示した例はほとんど皆無であった。今回、資料の組織切片を作成して観察検討した結果、それがサクラ属の樹皮（コルク層）であることを特定することができた。サクラ属には多数の種があるが、静岡県ではほぼ全域にヤマザクラとカスミザクラ、伊豆地方にオオシマザクラ等があり、これらはいずれも桜皮細工に利用が可能である。本遺跡出土資料は樹皮素材１点で、上に述べたように、自然にこのようなものができることはなく、人為によりコルク層を剥がし取ったものである。

24. ビワ　Eriobotrya japonica（Thunb.）Lindl.　バラ科：写真 26-24a ～ c（試料番号 15604）

やや角張った丸い微細な道管が単独で均一に分布する散孔材で、年輪界は目立たない。道管の穿孔は単一。木部柔組織は散在状で量は比較的多い。放射組織は１～３細胞幅で背は低く、上下の１～２細胞が方形～直立細胞になる同性に近い異性である。これらの形質からバラ科のビワの材と同定した。

ビワはいつの時代にか中国から渡来したと思われる果樹で、関東以西で良く栽培され、また西日本の各地で野生化している。大型の葉を持つ常緑小高木で幹径 15 ㎝、樹高８ｍくらいになる。材は硬く粘りがあるが果樹なので木材としての用途は知られていない。本遺跡出土材は杭１点である。

25. ケヤキ　Zelkova serrata Thunb.　ニレ科：写真 27-25a ～ c（試料番号 13610）

丸～歪んだ楕円形の大道管が年輪はじめに１層に並び、孔圏外では薄壁多角形の小道管が多数集まって塊状～波状の紋をなす環孔材で、道管の穿孔は単一、道管相互の壁孔は小孔紋で交互状、小道管内壁には顕著ならせん肥厚がある。放射組織は１～６細胞幅ほどで背はあまり高くなく、上下辺にしばしば大型の結晶細胞をもつ。これらの形質からニレ科のケヤキの材と同定した。

ケヤキは本州全域、四国、九州の平地～山地帯に広く分布する落葉高木で、社寺、屋敷林等にしばしば植栽され、成長が早く、時に幹径３ｍ、樹高 30 ｍ以上の巨木となる。材は肌目やや粗で堅硬、強靭、弾力があり、加工性良く、時に美しい杢が出る。大型建築物の構造材、彫刻材、漆器木地等の特用の他、家具、器具などあらゆる用途がある。本遺跡出土材は漆椀、挽物の皿、田舟、用途不明の木材の４点である。

26：エノキ属　Celtis　アサ科：写真 27-26a ～ c（試料番号 13621）

年輪始めに丸～歪んだ楕円の大道管が１～数層に並び、そこから順次径を減じて晩材部では薄壁多角形の小道管が集まって接線方向に長い塊をつくり、全体として波状の紋をなす環孔材で、道管の穿孔は単一、道管相互の壁孔は小孔紋で交互状、小道管内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は３～ 10 細胞幅の大型の紡錘形で鞘細胞を持ち、異性である。これらの形質からニレ科のエノキ属の材と同定した。

エノキ属には東北地方南部以南の暖帯に広く分布し、特に二次林や屋敷林に多いエノキ Celtis sinensis Pers. var. japonica Nakai と、それより冷涼な北海道から九州にかけての温帯に多いエゾエノキ Celtis jessoensis Koidz. があり、両者の材構造での区別は困難であるが、その分布域の違いと普遍性から本遺跡出土材はエノキである可能性が高い。エノキは成長が早く、時には幹径２ｍ、樹高 30 ｍの大木となり、材は比較的堅硬で柔曲性に富むが割裂困難で、保存性は低い。建築材、ラケットなどの器具材、農工具の柄などの用途がある。本遺跡出土材は背負子と思われるもの、杭、用途不明品の木材の３点である。

27. イヌビワ　Ficus erecta Thunb.　クワ科：写真 -27a ～ c（試料番号 15581）

丸い小形の道管が単独あるいは２～４個が主に放射方向に複合したものが密度低く均一に分布する散孔材で、５～ 10 細胞ほどからなる帯状の木部柔組織と木部繊維の帯が交互にあって同心円状の縞模様を作っている。道管の穿孔は単一、道管相互の壁孔は小孔紋状で交互状である。放射組織は１～５細胞

幅で上下端の１・２層の細胞が方形～直立細胞となる同性に近い異性で、接線断面での輪郭はやや不整である。これらの形質からクワ科のイヌビワの材と同定した。

イヌビワ属は亜熱帯、熱帯に多い樹木で、九州南部から沖縄には多数の種があるが東海地方にはイヌビワ１種のみがある。イヌビワは関東地方以西の暖地に生える落葉低木～小高木で幹径 15 ㎝、樹高８ｍほどになる。佐賀県の東名遺跡から出土した縄文時代早期の編み籠にはイヌビワのへぎ材が大量に使われていたが、これ以外、この木材の利用は余り知られていない。本遺跡出土材は杭１点である。

28. ヤマグワ　Morus bombycis Koidz.　クワ科：写真 28-28a ～ c（試料番号 14026）

年輪始めに大きな楕円形の道管が１～３層に並び、順次径を減じて、晩材部では薄壁多角形の小道管が集まって塊となったものが斜め接線方向に連なる傾向を以て散在する環孔材で、道管の穿孔は単一、側壁の壁孔は多少大きめの小孔紋で交互状、小道管の内壁には顕著ならせん肥厚がある。また、道管内にはしばしばチローシスが発達する。木部柔組織は周囲状だが余り目立たない。放射組織は 3-7 細胞幅の紡錘形で、単列の翼部が発達し、異性である。以上の形質から、クワ科のヤマグワの材と同定した。

ヤマグワは広く全国の山野に分布する落葉高木で幹径 40 ㎝、樹高 15 ｍくらいになり、特に沢沿いに多い。材はやや堅硬で靭性にとみ、木理は粗いが光沢があって美しく、特に保存性に優れている。和風建築の内装材や家具材、強さを必要とする各種器具材、彫刻材などに用いる。当遺跡出土材は横槌、編錘、用途不明の木材の３点である。

29. クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科：写真 28-29a ～ c（試料番号 14030）

年輪のはじめに円～卵形の大道管が１～３層に並び、そこから順次径を減じ、晩材部では薄壁多角形の小道管が周囲状仮道管や木部柔組織と共に集まって火炎状の紋をなす環孔材である。道管の穿孔は単一、側壁の壁孔はやや大振りの小孔紋で交互状にやや隙間を開けて配列する。らせん肥厚はない。木部柔組織は周囲状及び単細胞幅の独立帯状で、晩材部で目立つ。放射組織は単列同性で背は低い。道管－放射組織間壁孔は不定形の楕円形で大振り、柵状にきちんと並ぶことはない。これらの形質からブナ科のクリの材と同定した。

クリは北海道石狩低地周辺から九州鹿児島県までの温帯から暖帯に広く分布する落葉高木で、成長が早く、幹径１ｍ以上、樹高 30 ｍほどとなる。材質は堅く、割裂が容易で心材は耐久力強く水湿に特に強い。大材が得られるので大型建造物から一般の家屋の大黒柱や土台回り、屋根葺き材（くれこば）などに用いられるほか、家具、農具などさまざまな部分に用いられ、また水湿に強いことから土木用材や鉄道枕木などの特用があった。本遺跡出土材中最も多い 129 点が出土しており、柱及び柱根（柱根？を含む）が 36 点、礎板（礎板？も含む）が 16 点、用途不明品の加工材が 53 点などとなっており、建築・土木用材の中心的な樹種であることが分かる。

30. ツブラジイ　Castanopsis cuspidata（Thunb.）Schottky　ブナ科：写真 28-30a ～ c（試料番号 14024）

クリより一回りほど小さい円～楕円形の大道管が年輪始めに間隔を空けて１～３層に並び、順次、あるいはしばしば急激に径を減じ、晩材部ではクリ同様薄壁多角形の小道管、周囲状仮道管、木部柔組織が集まって火炎状となる放射孔材の傾向を持つ環孔材で、年輪界はやや明瞭である。道管の穿孔は単一、側壁の壁孔は丸い小孔紋で交互状、木部柔組織は散在状及び単接線状である。放射組織は単列同性と集合放射組織の２型がある。集合放射組織は時に放射組織細胞の割合が高くなり複合状となる。道管－放射組織間壁孔はいびつな楕円形で綺麗に縦に柵状に並ぶことはない。これらの形質からシイ属のツブラジイ（コジイ）の材と同定した。スダジイからは集合放射組織が存在することで区別される。

ツブラジイは関東地方南部以西の暖地に分布する常緑高木で、照葉樹林の主要な要素である。スダジイが海岸部に多いのに対し、これは内陸部に多い。樹高 20 ｍ、幹径１ｍの大木となり、材はやや堅硬

で緻密、割裂容易であるが肌目は粗く保存性は低い。建築材、器具材（柄物など）、下駄、薪炭材などに用いる。本遺跡出土材は杭が６点、礎板（礎板？を含む）が６点、柱根が２点のほか、階梯子と思われるもの、木樋（？）、楔（？）が１点ずつ、その他用途不明品の板材、分割材、加工材などが 10 点、合計 16 点ある。

31. スダジイ　Castanopsis sieboldii (Makino) Hatusima　ブナ科：写真 29-31a ～ c（試料番号 15957）

クリ、コジイによく似た材で、年輪の始めにクリより一回りほど小さい円～楕円形の大道管が間隔を置いて配列し、そこから順次径を減じて晩材部では薄壁多角形の小道管、周囲状仮道管、木部柔組織が集まって火炎状となる放射孔材的な環孔材で、年輪はやや明瞭である。木部柔組織は接線状で、晩材部で目立つ。道管の穿孔は単一、側壁の壁孔は小孔紋で交互状である。放射組織は単列同性である。このように道管形態、配列はツブラジイとほとんど変わらない環孔材で、集合状～複合状の放射組織を持たないことで区別される。クリからは大道管がクリより一回り小さく、また年輪始めに間隔を置いて配列することで区別される。また、クリより出土材の保存性がかなり劣る。

スダジイは東北南部以南九州屋久島までの照葉樹林帯に広く分布し、特に海岸部に多い。樹高 20 m、幹径１m以上となる常緑広葉樹で、特に海岸部では幹は高くならず横枝が発達する。材はツブラジイ同様、やや堅硬で緻密であるが、肌目粗く、保存性が低い。用途等はツブラジイと区別されない。本遺跡からは 83 点が出土し、礎板（礎板？を含む）が 20 点、杭（杭？を含む）が 18 点、柱及び柱根が６点の他、用途不明品の加工材 24 点などがある。クリ及びツブラジイの用材と同じ傾向といえ、クリの代用となっていたと看做される。

31'. クリ／シイ　Castanea/Castanopsis　ブナ科

上述のごとく、クリとシイ属の材構造での区別は主に道管の配列である。クリの大道管は年輪界に沿ってまんべんなく分布するのに対し、シイ属では間隔を置いてあるが、出土材が乾燥収縮して道管配列がきちんと観察できないとこの区別を明確にすることができないものである。杭１点がこれに該当した。

32. イチイガシ　Quercus gilva Blume　ブナ科：写真 29-32a ～ c（試料番号 14409）

丸～楕円形の単独道管が緩く集まって放射方向に配列する放射孔材で、大きな道管は直径 220 μ m を超える。道管の穿孔は単一、木部柔組織は接線状に配列する。放射組織は単列と大きな複合放射組織がある。これらの形質からブナ科コナラ属アカガシ亜属のイチイガシの材と同定した。

アカガシ亜属の材は道管が放射方向に配列する形質で他の樹木から区別されるが、アカガシ亜属にはアカガシ Quercus acuta Thunb.、シラカシ Quercus myrsinaefolia Blume、ウラジロガシ Quercus salicina Blume など多数の種があり、材構造が互いに似ていて個々の種を区別するのは困難である。その中でイチイガシは道管径が他の種に比べて一回り大きく、直径が 220 μ m を超えることで区別できる。イチイガシは関東地方南部以西の太平洋側及び瀬戸内地方、四国、九州に分布する常緑高木で、幹径１m、樹高 30 m以上になる。有用な木材が得られるので古くから植栽・植林されており、現在の分布域は元々の天然分布域を越えて拡がっていると考えられている。材は堅硬緻密で、木理通直、割裂自在で弾性強く強靭である。床柱、硬い材質を活かした各種器具、柄物、舟の櫓、櫂、車輪、歯車など広い用途がある。イチイガシは関東から九州の弥生～古墳時代の木製農具に特に多用されるが、本遺跡出土材は鋤・鍬・馬鍬などが４点、刳物容器１点のほか用途不明品の材など合計 12 点である。

33. コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科：写真 29-33a ～ c（試料番号 14027）

直径が 120 ～ 180 μ m 程度の中型で丸い厚壁の道管がゆるくまとまりながら放射方向に年輪を越えて配列する放射孔材で、木部柔組織は独立帯状で接線状に多数配列してよく目立つ。道管の穿孔は単一、

道管内壁にらせん肥厚はない。放射組織は単列のものと複合放射組織があり、道管－放射組織間壁孔は縦に長い楕円形で柵状に配列する。これらの形質からブナ科のコナラ属のうち、常緑のカシ類であるアカガシ亜属（イチイガシを除く）の材と同定した。なお、コナラ亜属にあって放射孔材となるウバメガシはアカガシ亜属の樹種より道管径が一回り小さく、集合放射組織であることにより区別される。

アカガシ亜属（カシ類）はブナ科コナラ属のうち、アカガシ、シラカシ、イチイガシなど常緑の樹種からなる亜属で、東北地方以南の全国の暖帯に広く分布し、照葉樹林の主要素である。静岡県地方にも多数の種があり、材構造による個々の樹種の識別は困難である。いずれの材も硬く緻密で強靭で粘りがあり、加工性には難があるが、建築材、各種器具材、車輛材、柄物など広い用途がある。本遺跡出土材は鍬、掛矢、馬鍬、作業台？などの農具が各１点、杭（杭？を含む）が 12 点、礎板１点、それに用途不明品の木材が 15 点、合計 32 点ある。イチイガシ同様の用途であるが、農具より杭など土木材に重点が移っているといえる。

34. ウバメガシ　Quercus phillyraeoides A. Gray　ブナ科：写真 30-34a ～ c（試料番号 15260）

アカガシ亜属同様、円～楕円形の道管が緩く放射方向に配列する放射孔材で、道管の穿孔は単一、側壁の壁孔は小孔紋で交互状である。木部柔組織は独立帯状で接線方向に連なる。放射組織は単列と集合状（～やや複合状）とがある。道管径は最大の接線径で 100 μｍ程度と、アカガシ亜属の材より格段に小さい。これらのことからブナ科コナラ属コナラ節のウバメガシの材と同定した。

ウバメガシは関東地方南部以西の海岸地帯に生える常緑の低木～小高木で、幹径 30 ㎝、樹高６ｍくらいになる。材は非常に硬くて強靭で、割裂、切削ともに困難である。農具、柄物、車軸、和船の艪の臍等に用い、また炭は硬くて火持ちが良く備長炭として重用される。本遺跡出土材は用途不明品の板状木製品１点である。

35. コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科：写真 30-35a ～ c（試料番号 13618）

年輪の始めに丸い大道管が１～数層配列する環孔材で、孔圏外では丸い単独小道管が緩く放射方向に配列する。道管の穿孔は単一、らせん肥厚はない。木部柔組織は接線状で、孔圏外でよく目立つ。放射組織は単列同性と複合状で、複合放射組織内には大きな結晶細胞が混じる。これらの形質からコナラ亜属クヌギ節の材と同定した。

クヌギ節には東北中部以南から九州までの全国に広く分布するクヌギ Quercus acutissima Carr. と関東北陸以西から九州北部まで分布するアベマキ Quercus variabilis Blume があり、これら両者の材構造は互いによく似ていて識別は困難である。両者とも暖帯性の落葉高木で、幹径 60 ㎝、樹高 20 ｍ以上になる。材はやや堅硬、木理は粗く、割裂自在で、ミカン割り材をつくりやすい。各種柄類、車軸、艪の柄などの用途があるが、椎茸のほだ木としてよく使われる。本遺跡出土材は礎板（？）が４点、杭（杭？を含む）が４点、掛矢が１点など合計 11 点である。

36. コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科：写真 30-36a ～ c（試料番号 15313）

年輪の始めに丸い大道管が１～数層並び、そこから順次径を減じて晩材部ではクリ同様、薄壁多角形の小道管が多数集まって火炎状となる環孔材で、道管の穿孔は単一、木部柔組織は２～３細胞幅の独立帯状で、晩材部でよく目立つ。放射組織は単列同性と複合状があり、道管－放射組織間の壁孔はカシ類と異なり、いびつな楕円形で縦に長くならない。以上の形質からコナラ属コナラ亜属のうち、コナラ節の材と同定した。コナラ節の材は火炎状に配列する道管でクリ、スダジイに類似し、更に複合放射組織を持つことでツブラジイと非常に似てくる。クリとの識別は、横断面、接線断面の切片を大きくつくることで複合放射組織の存在を確認する一方、スダジイ、ツブラジイとの識別は年輪はじめの大道管が隙間なく配列することと大きな複合放射組織の存在である。

コナラ節には全国の山野に普通で特に二次林に多いコナラ Quercus serrata Thunb.、青森県から九

州の温帯から暖帯に分布するナラガシワ Quercus aliena Blume、全国の温帯に多いミズナラ Quercus mongolica Fish. var. grosseserata Rhed.、暖帯、温帯から亜寒帯にあるカシワ Quercus dentata Thunb. などがあり、静岡県地方ではコナラが普通にあり、山地上部に行くとミズナラが出現し、カシワが希にあるがナラガシワは余り見かけない。コナラは幹径 60 ㎝、樹高 15 ｍくらいになる落葉高木で、材はやや堅硬で肌目は粗く、割裂容易で、建築材、各種器具材、特に柄物、細工物など、特に薪炭材に用いる。ミズナラは幹径１ｍ、樹高 30 ｍを超える大木となり、材質もコナラより優れていて、特に家具材に重用される。本遺跡出土材は杭６点、礎板（礎板？を含む）６点、柱根２点、用途不明品の材 10 点など合計 25 点である。

36'．コナラ属樹皮　Bark of Quercus ブナ科

発泡状の組織の中に複合放射組織の樹皮への延長部分があるもので、コナラ属の樹皮であると判断した。樹種を特定する形質は見つけることが出来なかった。本遺跡出土品は「用途不明の板材」１点であるが、これは加工して作成した板材ではなく、剥がれた樹皮が板のように見えることによるものだろう。

37．クマシデ属イヌシデ節　Carpinus sect. Carpinus　カバノキ科：写真 31-37a ～ c（試料番号 14999）

小型で楕円形の道管が、単独あるいは数個放射方向に複合したものが均一に分布する散孔材で、道管の穿孔は単一で、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。木部柔組織は接線状～短接線状で、晩材部でよく目立つ。放射組織は同性で、１～３細胞幅のものと、大型の集合状のものとからなる。これらの形質からカバノキ科クマシデ属のイヌシデ節の材と同定した。

イヌシデ属にはイヌシデ Carpinus tschonoskii Maxim.、アカシデ Carpinus laxifolia (Siebold et Zucc.) Blume などがあり、いずれも暖帯～温帯に広く分布する落葉中高木で、特に二次林に多い。いずれの材もやや硬く緻密で弾力があり、柄物などに用いられる。当遺跡出土材は礎板と用途不明品の材の２点である。

38．ヤナギ属　Salix　ヤナギ科：写真 31-38a ～ c（試料番号 15413）

断面楕円形の単独あるいは２～数個主に放射方向に複合した道管が均一に散在する散孔材で、年輪界は目立たない。道管の穿孔は単一、道管相互の壁孔は小孔紋で交互状に配列する。らせん肥厚は見られない。放射組織は単列異性で道管との壁孔は交互状に密にあり、いわゆる蜂の巣状になる。これらの形質からヤナギ科ヤナギ属の材と同定した。

ヤナギ属は低木～高木になる落葉樹で、我が国には非常に多くの樹種があり、材構造は互いに近似していて樹種の区別は出来ない。木材は一般に軽軟で、割裂自在、耐朽性に劣る。箱物などの利用がある。当遺跡出土材は杭（杭？を含む）が 14 点、礎板（？）が１点、農具（三又）が１点、その他、用途不明の材などが４点、合計 20 点である。

39．カエデ属　Acer　ムクロジ科：写真 31-39a ～ c（試料番号 15347）

丸みを帯びた多角形の小道管が単独あるいは２～数個放射方向に複合して密度低く均一に分布する散孔材で、年輪界は目立たない。繊維組織は薄壁でやや直径の太い繊維の集まりと壁がやや厚く直径わずかに小さい繊維の集まった部分とがモザイク状になって雲紋状の文様を作る。道管の穿孔は単一、側壁の壁孔は小孔紋で交互状に密にあり、らせん肥厚がある。木部柔組織は目立たないが年輪界にあるものはしばしば結晶を持つ。放射組織は１～５細胞幅くらいの同性である。これらの形質からカエデ属の材と同定した。

カエデ属には全国の暖温帯～亜高山、亜寒帯にかけて多数の種があるが、それぞれ互いに材構造が似ていて種の識別は困難である。静岡県地方にはイロハモミジ Acer palmatum Thunb.、イタヤカエデ Acer mono Maxim.、ウリハダカエデ Acer rufinerve Siebold et Zucc. など多数ある。いずれも幹径 50 ㎝、

樹高 10 mほどの落葉高木～小高木で、山地に生える。イロハモミジの材は堅硬強靭緻密で光沢があり、時に美しい杢がでる。切削加工は難しいが、建築の装飾的部分、各種家具、器具材、楽器材などとされる。当遺跡出土材は棒状木製品が１点である。

40. ムクロジ　Sapindus mukorossi Gaertn.　ムクロジ科：写真 32-40a ～ c（試料番号 15257）

年輪始めに丸～楕円形の大道管が数層並び、晩材部では厚壁で多角形の小道管が数個集まって塊となったものが散在する環孔材で、周囲状柔組織及び帯状柔組織があり、特に晩材部で帯状柔組織の量が多く、肉眼では多層の縞模様に見える。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚があり、また道管内に黄褐色の透明物質がしばしば詰まっている。放射組織は３～５細胞幅で背は高くなく、接線面で見たときの輪郭が不整形である。これらの形質からムクロジの材と同定した。

ムクロジは関東地方以西から九州沖縄までの暖地に比較的希に生える幹径 40 ㎝、樹高 15 mほどになる落葉高木で、しばしば社寺、鎮守様、農家敷地などに植えられるので天然分布との区別は明らかでない。材は軽軟で肌目は粗く、脆いが切削加工容易である。机や箱類、小細工もの、キリの代用として下駄などの用途がある。ミニサポニンを含み、若実を「石鹸」の代用にするほか、黒くて丸い種子を羽根つきの羽根の頭にする。佐賀県の東名遺跡では縄文時代早期のムクロジのへぎ材の籠編物が多数出土しているが､全国的に見てムクロジ材の木製品等の遺跡からの出土はあまりない。本遺跡出土材は杭（？）１点である。

41. センダン　Melia azedarach L.　センダン科：写真 32-41a ～ c（試料番号 14459）

年輪始めに丸い大道管があり、孔圏外では小道管が集まった塊が散在し、年輪界附近では薄壁多角形の小道管が複合した塊が散在材する環孔材で､木部柔組織は晩材部で連合翼状となり接線方向に連なる。道管の穿孔は単一、小道管内壁にはらせん肥厚があり、道管内部にしばしば茶色の物質が充填される。放射組織は１～４細胞幅で同性、接線面では比較的綺麗な紡錘形になる。これらの形質からセンダン科のセンダンの材と同定した。

センダンは伊豆地方以西の暖地に広く分布する落葉高木で、関東地方以西ではしばしば屋敷林や寺社に植栽され、時には幹径１m、樹高 20 m以上になる。材は堅硬で木理粗く、割裂が困難である。建築の装飾的部分、和家具、指物、箱物など広く使われる。本遺跡出土材は板材が２点である。

42. クマノミズキ　Cornus macrophylla Wall.　ミズキ科：写真 32-42a ～ c（試料番号 15440）

丸い小道管が単独で比較的まばらに均一に散在する散孔材で、年輪界は不明瞭である。木部柔組織は散在状で量は少ない。道管の穿孔は多数（20 本以上）の横棒からなる階段状である。放射組織は１～４細胞幅位の典型的な異性で単列の翼部が目立つ。これらの形質からミズキ科のクマノミズキの材と同定した。

クマノミズキは青森県以南の本州、四国、九州の温帯下部～暖帯に広く分布する落葉高木で、幹径 40 ㎝、樹高 15 mほどになる。葉や樹形がミズキとよく似ているが、葉が対生すること、花期は初夏でミズキより一月ほど遅く、また、実が秋に熟することで区別できる。材はかなり重くやや硬くて強いがヤマボウシのように強靭ではない。材はミズキ同様梁に用いられるほか、各種器具材、柄類などミズキ同様の用途がある。本遺跡出土材は杭４点と用途不明の木材３点である。

43. ウツギ属　Deutzia　アジサイ科：写真 33-43a ～ c（試料番号 15248）

薄壁多角形だが角がやや丸みを帯びた微細道管がほぼ単独で均一に分布する散孔材で年輪は全く目立たない。道管の穿孔は横棒が多数（30 本以上）の階段状。木部柔組織は散在状で量は少ない。放射組織は１～４細胞幅の異性で、直立細胞は非常に背が高く、また平伏細胞も大振りで全体として粗雑、放射組織全体は非常に背が高い。これらの形質からアジサイ科（旧ユキノシタ科）のウツギ属の材と同定した。

ウツギ属は落葉低木で、ウツギDeutzia crenata Siebold et Zucc.、ヒメウツギDeutzia gracilis Siebold et Zucc.、マルバウツギDeutzia scabra Thunb.などいくつかの種類があり、材構造は互いに類似し区別はできない。最も普遍的なウツギは北海道南部～九州にかけての全国の温帯下部から暖帯の山野、平地に広く分布する落葉低木で幹の根元径５㎝、高さ３ｍほどになる。茎の髄は中空であることから「空木」の名があるが、材は硬く緻密で粘りがあり、木釘、串状の細工物などに用いられる。本遺跡出土材は棒状の木材等５点である。

44. サカキ　Cleyera japonica Thunb.　モッコク科：写真33-44a～c（試料番号15576）

薄壁で多角形の微細な道管が均一に分布する散孔材で、年輪界は全く目立たない。道管はほぼ単独で、穿孔は横棒の多い（40本ほど）階段状である。木部柔組織は散在状で均一に分布する。放射組織はほぼ単列の異性で、背は比較的高く、平伏細胞及び背の大変高い直立細胞からなる。これらの形質からモッコク科（旧ツバキ科）のサカキの材と同定した。

サカキは関東南部以西～九州琉球に分布する照葉樹林を特徴づける常緑小高木で、幹径20㎝、樹高８ｍくらいになる。材は堅硬で肌目はやや粗く、強靭で割裂困難であり、萠芽枝がまっすぐによく伸びることから柄物に重用される。各種柄物、杵、天秤棒、舟の棹、櫛等に用いられる。本遺跡出土材は杭が８点、柱（？）が１点のほか用途不明の木材が４点である。

45. ヒサカキ　Eurya japonica Thunb.　モッコク科：写真33-45a～c（試料番号13898）

薄壁多角形の微細な道管が単独あるいは２個放射方向に複合して均一に分布する散孔材で年輪は全く目立たない。道管の穿孔は横棒の数が多い(40本ほど)階段状である。木部柔組織は散在状で目立たない。放射組織は１～４細胞幅で異性、単列部は直立細胞と方形細胞から、多列部は平伏細胞で構成される。これらの形質からモッコク科（旧ツバキ科）のヒサカキの材と同定した。

ヒサカキ東北地方南部以南～九州琉球の暖帯に広く分布する常緑小高木で、幹径15㎝、樹高８ｍ程度になる。材は堅硬緻密で粘りがあり、割裂折損困難でサカキ同様の用途がある。本遺跡出土材は杭が５点と用途不明の木材が９点である。

46. カキノキ属　Diospyros　カキノキ科：写真34-46a～c（試料番号15626）

中型～小形の丸～楕円形の道管が単独あるいは時に２～数個が主に放射方向に複合して密度低く均一に散在する散孔材で、年輪界は全く目立たない。道管壁はやや厚く、穿孔は単一、道管相互の壁孔は微細な小孔紋で交互状である。木部柔組織は周囲状と接線状で後者は幅が１細胞で横に長く連なる。放射組織は１～２列の異性で背は低く、層階状に配列する。これらの形質からカキノキ科のカキノキ属の材と同定した。

静岡県地方に生育しているカキノキ属には、伊豆半島以南の本州～琉球の暖地に生えるトキワガキ（トキワマメガキ）Diospyros morrisiana Hance、北海道を除く各地に植えられる中国原産のカキノキDiospyros kaki Thunb.とその変種で山野に自生するというヤマガキDiospyros kaki var. sylvestris Makino、古くに柿渋を採るため中国から移入されたと言われるマメガキDiospyros lotus L.、関東地方以西～九州琉球に分布するリュウキュウマメガキDiospyros japonica Siebold et Zucc.がある。いずれも材構造はよく似ていて個々の種を区別することは困難であるが、本遺跡出土品は分布及び生育地等からカキノキの可能性が高い。カキノキ属の心材はいずれも黒色を帯び、黒檀同様となる。材は堅硬緻密で工作容易、床柱などの建築材、箪笥、机、書棚など和洋家具、調度品類、箱物、細工物、彫刻、ゴルフのウッドの頭など幅広い用途に使われる。本遺跡出土材は杭、礎板、用途不明の木材が１点ずつである。

47. タイミンタチバナ　Myrsine seguinii Lev.　ヤブコウジ科：写真34-47a～c（試料番号15651）

薄壁でやや丸みを帯びた多角形の小道管が単独あるいは２～３個、主に放射方向に複合して量少なく

均一に散在する散孔材で、道管径は年輪内でほとんど変わらず、年輪は全く目立たない。道管の穿孔は単一、道管相互の壁孔は微少孔紋で交互状に密に配列する。木部柔組織は随伴状、繊維細胞は隔壁を持つ。放射組織は単列と多列があり、前者は極めて背の高い直立細胞のみからなる。多列放射組織は 3-6 細胞幅程度で極めて背が高い。構成細胞は大振りで不整形、時に結晶を持つ。以上の形質からヤブコウジ科のタイミンタチバナの材と同定した。

タイミンタチバナは千葉県南部以西の温暖地、特に海岸近くに生える常緑小高木で、幹径 15 ㎝、樹高６ｍくらいになる。材はやや重く堅硬緻密で、保存性も良いが狂いやすく、小細工ものなどに使われるにすぎない。本遺跡出土材は杭５点と柱１点で、杭は全て同じ遺構から出土している。

48. ヤブツバキ　Camellia japonica Linn.　ツバキ科：写真 34-48a ～ c（試料番号 15831）

微細な薄壁多角形の道管がほとんど単独で均一に分布する散孔材で、年輪始め附近に一回り大きい道管が並ぶ傾向がある。道管の穿孔は横棒が 10 本くらいの階段状で、側壁の壁孔も階段状である。木部柔組織は散在状、放射組織は１～３細胞幅で異性、背は低く、直立細胞がときどき大きく膨らんで中に大きな結晶を一つ持つ。以上の形質からツバキ科のヤブツバキの材と同定した。

ヤブツバキは照葉樹林を特徴づける常緑小高木で、東北地方以南の沿岸部から九州まで広く分布し、関東以西では内陸部にもある。幹径 30 ㎝、樹高 10 ｍくらいになる。材は堅硬強靭で粘りがあり、割裂、加工は困難だが、柄物、滑り台、滑車、轆轤部品など強度を必要とする部分によく用いられる。本遺跡出土材は杭１点と用途不明の材１点である。

49. エゴノキ属　Styrax　エゴノキ科：写真 35-49a ～ c（試料番号 15570）

丸みを帯びた薄壁多角形の小道管が放射方向に２～６個複合したものが散在する散孔材で、道管径は年輪始めから年輪の終わりに向けて順次小さくなる。道管の穿孔は横棒の少ない（20 本以下）階段状、木部柔組織は１細胞幅の独立帯状で、晩材部でよく目立つ。放射組織は１～３細胞幅の異性で、単列の翼部が高い。以上の形質からエゴノキ科エゴノキ属の材と同定した。

エゴノキ属には全国の山野にごく普通なエゴノキ Styrax japonica Siebold et Zucc.、それより山間部に多いハクウンボク Styrax obassia Siebold et Zucc. などがあるが、分布からは当遺跡出土材はエゴノキの可能性が高い。エゴノキは幹径 20 ㎝、樹高８ｍほどの落葉小高木で、材はやや堅硬で弾性高く、均質なので切削加工は容易である。木が身近にあることもあって床柱、柄物、独楽、駒、各種玩具、各種器具、小細工ものなどの用途がある。本遺跡出土材は杭と用途不明の木材１点ずつである。

50. シャシャンボ　Vaccinium bracteatum Thunb.　ツツジ科：写真 35-50a ～ c（試料番号 13624）

薄壁で多角形の微細な道管が均一に分布する散孔材で、年輪界は全く目立たない。道管はほぼ単独で、年輪始めでは径がやや小さく密度も低い。そのやや外側に分布する道管はやや大きく、そこから年輪界に向けてわずかずつ径が小さくなる。道管の穿孔は単一と横棒の多くない（20 本以下）階段状である。木部柔組織は散在状で均一に分布する。放射組織は異性で、単列と４～６細胞幅の多列で、前者は背の高い直立細胞のみからなり、後者の多列部は平伏細胞で上下の縁の１、２層は方形～直立細胞からなる。これらの形質からツツジ科のシャシャンボの材と同定した。

シャシャンボは関東地方南部以西の暖地に生える常緑低木で樹高５ｍほどになる。材は強く粘りがあるが木が小さいのであまり利用されない。当遺跡出土材は杭１点である。

51. トネリコ属　Fraxinus　モクセイ科：写真 35-51a ～ c（試料番号 15571）

丸い中～大道管が年輪始めに１～３層に並び、孔圏外では厚壁の小道管が単独あるいは数個、放射方向に複合したものが均一に散在する環孔材で、周囲状柔組織をもち、特に晩材部で目立つ。道管の穿孔は単一、側壁の壁孔は微小孔紋で密に分布し、螺旋肥厚はない。放射組織は２～３細胞幅で同性、背は低い。これらの形質からトネリコ属の材と同定した。

トネリコ属には北海道から本州北部の冷温帯の山地に多いアオダモ Fraxinus lanuginose Koidz.、湿地に多いヤチダモ Fraxinus mandshurica Rupr. var. japonica Maxim.、本州から九州の冷温帯から暖温帯に分布するヤマトアオダモ Fraxinus longicuspis Siebold et Zucc.、マルバアオダモ Fraxinus sieboldiana Blume など、いくつかの種があるが材構造での識別は困難である。アオダモは幹径40cm、樹高 15 ｍくらいになる。材は堅く強靭で弾力があり、木理通直で美しく、保存性が高く加工も容易な優秀な広葉樹材である。床柱、床板などの建築材、和洋家具、タンス、農具、柄類、各種器具材、野球のバットやラケット枠、スキーなど運動具の用途がある。当遺跡出土材は杭２点である。

52. イボタノキ属　Ligustrum　モクセイ科：写真 36-52a ～ c（試料番号 15330）

断面が丸みを帯びた微細な道管がほぼ単独で均一に分布する散孔材で、年輪のはじめでは一回り大きな道管が断続的に１列にならぶ傾向がある。木部柔組織は目立たない。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で２細胞幅、背は低く、道管との壁孔はやや小型の楕円形でやや疎らである。これらの形質からモクセイ科のイボタノキ属の材と同定した。

イボタノキ属には本州から琉球まで分布する常緑小高木のネズミモチ Ligustrum japonicum Thunb.、全国の丘陵、原野に普通に分布する落葉小高木のイボタノキ Ligustrum obtusifolium Siebold et Zucc. を始め多くの種があるが材構造での識別は困難である。材は硬く粘りがあるが、材が小さいためその用途はほとんど知られていない。本遺跡出土材は杭（杭？を含む）５点である。

53.　サンゴジュ　Vibrunum odoratissimum Ker-Gawler　レンプクソウ科：写真 36-53a ～ c（試料番号 15746）

薄壁で断面多角形の微細な道管が均一に分布する散孔材で、年輪始めに一列に並ぶ傾向がある。道管の穿孔は横棒が多数（20 本以上）の階段状である。放射組織は１～２細胞幅で直立細胞からなる背の高い単列の翼部と平伏細胞からなる多列部からなる。これらの形質からレンプクソウ科（旧スイカズラ科）のガマズミ属のサンゴジュの材と同定した。

サンゴジュは関東南部以西の暖帯に生える常緑小高木で、樹高８ｍ、幹径 20 ㎝ほどになる。材はやや重く堅硬緻密で、旋作材、小細工ものなどに用いる。本遺跡出土材は礎板９点、杭５点と「鞍」１点である。

54. コシアブラ　Kalopanax sciadophylloides Harms.　ウコギ科：写真 36-54a ～ c（試料番号 15283）

年輪始めに大きめのいびつな丸い道管が単独あるいは数個複合して１層に並び、孔圏外では丸みを帯びた小道管が主に放射方向に数個複合したものが均一に分布し、年輪界に向けて順次径を減じて行く半環孔材である。木部柔組織は目立たない。道管の穿孔は単一、道管相互の壁孔はやや大振りの小孔紋で交互状に並ぶ。放射組織は１～３細胞幅で背が低く、多列部は平伏細胞、上下の縁の１細胞層が方形となる。これらの形質からウコギ科のコシアブラの材と同定した。

コシアブラは北海道～九州までの山野に広く分布する落葉高木で幹径 40 ㎝、樹高 15 ｍほどになる。材は軽軟緻密で加工性良く、各種器具材、彫刻材、下駄、経木などの用途がある。本遺跡出土材は杭１点である。

54'. 広葉樹樹皮　Bark of Dicotyledon

発泡状の組織とコルク組織の存在から広葉樹類の樹皮であることは分かるが、組織の保存が不十分なのと、樹皮構造のデータベースの未整備のため、その樹種を特定できないものである。

２　出土材の樹種組成

出土資料 829 点のうち同定に至らなかった６点を除いた 823 点から 61 タイプの植物種を同定した（第 20 表）。シダ類１種、針葉樹 13 種・タイプ（以下、樹種、あるいは単に種と呼ぶ）、広葉樹 47 種である。これらのうち、植物種が特定に至らない「マツ属」、「ヒノキ科」、「広葉樹樹皮」などを除いたシダ、針葉樹９種、広葉樹 43 種について、主な分布域を見ると、温帯域に分布の中心があるものが針葉樹４種（ヒノキ、サワラ、アスナロ、ツガ属）、温帯～暖帯域に広く分布するものが針葉樹２種（アカマツ、スギ）、広葉樹 20 種の合計 22 種、そして暖帯域に分布するものがシダ（ウラジロ）１種、針葉樹３種（イヌガヤ、イヌマキ属、クロマツ）、広葉樹 23 種、合計 27 種であった。

量的に見ると、温帯域に生育する樹木は 12.9%、温帯～暖帯に生育する樹木が 42.8%、暖帯域に生育する樹木が 44.3%となる。樹種別に見て行くと、最も多かった針葉樹はヒノキ属（ヒノキ＋サワラ＋ヒノキ属）で 86 点、ほぼ同じくマツ類（アカマツ＋クロマツ＋マツ属複維管束亜属）が 85 点、そしてスギが 79 点、そしてイヌマキ属が 72 点あり、この４者で全体の４割り近くを占める。広葉樹ではクリが 129 点と最も多く、ついでシイ類（スダジイ＋ツブラジイ）が 110 点であり、この両者で 30%近い。比較的多かった広葉樹にはカシ類（イチイガシ＋アカガシ亜属）、ナラ類、ヤナギ属、サンゴジュ、ヒサカキなどがある。一方、１%以下のわずかな出土量しかなかった樹種は針葉樹で２種、広葉樹では 29 種にも及ぶ。なかでも１点のみの出土は広葉樹で 13 種もあり、これらの多くは杭材あるいは用途不明の木材で、これらは樹種を選ばず身近な木を伐って利用したことが考えられる。

遺跡が立地する菊川市は暖帯に属することから暖帯性の植物が優先するのは当然で、出土材は遺跡周辺に自生する樹木が使われていたことを示していると言える。また，温帯～暖帯に広く分布する樹種では、広葉樹はすべて落葉樹であり、そのほとんどは遺跡にほど近い丘陵地の雑木林に自生していたものであると考えることができる。一方、温帯性の樹木４種とはアスナロ、サワラ、ツガ属、ヒノキであり、サワラ、ヒノキは遺跡周辺で植栽されていたものの可能性もないわけではないが、それよりもこれらの樹種の生育地からの木材の流通を考えることができる。また、スギも古代以前には菊川市の低地帯に自生があったことは充分考えられるが、本遺跡成立時にはそれらは既に伐採等により失われていたと考えるのが妥当で、出土材は遺跡外から持ち込まれたものであることが考えられる。モモ、ビワ、カキノキ属は栽培植物としていつの時代にか日本に移入されたものであり、自生というものはない。遺跡内外で植栽・栽培されたもので、手近にあることにより木材が使われたと見なせる。したがって本遺跡出土材は、遺跡周辺に自生する樹木、遺跡周辺に植栽・栽培されている樹木、遺跡外から持ち込まれた樹木で構成されているといえる。

３　同定された注目すべき植物種

ウラジロ　樹木ではないが同定された植物で興味深いのはウラジロである。記載の項に記述してあるように静岡県地方にはウラジロは普通に生えるシダ植物でそれ自体は特に重要な意味を持ってはいない。しかし、遺跡周辺に普通に生える植物だからといって，遺跡から頻繁に出土するものではなく、遺物として出土して同定された例は全国的に少ない。静岡県では三島市の鶴喰広田遺跡からも近世の「箸？」とされた資料が１点出土している。シダの葉柄には表皮、下表非組織が大変硬く、遺物として遺存しやすいと思われる種類はいくつかあり、ウラジロはその中でも組織が充分に硬いものの一つで遺存しやすいのは事実だろう。しかしその太さ、堅さ、滑らかさはいかにも「箸」としての使用に耐えるものであることから、これらは「使い捨て」の箸として利用されたものである可能性は大いにあると考えられる。

アカマツとクロマツ　アカマツとクロマツは本州～九州に広く分布する最も普遍的なマツであり、ア

第 20 表　出土木製品の樹種組成

遺跡名	一反田遺跡						赤土政所遺跡						総計
	建築部材・土木材	祭祀具	農具・工具	容器・生活具	用途不明	合計	建築部材・土木材	祭祀具	農具・工具	容器・生活具	用途不明	合計	
ウラジロ				2		2							2
アカマツ	8			1	7	16	4				3	7	23
クロマツ	13				1	14	6				2	8	22
マツ属複維管束亜属	24				3	27	10				3	13	40
ツガ属	2					2					12	12	14
イヌマキ属	9				15	24	21		1	2	24	48	72
ヒノキ	2	15		17	18	52	3	3	2	5	11	24	76
サワラ	1			2		3	1			3		4	7
ヒノキ属				1		1	1	1				2	3
ヒノキ科		1				1							1
ヒノキ科樹皮					1	1							1
スギ	10	5		2	21	38	4	4	3	9	21	41	79
アスナロ	2					2					1	1	3
イヌガヤ					1	1					3	3	4
針葉樹　　合　計	71	21		23	67	182	50	8	6	19	80	163	345
モクレン属					1	1							1
クスノキ	1					1	7				2	9	10
クスノキ科 A	2				2	4	1					1	5
クスノキ科 B					1	1	1				6	7	8
クスノキ科 C	1					1							1
アワブキ	1					1							1
ユズリハ属					1	1	1				1	2	3
ゴンズイ	1					1							1
フジ	1					1							1
モモ					1	1							1
ヤマザクラ					1	1					1	1	2
サクラ属					1	1							1
サクラ属樹皮											1	1	1
ビワ	1					1							1
ケヤキ				2		2			1		1	2	4
エノキ属	1		1		1	3							3
イヌビワ	1					1							1
ヤマグワ					1	1			2			2	3
クリ	13				10	23	49				57	106	129
ツブラジイ	5				1	6	11		1		9	21	27
スダジイ	24				6	30	25			1	27	53	83
クリ or シイ	1					1							1
イチイガシ	1		1		3	5			3	1	3	7	12
コナラ属アカガシ亜属	13		2		8	23			2		6	8	31
ウバメガシ					1	1							1
コナラ属クヌギ節	4		1		1	6	5					5	11
コナラ属コナラ節	7		1		7	15	7				3	10	25
コナラ属樹皮					1	1							1
クマシデ属イヌシデ節	1				1	2							2
ヤナギ属	14				3	17	1		1		1	3	20
カエデ属					1	1							1
ムクロジ	1					1							1
センダン					1	1					2	2	3
クマノミズキ	4				2	6					1	1	7
ウツギ属					5	5							5
サカキ	7				3	10	2				1	3	13
ヒサカキ	4				9	13	1					1	14
カキノキ属	2					2					1	1	3
タイミンタチバナ	5					5	1					1	6
ヤブツバキ					1	1	1					1	2
エゴノキ属	1					1					1	1	2
シャシャンボ	1					1							1
トネリコ属	2					2							2
イボタノキ属	6				2	8							8
サンゴジュ	4					4	10		1			11	15
コシアブラ	1					1							1
広葉樹樹皮							1					1	1
広葉樹　　合　計	131		6	2	76	215	124		11	2	124	261	476
同定不可					2	2	1				3	4	6
総計	202	21	6	27	145	401	175	8	17	21	207	428	829

カマツは山地丘陵部、クロマツは海岸部に多い。静岡県地方は両者とも普通に生育しており、特にアカマツは二次林、里山に多い。本遺跡ではこれら両者とその何れかと考えられるものを加えると 85 点と全体の１割を占め、多用されていたことが分かる。その用途を見ると（第 21 表）、杭（＋杭？）が 48 点と半分以上を占め、その材質にあった利用がなされているのが分かるが、その場合、アカマツ、クロマツの「使い分け」は認められないことから、当時の人びとはこれらを区別なく利用していたといえる。

ツガ属　ツガ属にはツガとコメツガがあり、ツガは静岡県地方ではやや内陸部の山地の土壌の貧弱な尾根筋などに多く見られ、またコメツガは亜高山帯下部に分布するので、出土材はツガであろうと考えられる。静岡県内の古代〜近世の遺跡では出土針葉樹材はスギが最も多く、次いでヒノキ、イヌマキ属、マツ類、などである。それらに次いで比較的良く出土するものにモミ属（モミと看做される）があり、ツガ属の出土はかなり希なものである。当遺跡ではツガ属が 14 点も出土する一方、モミ属の材が１点も出土しなかったというのが極めて特徴的である。出土材の用途を見ると、礎板２点の他は用途不明品の板材であり、赤土政所遺跡 SX103 からの出土である。建築部材や建具などに用いたものがまとまって投棄されたのではないかと推察される。

クスノキとクスノキ科Ａ〜Ｃ　クスノキは材に多量の精油成分（樟脳）を持つことから腐朽・水湿に対する保存性が良く丸木舟や建築材に良く用いられる。また弥生時代では臼の特用が知られている。当遺跡ではクスノキは 10 点出土しているが、そのうち赤土政所遺跡 SB212 の柱穴 P4 から礎板（？）として７点集中して出土しており、これは同一材を分轄して礎板に転用した可能性がある。他３点は礎板と用途不明品の材２点である。一方、クスノキとは異なるクスノキ科の材が 14 点出土し、礎板とされるもの１点はあるものの、杭２点、梯子１点の他は用途不明の材であり、クスノキとは異なった用途であったことが考えられる。なお、クスノキ科の木材の階梯子への利用の類例はあまり聞かない。

モモ、ビワ、カキノキ（属）　いずれも中国原産の果樹で、モモは縄文前期に渡来したようだが一般的になるのは縄文晩期以降で、弥生時代以降の多くの遺跡から出土している。これに対し、ビワ、カキノキの渡来の時期は出土例が乏しく判然としないが、古代になってからの可能性が強い。これらの材の出土はそういった果樹が遺跡の内外で栽培されていたことを示しているようで、これは今日の静岡県地方の農村部ではよく見かける光景である。

シイ類　ツブラジイ（コジイ）とスダジイは葉の厚さと生育場所に若干の違いがあるが樹木の性質、材質ともよく似ている。当遺跡出土材はツブラジイ 27 点に対しスダジイ 83 点と圧倒的にスダジイが多いものの、その用途は杭、礎板、柱材など土木建築材で樹種の違いによる使い分けは認められない。当遺跡は菊川市の太平洋から６㎞ほどの内陸の平野部にあり、海がやや近いことからスダジイが優先する地域といえるが、それなりの距離があることで遺跡周囲の丘陵地にはツブラジイもあるような場所であり、遺跡の人びとはこの両者を区別することなく利用していたものといえる。

４　祭祀具，農具・工具、容器・生活具等の樹種組成

斎串、人形、武器形などの祭祀具とされたものは一反田遺跡から 21 点、赤土政所遺跡からは８点、合計 29 点出土し、その全てが針葉樹材である（第 20 表）。ヒノキが 18 点、スギが９点、ヒノキ属またはヒノキ科が２点であり、これは静岡県内の古代〜中世頃の他の遺跡と共通で一般的な傾向である。

農具・工具とされたものは一反田遺跡で６点、赤土政所遺跡で 17 点ある。鋤鍬・馬鍬類は７点でイチイガシが４点、カシ類が２点で、残りは馬鍬の部品でヒノキである。弥生時代以降の西日本の鋤鍬類にはイチイガシが率先して用いられていることが知られているが、静岡県内の遺跡でも同様で、当遺跡もその傾向を示している。また、田舟が３点あり、２点がスギ、１点はケヤキであった。掛矢は２点でカシ類とクヌギ類、横槌は１点でヤマグワであった。他に鞍（ツブラジイ）、三又（ヤナギ属）、作業台（カ

第 21 表　出土木製品の用途別樹種組成一覧表

木製品の種類・樹種	柱・柱根	梯子	階梯子	扉	垂木	木樋	礎板・礎板？	建築材	杭・杭？	板材	木樋か流木か	加工材	流木U字形	総計	%
マツ類＊	2						14		48			1		65	17.4
イヌマキ属	2				1		4	1	22					30	8.0
スギ	1						3		9	1				14	3.7
ヒノキ							3		2					5	1.3
ツガ属							2							2	0.5
サワラ	1								1					2	0.5
アスナロ									2					2	0.5
ヒノキ属							1							1	0.3
針葉樹　合　計	6				1		27		84	1		1		121	32.4
シイ類＊	8		1			1	26		24			5		65	17.4
ヤナギ属							1		14					15	4.0
コナラ属アカガシ亜属							1		12					13	3.5
クリ	36						16		8		1	1		62	16.6
サカキ	1								8					9	2.4
コナラ属コナラ節	2						6		6					14	3.7
イボタノキ属									6					6	1.6
サンゴジュ							9		5					14	3.7
タイミンタチバナ	1								5					6	1.6
ヒサカキ									5					5	1.3
コナラ属クヌギ節							4		4				1	9	2.4
クマノミズキ									4					4	1.1
クスノキ科 A-C*		1					1		3					5	1.3
トネリコ属									2					2	0.5
カキノキ属							1		1					2	0.5
アワブキ									1					1	0.3
ゴンズイ									1					1	0.3
フジ									1					1	0.3
ビワ									1					1	0.3
エノキ属									1					1	0.3
イヌビワ									1					1	0.3
ムクロジ									1					1	0.3
ヤブツバキ									1					1	0.3
エゴノキ属									1					1	0.3
シャシャンボ									1					1	0.3
コシアブラ									1					1	0.3
クスノキ							8							8	2.1
クマシデ属イヌシデ節							1							1	0.3
ユズリハ属				1										1	0.3
イチイガシ						1								1	0.3
広葉樹　合　計	48	1	1	1		2	74		118		1	6	1	253	67.6
総計	54	1	1	1	1	2	101	1	202	1	1	7	1	374	

シ類)、大足（スギ)、背負子（？）(エノキ属)、編錘（ヤマグワ)、網代台（イヌマキ属)、桙（ヒノキ）が１点ずつ出土している。

曲物は 28 点が出土し、17 点がヒノキ、８点がスギ、あとはサワラとヒノキ属であった。折敷とされたものは１点でイヌマキ属と同定されているが、イヌマキ属の折敷や曲物への利用は類例がほとんどなく、これは何かの間違いである可能性が高い。漆椀は１点でケヤキであり、皿は３点でヒノキが２点、ケヤキが１点であった。「容器」とされたものは５点あり、スギが２点、サワラが１点の他、イチイガシとスダジイが１点ずつあり、これは器形の認識が異なっている可能性がある。箸及び箸状木製品は６点あり、すでに話題にしたウラジロが２点、ヒノキが２点、スギとアカマツが１点である。その他足付きの台が２点でサワラ製であり、イヌマキ属製の下駄が１点あるがこれも器種の認定が異なっている可能性がある。

以上見てきたように祭祀具，農具・工具、容器・生活具等の樹種組成は概ね静岡県内の他遺跡と整合的であった。

５　建築材・土木材の樹種組成

第 21 表に出土した建築材・土木材 374 点の樹種組成を集計した。建築材・土木材としたものは針葉樹８種、広葉樹 30 種である。この表でアカマツ + クロマツ + マツ属複維管束亜属はマツ類、スダジイ + ツブラジイはシイ類、クスノキ科Ａ・Ｂ・Ｃは「クスノキ科Ａ－Ｃ」としてまとめてある。

柱材（＋柱根）とされたのは 54 点あり、クリが 36 点、シイ類が８点の他は１、２点ずつである。柱材にクリが使われるのは材質からいって当然のことといえる。それに対してシイ類は保存性がかなり劣るのでクリの代用としてはあまりふさわしくないように思えるが当遺跡では直径 33 ㎝もの大木も使われている。礎板（＋礎板？）は針葉樹 27 点、広葉樹 74 点がある。針葉樹ではマツ類が 14 点と多く、他にイヌマキ属、スギ、ヒノキ、ツガ属などである。広葉樹ではシイ類が 26 点と最も多く、クリ、サンゴジュ、ナラ類、クヌギ類などがある。建築材としては既に紹介したクスノキ科Ｂの階梯子が１点，ユズリハ属の「扉」が１点、イヌマキ属の垂木が１本、シイ類とイチイガシの木樋が１点ずつである。ユズリハ属の扉は幅 26 ㎝、厚さ 2.5 ㎝、長さ 116 ㎝の板材であり、ユズリハでもかなり太い材を利用したことが分かる。

杭材（＋杭？）は針葉樹 84 点、広葉樹 118 点が使われ、針葉樹ではマツ類が 48 点と大半を占め、ついでイヌマキ属が 22 点、スギが９点などである。マツ類は樹脂分に富んで杭材に適していることは周知のことで、イヌマキ属材も耐朽・耐湿性にすぐれているので、適材である。マツ類、イヌマキ属の杭は直径３～ 10cm と細い丸木材が大部分である。広葉樹で最も多かったのはシイ類の 24 点で、これも２～９㎝と細い丸木材が多い。次いでヤナギ属が 14 点、カシ類が 12 点、クリ、サカキが８点などとなっており、ナラ類、イボタノキ属、サンゴジュ他６種が６～２点、アワブキ、ゴンズイなど 12 種が１点と非常に多様な樹種が使われている。これらは遺跡周辺に自生あるいは植栽されたもので、手近の木を伐って杭材としたものであることが分かる。

６　遺構毎の柱材と礎板

柱材（＋柱根）と礎板（＋礎板？）については同じ遺構から複数の資料が出土しているものがある。それらのうち、柱のみの出土遺構では２点以上、礎板のみの出土遺構については３点以上、柱と礎板の両方が出土した遺構については全ての例を挙げてその樹種組成を検証した。

柱材のみの遺構　赤土政所遺跡 SP01 からは４本の柱が出土したがいずれもクリであった。赤土政所遺跡 SP03・一反田遺跡 SP81 からは柱が２本出て、いずれもがクリであった。これに対し赤土政所遺跡 SB211-P2 の３本の柱のうち２本はクリ、１本がシイ類、赤土政所遺跡 SB208-P8 ではクリとナラ類の柱が１本ずつであった。以上見たように、柱材は基本がクリ材で、遺構によっては補完的にシイ類、ナラ類等が使われているといえる。

礎板のみの遺構　赤土政所遺跡 SD403 の上層からは 19 点の礎板が出土し、その内訳はシイ類が８点、クリが５点、クヌギ類が４点、サンゴジュが２点と、樹種が限定されていた。これに対して一反田遺跡 SB102-P7 からは８点の礎板が出土し、クリが３点、クロマツが２点の他、クスノキ科Ａ、ツガ属、ヤナギ属が１点ずつと多様であった。一反田遺跡 SB102-P3 では 13 点の礎板のうちマツ類が９点を占めるものの、カシ類、カキノキ属、ナラ類、イヌシデ節と多様であった。一反田遺跡 SB103-P2 では４点の礎板のうち３点がシイ類で残りはナラ類であった。赤土政所遺跡 SB214-P2 からは７点の礎板が出土し､いずれもがサンゴジュであった。赤土政所遺跡 SB212-P4 の７点の礎板はいずれもクスノキであった。赤土政所遺跡 SB203-P7 からは礎板７点が出土し、イヌマキ属が４点、シイ類が３点であった。このように、礎板が複数出土した遺構では、特定の樹種（クスノキ、サンゴジュの例）が複数使われるものがある一方、一般的にはシイ類が礎板によく使われており、それ以外に雑多な木材が使われる傾向にある

第 22 表　出土用途不明品の樹種組成一覧表

	資料数	%
スギ	42	12.2
イヌマキ属	39	11.3
ヒノキ	29	8.4
マツ類	19	5.5
ツガ属	12	3.5
イヌガヤ	4	1.2
アスナロ	1	0.3
針葉樹　合　計	146	42.4
クリ	67	19.5
シイ類	43	12.5
コナラ属アカガシ亜属	14	4.1
コナラ属コナラ節	10	2.9
クスノキ科 A、B	9	2.6
ヒサカキ	9	2.6
イチイガシ	6	1.7
ウツギ属	5	1.5
サカキ	4	1.2
ヤナギ属	4	1.2
クマノミズキ	3	0.9
センダン	3	0.9
イボタノキ属	2	0.6
クスノキ	2	0.6
ヤマザクラ	2	0.6
ユズリハ属	2	0.6
ウバメガシ	1	0.3
エゴノキ属	1	0.3
エノキ属	1	0.3
カエデ属	1	0.3
カキノキ属	1	0.3
クマシデ属イヌシデ節	1	0.3
ケヤキ	1	0.3
コナラ属クヌギ節	1	0.3
サクラ属	1	0.3
モクレン属	1	0.3
モモ	1	0.3
ヤブツバキ	1	0.3
ヤマグワ	1	0.3
広葉樹　合　計	198	57.6
総計	344	

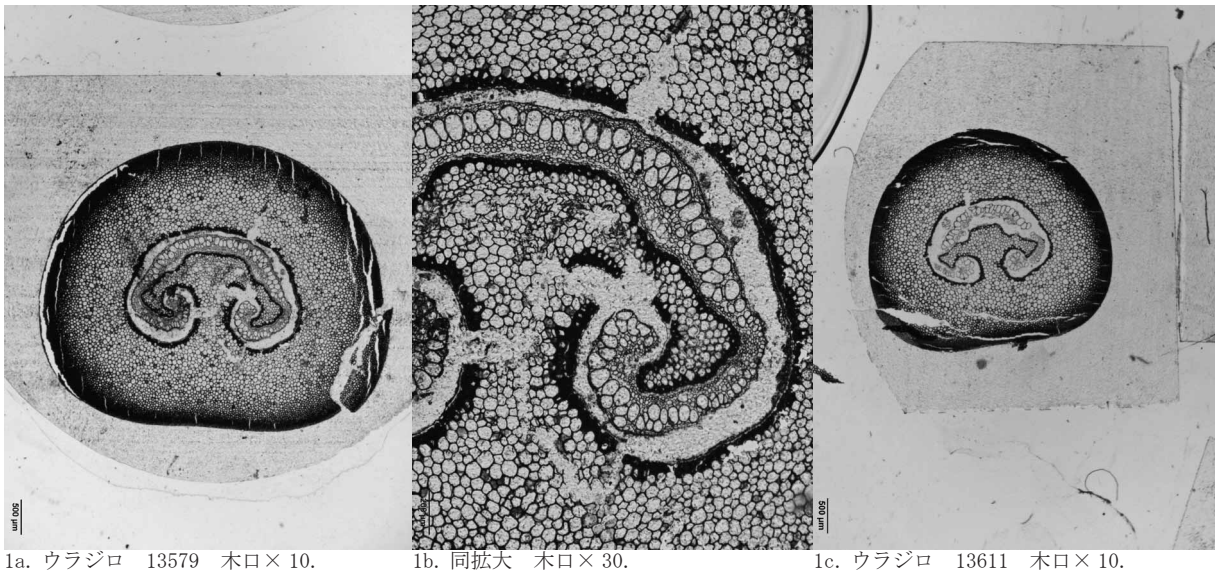
ことが分かった。一つの遺構での複数の同一樹種の礎板の出土は，礎板埋設時にその樹種の材を切断あるいは折損して一つの遺構の礎板としたことを物語るように思われる。

柱と礎板の両方が出土した遺構　赤土政所遺跡 SB212-P2、SB211-P3 では柱材と礎板１点ずつがあり、柱はクリで礎板はツブラジイであった。赤土政所遺跡 SB212-P1 では柱１点と礎板２点のいずれもがシイ類であった。一反田 SB102-P4 では柱２点と礎板１点があり、柱はクロマツとシイ類、礎板はクロマツであった。赤土政所遺跡 SB211-P4 では礎板２点と柱１点のいずれもがシイ類であった。赤土政所遺跡 SB211-P3 の１本の柱はクリで、３点の礎板はシイ類であった。赤土政所遺跡 SB210-P1・2・3・4 からは柱と礎板１点ずつが出土し、いずれもがクリであった。赤土政所遺跡 SB203-P8 では柱はクリであったが礎板はヒノキ属であった。以上のように､柱材はクリ、礎板はそれ以外の樹種、というのが一般的なようで、礎板にはシイ類が多く使われるが、それに限らないのは上記の礎板の項での傾向と同じであるということになると思われる。

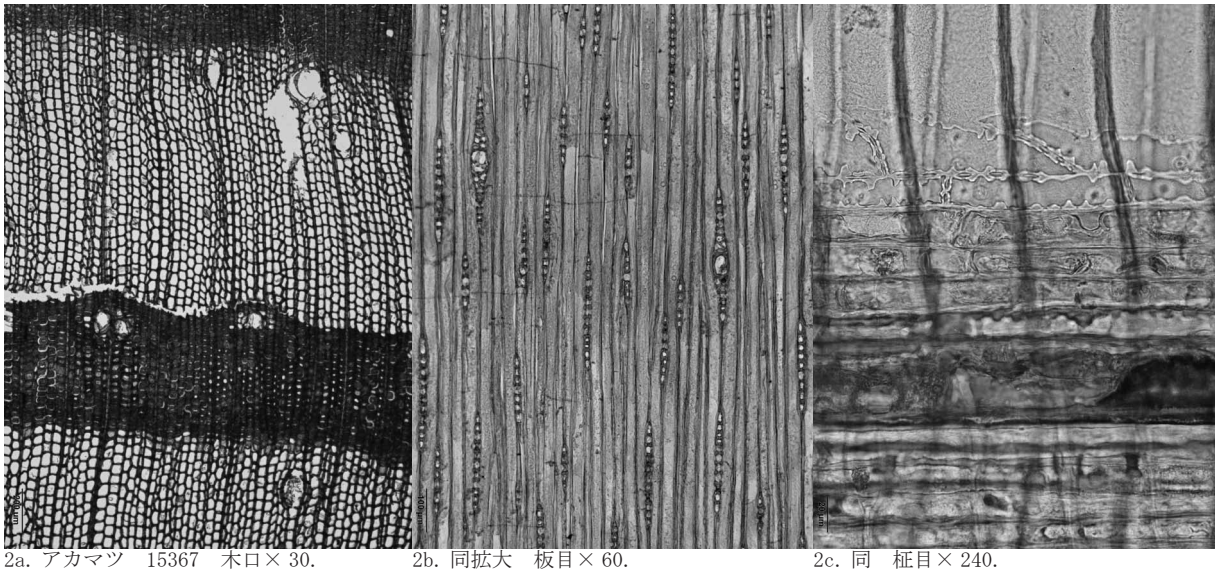
７　「用途不明の木材」の樹種

棒や板、端材、材片といった、その形状からは用途が特定されないものが「用途不明」として集計されており、344 点ある（第 22 表）。針葉樹は 146 点で最も多いのはスギの 42 点で、次いでイヌマキ属 39 点、ヒノキ 29 点、マツ類 19 点などとなっている。広葉樹ではクリが 67 点と最も多く、次いでシイ類 43 点、カシ類 14 点、ナラ類 10 点などである。これらは基本的に建築･土木材等と組成はほとんど同じで、１、２点の出土しかない樹種も多様である。

以上見てきたように、出土資料 829 点から 61 もの樹種が同定された。出土資料の 45％が建築・土木用材、43％が用途不明の木材で、木製品等は 12％に過ぎない。したがってこの結果で当該遺跡における木材利用の全容を解明するには至らないが、遺構にともなう柱材と礎板が比較的多数出土したことによりその利用傾向を知ることができたといえる。



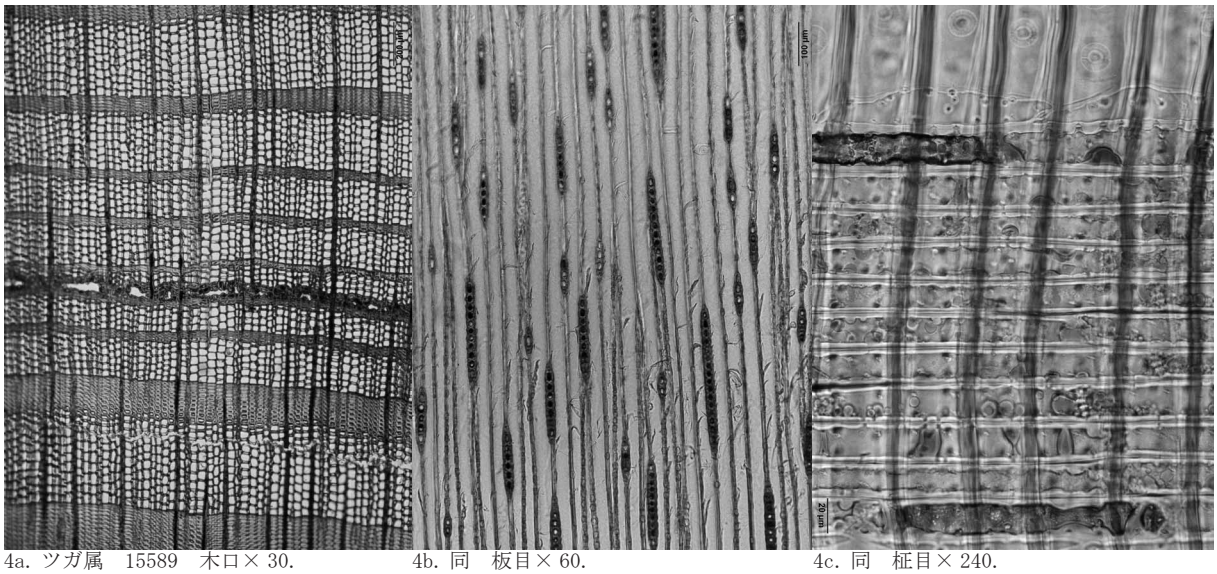
1a. ウラジロ　13579　木口× 10.　1b. 同拡大　木口× 30.　1c. ウラジロ　13611　木口× 10.



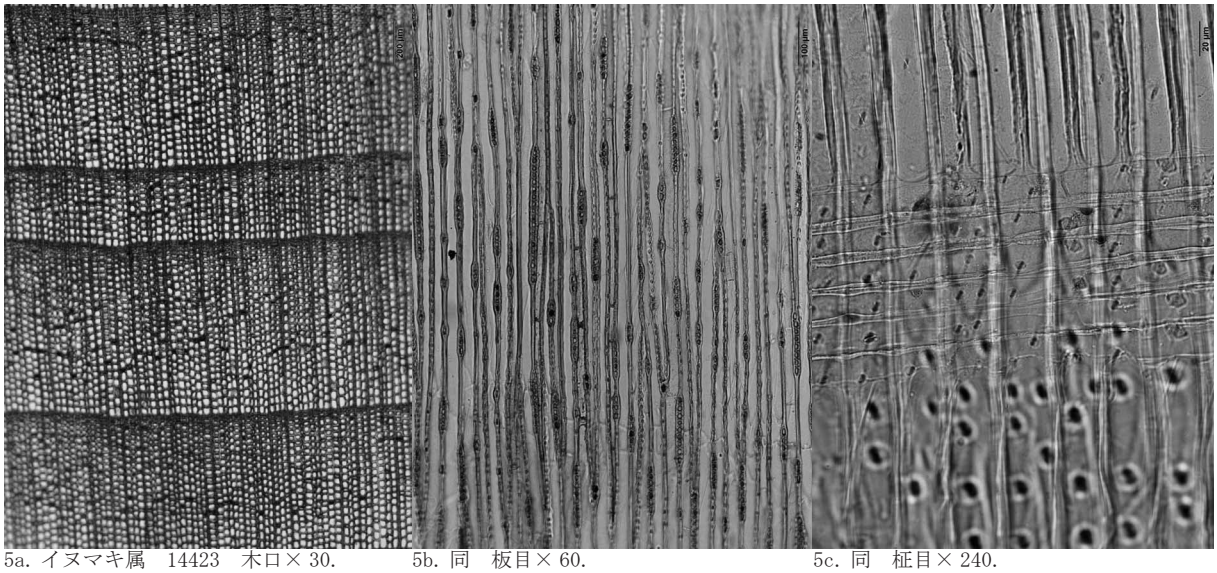
2a. アカマツ　15367　木口× 30.　2b. 同拡大　板目× 60.　2c. 同　柾目× 240.

3a. クロマツ　15725　木口× 30.　3b. 同　板目× 60.　3c. 同　柾目× 240.

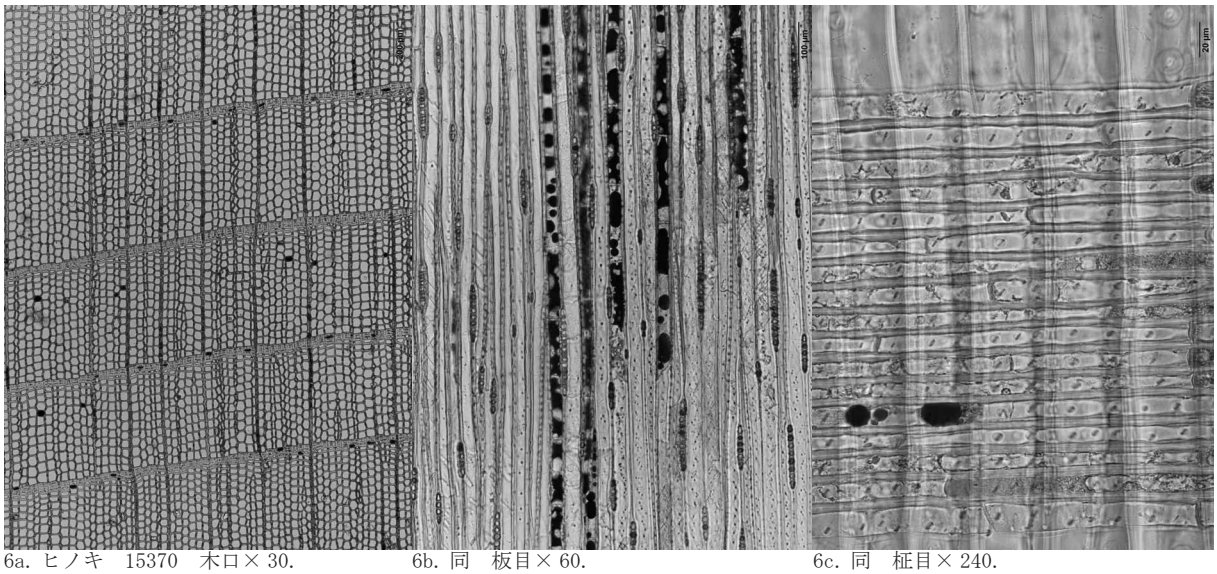
写真 19　出土木材　顕微鏡写真 1



4a. ツガ属　15589　木口× 30.　　4b. 同　板目× 60.　　4c. 同　柾目× 240.

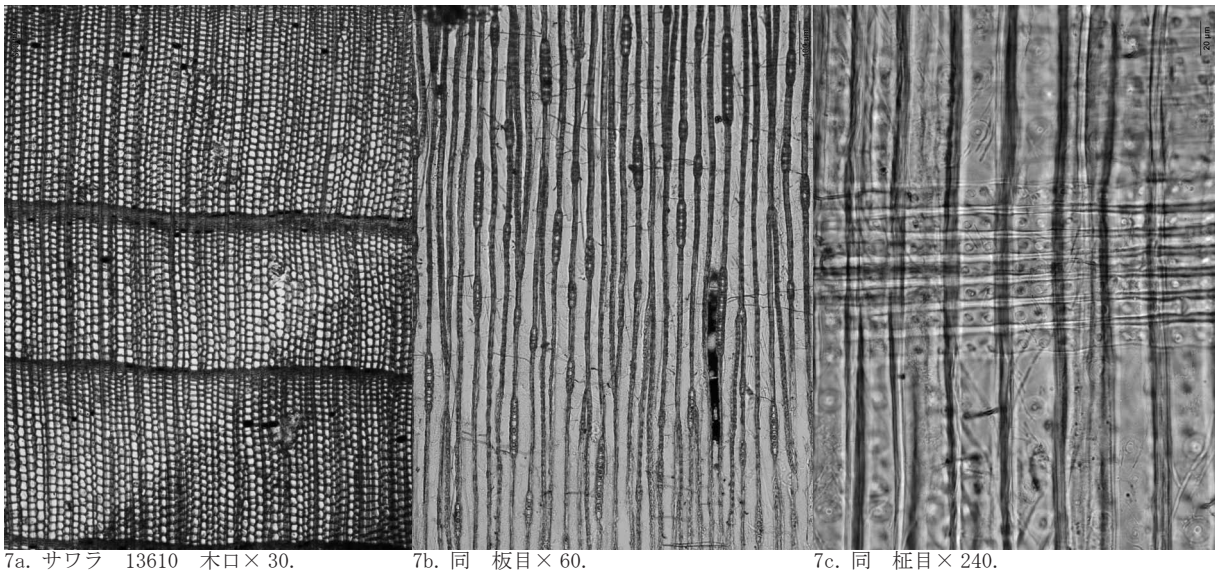


5a. イヌマキ属　14423　木口× 30.　　5b. 同　板目× 60.　　5c. 同　柾目× 240.

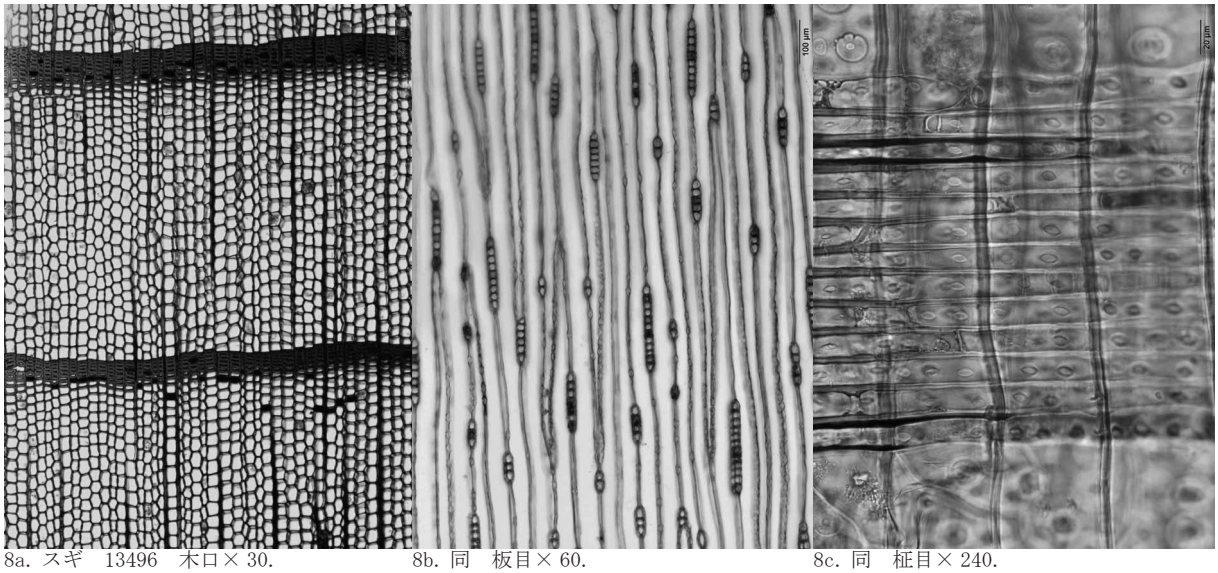


6a. ヒノキ　15370　木口× 30.　　6b. 同　板目× 60.　　6c. 同　柾目× 240.

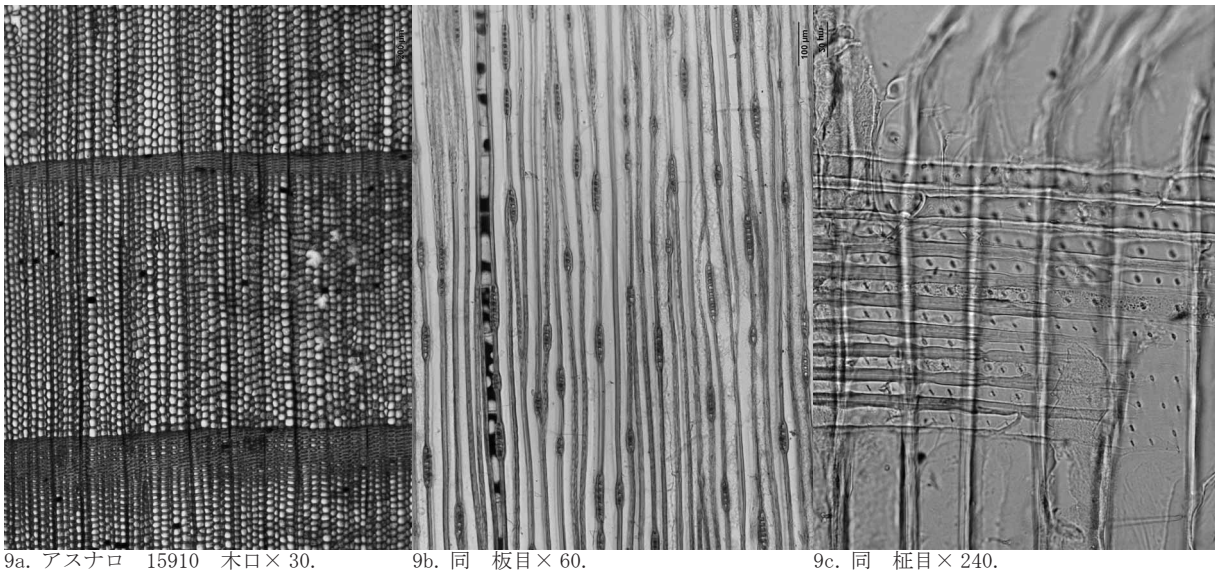
写真 20　出土木材　顕微鏡写真２



7a. サワラ　13610　木口× 30.　　7b. 同　板目× 60.　　7c. 同　柾目× 240.



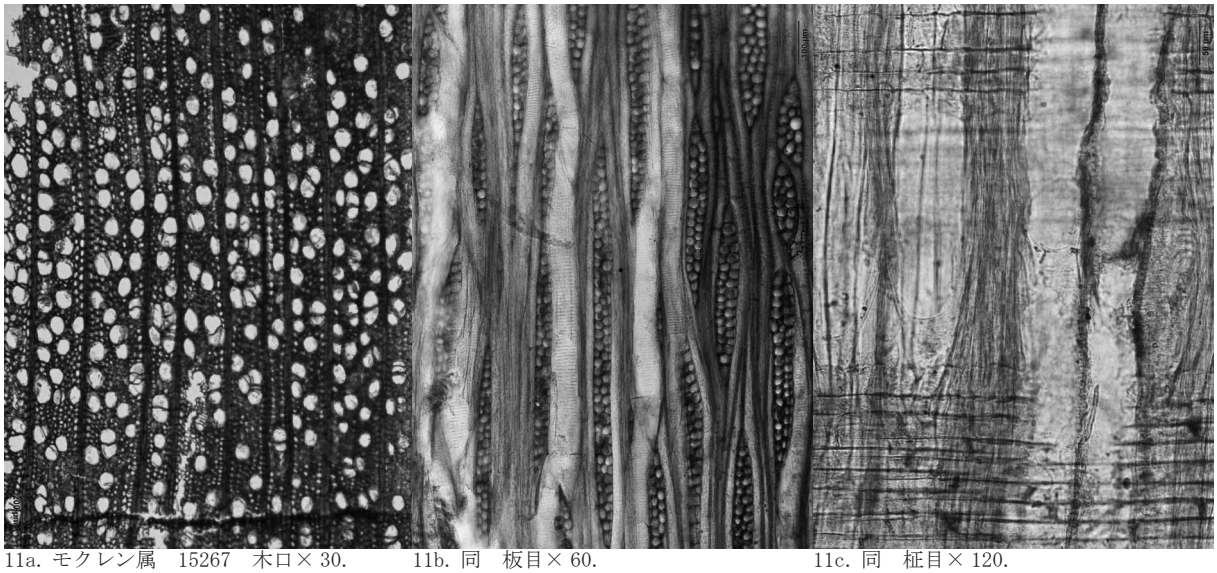
8a. スギ　13496　木口× 30.　　8b. 同　板目× 60.　　8c. 同　柾目× 240.



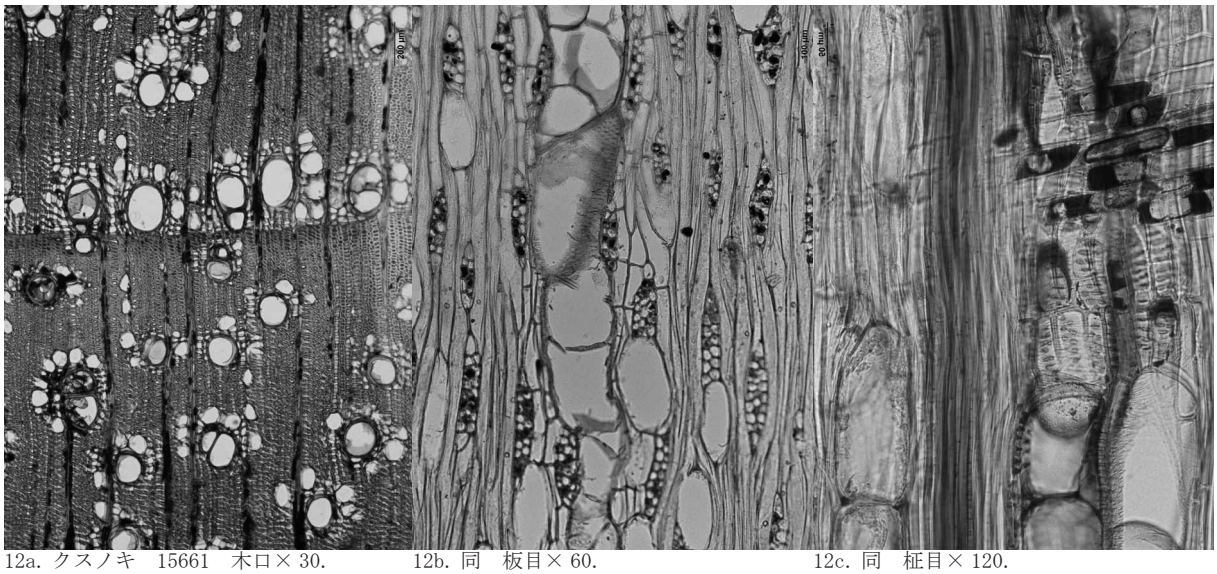
9a. アスナロ　15910　木口× 30.　　9b. 同　板目× 60.　　9c. 同　柾目× 240.

写真 21　出土木材　顕微鏡写真３

10a. イヌガヤ　15863　木口× 30.　　10b. 同　板目× 60.　　10c. 同　柾目× 240.

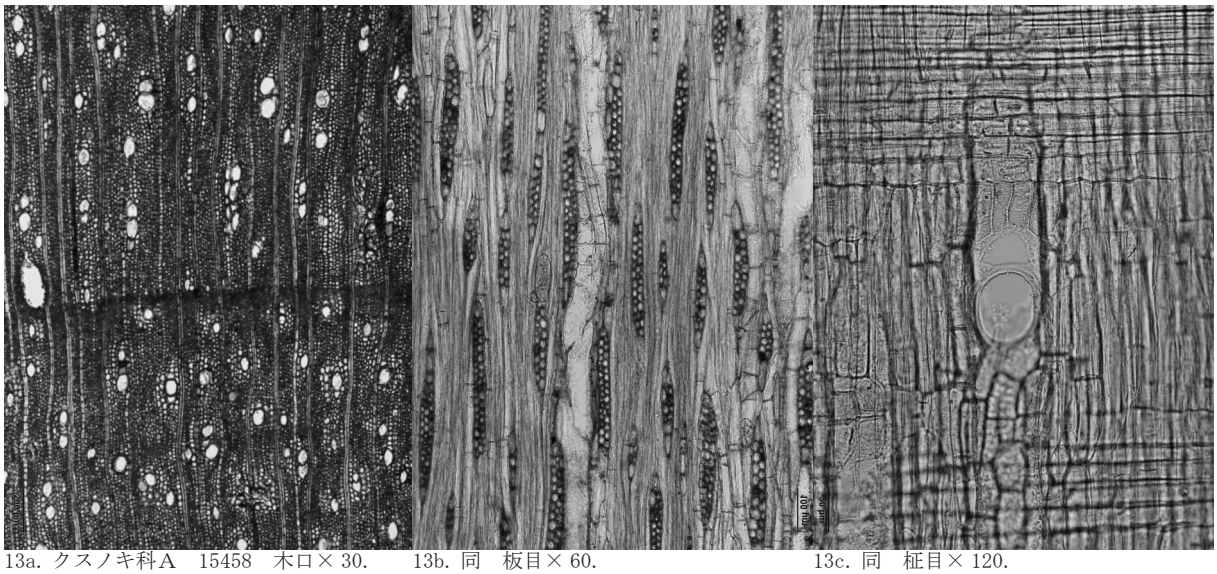


11a. モクレン属　15267　木口× 30.　　11b. 同　板目× 60.　　11c. 同　柾目× 120.

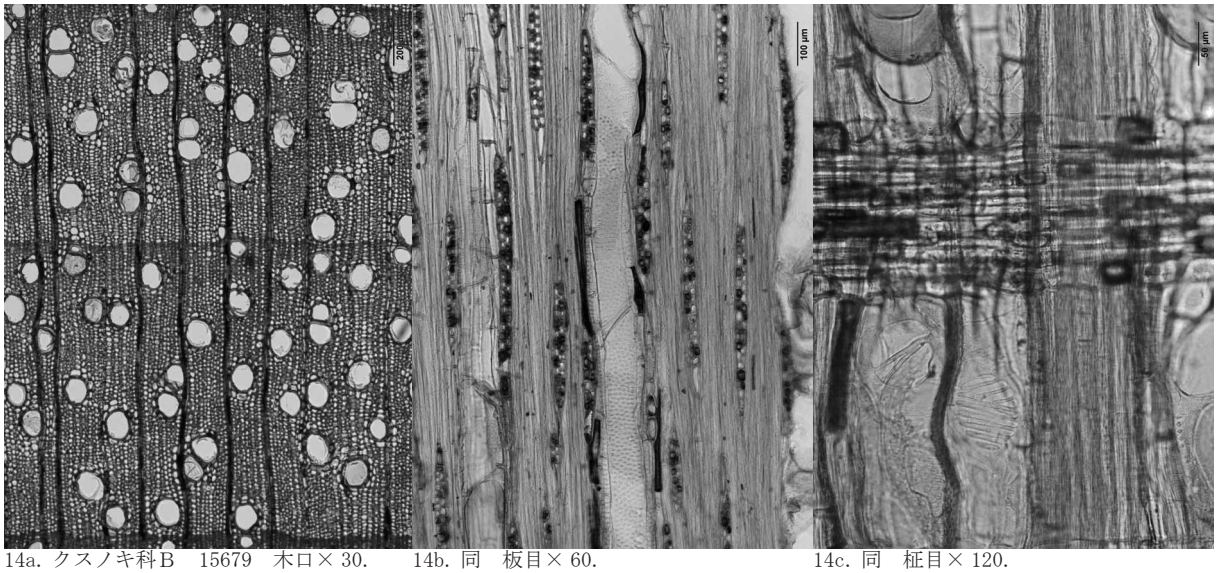


12a. クスノキ　15661　木口× 30.　　12b. 同　板目× 60.　　12c. 同　柾目× 120.

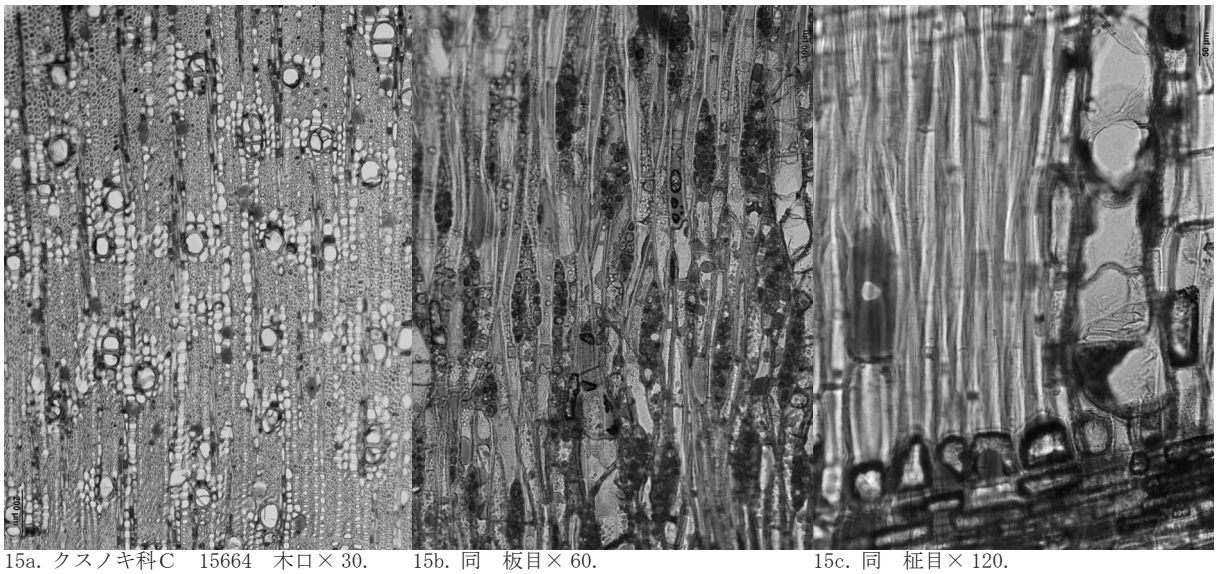
写真 22　出土木材　顕微鏡写真４



13a. クスノキ科Ａ　15458　木口× 30.　　13b. 同　板目× 60.　　13c. 同　柾目× 120.



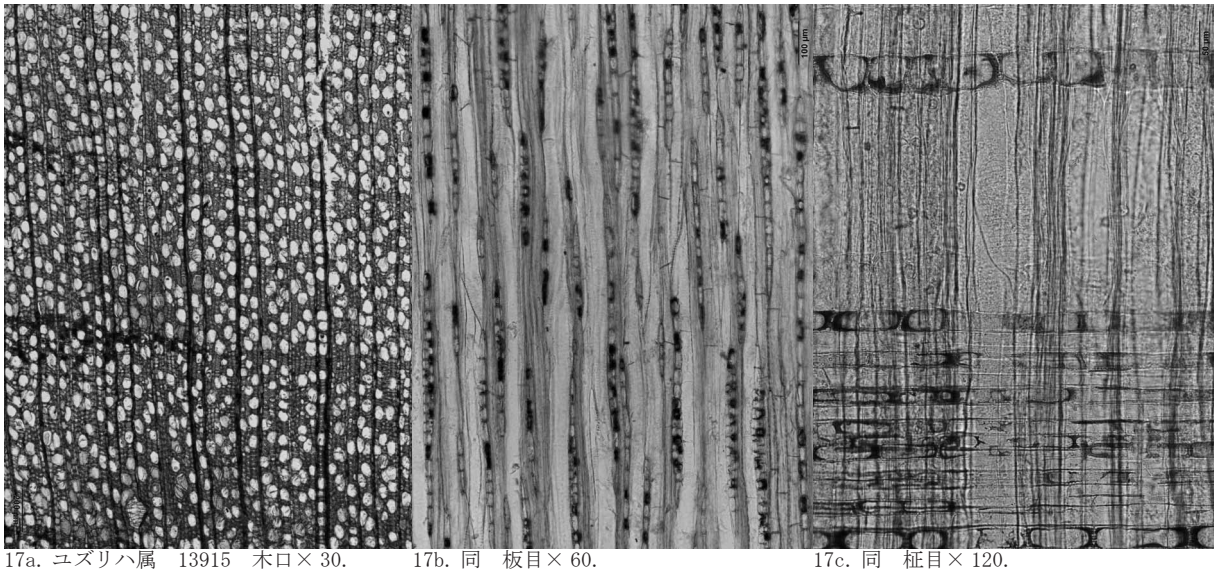
14a. クスノキ科Ｂ　15679　木口× 30.　　14b. 同　板目× 60.　　14c. 同　柾目× 120.



15a. クスノキ科Ｃ　15664　木口× 30.　　15b. 同　板目× 60.　　15c. 同　柾目× 120.

写真 23　出土木材　顕微鏡写真５

16a. アワブキ　15628　木口× 30.　　16b. 同　板目× 60.　　16c. 同　柾目× 120.

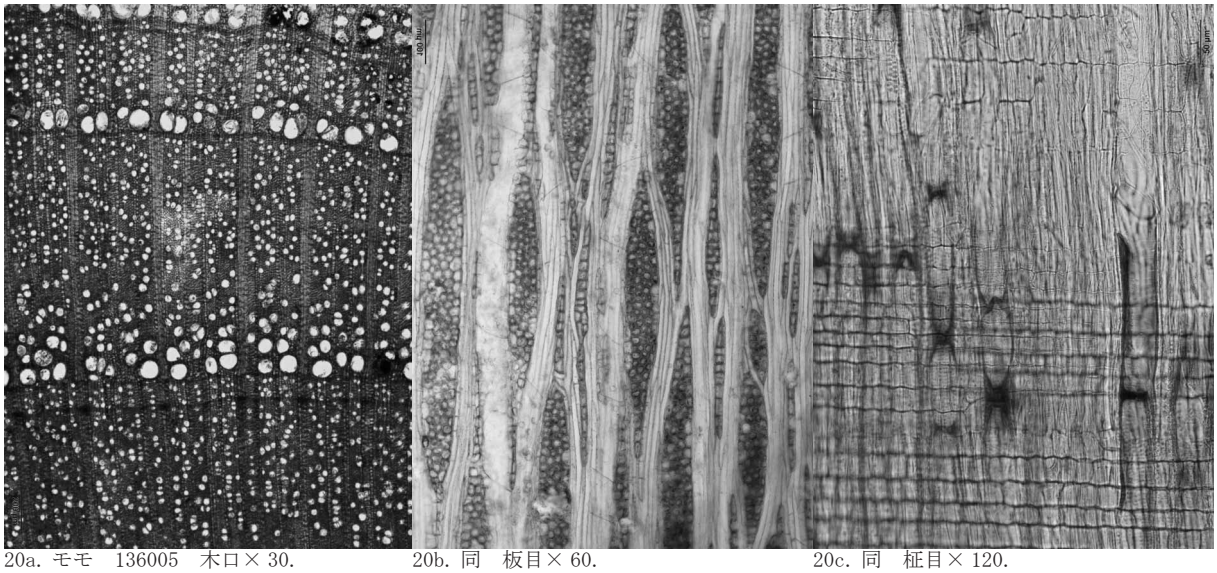


17a. ユズリハ属　13915　木口× 30.　　17b. 同　板目× 60.　　17c. 同　柾目× 120.

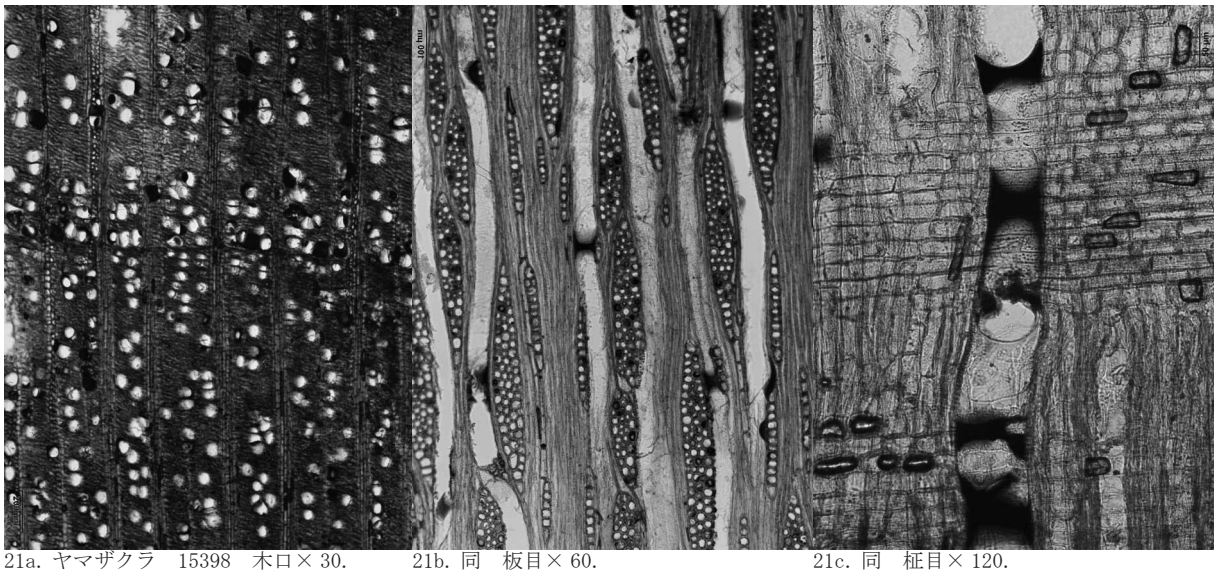
18a. ゴンズイ　15310　木口× 30.　　18b. 同　板目× 60.　　18c. 同　柾目× 120.

写真 24　出土木材　顕微鏡写真６

19a. フジ　15621　木口× 30.　　19b. 同　板目× 60.　　19c. 同　柾目× 120.

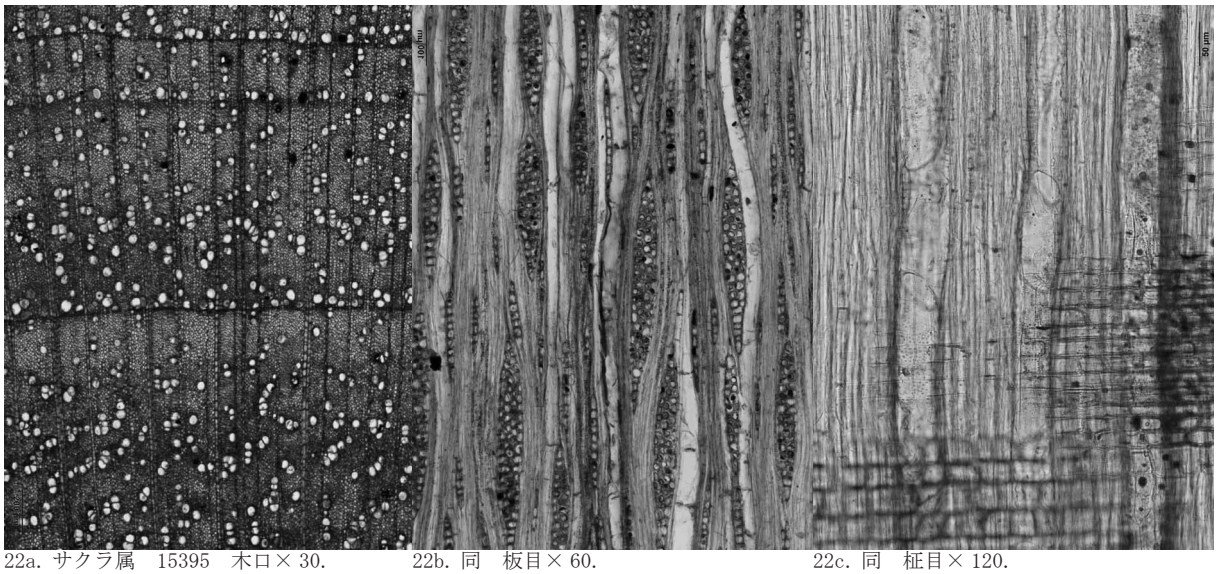


20a. モモ　136005　木口× 30.　　20b. 同　板目× 60.　　20c. 同　柾目× 120.



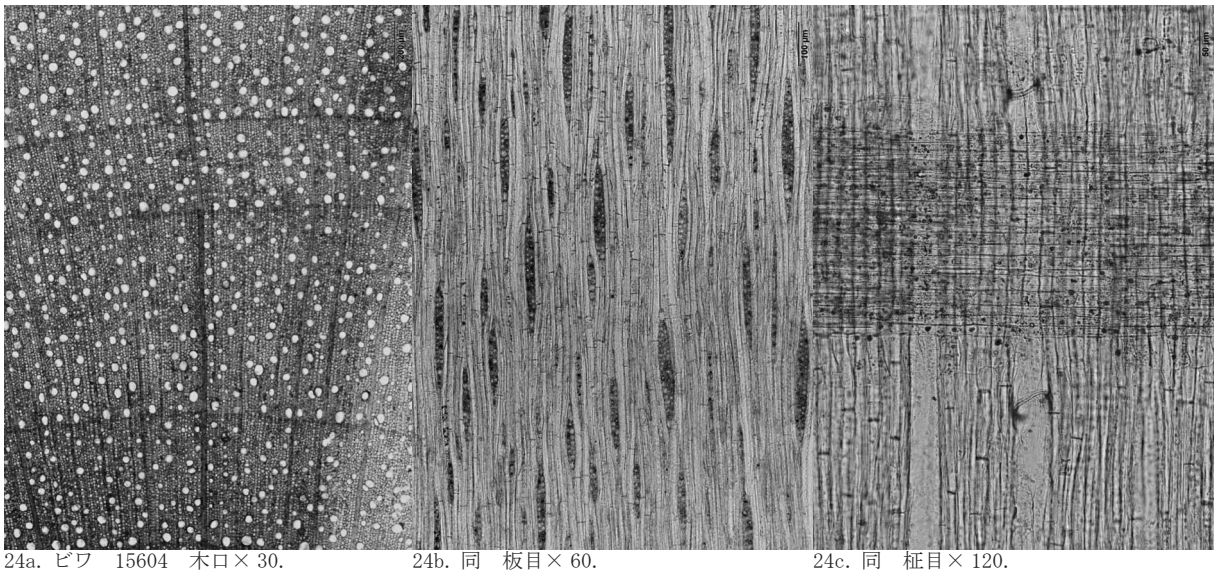
21a. ヤマザクラ　15398　木口× 30.　　21b. 同　板目× 60.　　21c. 同　柾目× 120.

写真 25　出土木材　顕微鏡写真 7



22a. サクラ属　15395　木口× 30.　22b. 同　板目× 60.　22c. 同　柾目× 120.

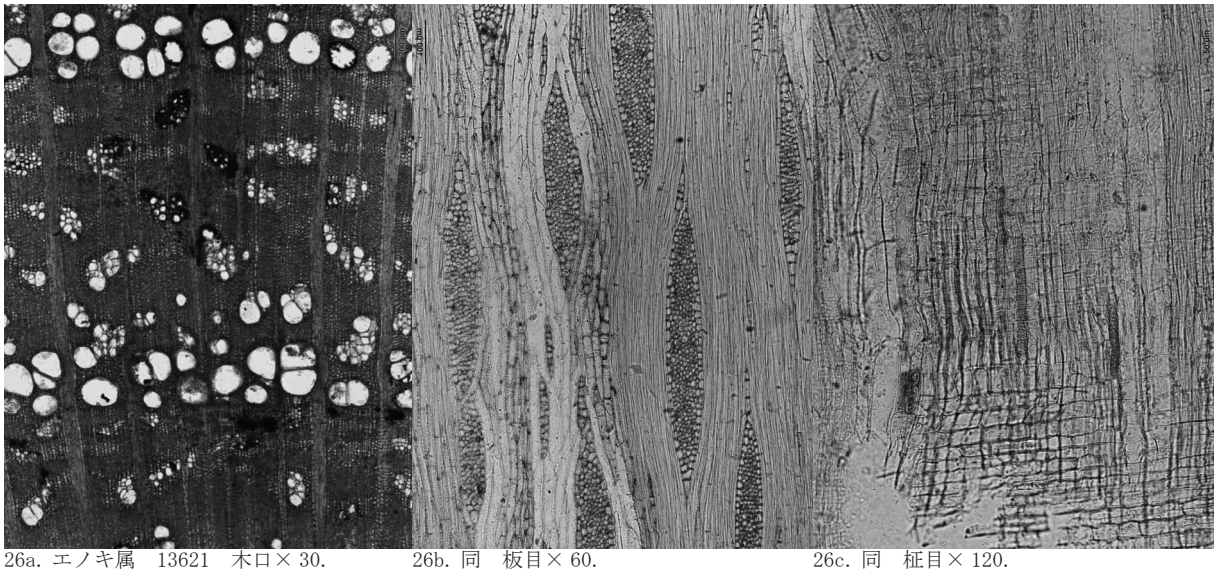
23a. サクラ属樹皮　15823　木口 120.　23b. 同　板目× 240.　23c. 同　柾目× 240.



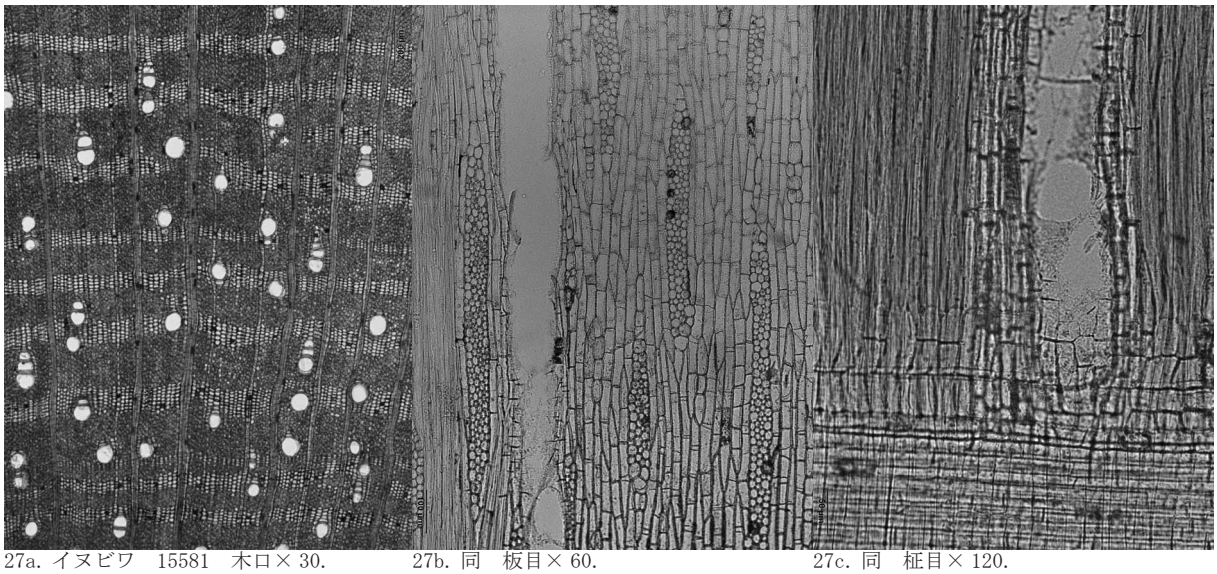
24a. ビワ　15604　木口× 30.　24b. 同　板目× 60.　24c. 同　柾目× 120.

写真 26　出土木材　顕微鏡写真８

25a. ケヤキ　13610　木口× 30.　　25b. 同　板目× 60.　　25c. 同　柾目× 120.

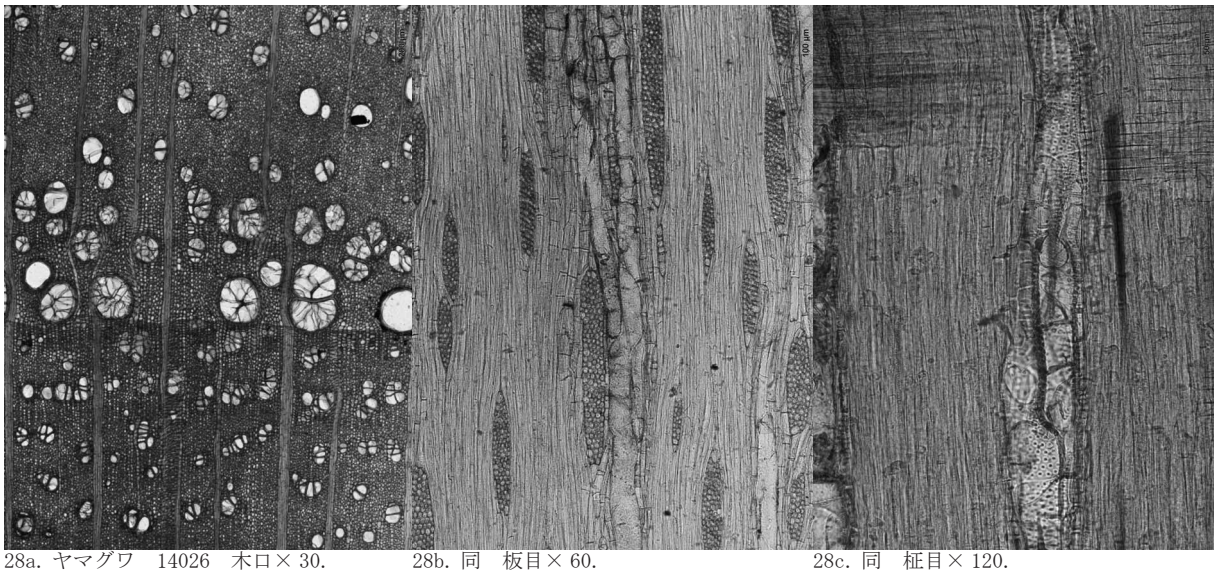


26a. エノキ属　13621　木口× 30.　　26b. 同　板目× 60.　　26c. 同　柾目× 120.

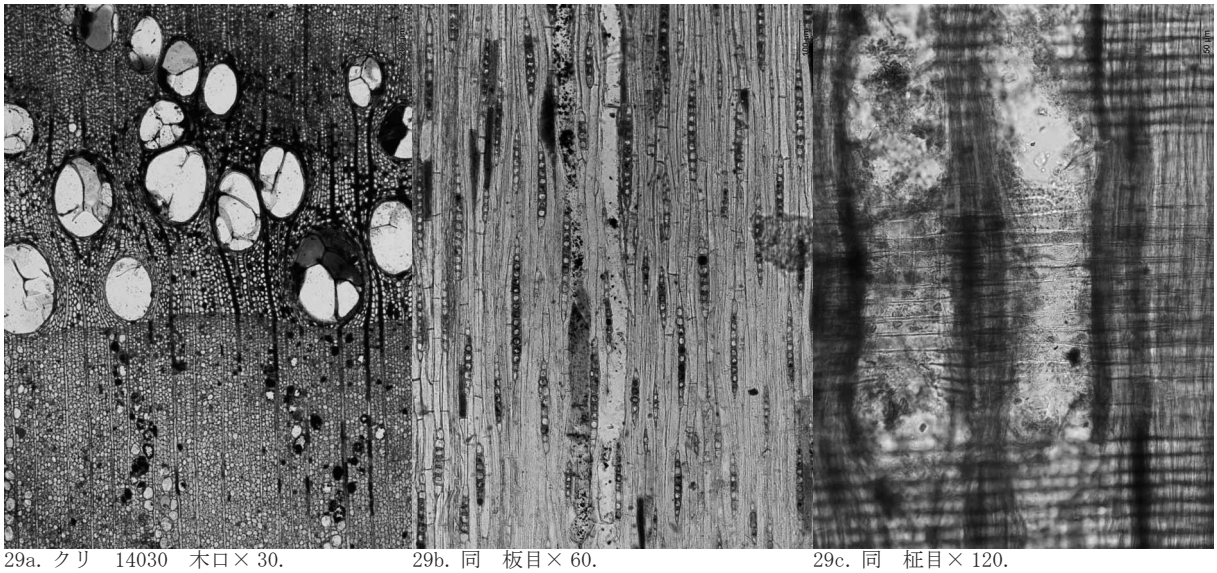


27a. イヌビワ　15581　木口× 30.　　27b. 同　板目× 60.　　27c. 同　柾目× 120.

写真 27　出土木材　顕微鏡写真９



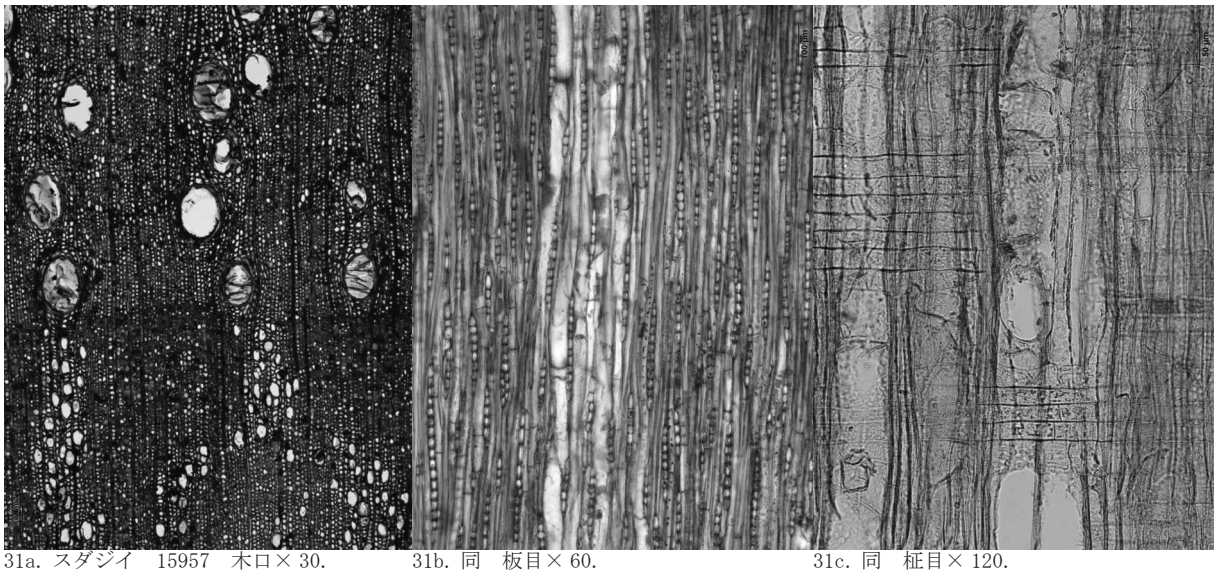
28a. ヤマグワ　14026　木口× 30.　28b. 同　板目× 60.　28c. 同　柾目× 120.



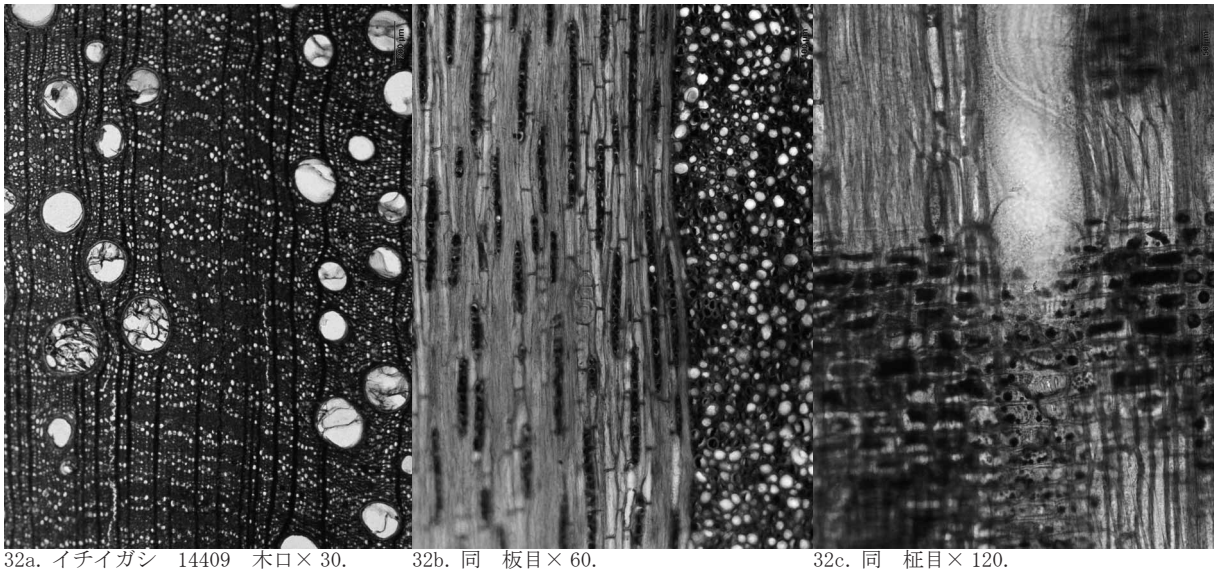
29a. クリ　14030　木口× 30.　29b. 同　板目× 60.　29c. 同　柾目× 120.

30a. ツブラジイ　14024　木口× 30.　30b. 同　板目× 60.　30c. 同　柾目× 120.

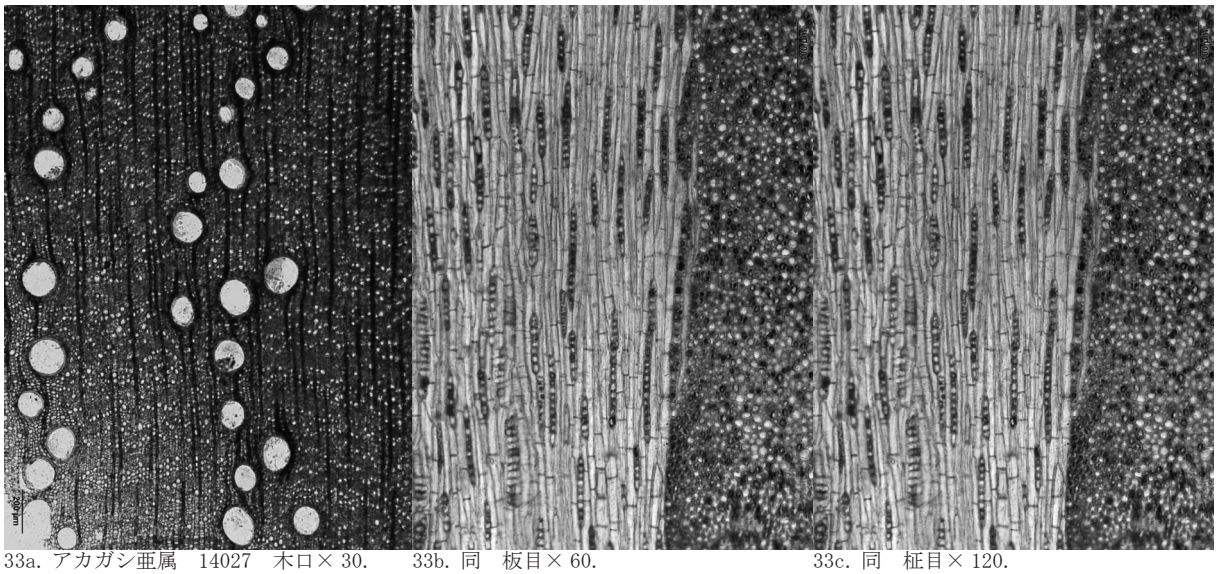
写真 28　出土木材　顕微鏡写真 10



31a. スダジイ　15957　木口× 30.　31b. 同　板目× 60.　31c. 同　柾目× 120.



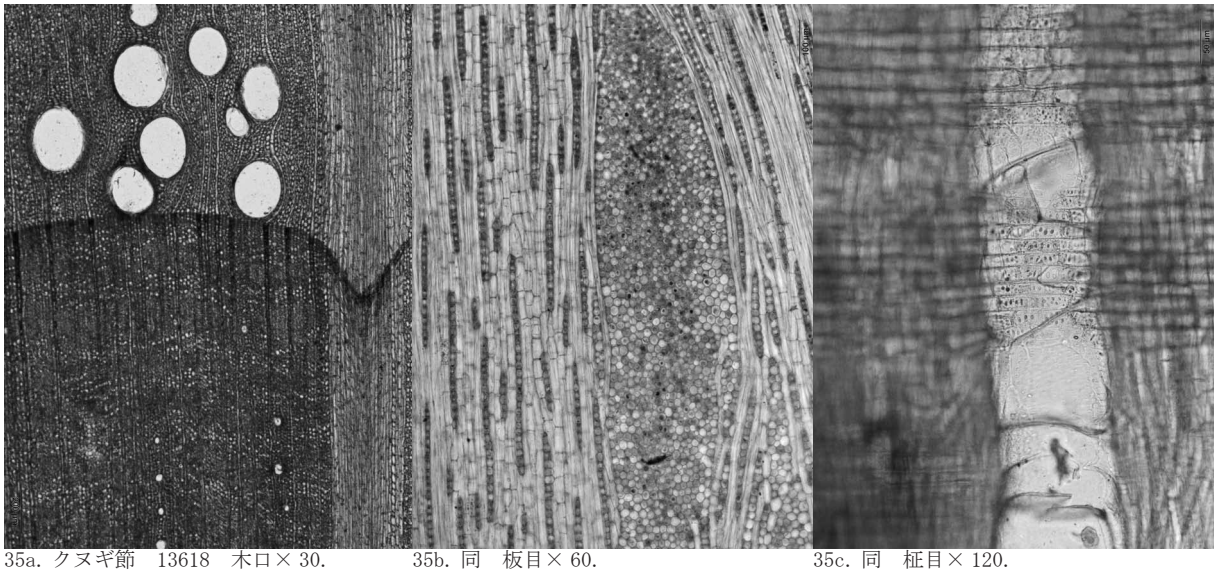
32a. イチイガシ　14409　木口× 30.　32b. 同　板目× 60.　32c. 同　柾目× 120.



33a. アカガシ亜属　14027　木口× 30.　33b. 同　板目× 60.　33c. 同　柾目× 120.

写真 29　出土木材　顕微鏡写真 11

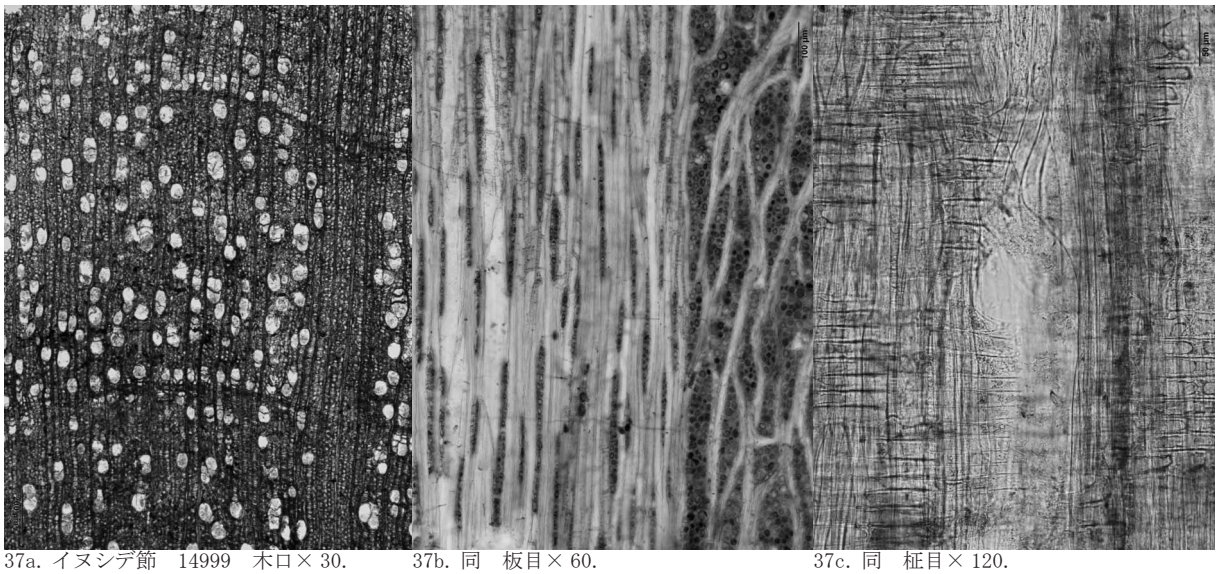
34a. ウバメガシ　15260　木口× 30.　　34b. 同　板目× 60.　　34c. 同　柾目× 120.



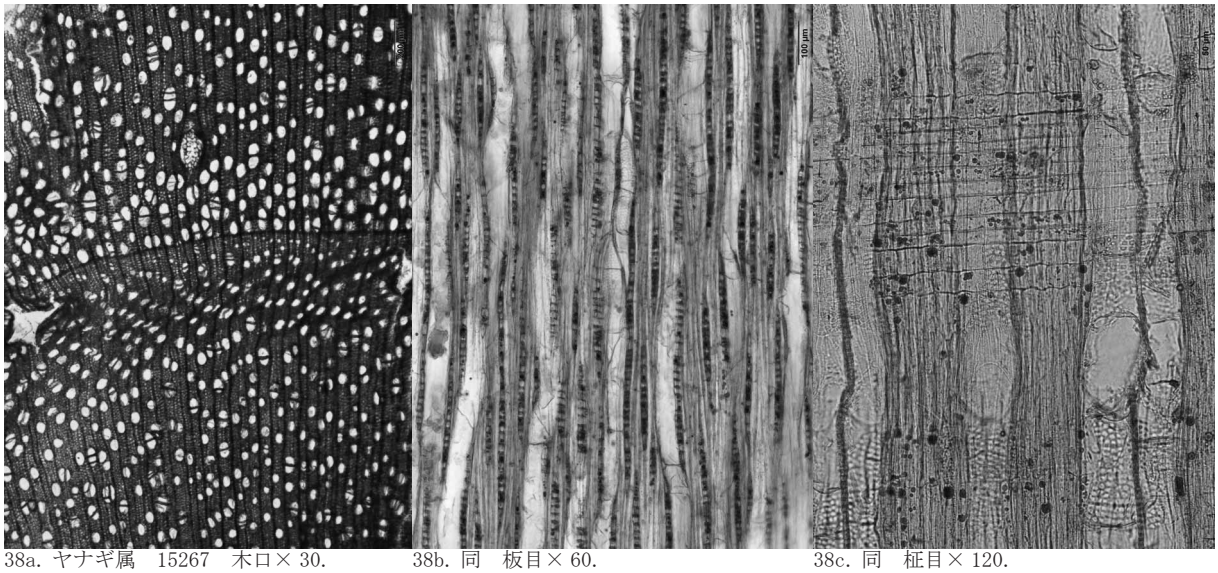
35a. クヌギ節　13618　木口× 30.　　35b. 同　板目× 60.　　35c. 同　柾目× 120.

36a. コナラ節　15313　木口× 30.　　36b. 同　板目× 60.　　36c. 同　柾目× 120.

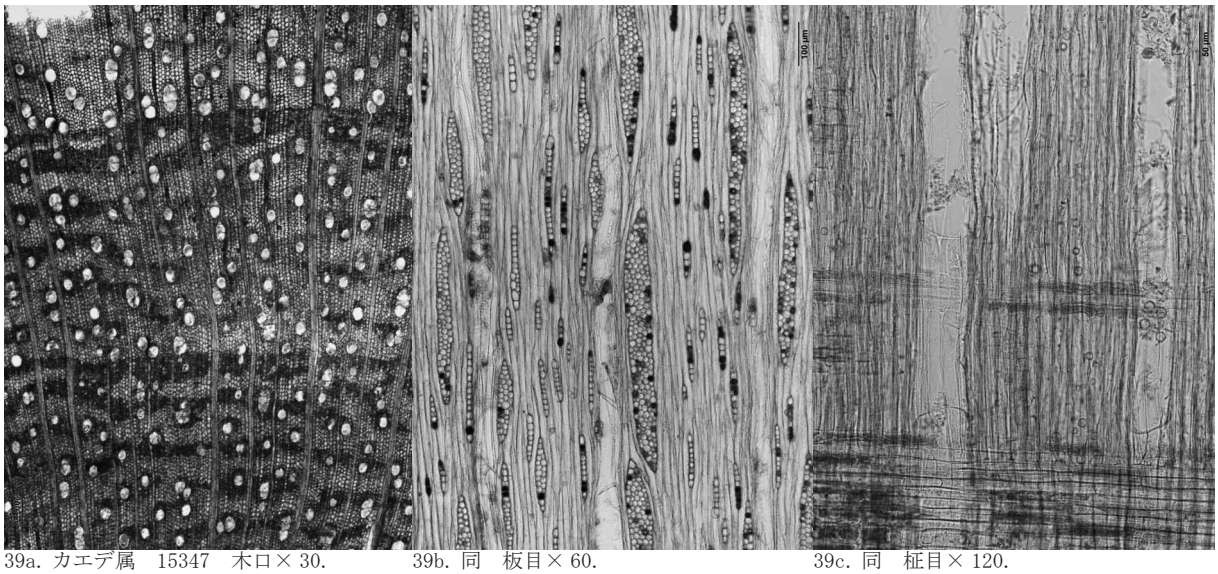
写真 30　出土木材　顕微鏡写真 12



37a. イヌシデ節　14999　木口× 30.　　37b. 同　板目× 60.　　37c. 同　柾目× 120.

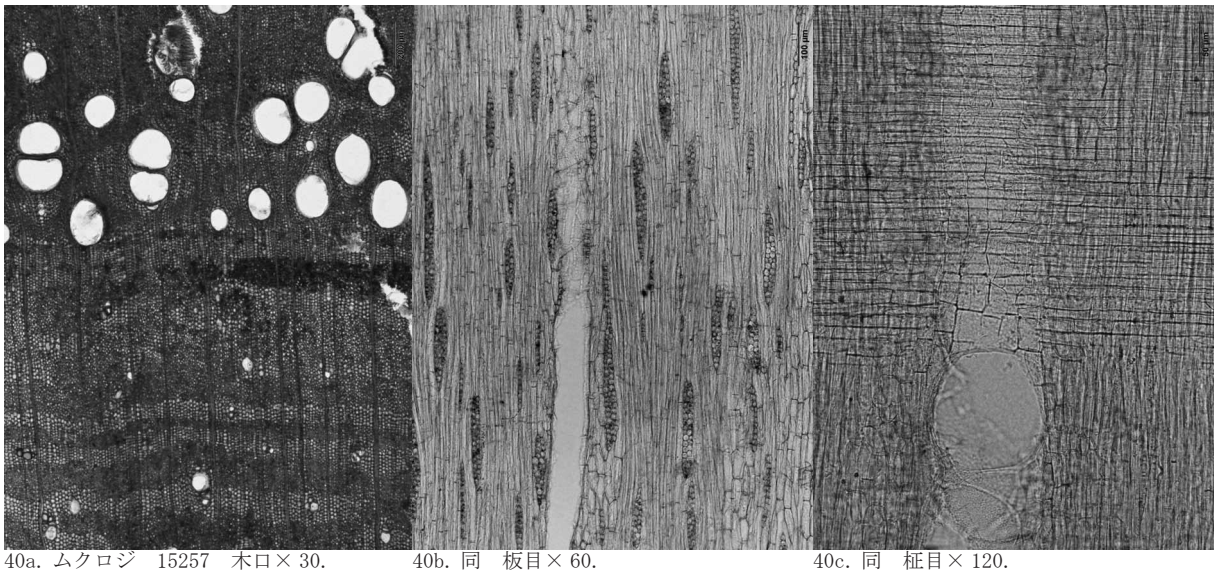


38a. ヤナギ属　15267　木口× 30.　　38b. 同　板目× 60.　　38c. 同　柾目× 120.

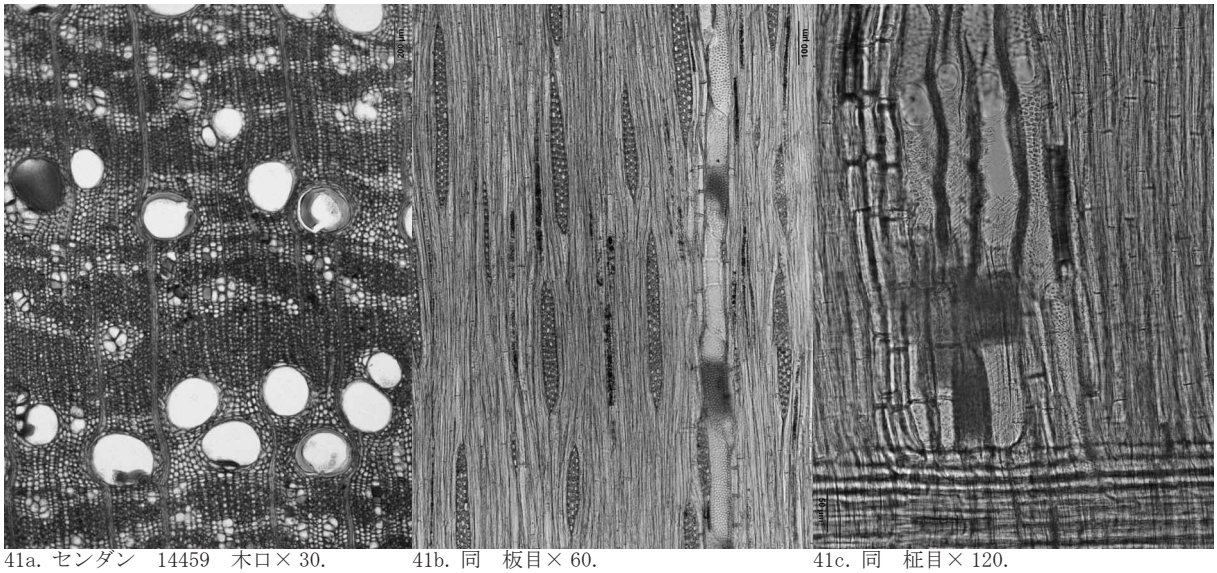


39a. カエデ属　15347　木口× 30.　　39b. 同　板目× 60.　　39c. 同　柾目× 120.

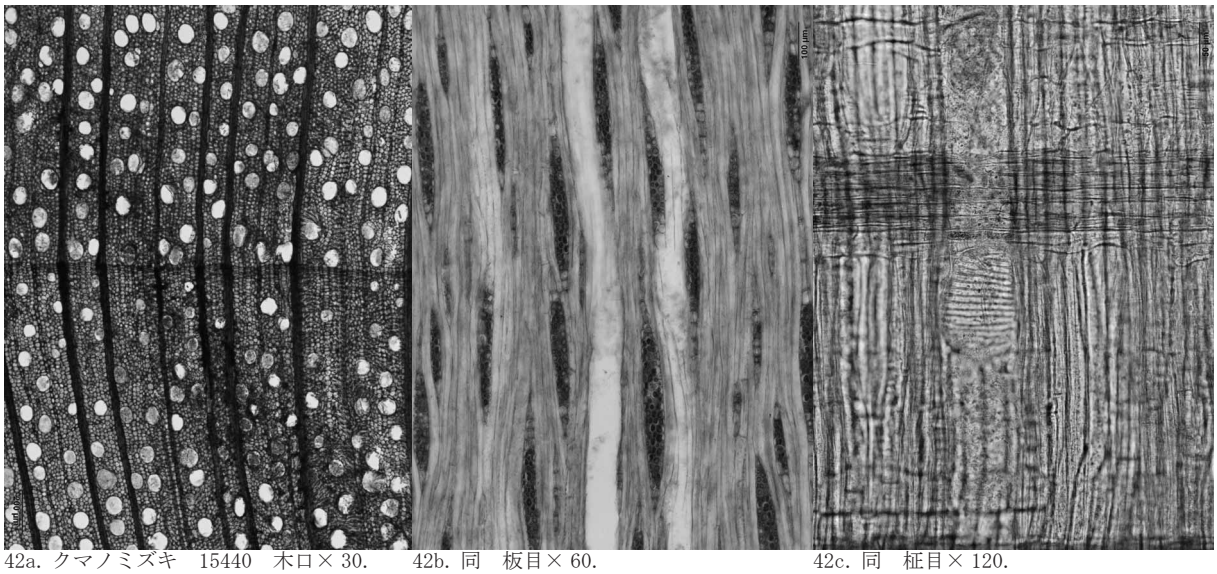
写真 31　出土木材　顕微鏡写真 13



40a. ムクロジ　15257　木口× 30.　40b. 同　板目× 60.　40c. 同　柾目× 120.

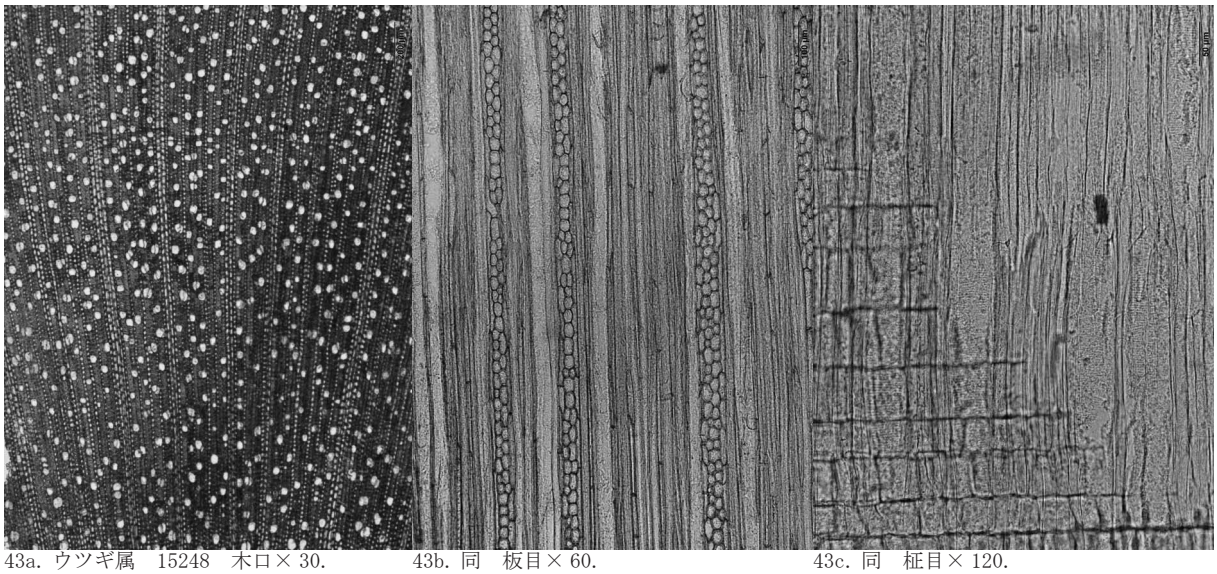


41a. センダン　14459　木口× 30.　41b. 同　板目× 60.　41c. 同　柾目× 120.

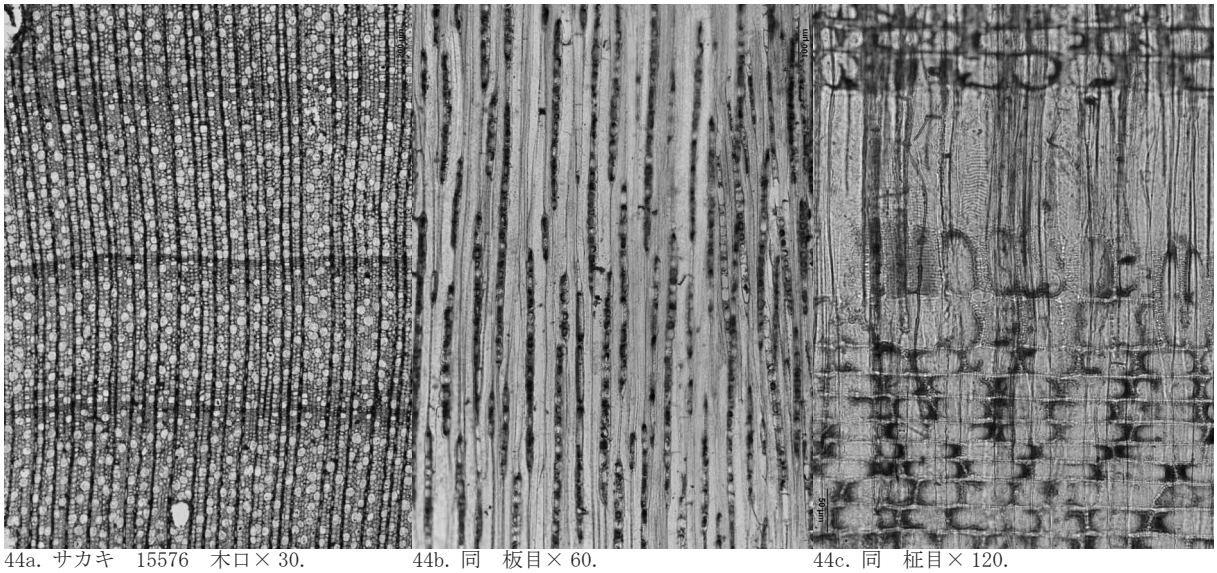


42a. クマノミズキ　15440　木口× 30.　42b. 同　板目× 60.　42c. 同　柾目× 120.

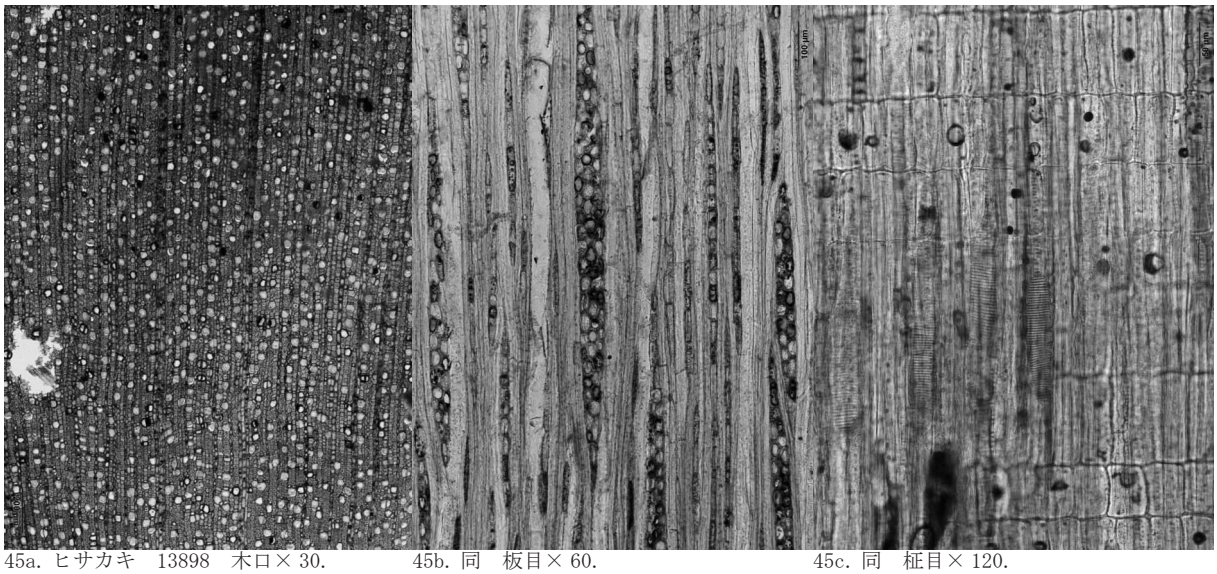
写真 32　出土木材　顕微鏡写真 14



43a. ウツギ属　15248　木口× 30.　　43b. 同　板目× 60.　　43c. 同　柾目× 120.

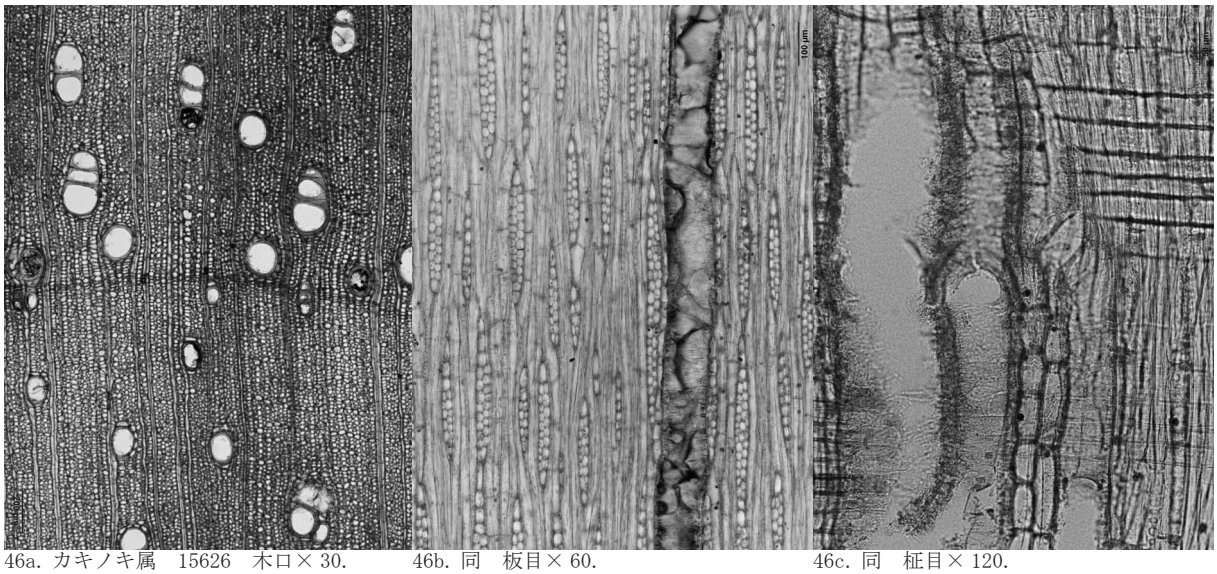


44a. サカキ　15576　木口× 30.　　44b. 同　板目× 60.　　44c. 同　柾目× 120.

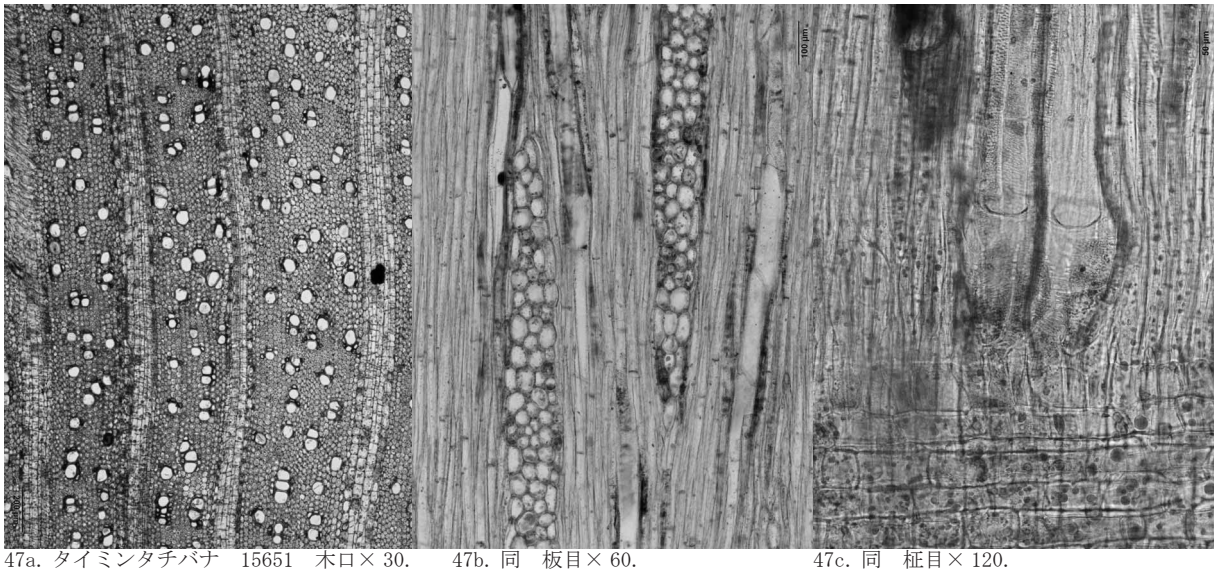


45a. ヒサカキ　13898　木口× 30.　　45b. 同　板目× 60.　　45c. 同　柾目× 120.

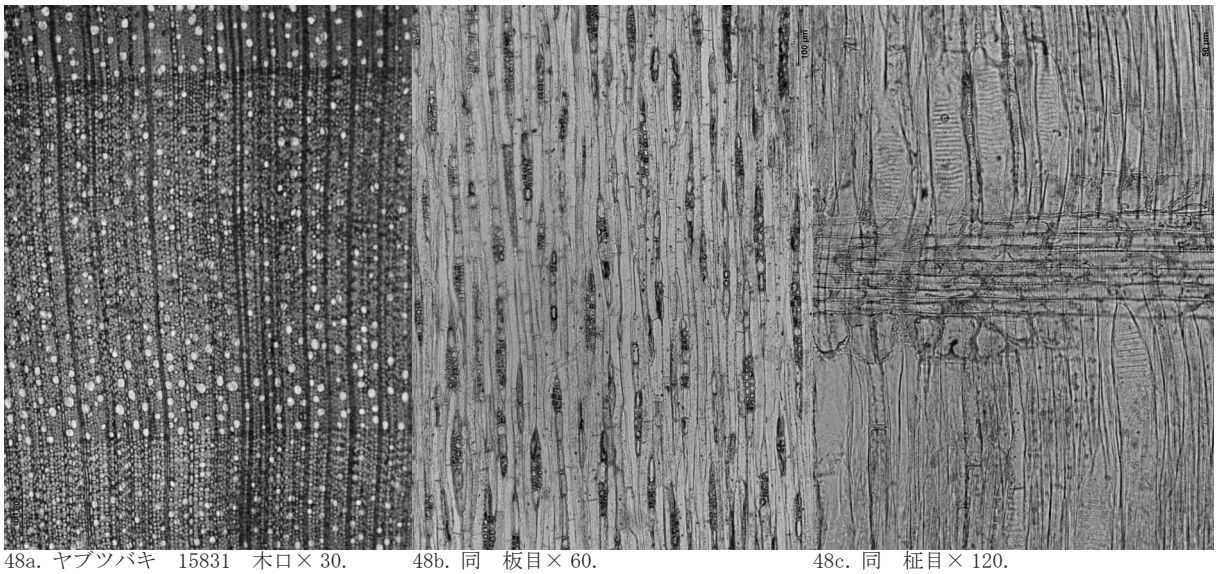
写真 33　出土木材　顕微鏡写真 15



46a. カキノキ属　15626　木口× 30.　　46b. 同　板目× 60.　　46c. 同　柾目× 120.

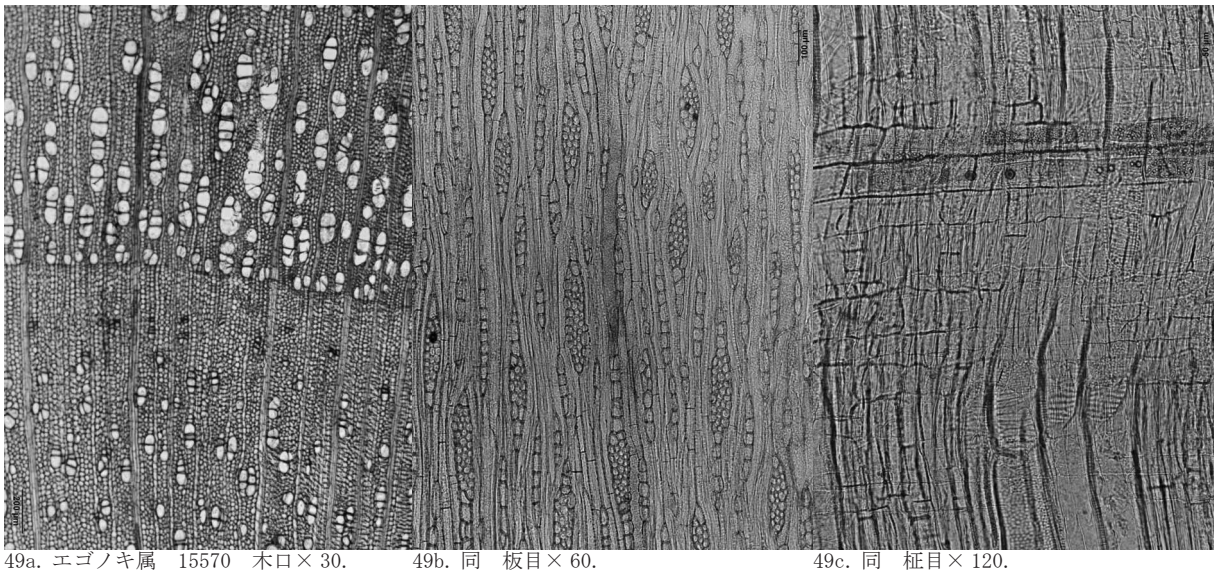


47a. タイミンタチバナ　15651　木口× 30.　　47b. 同　板目× 60.　　47c. 同　柾目× 120.



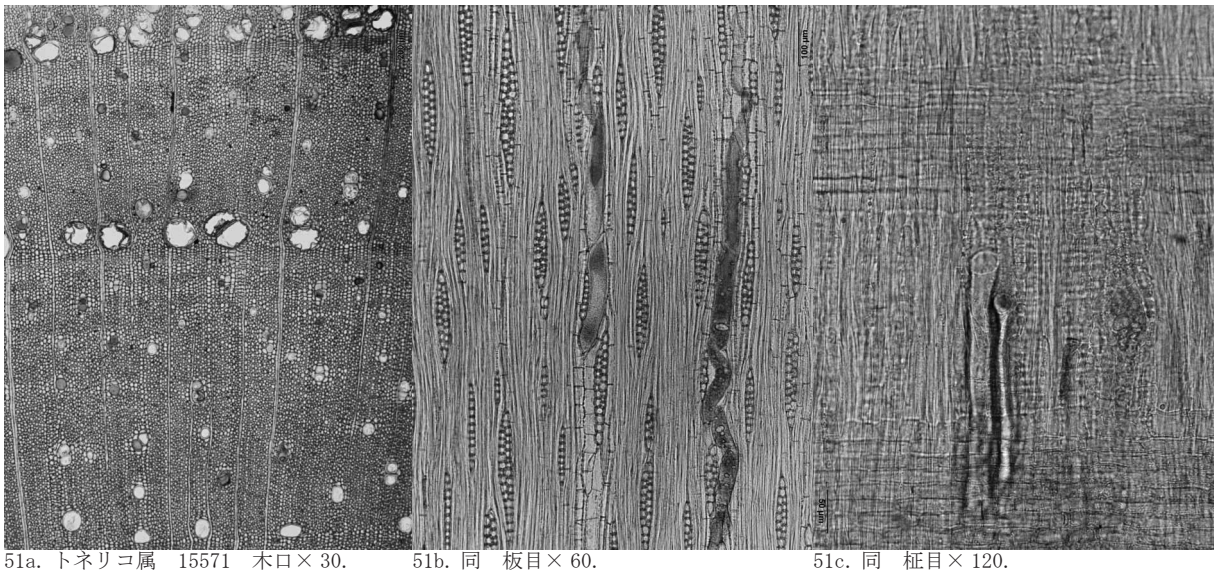
48a. ヤブツバキ　15831　木口× 30.　　48b. 同　板目× 60.　　48c. 同　柾目× 120.

写真 34　出土木材　顕微鏡写真 16



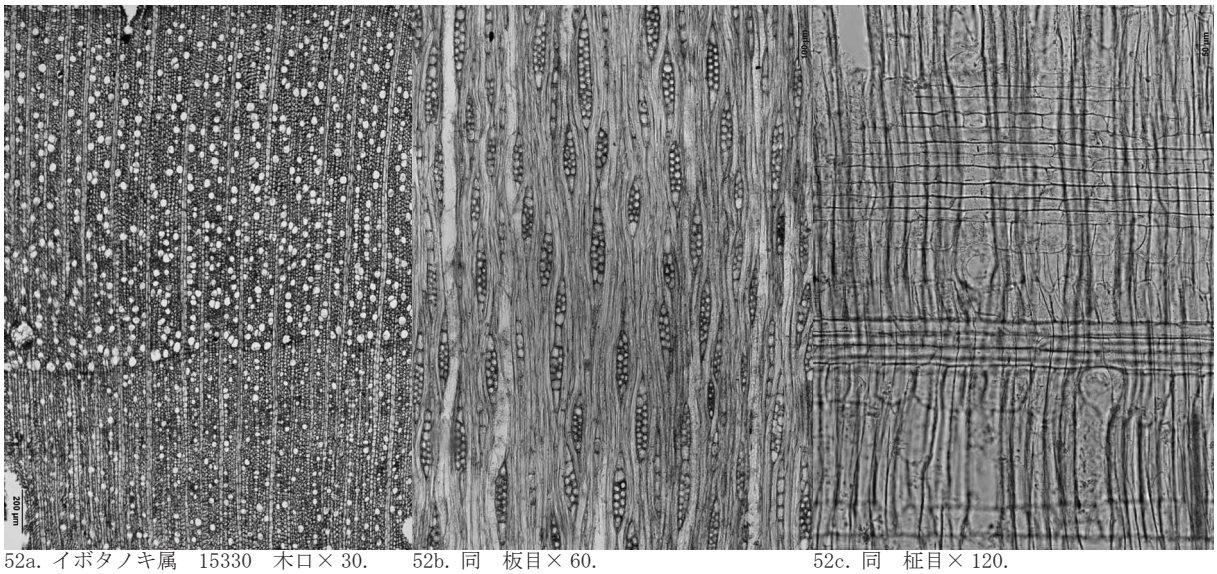
49a. エゴノキ属　15570　木口× 30.　　49b. 同　板目× 60.　　49c. 同　柾目× 120.

50a. シャシャンボ　13624　木口× 30.　　50b. 同　板目× 60.　　50c. 同　柾目× 120.

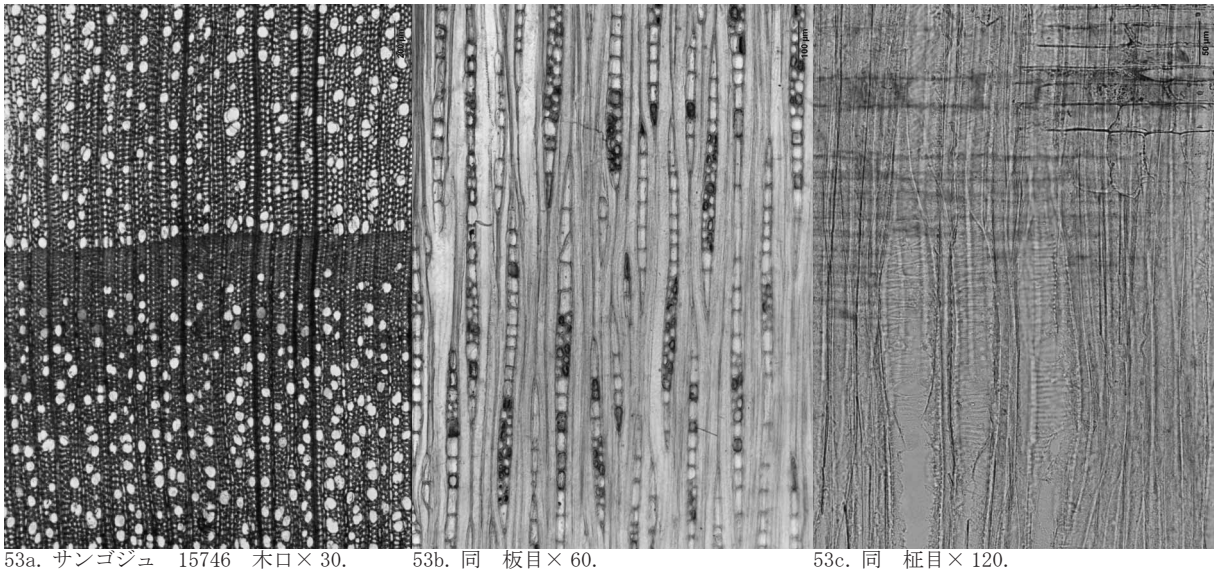


51a. トネリコ属　15571　木口× 30.　　51b. 同　板目× 60.　　51c. 同　柾目× 120.

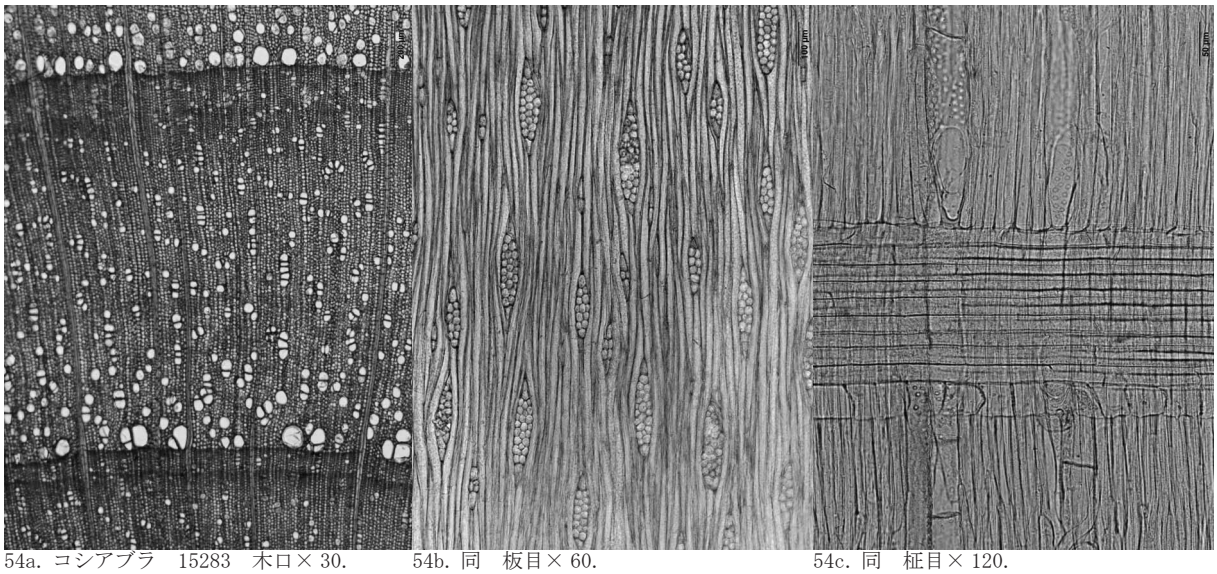
写真 35　出土木材　顕微鏡写真 17



52a. イボタノキ属　15330　木口× 30.　　52b. 同　板目× 60.　　52c. 同　柾目× 120.



53a. サンゴジュ　15746　木口× 30.　　53b. 同　板目× 60.　　53c. 同　柾目× 120.



54a. コシアブラ　15283　木口× 30.　　54b. 同　板目× 60.　　54c. 同　柾目× 120.

写真 36　出土木材　顕微鏡写真 18

引用・参考文献

足立順司　2011 「まとめ」『七社神社遺跡』 静岡県埋蔵文化財調査研究所

石川和明他 『静岡県菊川市白岩遺跡・横地遺跡発掘調査報告書』 2015　白岩遺跡発掘調査団

伊東隆夫・山田昌久編　2012 『木の考古学　出土木製品用材データベース』 青海社

宇野隆夫　2001 『荘園の考古学』(シリーズ日本史のなかの考古学)　青木書店

大谷宏治　2010 「上平川大塚古墳の研究」『静岡県考古学研究』41・42 合併号　静岡県考古学会

小笠町教育委員会　1982 『嶺田遺跡』 建設省中部地方建設局・静岡県教育委員会・小笠町教育委員会

小笠町教育委員会　1983 『嶺田遺跡』 建設省中部地方建設局・静岡県教育委員会・小笠町教育委員会

小笠町教育委員会　1990 『宮ノ前遺跡発掘調査報告書』(静岡県小笠郡)

小笠町教育委員会　1991 『寺の谷３号墳発掘調査報告書』

小笠町教育委員会　2001 『川田・東原田遺跡』

笠原潔　2004 『埋もれた楽器―音楽考古学の現場から―』 春秋社

菊川市教育委員会　2006 『赤土政所遺跡発掘調査報告書－第１次調査－』

菊川市教育委員会　2006 『祢宜屋敷遺跡調査報告書』

菊川市教育委員会　2007 『大鹿横穴群Ｂ群発掘調査報告書』

菊川シンポジウム実行委員会　2005 『陶磁器から見る静岡県の中世社会』

菊川町教育委員会　1983 『石畑遺跡　昭和 57 年度発掘調査概報』

菊川町教育委員会　1983 『白岩遺跡発掘調査概報』

菊川町教育委員会　1984 『石畑遺跡　発掘調査報告書』

菊川町教育委員会　1985 『三沢西原遺跡』

菊川町教育委員会　1999 『横地城跡－総合調査報告書－』

菊川町教育委員会　2000 『横地城跡－総合調査報告書－』

菊川町教育委員会　2001 『土橋遺跡』(静岡県小笠郡)

菊川町教育委員会　2002 『宮の西遺跡』

西郷藤八　2010 「上平川大塚古墳覚書」『静岡県考古学研究』41・42 合併号　静岡県考古学会

佐藤由紀男・萩野谷正宏・篠原和大　2002 「遠江・駿河地域」『弥生土器の様式と編年』東海編　木耳社

静岡県埋蔵文化財調査研究所　1992 『平尾野添横穴群』

静岡県埋蔵文化財調査研究所　2008 『菊川市下平川の遺跡』

静岡県埋蔵文化財調査研究所　2008 『法明寺古墳』

静岡県埋蔵文化財調査研究所　2009a 『白岩遺跡・白岩下遺跡』

静岡県埋蔵文化財調査研究所　2009b 『法明寺古墳』

静岡県埋蔵文化財調査研究所　2010 『合代島丘陵の古墳群』

静岡県埋蔵文化財調査研究所　2011 『七社神社遺跡他』

静岡県埋蔵文化財センター　2012 『寺家前遺跡Ⅰ (古代・中～近世編)』

静岡県教育委員会　2003 『静岡県の古代寺院・官衙遺跡』

静岡県考古学会　2006 『古代の役所と寺院』

静岡県考古学会　2013 『考古学からみた静岡の自然災害と復興』

鈴木一有　2002 「古墳時代前期にかんする諸問題」『恒武西宮遺跡』 浜松市文化協会

鈴木一有　2009 「考察」『北神宮寺遺跡』 浜松市文化振興財団

鈴木敏則　1986 「遠江」『欠山式土器とその前後』 第３回東海埋蔵文化財研究会

田辺昭三　1972 『小笠郡加茂村白岩下流遺跡調査報告』 森町考古研究会
東海土器研究会　2015 『灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開－第３回東海土器研究会－』
中嶋郁夫　1997 「東海東部の古式土師器」『静岡県史研究』13　静岡県
奈良国立文化財研究所　1985 『木器集成図録　近畿古代編』
平野吾郎　2014 「中世における武士屋敷の一類型－寺家前遺跡の性格をめぐって－」『古代』第 136 号
早稲田大学考古学会
文化財保護委員会　1966 『発掘調査の手引き』
文化庁文化財部記念物課監修　2010 『発掘調査のてびき』 同成社
松井一明　2006 「官衙の地域色と集落」『古代役所と寺院』 静岡県考古学会
松井一明・木村弘之・溝口彰啓　2009 「遠江・駿河地域の中世石塔の出現と展開
－静岡県下における中世石塔の研究５－」『研究紀要』32 号　静岡県博物館協会
丸杉俊一郎　2003 「遺物から見た官衙遺跡」『静岡県の古代寺院・官衙遺跡』静岡県教育委員会
丸杉俊一郎　2007 「考察」『井通遺跡』 静岡県埋蔵文化財調査研究所
丸杉俊一郎　2012 「小規模総柱建物の存在形態」『研究紀要』創刊号　静岡県埋蔵文化財センター
明星大学考古学研究室　1986 『大淵ヶ谷・篠ヶ谷・西宮浦』
山田光洋　1998 『ものが語る歴史　1　楽器の考古学』 同成社
龍昌山安興寺本堂建設委員会　2004 『釜太夫横穴群Ｅ群発掘調査報告書』
龍昌山安興寺本堂建設委員会・小笠町教育委員会

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
1		1	SK403	土師器	壷	40	(14.0)	(16.6)		灰白 7.5Y7/1	灰色粒子、小礫	摩滅のため不明・ナデ・ハケ・指押さえ	最大径：(16.8) ㎝
2	39	1	SK404	土師器	高坏	50	10.4	(6.7)		橙 5YR6/6 橙 2.5 Ｙ Ｒ 6/6		ハケ・ナデ・ 摩滅のため不明瞭	接合部径：2.8 ㎝
3		1	SK404	土師器	高坏	70	(14.0)	(9.5)		にぶい橙 5YR7/4	白色粒子	摩滅のため不明	
4		1	SK404	土師器	高坏	40	(14.2)	(9.7)		にぶい橙 5YR7/4	白色小礫	摩滅のため不明	
5		1	SK404	土師器	高坏	45		(6.9)	(9.2)	橙 2.5Y6/8	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
6		1	SK404	土師器	高坏	20		(3.3)	10.6	橙 2.5YR7/6	赤色・白色粒子	ナデ	
7	39	1	SK404	土師器	小型壷	80	(10.2)	(7.1)		にぶい橙 2.5YR6/4	白色礫、雲母	摩滅のため不明	体部径：(10.2) ㎝
8		1	SK404	土師器	甕	5	(14.2)	(5.0)		灰黄 2.5Y7/2	白色・灰色礫	ナデ・ハケ目	最大径：(18.0) ㎝
9	39	1	SK404	土師器	壷	50		(16.7)		浅黄橙 7.5YR8/3	7 ㎜以下灰色礫		最大径：(21.6) ㎝
10	39	1	SK404	土師器	台付甕	30		(6.1)	8.3	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色礫	ハケ目・ナデ	
11		1	SK404	土師器	台付甕	20		(7.4)	(10.0)	褐灰 10YR6/1	白色、灰色礫、 黒色粒子	ナデ	
12		1	SK406	土師器	台付甕	5	(11.8)	(2.6)		灰白 2.5Y8/2	白色・黒色粒子、雲母	摩滅のため不明	
13	39	2-1	SK407	土師器	壷	40	9.0	(5.9)		橙 5YR6/6	赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
14	39	2-1	SK408	土師器	坏	90	(11.2)	4.3		橙 5YR7/6	白色・褐色・黒色粒子、 灰色礫	摩滅のため不明瞭・ 指押さえ	
15		2-1	SK408	土師器	鉢	50	(10.0)	4.7		浅黄橙 7.5YR8/3.	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
16		2-1	SK408	土師器	高坏	60	(16.4)	10.2		橙 5YR8/6	赤色・灰色粒子	摩滅のため不明	
17	39	2-1	SK408	土師器	高坏	40	(17.4)	(7.1)		橙 2.5YR6/8	6 ㎜白色礫	摩滅のため不明	
18		2-1	Sk408	土師器	高坏	10	(23.0)	(6.95)		橙 5YR7/6 にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色粒子	摩滅のため不明	
19		2-1	SK408	土師器	高坏	60		(7.0)		灰白 7.5YR8/2	赤色・黒色粒子	ナデ・ハケ目	
20		2-1	SK408	土師器	壷	5	(11.7)	(4.6)		にぶい橙 5YR7/4	灰色粒子、4 ㎜以下白色・褐色・灰色礫	摩滅のため不明	
21		2-1	Sk408	土師器	壺	40		(8.55)	7.6	灰白 10YR8/2・浅黄橙 7.5YR8/3	赤色・灰色粒子	摩滅のため不明瞭	木葉痕 黒斑
22		2-1	SK408	土師器	甕	5	(17.3)	(4.4)		灰白 10YR8/2	5 ㎜白色・灰色・ 褐色礫、灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ 指押さえ	
23		2-1	SK408	土師器	壷	5	(14.6)	(4.0)		にぶい黄橙 10YR7/3	赤色・褐色粒子	摩滅のため不明	黒斑
24	39	2-1	SK408	土師器	甑	10	(22.8)	(14.0)		浅黄橙 7.5YR8/3	白色粒子、6 ㎜灰色礫、 5 ㎜以下赤色礫	ナデ・ハケ目・ヨコナデ	最大径：(30.6) ㎝
25			SK409	土師器	壷	20		(6.2)	(11.0)	灰白 2.5Y7/1	赤色・灰色粒子	摩滅のため不明	
26		2-1	SK409	土師器	高坏	30	(16.8)	(5.5)		浅黄橙 7.5YR8/4	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
27		2-1	SK409	土師器	高坏	20		(5.6)	(8.7)	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
28		1	SD401	土師器	器台	5		(5.0)	(6.4)	にぶい橙 5YR7/4	白色粒子・赤色粒子	摩滅のため不明	
29	41	2-1	SD403	土師器	坩	80	10.5	5.3		にぶい橙 5YR7/4	赤色粒子、3 ㎜灰色礫	摩滅のため不明瞭・ナデ	
30		2-1	SD403	土師器	坩	70	(10.6)	(5.4)		明褐灰 7.5YR7/2	赤色粒子・雲母粒	ナデ・ミガキ	赤彩？
31		2-1	SD403	土師器	小型丸底鉢	10	(16.6)	(3.9)		にぶい橙 7.5YR6/4 橙 5Y R 6/6	赤色粒子	摩滅のため不明瞭	
32		2-1	SD403	土師器	坏	20	(12.3)	4.6		にぶい黄橙 10YR7/3	白色・灰色粒子、 雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ・ ヘラミガキ	
33	42	2-1	SD403	土師器	坏	60	(10.9)	4.4		浅黄 2.5Y7/3	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ ナデ・ミガキ	
34	41	2-1	SD403	土師器	器台	90	(8.4)	(5.1)		にぶい橙 5YR7/3	白色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ ナデ・ミガキ	4 方向に円形透かし孔
35	41	2-1	SD403	土師器	高坏	15	(9.3)	(2.7)		明赤褐 5YR5/6	白色・黒色粒子、 雲母粒	摩滅のため不明瞭・ハケ目	
36	41	2-1	SD403	土師器	高坏	45		(5.3)	(9.1)	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子・雲母粒	ナデ・ヨコナデ・ハケ目	
37		2-1	SD403	土師器	器台	70		(4.75)	(6.6)	にぶい黄橙 10YR7/2	赤色・灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ ミガキ・ハケ目	
38		2-1	SD403	土師器	高坏	10		(3.2)	(7.8)	明赤褐 5YR5/6	5 ㎜以下灰色礫	摩滅のため不明	
39		2-1	SD403	土師器	高坏	30		(4.9)	(7.2)	橙 5YR7/6	灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
40	41	2-1	SD403	土師器	高坏	30		(6.8)	(11.2)	灰黄褐 2.5YR7/2	赤色・黒色粒子、 雲母粒	ナデ・板ナデ	3 方向に円形透かし孔
41	41	2-1	SD403	土師器	高坏	30		(9.5)	(9.6)	にぶい橙 5YR7/4	白色・赤色粒子、 雲母粒	ナデ・板ナデ・ミガキ	3 方向に円形透かし孔
42	41	2-1	SD403	土師器	高坏	15		(6.8)	(9.4)	浅黄 2.5Y7/3	白色粒子、雲母粒。 3 ㎜礫僅少	ナデ・ハケ目・ヘラミガキ	
43		2-1	SD403	土師器	高坏	30		(10.5)	(9.9)	にぶい黄橙 10YR6/4	白色・赤色・黒色粒子、 7 ㎜褐色礫	ヨコナデ・ヘラケズリ・ ヘラミガキ	
44		2-1	SD403	土師器	高坏	10		(8.1)		灰黄 2.5Y7/2	白色・褐色粒子、 雲母粒	ヘラケズリ・ヘラミガキ	
45	41	2-1	SD403	土師器	壷	30	15.5	(10.5)		黄灰 2.5Y6/1	白色・灰色粒子多	ナデ・ハケ目	
46		2-1	SD403	土師器	坩	30	(13.8)	(6.8)		にぶい黄橙 10YR7/2	赤色粒子	ハケ目・ヘラミガキ	
47		2-1	SD403	土師器	坩	70		(9.0)		にぶい橙 5YR7/3	灰色粒子・雲母粒	ナデ・ヘラミガキ・板ナデ	最大径：(12.6) ㎝
48		2-1	SD403	土師器	小型壷	30	(9.0)	(9.5)		にぶい橙 5YR7/4	赤色粒子	ナデ	最大径：(11.8) ㎝
49		2-1	SD403	土師器	壷	-	(9.7)	(2.75)		にぶい黄橙 10YR7/2	赤色・灰色粒子	摩滅のため不明・ ハケ目・刺突文	
50		2-1	SD403	土師器	壷	5	(14.4)	(5.4)		にぶい橙 7.5YR7/3	赤色・灰色粒子	ナデ・ハケ目	
51		2-1	SD403	土師器	壷	-		(1.9)		にぶい黄橙 7.5YR7/4	白色粒子	摩滅のため不明瞭・ 棒状浮文	

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
52		2-1	SD403	弥生土器	壷	15		(3.7)		にぶい黄橙 10YR7/4 黄灰 2.5Y5/1	灰色粒子	摩滅のため不明瞭・刺突文？	
53		2-1	SD403	弥生土器	壷	-	(16.0)	(2.2)		にぶい黄橙 10YR7/2 褐灰 10YR4/1	黒色粒子	摩滅のため不明瞭・刺突文	
54		2-1	SD403	土師器	壷	5	(13.0)	(3.9)		灰黄褐 10YR6/2	白色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
55	41	2-1	SD403	土師器	壷	5		(4.8)		にぶい橙 7.5YR7/3	黒色粒子	ヘラミガキ・板ナデ	赤彩一部残存か
56		2-1	SD403	土師器	壷	10	(16.0)	(2.7)		にぶい黄橙 10YR7/2	赤色粒子、灰色礫	ナデ・刺突文	
57		2-1	SD403	土師器	壷	15	(14.8)	(2.85)		褐灰 10YR5/1	白色礫	摩滅のため不明瞭・ナデ・刺突文	煤付着？
58	41	2-1	SD403	土師器	壷	5		(11.0)		浅黄 2.5YR7/3	白色・褐色粒子	ハケ目・板ナデ・縄文・円形浮文	最大径：(40.8) ㎝ 煤付着
59		2-1	SD403	弥生土器	壷	-		(6.05)		黄灰 2.5Y6/1 灰黄 2.5Y7/2	灰色・褐色粒子	ナデ・刺突文・縄文	
60		2-1	SD403	土師器	壷	15		(12.2)		にぶい黄橙 10YR6/3	白色・黒色・褐色粒子、灰色礫、雲母粒	ナデ・板ナデ・ハケ目	最大径：(26.1) ㎝
61	41	2-1	SD403	土師器	壷	10	(19.4)	(12.1)		浅黄橙 10YR7/4	白色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ・ハケ目	最大径：(33.2) ㎝
62	41	2-1	SD403	土師器	壷	20		(12.8)		灰黄褐 10YR6/2	白色粒子、3 ㎜以下灰色礫	板ナデ・ハケ目・ヘラミガキ	最大径：(21.2) ㎝
63	42	2-1	SD403	土師器	壷	5	(14.6)	(5.1)		灰黄褐 10YR6/2	白色粒子、4 ㎜白色・赤色・黒色礫	摩滅のため不明瞭・ハケ目	最大径：(14.8) ㎝
64		2-1	SD403	土師器	壷	5		(3.5)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色・褐色粒子多	ナデ・指押さえ	
65		2-1	SD403	土師器	壷	-		(2.05)		褐灰 10YR5/1	白色・灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・刻み目	
66		2-1	SD403	土師器	台付甕	-		(2.4)		灰褐 7.5YR6/2	灰色粒子・石英	摩滅のため不明瞭・ナデ・刻み目	
67	42	2-1	SD403	土師器	台付甕	5	(31.4)	(11.9)		浅黄橙 7.5YR8/4	白色・褐色・黒色粒子、灰色礫多	ナデ・ハケ目	
68		2-1	SD403	土師器	台付甕	20	(13.6)	(3.6)		灰 5Y4/1	密　白色礫	ナデ・ハケ目	
69		2-1	SD403	土師器	台付甕	5	(13.0)	(2.5)		灰黄褐 10YR6/2	白色・黒色粒子	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	煤付着
70		2-1	SD403	土師器	台付甕	5	(17.7)	(4.8)		にぶい黄橙 10YR6/4	赤色・褐色粒子、灰色礫多	ハケ目・ナデ・板ナデ・刻み目	
71		2-1	SD403	土師器	台付甕	5	(18.0)	(4.5)		にぶい黄褐 10YR5/3	白色・赤色粒子、雲母粒	ナデ・板ナデ・ハケ目	煤付着
72		2-1	SD403	土師器	台付甕	5	(18.2)	(4.2)		にぶい黄 2.5Y6/3	白色・黒色・褐色礫多。雲母粒	摩滅のため不明瞭・ハケ目	
73		2-1	SD403	土師器	台付甕	5	(16.6)	(5.6)		灰 7.5Y5/1 にぶい橙 7.5YR7/4	灰色粒子、4 ㎜以下灰色礫	ハケ目・ナデ・板ナデ・刻み目	
74		2-1	SD403	土師器	台付甕	5	(13.5)	(4.4)		黄灰 2.5Y5/1	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒、白色礫	ナデ・ヨコナデ・ハケ目	
75		2-1	SD403	土師器	台付甕	台部 10		(2.4)		灰黄褐 10YR6/2	黒色粒子・雲母粒	ナデ・ハケ目	
76	42	2-1	SD403	土師器	台付甕	台部 40		(5.6)	(9.1)	灰褐 5YR5/2	白色粒子・雲母粒	ナデ・板ナデ・ハケ目	
77		2-1	SD403	土師器	台付甕	台部 20		(6.95)	(10.8)	褐灰 10YR6/1	白色粒子、白色礫	ナデ・ハケ目	
78	42	2-1	SD403	土師器	高坏	脚部 20		(7.8)	(10.4)	明赤褐 7.5YR7/2	4 ㎜灰色礫多	ナデ・ハケ目・指押さえ	
87		2-1	SD404	土師器	高坏	30	(17.0)	(6.0)		浅黄橙 7.5YR8/4	白色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
88		2-1	SD404	土師器	高坏	15		(4.6)	(11.4)	橙 2.5YR6/5	赤色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
89	39	2-1	SD404	土師器	高坏	40		(6.5)	(11.0)	浅黄橙 7.5YR8/4	灰色粒子、白色・赤色・褐色礫。雲母粒少	摩滅のため不明	
90		2-1	SD404	土師器	高坏	15		(7.1)	(8.2)	灰黄 2.5Y6/2	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
91		2-1	SD404	土師器	坩	30		(3.9)		にぶい橙 7.5YR6/4	赤色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
92		2-1	SD404	土師器	甕	5	(16.4)	(5.7)		灰白 5YR8/2	6 ㎜以下白色・赤色粒子・灰色礫多	ナデ・指押さえ	
93	39	2-1	包含層	土師器	甕	60	15.9	(21.5)		浅黄橙 10YR8/3	6 ㎜以下白色・赤色粒子・灰色礫多	ヨコナデ・ナデ・板ナデ	最大径：(24.7) ㎝
95		2-1	包含層	土師器	ミニチュア土器	20		(1.9)	2.8	浅黄橙 10YR8/4	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ハケ目・指押さえ	
96		2-1	包含層	土師器	鉢	50		4.6		にぶい黄橙 10YR7/2	白色・灰色粒子。石英僅少	ナデ・板ケズリ	最大径：7.9 ㎝
97		1	包含層	土師器	坏	60	(11.2)	(4.3)	(3.0)	橙 7.5YR7/6	黒色砂礫・白色、黒色砂粒・雲母	回転ナデ・回転ヘラケズリ	墨書「良」
98		1	包含層	土師器	坏	50		(4.6)	(2.7)	黄灰 2.5Y4/1 浅黄橙 10YR8/4	褐色、赤色砂粒・雲母	ナデ・ミガキ	
99		2-1	包含層	土師器	鉢？	20	17.3	(5.1)		にぶい橙色 7.5YR7/4		ナデ	
100	42	2-2	包含層	土師器	坏	90	12.6	4.4	2.2	橙 5YR7/6	赤色・灰色粒子	ナデ	
101	42	2-1	包含層	土師器	高坏	50	26.4	16.1	17.3	橙 5YR7/8	赤色粒子・灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	歪みあり
102		2-2	南東隅土器集中	土師器	高坏	脚 25		(6.6)	(9.8)	橙 2.5YR6/6	3 ㎜以下灰色礫少	ナデ・ヘラミガキ	
103		2-2	南東隅土器集中	土師器	高坏	脚 25		(6.3)	10.1	橙 5YR6/8	赤色・黒色粒子	摩滅のため調整不明瞭・ナデ	3 方向に円形透かし
104		2-1	包含層	土師器	高坏	脚 20		(3.0)	(9.0)	橙 7.5YR7/6	赤色・黒色粒子、7 ㎜白色礫	摩滅のため不明	
105		2-1	包含層	土師器	小型甕	20	(11.0)	(6.8)		明赤褐 2.5YR5/6		摩滅のため不明	最大径：(14.6) ㎝
106		2-1	包含層	土師器	壺	30		(2.35)	(9.6)	浅黄橙 7.5YR8/4	白色粒子、灰色礫	摩滅のため不明	

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
107		2-2		土師器	壷	20		(13.7)	7.4	橙 5YR7/6	5 ㎜白色・灰色礫	摩滅のため不明	最大径：(24.9) ㎝
108		2-2	南東土器集中	土師器	甕	10	(17.2)	(33.5)	8.1	明褐灰 7.5YR7/2	5 ㎜以下灰色礫多	摩滅のため不明瞭・板ナデ	最大径：(25.0) ㎝
109		2-1	包含層	土師器	台付甕	台部 30		(3.95)		にぶい黄橙 10YR7/3	雲母粒、6 ㎜以下灰色礫	摩滅のため不明	
111		2-1	SK16	土師器	高坏	坏部 10	(15.3)	(5.8)		にぶい黄橙 10YR7/4	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ハケ目	
112	43	2-1	SH301	土師器	高坏	脚部 40		7.6	11.4	浅黄橙 7.5YR8/4	赤色粒子・雲母粒、7 ㎜白色礫	摩滅のため不明瞭・板ナデ	
113		2-1	SH301	土師器	高坏	脚部 5		(4.5)	(10.8)	橙 5YR6/6	赤褐色粒子	摩滅のため不明	
114	43	2-1	SH301	土師器	高坏	脚部 40		(6.7)	(10.5)	にぶい黄橙 10YR7/4	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
115		2-1	SH301	土師器	壷	－	(16.0)	(4.4)		橙 5YR7/6	白色・赤色粒子、7 ㎜灰色礫	摩滅のため不明瞭・ナデ	119 と同一個体か？
116	43	2-1	H301	土師器	甕	25	(14.2)	(18.4)		にぶい黄橙 10YR7/2	白色粒子、2 ㎜以下灰色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	最大径：(17.8) ㎝ 煤付着。赤彩
117		2-1	SH301	土師器	甕	40	(14.0)	(18.3)		灰黄 2.5Y7/2	8 ㎜褐色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	最大径：(17.1) ㎝。赤彩？
118	43	2-1	SH301	土師器	甕	30	13.8	(14.5)		にぶい黄橙 7.5YR7/4	8 ㎜以下白色礫多	摩滅のため不明瞭・ナデ・ヨコナデ	最大径：(22.8) ㎝。煤付着
119		2-1	SH301	土師器	甕	5	(17.5)	(4.5)		橙 5YR7/6	灰色粒子、白色礫、5 ㎜灰色礫	摩滅のため不明	
120		2-1	SH301	土師器	甕	15		(16.6)		にぶい黄橙 10YR7/3	灰色粒子、5 ㎜灰色礫	ナデ・ハケ目	最大径：（22.4）㎝。焦痕
121		2-1	SH301	土師器	甕	20		(6.95)	7.2	にぶい黄橙 10YR7/3・にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒子、白色礫、10 ㎜以下灰色礫	摩滅のため不明	煤付着
122		2-1	SH01	土師器	壷	35		(2.8)	(6.8)	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐 10YR5/2	白色・赤色粒子・灰色粒子、5 ㎜灰色礫	摩滅のため不明瞭・ナデ	
123		2-1	SH301	土師器	壷	80		(2.9)	5.4	にぶい黄橙 10YR7/4	7 ㎜以下灰色礫	摩滅のため不明	
124	43	2-1	SH302	土師器	高坏	脚部 60	(14.7)	11.5		橙 7.5YR7/6	白色・褐色・黒色粒子	摩滅のため不明	
125		2-1	SH302	土師器	高坏	脚部 40		(5.1)		橙 7.5YR7/6	赤褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
126		2-1	SH302	土師器	坏	10	(9.4)	3.9		橙 5YR6/6	白色・褐色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・指押さえ	最大径：(10.0) ㎝
127		2-1	SH302	土師器	小型壷	50		(6.6)		にぶい橙 7.5YR7/4	赤褐色・灰色粒子、灰色礫	摩滅のため不明瞭・指押さえ	最大径：11.5 ㎝
128	43	2-1	SH302	土師器	甕	20	(15.0)	(25.0)	5.9	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄 2.5YR6/3			最大径：(22.8) ㎝ 煤付着
129	43	2-1	SH302	土師器	甑	60	(20.8)	(22.5)		橙 7.5YR7/6	赤褐色粒子	摩滅のため不明	最大径：(30.7) ㎝
130	43	2-1	SH302	土師器	甑	20		(13.0)		浅黄橙 7.5YR8/3	赤褐色・灰色粒子	摩滅のため不明	最大径：(19.0)
131	44	2-2	SH304	土師器	坏	90	11.3	3.8	6.5	橙 5YR7/6	赤色・黒色粒子	摩滅のため調整不明	最大径：㎝
132	44	2-2	SH304	土師器	坏	95	12.1	13.1	5.0	橙 5YR7/6	灰色粒子	摩滅のため調整不明	最大径：13.1 ㎝
133	44	2-2	SH304	土師器	甕	5	(16.8)	(7.6)		明褐灰 7.5YR7/2	白色・灰色粒子	摩滅のため調整不明瞭・ハケ目	
134	44	2-2	SH304	土師器	鉢	25	(22.1)	(10.6)		橙 5YR7/6	白色・黒色粒子	摩滅のため調整不明瞭・ハケ目	
135	44	2-2	SH304	土師器	甕	25	(18.7)	28.2		にぶい黄橙 10YR7/2	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り	最大径：(22.9) ㎝
136	44	2-2	SH304	土師器	甕	70	(17.6)	27.8		にぶい黄橙 10YR7/2	白色・黒色粒子、灰色礫	ヨコナデ・板ナデ・ハケ目	最大径：23.2 ㎝ 煤付着
137		2-2	SH304	土師器	甕	15	18.6	(10.8)		橙 2.5Y7/6	白色・灰色・黒色粒子、4 ㎜白色・灰色礫	ナデ・板ナデ・ハケ目	最大径：(20.5) ㎝ 煤付着
138	44	2-2	SH304	土師器	甕	5	(16.8)	(7.6)		明褐灰 7.5YR7/2	白色・灰色粒子	摩滅のため調整不明瞭・ハケ目	最大径：(18.8) ㎝
139		2-2	SH304	土師器	甕	30		(17.5)	(6.0)	明灰褐 5YR7/2	4 ㎜以下白色・灰色礫	摩滅のため調整不明瞭・ハケ目	最大径：(24.0) ㎝ 煤付着
140	44	2-2	SH304	土師器	甕	20	(20.0)	(13.7)		灰白 7.5YR8/2			最大径：(23.0) ㎝
141		1	SK303	土師器	坩	－	(10.6)	6.2	2.6	にぶい橙 7.5YR7/4	白色・褐色粒子、灰色礫		最大径：(10.7) ㎝
142	45	1	SK303	土師器	小型壷	40	(15.0)	25.2	6.0	にぶい橙 7.5YR7/4 橙 7.5YR7/6	白色・灰色粒子	摩滅のため調整不明・ハケ・ナデ	頸部径（8.9）
143	45	1	SK303	土師器	高坏	70	(16.5)	14.1	10.6	浅黄橙 10YR8/3	灰色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため調整不明瞭・ヘラケズリ・ナデ	接合部径 2.1
144		1	Sk306	土師器	高坏	20		(7.1)		橙 5YR7/6	白色礫、白色・黒色・赤色粒子	摩滅の為調整不明	
145		2-1	SK309	土師器	高坏	10	(14.6)	(3.7)		橙 7.5YR7/6	白色・赤色・褐色粒子	摩滅のため不明	
147		2-1	SK312	土師器	坏	30	(12.9)	4.6		淡黄 2.5Y8/3	白色・褐色粒子、灰色礫、雲母粒	摩滅のため不明	
148	45	2-1	SK312	土師器	高坏	30		(6.9)	(10.7)	橙 5YR7/6	白色・褐色粒子	摩滅のため不明	
150		2-1	SK313	土師器	ミニチュア土器	40		(3.6)	(9.3)	浅黄橙 10YR8/3	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
151		2-1	SK313	土師器	鉢	10	(15.8)	(4.7)		橙 5YR7/6 橙 2.5YR6/8	白色・赤色粒子	摩滅のため不明	
152		2-1	SK313	土師器	甕	5	(15.4)	(4.2)		灰白 2.5Y8/2	灰色粒子、灰色礫、5 ㎜褐色礫	摩滅のため不明	
153		2-1	SK313	土師器	甕	10	(17.6)	(11.2)		にぶい黄 10YR7/4	白色・褐色・灰色粒子、6 ㎜白色礫	摩滅のため不明瞭・ナデ・ハケ目	最大径：(18.0) ㎝ 煤付着
154	45	2-1	SK314	土師器	鉢	30	(11.6)	(7.8)		浅黄橙 10YR8/4	白色・黒色・褐色粒子	摩滅のため不明瞭	最大径：(11.8) ㎝

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	区	遺構 層位	種別	器種	残存率 (%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
155		2-1	SK316	土師器	高坏	-	(14.2)	(5.2)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・ハケ目	
156		2-1	SK318	土師器	高坏	20		(8.8)		にぶい橙 5YR7/4・淡赤橙 2.5YR7/3	白色・灰色粒子。雲母粒僅少	摩滅のため不明瞭・ナデ	接合部径 :3.1 ㎝
157		2-1	SK318	土師器	高坏	40		(7.3)	13.1	橙 7.5YR7/6	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
158	45	2-1	SK319	土師器	高坏	40	(19.6)	(6.3)		にぶい橙 7.5YR7/4	赤色・黒色粒子	板ナデ・ナデ	黒斑
159		2-1	SD304	土師器	高坏	45		(5.9)		橙 2.5YR6/8	赤色粒子	摩滅のため不明	
160		2-1	SX301	土師器	高坏	30		(9.3)		浅黄橙 10YR8/4	赤色・灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ハケ目	
161		2-1	SX301	須恵器	坏	5		(2.5)		灰 N5	白色粒子・黒色粒子	回転ナデ	最大径 :(12.0) ㎝
162		2-1	包含層	土師器	坏	20	(9.3)	3.9	(2.3)	橙 5YR7/6	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	最大径 :(10.4) ㎝
163	45	2-2	包含層	土師器	鉢	45	(11.8)	(6.3)	(3.4)	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色・灰色粒子	ナデ	最大径 :(12.0) ㎝
164	45	2-1	包含層	土師器	小型壺	70	3.8	5.5		灰黄 2.5Y7/2	灰色粒子	ヨコナデ・ナデ・ハケ目・ミガキ	最大径 :8.4 ㎝
165		2-1	包含層	土師器	台付甕	基部		(1.95)		にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙 10YR7/4	白色粒子、 4 ㎜以下灰色礫	ナデ	
166		2-1	包含層	土師器	台付甕	基部		(2.2)		橙 5YR7/6 浅黄橙 7.5YR8/4	白色粒子、 5 ㎜以下灰色礫	摩滅のため不明	
167		2-1	包含層	土師器	小型壺	10		(2.5)	1.3	灰黄 2.5Y7/2	白色粒子、4 ㎜白色礫	板ナデ	最大径 :(7.6) ㎝
168		2-1	包含層	土師器	高坏	30		(5.8)	(15.8)	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	摩滅のため調整不明	
169		2-1	包含層	土師器	高坏	40		(6.0)	(9.3)	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
170		2-1	包含層	土師器	高坏	40		(5.3)	(8.3)	橙 5YK7/6	白色・黒色粒子、 5 ㎜白色・黒色礫	摩滅のため不明	
171		2-1	包含層	土師器	高坏	40		(7.2)	(7.6)	橙 5YR7/6		摩滅のため不明	
172		2-1	包含層	土師器	高坏	30		(8.0)		橙 7.5YR7/6	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
173	45	2-1	包含層	土師器	壺	-	(14.8)	(5.8)		浅黄橙 7.5YR	3 ㎜以下長石	摩滅のため不明	
174		2-1	包含層	土師器	甕	5	(16.6)	(6.4)		灰白 2.5Y8/2	赤色粒子	ヨコナデ	
175		2-1	包含層	土師器	甕	10	(17.0)	(12.4)		にぶい橙 5YR6/3	4 ㎜以下白色・灰色礫多	摩滅のため不明瞭・ヨコナデ	最大径 :（22.6）㎝
176		2-1	包含層	土師器	台付甕	30		(4.9)	6.9	にぶい黄橙 10YR7/3	5 ㎜白色礫	ヨコナデ・板ナデ・ヘラケズリ	
177		2-1	包含層	土師器	甑	台部 30		(4.1)		橙 5YR7/6	灰色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ハケ目	
178	45	2-1	包含層	土師質	不明	-		(6.2)		灰白 10YR8/2	白色粒子	ナデ・指押さえ・ハケ目	最大幅 :3.0 ㎝
179		2-1	包含層	土師器	把手付盌	把手 100	1.8	8.65		橙 7.5YR7/6	赤色・灰色粒子	ナデ	
180		2-1	包含層	須恵器	坏蓋	30	(13.6)	(4.6)		灰白 N7	白色粒子・黒色粒子・雲母粒	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
181		2-1	包含層	須恵器	杯身	5	(12.2)	(3.6)		灰 N6	白色粒子・黒色粒子	回転ナデ	最大径 :(14.8) ㎝
182		1	SB201	土師器	坏	10	(13.6)	(2.9)		橙色 5YR7/ 橙色 2.5YR7/	灰色・褐色粒子、雲母粒	ナデ・ヨコナデ・板ケズリ	
183		1	SB202	土師器	甕	10	(21.0)	(3.1)		灰黄褐色 10YR5/ 灰褐色 7.5YR5/2	白色・褐色粒子、雲母粒	ナデ・ヨコナデ・ハケ後板ケズリ	
184		1	SB203	弥生土器	壺	5	(15.4)	(4.5)		橙 7.5YR7/6	灰色小礫 4 ㎜・白色、赤色砂粒	摩滅の為調整不明	
185	47	1	SB204	須恵器	坏蓋	80	13.5	3.55		灰 N6	白色砂粒	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ・ヘラケズリ	摘部径 :1.75 ㎝
186		1	SB204	須恵器	坏	20	(10.8)	(3.45)	(9.2)	灰白 N7	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	
187		1	SB205･206	土師器	台付甕	20		(2.7)		灰白 10YRR8/2	白色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・ハケ目	
188		1	SB205･206	土師器	高坏	10		(7.2)		灰白 5Y6/1	白色・褐色・黒色粒子	摩滅のため不明	4 方向に透かし孔か
189		1	SB205	土師器	甕	15	(19.6)	(2.3)		にぶい褐色 7.5YR6/ にぶい橙 5YR6/4	白色・灰色・褐色粒子	ヨコナデ・ナデ？	
190		1	SB205･206	須恵器	杯身	10	(15.2)	(4.1)		灰 N6/0･灰 N5/0	白色粒子、雲母粒	回転ナデ	
191		1	SB205･206	土師器	甕	5	(20.5)	(4.0)		浅黄 2.5Y7/3	5 ㎜赤色礫、白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・ハケ目	
192	47	1	SB205	土師器	坏	30	(10.5)	(3.6)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・褐色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
193		1	SB205･206	土師器	甕	1	(23.1)	(4.1)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色･赤色粒子、白色･褐色・赤色礫、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ・ハケ目	
194		1	SB205	土師器	甕	5	(24.0)	(4.8)		にぶい橙 7.5YR6/4	白色・赤色粒子、雲母	ナデ・摩滅の為調整不明	
195		1	SB206	土師器	甕	15	(20.0)	(4.1)		にぶい黄橙 10YR7/2 灰黄褐色 10YR6/2	白色・褐色粒子、雲母粒	ナデ・ヨコナデ	煤付着
196		1	SB206	灰釉陶器	碗	5	(14.0)	(2.5)		灰白 2.5YR7/1	白色粒子、雲母粒	ヨコナデ	
197		1	SB207	土師器	高坏	基部		(3.0)		橙 2.5YR7/8 橙 2.5YR7/6	灰色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ	
198		1	SB208	土師器	杯	10	(15.0)	(3.8)		にぶい黄橙色 10YR7/3 浅黄橙色 10YR8/3	白色・灰色粒子、雲母粒	ナデ・ヨコナデ・指ナデ	
199		2-1	SB208	土師器	甕	5		(3.9)		にぶい黄橙 10YR7/3	赤色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
200	47	2-1	SB208-P12	須恵器	平瓶	50	8.9	15.3		灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子、白色礫	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	最大径 :25.2 ㎝ 自然釉
201		1	SB210	須恵器	坏	5	(17.3)	(4.8)		灰白 N7/0	白色・褐色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ・板ナデ	自然釉。火ぶくれ（焼成時破損）

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
202	47	2-1	SB212-P3 SB211-P1	土師器	壷	10	17.2	(9.1)		にぶい黄橙 10YR6/3	灰色粒子、白色・黒色礫、5㎜灰色礫、雲母粒	ヨコナデ・ヘラミガキ・ハケ目・板ナデ	
203		2-1	SB212-P1	土師器	坏	10	(12.5)	3.4		灰白 2.5Y8/2	褐色・赤褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ミガキ	内黒
204	47	2-1	SB212-P1	土師器	高坏	20		(7.2)	(11.2)	橙 7.5YR7/6	灰色・赤褐色粒子	摩滅のため不明	
205	47	2-1	SB213-P4	土師器	壷	5	7.6	(8.0)		にぶい黄 2.5Y6/3	白色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・板ナデ・ハケ目・指押さえ	
206		2-1	SB214-P5	土師器	高坏	15		(6.0)	(9.9)	灰 5Y6/1	白色・褐色粒子	ナデ・板ナデ	
207		2-1	SB214	土師器	台付甕	5	(15.0)	(4.1)		にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子多。黒色・褐色粒子少	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
208		2-1	SB214	土師器	鉢	30	(15.0)	5.3	(2.6)	橙 5YR7/6	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒、5㎜灰色礫	摩滅のため不明	
244	47	1	SK203	山茶碗	碗	80	17.4	5.2	7.8	灰白Ｎ 7/0	4㎜白色礫、白色・褐色・黒色粒子	回転ナデ・糸切り痕・付け高台・粘土継ぎ痕	籾殻痕
245	47	1	SK203	山茶碗	碗	70	16.2	5.3	10.2	灰白Ｎ 8/0 釉：灰オリーブ 7.5Y5/3	4㎜褐色礫、白色・黒色礫、灰色粒子	回転ナデ・糸切り痕・付け高台・粘土継ぎ痕	重ね焼き痕　籾殻痕 自然釉
247		2-1	SK207	土師器	甕	5	(25.0)	(2.7)		にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい橙 5YR7/4	白色・灰色粒子。雲母粒少	摩滅のため不明	
248		2-1	SK207	須恵器	皿	20	(11.4)	1.7		青灰 5PB6/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
249		2-1	SK207	須恵器・灰釉	坏	30		(4.5)	(15.0)	灰 N5	白色粒子、白色礫	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
250		2-1	SK211	土師器	甕	10	(14.4)	(7.6)		にぶい黄 10YR7/2	白色粒子、白色礫	摩滅のため不明瞭・ハケ目・ヨコナデ・指押さえ	
251	47	2-1	SK209	須恵器	皿	40	(14.6)	2.2		灰白 N7/	白色粒子、2㎜白色礫	回転ナデ・回転ヘラケズリ	墨書「良」
252		2-1	SK211	土師器	坏	50	(11.2)	(3.2)	3.7	浅黄橙 10YR8/3	黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
253		2-1	SK211 覆土	土師器	坏	30	(11.0)	3.4		灰白 10YR8/2	灰色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
254		2-1	SK211	土師器	坏	30	(13.0)	4.0		にぶい黄橙 10YR7/4	白色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
255		2-1	SK211	土師器	坏	10	(10.7)	3.7		黄灰 2.5Y5/1	白色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
256		2-1	SK211	土師器	坏	5	(12.0)	(2.7)		浅黄橙 10YR8/3	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
257		2-1	SK211 覆土	土師器	坏	20	(15.0)	(3.0)		橙 5YR7/6	赤色・灰色粒子	摩滅のため不明	
258	49	2-1	SK211	土師器	坏	20		(2.9)		橙 5YR7/6	白色粒子、雲母粒	回転ナデ	
259	49	2-1	SK211	土師器	坏	30	(13.4)	4.8		浅黄橙 10YR8/4	白色・赤色粒子	摩滅のため不明	
260		2-1	SK211 覆土	土師器	甕	5	(10.0)	(5.0)		灰白 10YR8/2	赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ヨコナデ	
261		2-1	SK211	土師器	甕	10	(25.8)	(7.4)		浅黄橙 7.5YR8/3	6㎜以下白色・灰色礫	ヨコナデ・ハケ目	最大径：(26.2) ㎝
262		2-1	SK20	須恵器	壷	5	(18.0)	(4.0)		暗青灰 5PB4/1	白色粒子	回転ナデ	内面自然釉
263		2-1	SK211	灰釉陶器	碗	25		(1.55)	(6.6)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	煤付着？
265		2-1	SK212	土師器	高坏	40	(10.6)	(7.8)	(7.1)	橙 7.5YR7/6	黒色・褐色粒子	摩滅のため不明	
266		2-1	SK214	灰釉陶器	碗	10		(1.5)	(6.2)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	内面降灰釉
267	47	2-2	SK225	山茶碗	小皿	30	(7.1)	(2.1)		灰 N5/	白色・褐色粒子	回転ナデ・回転糸切り	
268	48	2-1	SK208	土師器	坏	30	(10.1)	2.0		浅黄橙 10YR8/3	白色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ヘラミガキ	
269		2-1	SK208	土師器	坏	50	(10.6)	(3.1)		橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
270		2-1	SK208	土師器	坏	50	(11.6)	(2.9)		橙 7.5YR6/6	赤色・褐色粒子、灰色礫、雲母粒	摩滅のため不明	
271		2-1	SK208	土師器	坏	20	(12.9)	(3.8)		浅黄橙 7.5YR8/4	白色・褐色粒子、雲母粒、褐色礫	摩滅のため不明	
272		2-1	SK208	土師器	坏	20	(12.2)	2.5		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
273	48	2-1	SK208	土師器	坏	70	13.0	3.5		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒、褐色礫	摩滅のため不明	
274	48	2-1	SK208	土師器	坏	60	13.7	5.8		浅黄橙 7.5YR8/3	白色・赤色・黒色粒子	板ナデ・ナデ	内黒
275	48	2-1	SK208	土師器	坏	30	(20.4)	4.4		にぶい橙 5YR7/8	白色・褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
276	48	2-1	SK208	土師器	坏	25	(12.4)	2.5		浅黄橙 10YR8/3 黄灰 2.5Y4/1	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	内黒 底部刻書「夫」
277	48	2-1	SK208	土師器	坏	20	(10.9)	3.1		灰白 2.5Y8/2・灰 5/1	黒色・褐色粒子	摩滅のため不明	内黒
278	48	2-1	SK208	土師器	坏	95	11.3	3.6		にぶい黄橙 10YR6/4 灰 5Y4/1	白色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
279	48	2-1	SK208	土師器	坏	60	(11.5)	4.0		黄褐 2.5Y5/3	白色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
280	48	2-1	SK208	土師器	坏	40	(11.4)	3.7		灰黄 2.5Y7/2・灰 2.5Y4/1	白色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ヘラミガキ	内黒
281		2-1	SK208	土師器	坏	20	(15.2)	(4.7)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
282		2-1	SK208	土師器	甕	5	(25.1)	(2.7)		浅黄橙 7.5YR8/3 オリーブ黒 7.5YR8/3	白色・赤色・黒色粒子。雲母粒僅少	ヨコナデ・ハケ目	
283		2-1	SK208	土師器	甕	5	(20.1)	(3.5)		淡黄 2.5Y8/3	白色・赤色・黒色粒子	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
284		2-1	SK208	土師器	甕	5	(20.7)	(3.8)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色・褐色・黒色粒子、雲母粒、灰色礫	摩滅のため不明	
285		2-1	SK208	土師器	甕	10	(20.1)	(8.7)		灰黄 2.5Y7/2	白色・灰色・褐色粒子、雲母粒、5㎜灰色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目・指押さえ	最大径：(20.4) ㎝

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
286		2-1	SK208	土師器	甕	5	(24.9)	(6.5)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒、4㎜白色・褐色礫	ヨコナデ・ナデ・板ナデ・ハケ目	
287		2-1	SK208	土師器	甕	5	(22.9)	(5.1)		浅黄橙 7.5YR8/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	ヨコナデ・板ナデ・ハケ目	
288		2-1	SK208	土師器	甕	5	(24.4)	(4.4)		にぶい橙 7.5YR6/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
289		2-1	SK208	土師器	甕	5	(23.4)	(2.5)		にぶい橙 7.5YR7/3	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
290		2-1	SK208	土師器	甕	50	(24.0)	(3.8)		灰黄褐 10YR6/2	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
291		2-1	SK208	土師器	甕	50	(25.6)	(3.4)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・黒色粒子、雲母粒、4㎜白色礫	摩滅のため不明瞭・ナデ・ハケ目	
292		2-1	SK208	土師器	甕	5	(27.4)	(3.6)		灰黄 2.5Y7/2	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒、4㎜白色・褐色礫	ヨコナデ・板ナデ・ハケ目	
293		2-1	SK208	土師器	甕	5	(25.8)	(6.0)		にぶい橙 7.5YR6/4	灰色粒子、雲母粒、赤色・灰色・白色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目・指押さえ	最大径：(26.4) ㎝
294		2-1	SK312	須恵器	坏蓋	20	(15.2)	(2.0)		灰白 N7/8	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
295		2-1	SK208	須恵器	坏蓋	25	(13.3)	1.6		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
296		2-1	SK208	須恵器	高坏	10		(6.8)		灰 N6/0	白色・黒色粒子	回転ナデ	外面自然釉
297		2-1	SK208	須恵器	平瓶	20		(9.0)	(13.8)	黄褐 2.5Y5/3	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	最大径：(23.0) ㎝ 外面降灰
298		2-1	SK208	須恵器	壺	15		(8.0)		灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ヘラケズリ	
299	48	2-1	SK208	須恵器	甕	5	(22.5)	(13.9)		黄灰 2.5Y5/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・タタキ	300 と同一個体か
300		2-1	SK208	須恵器	甕	5	(24.2)	(9.5)		灰白 7.5Y7/2	白色・灰色粒子、白色礫	回転ナデ	自然釉
301		2-1	SK208	須恵器	甕	5		(4.8)		灰 N6	白色・黒色粒子	回転ナデ・櫛描波状文	自然釉
302		2-1	SK208	須恵器	長頸壺	10		(10.6)		黄灰 2.5Y4/1	白色・黒色、黒色礫	回転ナデ・ナデ	内面自然釉。スノコ痕
303	48	2-1	SK208	須恵器	甕	15		(15.5)		灰褐 5YR5/2	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・タタキ後板ナデ	最大径：(35.5) ㎝ 外面自然釉 黄土刷毛塗りか
304		2-1	SK208	灰釉陶器	蓋	20	(10.0)	(1.4)		オリーブ灰 10Y6/2	白色・黒色粒子	回転ナデ	最大径：(10.0) ㎝ 内外面施釉 重ね焼き痕
305		2-1	SK208	灰釉陶器	蓋	15	(10.2)	1.2		にぶいオリーブ灰 10Y6/2	白色・黒色粒子、白色礫	回転ナデ	最大径：(10.5) ㎝ 外面施釉
306		2-1	SK208	灰釉陶器	碗	10		(3.2)		灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子、灰色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	重ね焼き痕 火ぶくれ
307		2-1	SK208	灰釉陶器	碗	30		(2.1)		黄灰 2.5Y6/1	白色・黒色粒子、4㎜白色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り・回転ヘラケズリ	重ね焼き痕
309		2-1	SK210	土師器	坏	30	(12.5)	3.6		浅黄橙 10YR8/3	白色・黒色粒子	摩滅のため不明	内黒
310	49	2-1	SK210	土師器	坏	15	(13.8)	3.7		にぶい黄橙 10YR7/3	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
311		2-1	SK210	土師器	皿	25		(2.6)		浅黄橙 7.5YR8/6	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ	
312	49	2-1	SK210	土師器	甕	20	(12.1)	(4.6)		にぶい黄橙 10YR5/3	白色・灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ハケ目	
313		2-1	SK210	土師器	甕	5	(18.8)	(4.4)		灰白 10YR8/1	赤色・灰色粒子	ヨコナデ・ハケ目	
314		2-1	SK210	土師器	甕	5	(24.0)	(5.5)		灰白 10YR8/1	3㎜白色・黒色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
315		2-1	SK210	土師器	甕	5	(23.4)	(4.7)		灰白 10YR8/1	赤色・灰色粒子	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
316		2-1	SK210	土師器	甕	5	(23.8)	(4.3)		浅黄橙 10YR8/1	灰色粒子	摩滅のため不明	
317		2-1	SK210	土師器	甕	5	(24.0)	(5.0)		灰白 2.58/2	白色粒子・灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ハケ・ヨコナデ	
318		2-1	SK210	土師器	甕	5	(24.0)	(4.6)		浅黄橙 7.5YR8/3	灰色・褐色粒子	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
319		2-1	SK210	土師器	甕	5	(24.1)	(3.6)		にぶい黄橙 10YR7/3	灰色粒子、白色・灰色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
320		2-1	SK210	土師器	甕	5	(22.2)	(6.9)		灰白 10YR8/2	白色・黒色粒子	摩滅のため不明	
321	49	2-1	SK210	土師器	甕	5	(27. 7)	(11.4)		灰黄褐 10YR5/2	灰色粒子、雲母粒、白色・赤色・黒色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目・指押さえ	
322		2-1	SK211	土師器	甕	20		(8.7)		にぶい黄橙 10YR7/2	白色粒子、白色礫	ナデ・ヨコナデ・ハケ目	
323		2-1	SK210	土師器	甕	30		(7.5)		灰白 2.5Y8/3	赤色・黒色粒子	ナデ・ハケ目	
324	49	2-1	SK210	須恵器	坏	20	(14.0)	(6.6)		青灰 5B6/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
325		2-1	SK210 周辺	須恵器	坏	40		(22.0)		灰白 N7	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り・回転ヘラケズリ	
326		2-1	SK210	須恵器	坏	10		(1.3)		灰 N6	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り・回転ヘラケズリ	
327		2-1	SK210	須恵器	甕	5		(4.0)		灰白 10YR7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・波状文	自然釉
328		2-1	SK210	灰釉陶器	碗	30		(2.1)		灰白 N7	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	重ね焼き痕
329		2-1	SK210	灰釉陶器	皿	20	(12.8)	2.4		灰白 N7	黒色粒子	回転ナデ・ナデ	
330	49	2-1	SK210 周辺	灰釉陶器	皿	40		2.6		灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	使用痕
334	50	2-2	SD206	弥生土器	壺	5		(4.8)		にぶい橙 10YR7/3 にぶい橙 7.5YR7/4	白色・灰色粒子	ナデ・櫛描文	峯田式

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
335	50	2-2	SD206	土師器	ミニチュア土器	100	3.1	2.9		灰黄 2.5Y7/2	白色・黒色粒子、雲母粒	ナデ	手捏ね土器
336		2-2	SD206	土師器	ミニチュア土器	90	5.5	3.1	3.2	淡黄 2.5Y8/3・黄灰 2.5Y6/1	白色粒子	ナデ	文様？（沈線？鳥の足？）
337		2-2	SD206	土師器	ミニチュア土器	90		(3.9)	3.4	にぶい橙 5YR6/3	白色粒子	ナデ・ヨコナデ	
338	50	2-2	SD206	土師器	坏	98	9.4	5.5	4.0	にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ・板ナデ・ハケ目	
339	50	2-2	SD206 西	土師器	坏	60	12.3	4.8		にぶい橙 5YR6/4	白色・黒色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ・指押さえ	
340	50	2-2	SD206	土師器	坏	100	11.7	5.1	4.5	にぶい橙 5YR7/4	白色・赤色・黒色粒子、赤色礫、雲母粒	ヨコナデ・ナデ・指押さえ	
341		2-2	SD206	土師器	杯	20	(12.0)	(4.4)		にぶい橙 5YR6/4	白色・赤色粒子	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
342		2-2	SD206	土師器	坏	40	(12.9)	(4.0)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・板ナデ	
343	50	2-2	SD206 西	土師器	坏	99	12.8	5.0	5.0	にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・黒色粒子、赤色礫	ヨコナデ・板ナデ・指押さえ	
344	50	2-2	SD206	土師器	坏	20	(12.0)	(4.6)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色粒子	ナデ・ハケ目	
345		2-2	SD206	土師器	坏	50	(13.0)	(5.0)		橙 5YR6/8	灰色礫、白色・黒色粒子	摩滅のため不明	
346		2-2	SD206	土師器	坏	15	(13.3)	(5.5)		にぶい橙 2.5YR6/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
347	50	2-2	SD206	土師器	坏	70	(12.4)	(4.5)	2.5	にぶい黄橙 10YR7/2	3 ㎜灰色礫	摩滅のため不明	
348	50	2-2	SD206 西	土師器	坏	98	12.9	6.2	3.3	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色・黒色粒子	ヨコナデ・ナデ	
349		2-2	SD206	土師器	坏	20	(13.8)	(4.2)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・褐色粒子	ナデ	
350	50	2-2	SD206	土師器	坏	95	15.0	5.6		灰黄 2.5YR7/2	黒色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ヘラケズリ・板ナデ	籾殻痕。種子痕 須恵器模倣杯
351	50	2-2	SD206	土師器	坏	99	12.8	5.0	6.0	にぶい橙 2.5YR6/4 にぶい黄橙 10YR4/2	白色・赤色・黒色粒子、5 ㎜褐色礫、雲母粒	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
352		2-2	SD206	土師器	鉢	10	(11.0)	(4.9)		橙 5YR7/8	赤色・灰色粒子	摩滅のため不明	
353	50	2-2	SD206	土師器	鉢	98	11.5	6.1	6.0	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色・黒色粒子	ヨコナデ・ナデ	編み籠痕
354		2-2	SD206	土師器	鉢	-	12.2	(5.3)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒子	摩滅のため不明	
355		2-2	SD206	土師器	鉢	25	(12.0)	5.0		にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR6/4	白色・褐色粒子。雲母粒少	ヨコナデ・ナデ・ハケ目・板ナデ	
356	50	2-2	SD206	土師器	鉢	90	12.1	5.7 ～ 5.4		にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/3	白色・褐色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ	
357		2-2	SD206	土師器	鉢	-	(12.0)	(4.6)		にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR6/4	白色・赤色粒子	摩滅のため不明	
358		2-2	SD206	土師器	鉢	25	(12.0)	(5.8)		橙 5YR6/6	白色・赤色粒子	ナデ・ヘラケズリ	
359		2-2	SD206	土師器	鉢	5	(18.0)	(7.0)		黄灰 2.5YR7/2	白色・赤色粒子	摩滅のため不明	
360	51	2-2	SD107	土師器	高坏	25		(7.2)	(8.4)	にぶい橙 5YR7/4	褐色・黒色粒子、雲母粒、灰色礫	ナデ・板ナデ・ヘラケズリ	2 方向に円形透かし
361	51	2-2	SD206	土師器	高坏	40	15.2	(5.9)		浅黄橙 7.5YR8/4	白色・赤色・黒色粒子、4 ㎜赤色礫	摩滅のため調整不明	
362		2-2	SD206	土師器	高坏	30	(15.0)	(4.2)		にぶい橙 5YR6/4 にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子、白色・黒色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
363	51	2-2	SD206 東	土師器	高坏	60	(16.6)	(10.2)	10.6	橙 5YR7/8	赤色粒子	ヨコナデ・ナデ・指押さえ	
364	51	2-2	SD206	土師器	高坏	10		(6.05)	(11.9)	浅黄橙 10YR8/4	赤色粒子	摩滅のため調整不明	
365	51	2-2	SD206	土師器	高坏	50		(5.6)	10.0	橙 5YR7/6	赤色粒子	ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	
366	51	2-2	SD206	土師器	高坏	80	15.7	11.2	9.7	にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため調整不明瞭・ナデ・ヘラケズリ	
367		2-2	SD206	土師器	高坏	30	(15.0)	(5.1)		にぶい橙 2.5YR6/4	赤色粒子	ナデ・ハケ目	煤付着
368	51	2-2	SD107	土師器	高坏	30	15.4	(6.6)		浅黄橙 7.5YR8/4	赤色・褐色粒子、灰色礫	摩滅のため調整不明	
369		2-2	SD206	土師器	高坏	30	(14.5)	(4.6)		にぶい橙 7.5YR7/4 淡橙 5YR8/4	白色・赤色粒子	摩滅のため調整不明	
370		2-2	SD206	土師器	高坏	40	(14.9)	(5.5)		橙 5YR6/6	白色・赤色・黒色粒子	ナデ・ハケ目	
371	51	2-2	SD206	土師器	高坏	40		(14.7)	13.8	にぶい橙 7.5YR7/6	赤色・黒色粒子	ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	
372	51	2-2	SD206	土師器	高坏	50		(6.2)	8.4	にぶい橙 5YR7/6	白色・黒色粒子	摩滅のため調整不明瞭・ヘラケズリ	
373	51	2-2	SD206	土師器	高坏	40		(5.6)	8.8	橙 5YR6/6	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	
374	51	2-2	SD206	土師器	高坏	50		(7.8)	(8.7)	橙 7.5YR6/6	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため調整不明瞭・ナデ・ヘラケズリ	黒斑
375	51	2-2	SD206	土師器	高坏	30		(5.8)	(11.8)	淡橙 5YR8/4	灰色・黒色粒子	摩滅のため調整不明瞭・ナデ・ヘラケズリ	
376	52	2-2	SD206	土師器	高坏	40		(5.3)	9.1	灰黄 2.5YR7/2	白色・黒色粒子、雲母粒	ナデ・ヘラケズリ	
377	52	2-2	SD206 中央	土師器	高坏	40		(7.1)	(9.4)	にぶい橙 5YR7/4	白色・赤色粒子	ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	
378	52	2-2	SD206 東	土師器	高坏	60		(9.7)	9.6	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色・黒色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・板ナデ	
379		2-2	SD206	土師器	高坏	30		(7.9)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・黒色粒子	ナデ	3 方向に方形透かし
380		2-2	SD206	土師器	高坏	30		(8.5)	(12.6)	橙 2.5YR6/6	赤色粒子	ナデ・指押さえ	
381	52	2-2	SD206	土師器	高坏	100	15.2	8.2 ～ 9.2	10.0	にぶい橙 7.5YR7/4	白色・褐色粒子。雲母粒少	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	区	遺構 層位	種別	器種	残存率 (%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
382	52	2-2	SD206	土師器	短頸壷	95	7.8	9.8	3.1	明褐灰 7.5YR7/2	赤色粒子	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	最大径：9.7 ㎝ 内面有機物の痕跡
383	52	2-2	SD206	土師器	長頸壷	95	8.4	(8.35)		橙 2.5YR7/6 橙 5YR7/6	白色粒子	摩滅のため調整不明	
384		2-2	SD206	土師器	壺	10	(20.2)	(4.0)		灰白 10YR8/2	白色・灰色粒子、雲母粒	ナデ・ミガキ？	
385	52	2-2	SD206	土師器	壷	15		(11.0)	(9.0)	にぶい橙 5YR7/4 にぶい赤褐 2.5YR5/4	赤色・黒色粒子、雲母粒	ハケ目・板ナデ	最大径：(19.6) ㎝ 縦ヒゴ痕 （ゴザ編み・片締め編み）
386		2-2	SD206	土師器	壷	25	(15.2)	(5.1)		浅黄橙 7.5YR8/6	白色・赤色粒子、7 ㎜灰色礫	摩滅のため調整不明	
387	52	2-2	SD206	土師器	壷	10	16.0	(9.0)		淡橙 5YR8/4	白色・黒色粒子、9 ㎜灰色礫	摩滅のため調整不明瞭・ヨコナデ・板ナデ	
388		2-2	SD206	土師器	甕	5	(15.9)	(5.7)		にぶい橙 5YR6/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ハケ目	煤付着
389		2-2	SD206	土師器	甕	5	(17.0)	(5.7)		黒褐 10YR3/1・灰黄褐 10YR6/2	白色・赤色・黒色粒子、2 ㎜礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	煤付着
390	53	2-2	SD206	土師器	甕	10	(16.6)	(8.9)		褐灰 10YR6/1 灰黄 2.5Y7/2	白色粒子	ヨコナデ・ハケ目・板ナデ	最大径：(20.0) ㎝
391	53	2-2	SD206	土師器	甕	40	15.6	(27.5)		灰 5Y6/1	白色・灰色粒子	ナデ・板ナデ・ハケ目	最大径：(24.1) ㎝
392	53	2-2	SD206	土師器	甕	70	14.4	14.4	4.5	橙 5YR6/6	黒色粒子、雲母粒	ヨコナデ・指押さえ・ハケ目	最大径：16.4 ㎝
393	53	2-2	SD206	土師器	甕	95	13.5	20.4 ～ 21.8	6.7	橙 5YR7/8	白色粒子、雲母粒	ナデ・板ナデ・ハケ目・ヘラミガキ	最大径：17.1 ㎝
394	53	2-2	SD206	土師器	台付甕	80	13.1	(27.1)		灰黄褐 10YR6/2 にぶい黄橙 10YR7/3	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒、白色礫	ヨコナデ・板ナデ・ハケ目・指押さえ	最大径：24.3 煤・焦げ付着
395		2-2	SD206	土師器	高坏	脚部 50		(5.0)	10.0	橙 5YR6/6	白色・黒色粒子、赤色・灰色礫	摩滅のため調整不明	台付甕の台部？
396		2-2	SD206	土師器	壷	15		(7.9)	9.5	にぶい橙 7.5YR7/3 橙 2.5YR7/6	4 ㎜灰色・黒色・白色礫多	摩滅のため調整不明	木葉痕
397	53	2-2	SD206	土師器	甕	10	(17.8)	(10.8)		褐灰 10YR4/1	白色粒子	ヨコナデ・ハケ目	最大径：(21.2) ㎝ 煤付着
398		2-2	SD206	土師器	甕	5	(22.8)	(8.7)		橙 5YR7/8	赤色粒子	摩滅のため不明	
399		2-2	SD206	土師器	甕	5	(16.3)	(4.5)		にぶい橙 5YR6/4	白色・赤色・黒色粒子	ヨコナデ・ハケ目	最大径：(17.3) ㎝
400		2-2	SD206	土師器	甕	－		(4.7)		灰 N4/0	灰色粒子	摩滅のため不明	
401		2-2	SD206	土師器	甕	10	(14.8)	(9.9)		にぶい黄橙 10YR7/2	黒色粒子、3 ㎜赤色・黒色礫	ヨコナデ・ハケ目・板ケズリ	最大径：(17.6) ㎝
402		2-2	SD206	土師器	甕	10	(14.8)	(6.9)		にぶい橙 7.5YR7/4	赤色・灰色粒子	ナデ・板ナデ・ハケ目	最大径：(15.0) ㎝
403		2-2	SD206	土師器	甕	5	(16.2)	(7.5)		浅黄橙 7.5YR8/3	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため調整不明瞭・ヨコナデ・ハケ目・ナデ	最大径：(16.8) ㎝
404		2-2	SD206	土師器	甕	30		(10.7)	11.2	橙 5YR7/6	白色・黒色粒子	ナデ・ハケ目・板ナデ	最大径：(16.6) ㎝ 木葉痕。黒斑
405		2-2	SD206	土師器	甕	10		(4.3)		灰褐 7.5YR6/2 にぶい黄橙 10YR6/3	密	ナデ・ハケ目	煤付着
406	54	2-2	SD206 中央	土師器	甑	95	14.3	13.4	5.7	にぶい橙 10YR7/4	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒、黒色礫	板ナデ・ヘラケズリ・ナデ	
407	53	2-2	SD206	土師器	甑	60	(18.6)	23.0	8.6	浅黄橙 7.5YR8/3	白色・赤色・灰色粒子	ナデ・ハケ目・板ナデ・ヘラケズリ	
408	54	2-2	SD206	土師器	甑	5	(25.5)	(11.3)		にぶい橙 7.5YR6/4	白色・黒色粒子	ハケ目・板ナデ・ナデ	
409	53	2-2	SD206	土師器	甑	10	(26.6)	(14.9)		にぶい黄橙 10YR6/3	白色・赤色・灰色粒子、白色・灰色礫	ヨコナデ・ハケ目・ナデ	煤付着・刷毛 2 種類使用か？
410		2-2	SD206	土師器	甑	5	－	(11.6)		浅黄橙 10YR8/3	赤色粒子、雲母粒	ナデ・ハケ目	
411		2-2	SD206	須恵器	坏蓋	20	(12.7)	(4.1)		青灰 5B6/1	白色粒子少	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
412		2-2	SD206	須恵器	坏蓋	40	(12.6)	(4.1)		灰 5Y5/1	白色粒子多	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	工具痕？
413		2-2	SD206	須恵器	坏蓋	70	(14.2)	4.5		灰 N5/0	白色粒子・白色粒子多。4 ㎜白色小礫僅少	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
414	54	2-2	SD206	須恵器	坏蓋	10	(11.6)	(3.3)		灰 N5	白色粒子少	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
415		2-2	SD206	須恵器	坏蓋	10	(12.8)	(4.8)		灰 N5/0	白色粒子・2 ～ 3 ㎜白色小礫多	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
416		2-2	SD206	須恵器	坏蓋	5	(11.9)	(3.9)		灰 N4/0	白色粒子多。5 ㎜灰色礫	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
417	54	2-2	SD206	須恵器	坏蓋	100	13.8	4.2		灰 N5/0	白色粒子僅少	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	外面厚く降灰
418		2-2	SD206	須恵器	坏身	10	(11.6)	(3.55)		灰 N6/0	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	最大径：(13.6) ㎝
419		2-2	SD206	須恵器	坏身	25	(12.6)	(4.05)		灰 N6	白色粒子・2 ㎜白色小礫	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	逆位焼成。受部に別個体片・自然釉熔着
420		2-2	SD206	須恵器	坏身	5		(3.7)		灰 N5	白色粒子・3 ㎜白色小礫	回転ナデ・回転ヘラケズリ	最大径：(13.4) ㎝ 受部降灰
421		2-2	SD206	須恵器	坏身	20	(10.6)	(3.55)		灰 N6/	白色粒子・黒色粒子	回転ナデ	最大径：(13.0) ㎝ 焼き歪み。火ぶくれ（胎土発砲気味）
422	54	2-2	SD206	須恵器	坏身	50	(12.8)	3.55		黄灰 2.5Y4/1	白色粒子・3 ㎜以下白色小礫多	回転ナデ・回転ヘラケズリ	最大径：(15.2) ㎝ 外面降灰・逆位焼成
423		2-2	SD206	須恵器	坏身	25	(9.8)	(2.7)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ	最大径：(12.0) ㎝
424		2-2	SD206	須恵器	坏身	5	(11.7)	(4.3)		灰 N5	白色粒子少	回転ナデ	最大径：(14.0) ㎝ 歪みあり

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
425	54	2-2	SD206	須恵器	坏身	100	10.3	4.0		黄灰 2.5Y6/1	白色粒子少	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	最大径：12.0 ㎝ 摩滅気味
426	54	2-2	SD206	須恵器	坏身	80	14.2	4.35	5.1	黄灰 2.5Y6/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	内面自然釉
427		2-2	SD206	須恵器	平瓶	5	(10.4)			灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ	自然釉
428	54	2-2	SD206	須恵器	瓶	40		(7.2)	(1.6)	灰 N5	白色粒子・3 ㎜白色小礫多	回転ナデ・回転ヘラケズリ・櫛描波状文	最大径：(10.1) ㎝ 外面降灰 内面窯壁片付着
532	61	1	SX202	土師器	坏	30	(13.8)	4.1	(8.2)	にぶい褐 7.5YR6/3	赤色・白色粒子	摩滅のため不明	
533		1	SX201	土師器	甕	15	(23.0)	(3.1)		明褐灰色 7.5YR7/2 にぶい褐色 7.5YR6/3	白色・灰色粒子多。雲母粒	ハケ・ナデ	頸部径：(18.7) ㎝
534	61	1	SX201	須恵器	坏	90	12.1	3.6	5.1	灰白 N8	白色、灰色粒子	ナデ・回転ナデ・糸切り痕	灯明皿か
535	61	1	SX202	土師器	坏	60	11.1	3.3	5.3	浅黄橙 10YR8/3	白色粒子、雲母粒	内面磨き・削りのち磨き	内黒
536	61	1	SX202	土師器	坏	60	(12.0)	3.5	5.0	にぶい橙 7.5YR7/3	赤色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
537		1	SX202	土師器	坏	20	(11.6)	3.3		褐灰 10YR にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒子、雲母粒	ハケのちナデ	内黒
538		1	SX202	土師器	坏	40	(12.7)	3.85	(7.2)	灰黄褐 10YR6/2	黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ヘラミガキ	内黒
539		1	SX202	土師器	坏	40	(11.7)	(3.3)	(5.6)	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
540		1	SX202	土師器	坏	10	(13.0)	(3.8)		浅黄橙 10YR8/3	黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
541		1	SX202	土師器	坏	5	(14.4)	5.4	(7.0)	灰黄褐 10YR6/2	黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
542	61	1	SX202	土師器	坏	30	(14.4)	5.1	(7.0)	灰黄褐 10YR5/2	白色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒　生焼け？
543		1	SX202	土師器	甕	5		(1.5)	(7.0)	にぶい黄橙 10YR7/2	黒色粒子、雲母粒	スノコ痕	スノコ痕 内黒（外面煤付着？）
544	61	1	SX202	土師器	甕	20		(4.1)	7.2	橙 .5YR6/6	赤色礫、砂粒・灰色砂粒	ナデ・指押さえ	籾殻痕 外面タール状物付着
545		1	SX202	土師器	坏	20	(11.8)	3.4	(5.0)	橙 5YR6/6	3 ㎜黒色礫、赤色粒子	器面剥離のため不明	
546		1	SX202	土師器	坏	5		(3.6)	(5.0)	にぶい黄橙 10YR7/4	黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
547		1	SX202	土師器	坏	5	(12.8)	(4.0)		橙 7.5YR6/6	赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	接合痕・摩滅著しい
548		1	SX202	土師器	甕	5	(25.6)	(4.1)		にぶい橙 7.5YR7/3	4 ㎜白色礫、赤色・白色粒子	刷毛目	煤痕
549		1	SX202	土師器	甕	20	(27.2)	(4.5)		浅黄橙 10YR8/4 にぶい黄橙 10YR7/4	白色・褐色粒子、3 ㎜以下白色礫、雲母粒	ハケ・ナデ	
550		1	SX202	土師器	長胴甕	30		(3.1)	(6.6)	灰黄褐 10YR6/2/ にぶい橙 2.5YR6/4	3 ㎜以下白色・灰色・褐色礫、雲母粒	ハケ・ナデ・ケズリ・ハケ目	
551		1	SX202	須恵器	坏蓋	5	(11.8)	(1.55)		灰 N6/0	白色・黒色粒子	摩滅のため不明	摘蓋
552		1	SX202	須恵器	坏蓋	5	(18.8)	(1.9)		黄灰 2.5Y5/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	重ね焼き痕・自然釉（2 度焼成か？）
553		1	SX202	須恵器	坏	10	(13.6)	4.4	(7.4)	灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ	
554	61	1	SX202	灰釉陶器	甕	5	(46.4)	(11.4)		にぶい黄橙 10YR7/2 黒褐 2.5Y3/12	4 ㎜白色礫、白色・黒色粒子	回転ナデのちヨコナデ・指頭圧痕	黄土刷毛塗り
555		1	SX202	灰釉陶器	甕	10		(7.0)	(16.2)	灰 5Y6/1・灰 7.5Y4/1	白色・黒色粒子、灰色礫	タタキ・ナデ・回転ナデ・ヘラナデ	焼きぶくれ
556		1	SX202	灰釉陶器	蓋	5		(2.0)	(12.6)	灰白 N7/ 灰オリーブ 5Y6/2	白色粒子	回転ナデ	施釉
557		1	SX202	灰釉陶器	鉢	20		(2.1)	(6.5)	灰白 2.5YR8/2 灰白 2.5Y7/1	白色・灰色粒子、雲母粒	回転ナデ・糸切り	
558		1	SX202	灰釉陶器	長頸壺	5		(3.0)	(10.4)	灰白Ｎ 7/0	白色・褐色礫、灰色粒子		
559		1	SX202	灰釉陶器	鉢	5		(4.1)	(12.0)	灰白Ｎ 7/0	4 ㎜白色礫、白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラケズリ後ナデ・	スノコ痕
560		1	SX202	灰釉陶器	甕	5		(16.85)		暗オリーブ灰 5GY4/1 灰白色 N7/0・灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子、7 ㎜白色礫	タタキ後板ナデ	内面黄土刷毛塗りか
561		2-2	SR201	土師器	高坏	60		(7.1)		橙 5YR7/8	白色・赤色粒子	摩滅のため不明	
562		2-2	SR201	山茶碗	片口鉢	6	(30.2)	(4.1)		灰白 N8/	白色粒子多	回転ナデ	
565		1	SP208	土師器	高坏	10		(5.95)		黄橙 10YR8/6	赤色・黒色粒子	表面摩滅の為調整不明	接合部径（4.2）
566		1	SP168	土師器	壺	底部		(2.2)	5.4	灰黄褐 10ＹＲ 4/2 にぶい橙 7.5YR6/4	白色・灰色粒子、灰色礫	ナデ・摩滅調整不明	
567	61	1	包含層	土師器	坏	70	(12.2)	(3.2)	(6.8)	にぶい橙 5YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/3	3 ㎜長石、灰色粒子	輪積み痕・摩滅	
568	61	1	包含層	土師器	皿	20	(13.9)	(2.1)	(9.2)	にぶい黄橙 10YR7/3	褐色・灰色粒子、雲母粒	摩滅の為調整不明	
569		1	包含層	土師器	甕	10	(12.0)	5.1	(6.7)	灰白 2.5Y7/1	褐色粒子、雲母粒	上げ底・摩滅の為調整不明	内黒 内面全体と外面口縁部に黒色付着物
570		1	包含層	須恵器	杯身	30	(8.6)	3.5	(6.2)	灰 N6	白色	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
571		1	包含層	須恵器	杯身	20		(2.15)	(9.7)	灰白 N8	5 ㎜長石 5 ㎜。黒色粒子僅少	回転ナデ	
572		1	包含層	須恵器	坏蓋	30	(13.9)	(2.2)		灰白 N7	黒色・白色粒子僅少	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
573		1	包含層	土師器	台付甕	5	(11.6)	(2.1)		浅黄橙 10YR8/3	白色・褐色粒子	ナデ・ハケ目	
574		1	包含層	土師器	甕	5	(25.8)	(4.3)		にぶい黄橙 10YR7/3	2 ㎜以下長石、褐色粒子、雲母粒	ナデ・板ナデ	
575		1	包含層	土師器	甕	5		(6.35)	(6.8)	黄灰 2.5Y5/1 灰黄褐 10YR4/2	2 ㎜以下長石、褐色礫、雲母僅少	ハケ目・指頭圧痕・ナデ・摩滅	最大径：(6.7) ㎝ 煤付着
576		2-1	包含層	土師器	坏	40	(11.0)	2.8	5.6	橙 5YR6/6	赤色・黒色粒子。雲母粒僅少	摩滅のため不明	

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
577		2-1	包含層	土師器	坏	40	(12.1)	3.7	(5.8)	橙 5YR6/8	赤色・黒色粒子、灰色礫	摩滅のため不明	
578		2-1	包含層	土師器	台付甕	-		(2.0)		浅黄橙 10YR8/3	白色粒子、5 ㎜灰色礫	ナデ	
579		2-1	包含層	土師器	ミニチュア土器	20		(2.0)		橙 5YR6/8	白色・赤色粒子	ナデ	
580		2-1	包含層	土師器	台付甕	5	(15.3)	(3.75)		灰黄褐 10YR5/2	黒色粒子、長石粒、雲母粒多	ヨコナデ・ハケ目・板ナデ	煤付着
581		2-1	包含層	土師器	甑	把手100				橙 5YR7/6	赤褐色粒子、雲母粒、3 ㎜以下長石	ナデ	
582	61	2-1	包含層	須恵器	坏蓋	30	(16.0)	(4.0)		灰 N6	6 ㎜白色小礫	回転ナデ・回転ヘラケズリ	ヘラ記号　外面降灰
583		2-2	包含層	須恵器	坏蓋	5	(11.8)	(3.0)		灰 N7/0	白色粒子	回転ナデ	
584		2-1	包含層	須恵器	坏蓋	15	(15.0)	(1.5)		灰 N6	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	内面自然釉（逆位焼成）
585		2-1	包含層	灰釉陶器	碗	-		(2.55)	(7.5)	灰白 N8/0	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	地元産？底部穿孔
586		2-2	包含層	山茶碗	捏ね鉢	20		(7.8)	(11.8)	灰白 N7	7 ㎜以下長石多	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
587		2-2	包含層	古志戸呂	擂鉢	-		6.6		にぶい橙 5YR6/4 にぶい赤褐 5YR5/4	白色礫	回転ナデ・摺り目	
588		2-2	包含層	古瀬戸	折縁大皿	-		(2.0)		淡橙 5YR8/4 にぶい橙 5YR6/4	白色礫	回転ナデ	施釉
589		2-2	包含層	古瀬戸		-	(23.0)	(2.7)		黒褐 7.5YR3/2	白色粒子	回転ナデ	鉄釉？
590	61	2-2	包含層	常滑？渥美	甕	5				灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ	
591		2-2	包含層	古瀬戸	天目茶碗	15	(11.3)	(6.4)		灰黄褐 10YR4/2 灰 N6/	白色礫	回転ナデ・回転ヘラケズリ	鉄釉
592		2-2	包含層	瀬戸・美濃	水注？	15	10.1	(3.5)		暗灰黄 2.5Y4/2 暗褐 10YR3/3	白色粒子	回転ナデ	鉄釉
594		2-2	SB103-P2	古瀬戸	小皿	10	(8.6)	(1.9)		灰白 5Y8/1	白色礫	回転ナデ	施釉
595		2-2	SB102-P2	須恵器	杯身	10		(1.4)		灰白 N7/・灰 N5/	白色粒子	回転ナデ	
596	62	2-2	SB102-P2	山茶碗	小皿	40	(7.0)	1.9	(4.29	にぶい黄橙 10YR7/2	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り	自然釉
597		1	SK104	土師器	甕	-	(26.0)	(3.3)		にぶい橙 5YR7/4	4 ㎜褐色礫、白色・褐色・黒色粒子、雲母粒	ナデ	煤付着
598		1	SK106	土師器	碗	-		(1.4)	(7.4)	褐灰 10YR4/1 にぶい橙 5YR7/3	白色・黒色粒子、雲母粒	ナデ	内黒
599		2-1	SK113	須恵器	坏蓋	10		(2.1)		灰 N5/0	密　白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	摘径 1.8 ㎝
600		2-1	SK117	土師器	坏	40	(10.9)	3.65	(6.2)	橙 7.5YR7/6	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
601		2-1	SK120	土師器	碗	30	(11.9)	3.4	5.6	灰白 2.5Y8/2 灰 5Y4/1	白色粒子	摩滅のため不明瞭・ミガキ	内黒
602		1	SX202	土師器	坏	40	(11.3)	(3.35)		橙 7.5YR6/6	白色・黒色粒子	摩滅の為調整不明	
603		1	SX102	土師器	坏	5	(11.0)	(2.95)		にぶい黄橙 10YR6/4 灰白 2.5Y8/2	褐色・白色・褐色粒子、雲母粒	摩滅の為調整不明	
604		1	SX102	土師器	坏	5	(18.8)	(4.4)		灰白 2.5Y8/2	褐色礫、白色・褐色・赤色粒子	摩滅の為調整不明	
605		1	SX202	土師器	鉢	5	(9.5)	(3.6)		灰黄褐 10YR7/3 にぶい橙 7.5YR7/3	密	ナデ	
606		1	SX102	須恵器	坏蓋	5		(2.3)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラ削り	返蓋の可能性有り
607		1	SX102	灰釉陶器	壷蓋	5		(1.2)	(13.2)	灰白 2.5Y 7/1 灰オリーブ 5Y6/2	白色粒子	回転ナデ	施釉
608		1	SX102	灰釉陶器	碗	5		(1.5)	(7.0)	灰白 N7/0	褐色礫、白色・黒色粒子	回転ナデ・静止糸切り痕・付け高台	
609		1	SX102	須恵器	長頸壷	15		(8.2)	(8.5)	黄灰 2.5Y6/1 灰 N5/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラ削り・付け高台	高台径：(8.9) ㎝
610		1	SX102	須恵器	長頸壷	5		(4.3)	(9.3)	褐灰 10YR5/1 暗オリーブ灰 2.5GY4/1	白色・黒色粒子	回転ヘラ削り・付け高台・ナデ	高台径：(10.0) ㎝
611		1	SX102	須恵器	長頸壷	5		(5.9)	(9.4)	褐灰 10YR6/1 灰 N6/0	白色・黒色粒子、雲母粒	回転ナデ・回転ヘラ削り・付け高台	高台径：(10.0) ㎝
612		1	SX102	灰釉陶器	長頸壷	5		(4.4)	(22.0)	オリーブ灰 10YR6/2 灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラ削り	施釉
613		1	SX103	須恵器	杯蓋	6	(12.8)	(1.4)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ	
614		1	SX103	山茶碗	碗	5		(1.7)		灰 N5/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	内面重ね焼き痕
615		1	SX103	須恵器	坏身	5		(1.7)	(8.7)	灰白 10Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
616		1	SX103	灰釉陶器	碗	5		(1.9)	(6.2)	灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	内面重ね焼き痕
617		1	SX103	山茶碗	碗	20		(2.3)	(6.8)	灰白 N7	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	内面重ね焼き痕
618		1	SX103	灰釉陶器	平瓶	把手		(2.4)		灰白 2.5 Y 7/1 灰オリーブ 7.5Y6/2	白色・黒色粒子、雲母粒	ナデ	施釉
619		1	SX103	渥美	鉢	5		(2.0)	(10.2)	灰 N6	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・板ナデ	
620		1	SX103	山茶碗	碗	5		(2.2)	(7.2)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	高台径：(7.7) ㎝ 渥美・湖西系 籾殻痕
622		1	SD102	須恵器	坏蓋	20	(17.0)	(2.4)		灰白 N7/0	黒色礫、白色・黒色粒子	回転ヘラケズリ	摘蓋

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
623		1	SD101・102	山茶碗	碗	5		(1.1)	(7.9)	灰白N 7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・糸切り痕	重ね焼痕
624		1	SD102	灰釉陶器	甕	5		(6.7)		黄灰 2.5Y5/1 オリーブ黒 5Y3/1	4 ㎜白色礫、 白色・黒色粒子	板ナデ・タタキ目	外面塗り？
625		1	SD103・104	灰釉陶器	甕	5		(9.8)		黄灰 2.5Y6/1 黒 5Y2/1・灰 7.5Y6/1	白色・褐色礫、 白色・褐色・黒色粒子	ナデ・タタキ目	自然釉
626		1	SD103・104	灰釉陶器	甕	5		(5.4)		褐灰 10YR6/1 灰白 5Y7/1・灰 N4/0	白色・黒色粒子	タタキ目・タタキ当て具	自然釉
627		1	SD104	常滑	片口鉢	5	(25.6)	(5.2)		褐灰色 10YR6/1・灰 褐色 7.5YR6/2	白色粒子、雲母粒、 灰色礫	回転ナデ・板ナデ	
628		1	SD105	灰釉陶器	壺	5	(20.6)	(2.2)		褐灰色 10YR5/1 褐灰色 7.5YR4/1	白色・黒色粒子	回転ナデ	
629		1	SD105	快癒陶器	壺	5	(10.9)	(1.05)		灰色 5YR6/1・灰白色 N7/0	白色粒子	回転ナデ	自然釉
630		1	SD106・116	土師器	長胴甕	4	(37.2)	(2.4)		にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子、雲母粒	ヨコナデ	
631		1	SD106・116	須恵器	蓋	5	(17.6)	(1.3)		灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・	摘蓋
632		1	SD106・116	灰釉陶器	碗	5		(1.7)	(6.1)	灰白 N7	白色粒子	ナデ・回転ナデ	重ね焼き痕
633		1	SD107	灰釉陶器	碗	10		(1.2)	(6.9)	灰オリーブ 7.5Y6/2 灰白色 2.5Y8/1	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	
634		1	SD107	山茶碗	碗	25		(1.4)	(8.2)	灰白 2.5Y8/1	白色・灰色粒子	モミ痕	渥美産
635		1	SD109	山茶碗	碗	10		(1.5)		灰白 10 Y 7/1	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	
636		1	SD110	土師器	甕	5	(34.4)	(6.5)		橙 7.5YR7/6	白色・褐色・赤色粒子、 灰色礫、雲母粒	ナデ・ハケ目	最大径：(35.0) ㎝ 黒斑
637		1	SD110	土師器	甕	5	(34.2)	(6.2)		灰白 10YR8/1	褐色・赤色礫、白色・ 褐色・赤色粒子、 雲母粒	ナデ・ハケ目	最大径：(35.6) ㎝
638		1	SD110	土師器	甕	5	(35.4)	(3.55)		橙 7.5YR7/6	6 ㎜褐色礫、白色・ 赤色礫、灰色粒子、 雲母粒	ナデ	
639		1	SD111	須恵器	坏蓋	20		(2.7)		灰 7.5Y6/1 褐灰 10YR6/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
640		1	SD115	灰釉陶器	甕	5	(39.0)	(3.4)		灰 5Y6/1・灰 5Y4/1	白色粒子	回転ナデ	断面
641		1	SD115	灰釉陶器	碗	25		(1.8)	(6.2)	灰色 N6/0	白色粒子、雲母粒		
642		2-1	SD119	須恵器	坏蓋	5		(2.2)		灰 N6/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	摘径 (2.2.)
643		2-1	SD120	土師器	甕	5	(22.8)	(3.9)		浅黄橙 10YR8/3 にぶい黄橙 10YR6/4	灰色・褐色粒子、 雲母粒、3 ㎜白色礫	ヨコナデ	煤付着
644		2-1	SD120	土師器	甕	5	(21.6)	(2.8)		浅黄橙 7.5YR8/3	赤色粒子、雲母粒	ヨコナデ	
645		2-1	SD120	須恵器	坏身	10	(17.3)	(5.7)		灰 N4	白色・黒色粒子	回転ナデ	清ヶ谷窯産？
646		2-1	SD120	灰釉陶器	碗	5	(17.4)	(2.9)		灰白 N8	黒色粒子	回転ナデ	
647		2-1	SD120	山茶碗	小皿	10	(7.6)	(2.2)		灰白 N7	白色・灰色粒子	回転ナデ	
648		2-1	SD120	山茶碗	碗	20		(3.3)	(8.2)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	重ね焼き痕
649	62	2-1	SD120	山茶碗	碗	40		(4.2)	7.75	灰白 N7	白色粒子	回転ナデ・ナデ	籾殻痕　重ね焼痕
650		2-1	SD120	灰釉陶器	碗	20		(2.3)	(6.8)	灰白 N8	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	籾殻痕　重ね焼痕 自然釉 渥美・湖西系
651	62	2-1	SD120	山茶碗	碗	20		(2.4)	(7.5)	灰白 N8	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り・ ヘラケズリ	渥美・湖西系
652		2-1	SD120	山茶碗	鉢	10		(3.5)	(9.3)	灰白 2.5Y8/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	籾殻痕　重ね焼き痕 渥美・湖西系
653		2-1	SD122	土師器	坏	15	(12.0)	2.9		橙 10YR7/3・にぶい 黄橙 10YR7/3	白色・赤色・黒色粒子	摩滅のため不明	
654		2-2	SD123	灰釉陶器	小碗	40		(1.75)	3.8	灰 N6/	白色粒子、白色礫	回転ナデ・回転糸切り・ 貼り付け高台	東遠系
655		2-2	SD123	山茶碗	碗	20		(1.4)	5.4	灰白 N8/	白色礫	回転ナデ・回転糸切り・ 貼り付け高台	尾張系
656		2-2	SD123	山茶碗	碗	30		(2.0)	8.1	灰白 N8/	白色礫	回転ナデ・回転糸切り・ 貼り付け高台	渥美湖西系
657	62	2-2	SD123	青磁	盤	5	(29.0)	(2.5)		灰白 2.5Y8/1 釉　灰オリーブ 7.5Y5/2	白色粒子僅少	回転ナデ	竜泉窯系
658		2-3	SD134	山茶碗	碗	5	(16.8)	(2.5)		灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ	
659		2-2	SD126	灰釉陶器	碗	10		(2.5)	(7.0)	灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	スノコ痕　重ね焼痕
660		2-2	SD131	灰釉陶器	碗	5	(15.7)	(2.4)		灰白 2.5Y8/1	白色粒子僅少	回転ナデ	
661		2-2	SD131	灰釉陶器	瓶類	5		(1.3)		灰白 N7/	白色礫	回転ナデ	
662		2-3	SD134	山茶碗	碗	25		(1.65)	(7.1)	灰白 N8/	白色礫	回転ナデ・回転糸切り ・ナデ	渥美・湖西系 籾殻痕
663		2-2	SR101	山茶碗	碗	10		(1.8)	(6.8)	灰白 7.5Y7/1	白色・赤色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り ・ナデ	重ね焼き痕
664		2-2	SR102	山茶碗	碗	15		(1.35)		灰白 N7/0	白色・灰色粒子、 灰色礫	回転ナデ・回転糸切り	重ね焼痕
665	62	2-3	SR104	須恵器	坏	40	(13.3)	3.95	(9.1)	灰白 7.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	
666		2-3	SR103・104	灰釉陶器	水瓶	10		2.4		灰白 8/・灰白 7/	白色礫	回転ナデ・ナデ	
667	62	2-3	SR103・104	山茶碗	碗	30		(2.65)	(8.6)	灰白 N8/	白色礫	回転ナデ・ナデ	籾殻痕　内面漆付着
668		3-1	SR111	須恵器	坏身	5	(12.9)	(2.5)		灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ	

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	区	遺構 層位	種別	器種	残存率 (%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
669		3-1	SR113	須恵器	蓋	口縁 5	(15.9)	(1.95)		灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	焼き膨れ
670		3-1	SR110 覆土	灰釉陶器	壷	5	(14.2)	(4.8)		灰白 N8/	白色粒子	回転ヨコナデ・回転糸切り	内外自然釉
671		3-1	SR110 覆土	山茶碗	小皿	15		(1.5)	(4.2)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系
672		3-1	SR110 覆土	山茶碗	小皿	30	(7.8)	1.7	(3.8)	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系
673	64	3-1	SR110 覆土	山茶碗	小皿	60	(8.1)	2.0	4.55	灰 N5/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系　自然釉 重ね焼き痕
674		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	10	(15.7)	(3.3)		灰色 N5/	白色粒子	回転ナデ	東遠江
675	64	3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	-	10.0	(2.4)	6.8	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り後ナデ	東遠江系 墨書　重ね焼き痕
676		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	30		(1.25)	(6.3)	灰白 N6/	2 ㎜以下白色礫	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系　籾殻痕
677		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	10		(2.05)	(7.0)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系　籾殻痕
678		3-1	SR110 覆土	山茶碗	小皿	底部 100		(2.0)	6.5	灰 5Y6/1	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系 スノコ痕　墨書
679		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	20		(1.75)	(6.8)	灰白 N7/	3 ㎜以下白色礫僅少	回転ナデ・糸切り痕	東遠江系 転用硯？（内面墨痕）
680		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	15		(2.6)	(8.7)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系 重ね焼痕　籾殻痕
681		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	15		(2.7)	(7.2)	灰白 2.5Y7/1	2 ㎜白色礫多	回転ナデ・回転糸切り	尾張系　籾殻痕
682		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	13		(3.35)	(7.3)	灰白 2.5Y8/1	2 ㎜以下白色礫	回転ナデ・回転糸切り	尾張（知多）系
683	64	3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	60		(1.6)	(8.0)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り・ナデ	渥美・湖西系 内面墨痕　墨書？
684		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	25		(1.8)	(6.2)	灰白 5Y8/1	黒色粒子	回転ナデ	渥美・湖西系
685		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	20		(1.9)	(7.2)	灰白 2.5Y7/1	2 ㎜以下黒色礫	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系 籾殻痕　墨痕
686		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	25		(1.45)	(7.0)	灰白 2.5Y7/1	2 ㎜長石僅少。 白色粒子	回転ナデ・ナデ	渥美・湖西系 籾殻痕
687		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	65		(1.9)	8.6	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	渥美・湖西系 スノコ痕
688		3-1	SR110 覆土	山茶碗	碗	45		(3.6)	8.7	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系 自然釉　重ね焼き痕
689		3-1	SR110 覆土	常滑	壷	10	(14.6)	(5.15)		暗灰 N3/	白色粒子	回転ナデ	自然釉
690		3-1	SR110 覆土	志戸呂	筒型香炉	12		(2.8)	(12.4)	にぶい橙 5YR6/4 釉：灰オリーブ 7.5Y5/3	黒色粒子	回転ナデ	
691	64	3-1	SR110 覆土	古瀬戸	皿	25		(1.15)	(12.0)	灰白 2.5Y8/1 釉：浅黄 5Y7/3	白色・赤褐色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
692	64	3-1	SR110 覆土	青磁	碗	20		(2.15)	(5.0)	露胎：灰白 5Y8/1 釉：明緑灰 10GY7/1	白色粒子僅少	回転ナデ	竜泉窯系
693		3-1	SR110 覆土	瀬戸・美濃	天目茶碗	25		(4.1)	(11.1)	にぶい赤褐 5YR4/3 黒褐 5YR2/1		回転ナデ・ナデ	大窯
694		3-1	SR110 覆土	瀬戸・美濃	碗	30		(1.3)	(4.4)	灰白 2.5Y8/2 釉：淡黄 2.5Y8/4	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
695	6624	3-1	SR110 覆土	肥前	染め付け	25	(2.0)	(5.8)		露胎：灰白 N8/ 釉：ごく淡い青灰	黒色粒子僅少		肥前・施釉
696		3-1	SR108 覆土	須恵器	熔着試料 （壷甕と坏）	-	-	-	-	坏：灰 N6/ 甕：灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・タタキ目痕	熔着資料 坏を甕の焼き台として利用か
722		1	SP65	灰釉陶器	碗	5		(2.15)	(6.9)	灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子、雲母粒	回転ナデ･ナデ･回転糸切り・貼り付け高台	高台径：(7.4) ㎝ 重ね焼き痕
723		1	SP69	灰釉陶器	碗	15	(16.6)	(4.8)	(7.9)	灰白 N8 灰オリーブ 7.5Y6/2	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	灰釉刷毛塗りか
725		1	包含層	土師器	坏	20	(10.8)	3.9	(6.65)	灰色 5Y4/1 にぶい黄橙 10YR7/3	白色、褐色砂粒・雲母	摩滅の為調整不明	内黒
726		1	包含層	土師器	台付甕	5		(4.9)	(7.8)	にぶい黄橙 10YR7/4	5 ㎜褐色礫、白色・褐色黒石、雲母粒		
727		1	包含層	土師器	甕	5	(23.4)	(2.8)		にぶい黄橙 10YR7/4	白色・褐色粒子、雲母粒	摩耗	
728		1	包含層	土師器	甕	5	(21.6)	(6.5)		にぶい黄橙 10YR7/4	4 ㎜褐色礫、白色・褐色・赤色粒子、雲母粒	ナデ・接合後ハケ目・指頭圧痕	
729		1	包含層	土師器	坏	30	(12.0)	3.4	(6.8)	にぶい橙 7.5YR6/4 浅黄色 2.5Y7/3		調整不明	
730		1	包含層	土師器	坏	80		(3.3)	(6.6)	黄灰色 2.5Y4/1 浅黄 2.5Y7/3	白色・褐色・黒色粒子、雲母	調整不明	
731	64	1	包含層	須恵器	坏蓋	20		(1.0)		灰白 10YR7/1 オリーブ灰 10YR5/2	白色・黒色粒子		
732	64	1	包含層	須恵器	坏蓋	10		(1.6)		灰 N6	白色粒子		つまみ部径：1.7 ㎝
733	64	1	包含層	須恵器	坏蓋	40		(1.7)		灰白 7.5YR8/1 灰オリーブ 7.5YR6/2	白色、灰色砂粒		つまみ部径：1.6 ㎝
734	65	1	包含層	須恵器	坏身	20	(15.9)	6.6	(10.7)	灰白 N7	白色粒子		墨書？
735		1	包含層	灰釉陶器	長頸壷	10		(7.0)		灰白 N8	白色、黒色粒子	回転ナデ・ナデ	自然釉
736		1	包含層	灰釉陶器	壷	10	(19.0)	(4.9)		灰白 5Y7/1･灰白 6Y7/1	白色粒子、雲母粒	回転ナデ	自然釉
737		1	包含層	灰釉陶器	甕	5	(43.5)	(4.8)		灰 N5	白色砂粒・黒色粒子	回転ナデ・沈線	
738		1	包含層	須恵器	甕	5		(6.7)		灰白 N7	白色・黒色・赤色粒子		頸部径：(16.0) ㎝
739		1	包含層	須恵器	甕	5		(5.8)	(13.6)	灰 N6	白色粒子	タタキ・ナデ	スノコ痕

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
740		1	包含層	灰釉陶器	蓋	5	(15.3)	(1.3)		オリーブ灰 10Y6/2 灰白色 2.5Y8/1	白色・灰色粒子、雲母粒	回転ナデ	施釉
741		1	包含層	灰釉陶器	壺	−	(12.6)			灰白色 5Y7/1 灰オリーブ 6Y6/2	白色粒子	ナデ・回転ナデ	頸部径：(11.8) cm 施釉
742		1	包含層	灰釉陶器	水注	15	(7.4)	(4.8)		灰白 5Y7/1・灰オリーブ 5Y7/2	黒色・白色粒子	回転ナデ	自然釉
743		1	包含層	灰釉陶器	水注	−				灰白 2.5Y8/1 釉：5Y6/2	黒色・白色粒子		
744		1	包含層	灰釉陶器	壺	10		(4.2)	(21.4)	灰オリーブ 7.5Y6/2・2.5Y7/1	白色・灰色・黒色粒子	ナデ・回転ナデ・ ヘラケズリ？	
745		1	包含層	山茶碗	小皿	25	(8.0)	1.95	(5.55)	灰白 N7/6	白色・褐色小礫	回転ナデ・回転糸切り	
746		1	包含層	白磁	碗	25		(2.1)	(6.0)	灰白 2.5Y8/2	白色粒子	ナデ	施釉
747		1	包含層	青磁	碗	5		(2.9)		釉：オリーブ灰色 2.5GY6/1 路胎：灰白 N8/	白色粒子		龍泉窯系（A 類？）
748		1	包含層	青磁	碗					灰白 7/0	白色粒子	ナデ	
749		1	包含層	瀬戸・美濃	碗	10		(2.2)	(6.15)	灰白 2.5Y8/1	白色・褐色粒子	回転ナデ・ヘラケズリ	
750		1	包含層	瀬戸・美濃	緑釉小皿	5	(12.0)	(1.7)		浅黄 2.5Y7/3・灰白 2.5Y8/2	白色粒子	ナデ	緑釉
752		2-1	包含層	土師器	壷	10	(17.7)	(5.6)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色・灰色粒子、4 ㎜白色・赤色礫	摩滅のため不明	
753		2-1	包含層	土師器	坩	30	(11.0)	5.75	2.2	淡橙 5YR8/4	白色・褐色粒子、雲母粒、褐色礫	摩滅のため調整不明	
754		2-1	包含層	土師器	小型鉢	40		4.1		橙 5YR7/8	白色・灰色粒子	摩滅のため調整不明	
755		2-1	包含層	土師器	坏	20	(10.0)	(3.1)	(4.6)	灰白 10YR8/2	白色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	内黒
756		2-1	包含層	土師器	坏	40	(14.6)	4.4	(6.6)	浅黄橙 10YR8/3	白色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ	内黒
757		2-1	包含層	土師器	壷	10		(2.3)	7.5	にぶい黄橙 10YR7/3	灰色粒子、2 ㎜以下石英・長石	摩滅のため不明瞭・ナデ・ヘラミガキ・板ナデ	木葉痕
758		2-1	包含層	土師器	高坏	10	(12.9)	(4.3)		橙 7.5YR7/6	白色・赤色・黒色粒子僅少	摩滅のため不明	
759	64	2-1	包含層	土師器	高坏	30		(7.9)	(13.1)	浅黄橙 7.5YR8/3	赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	4 方向に円形透かし孔か
760	64	2-1	包含層	土師器	高坏	40		(6.9)	(10.2)	橙 2.5YR6/8	白色粒子、雲母粒僅少	摩滅のため不明	3 方向に円形透かし孔
761		2-1	包含層	土師器	甕	5	(21.6)	(5.9)		にぶい橙 7.5YR7/4	白色・褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ・ヨコナデ・ハケ目	最大径：(23.7) cm 煤付着
762		2-1	包含層	土師器	甕	20	(16.2)	(18.6)		にぶい黄 2.5Y6/3	灰色粒子、雲母粒、5 ㎜白色・褐色礫	ヨコナデ・ナデ・ハケ目・指押さえ	最大径：(26.8) cm 煤付着
763	65	2-1	包含層	土師器	鉢		(28.9)	(10.1)		橙 5YR7/8 橙 5YR6/8	白色・赤色粒子	摩滅のため調整不明	
764		2-1	包含層	須恵器	坏蓋	25		(3.0)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	摘部径：2.8 cm
765		2-1	包含層	須恵器	坏身	20	(10.0)	(3.7)		赤灰 2.5YR5/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
766		2-1	包含層	須恵器	坏身	20	(15.0)	(6.0)	(9.4)	灰 N5	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
767		2-1	包含層	灰釉陶器	碗			(2.0)	(12.2)	灰白 N8/	白色粒子	ナデ	
768	64	2-1	包含層	須恵器	高坏	40		(11.6)	(11.0)	灰 N6	白色粒子	回転ナデ・ナデ痕	
769		2-1	包含層	灰釉陶器	蓋	10		(1.50)		灰白 N8/ オリーブ灰 2.5GY6/1	白色粒子、白色礫	器面剥離のため不明	つまみ部径：1.50 cm
770		2-1	包含層	灰釉陶器	壷蓋	5		(2.6)	(15.4)	灰白 N8/	黒色粒子	回転ナデ	
771		2-1	包含層	灰釉陶器	短頸壷	−		(2.8)	2.8	灰白 N8/・灰白 10Y7/2	白色粒子	回転ナデ	自然釉
772		2-1	包含層	灰釉陶器	水注	20		(3.25)		明オリーブ灰 2.5GY7/1 灰白 10YR7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ	頸部径：5.0 cm
773		2-1	包含層	灰釉陶器	短頸壷	10		(2.6)		灰白 N8/・灰白 10Y7/2	白色粒子、白色礫	回転ナデ	頸部径：(10.9) cm
774		2-1	包含層	土師質	鍋	−	(24.0)	(6.1)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒子、白色礫、雲母粒	摩滅のため調整不明瞭・ハケ目・ナデ	体部穿孔か
775		2-1	包含層	土師器	甕	−		(2.95)		橙 7.5YR6/6 にぶい黄橙 10YR7/3	白色礫	摩滅のため調整不明	
776		2-1	包含層	土師器	甕	−		(2.7)		にぶい黄橙 10YR7/4	白色礫	摩滅のため調整不明	
777		2-1	包含層	須恵器	甕	5	(29.6)	(12.5)		灰白 N7	白色粒子	回転ナデ	自然釉
778		2-1	包含層	山茶碗	小皿	20	(9.8)	(2.45)		灰白 N8/	白色礫	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	重ね焼痕
779		2-1	包含層	山茶碗	小碗	20		(1.9)	5.0	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	
780		2-1	包含層	山茶碗	小碗	95		(1.6)	5.6	灰白 2.5Y8/1	白色粒子、白色礫	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	渥美・湖西系 砂付着？
781		2-1	包含層	山茶碗	小碗	45		(1.4)	4.2	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	重ね焼痕　自然釉 渥美・湖西系
782		2-1	包含層	山茶碗	小碗	80		(1.2)	4.5	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	渥美・湖西系
783		2-1	包含層	山茶碗	小碗	95		(1.6)	5.0	オリーブ灰 2.5GY6/1 灰白 N8/	白色礫	回転ナデ・ナデ	重ね焼痕 渥美・湖西系
784		2-1	包含層	山茶碗	碗	30	(15.9)	(5.2)	(8.2)	灰白 10YR7/1	白色粒子・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	破損後煤付着
787		2-1	包含層	常滑	甕	−		(5.55)		赤褐 10R5/4 灰赤 10R5/2	白色粒子、白色礫	回転ナデ	
788	65	2-2	包含層	土師器	壷	70	9.6	(10.9)		橙 5YR7/6	白色・赤色・黒色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・指押さえ	最大径：(14.1) cm

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
789	64	2-2	包含層	土師器	高坏	45		(5.1)	12.0	橙 5YR7/6	赤色粒子	摩滅のため不明	
790		2-2	包含層	土師器	杯	15		(3.8)		橙 5YR6/6	赤色・褐色粒子。雲母粒僅少	摩滅のため調整不明	須恵器模倣杯
791		2-2	包含層	灰釉陶器	皿	5		(1.2)		灰白 N7/	白色粒子・長石	回転ナデ	
792		2-2	包含層	須恵器	壺	15		(3.0)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	平瓶か？
793		2-2	包含層	灰釉陶器	甕	5		(4.8)		灰白 N7/	白色粒子・長石	回転ナデ・ナデ・タタキ	
794		2-2	包含層	山茶碗	小碗	30	(9.4)	2.65	(4.8)	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	東遠江系スノコ痕
795		2-2	包含層	山茶碗	碗	20	(14.2)	3.65		灰 N6/ 灰黄褐 10YR6/2	白色粒子・長石	回転ナデ・糸切り	東遠系スノコ痕
796	65	2-2	SD206	山茶碗	碗	70		(4.9)	6.0	灰 N7	6 ㎜白色小礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	墨書「の」籾殻痕
797		2-2	包含層	土師器	鍋	5		(2.45)		橙 2.5YR7/6	白色礫	ナデ	
798		2-3	包含層	土師器	羽釜	5	(23.6)	(2.1)		にぶい橙 5YR6/4	密	ヨコナデ・ナデ	
799		2-2	包含層	常滑	鉢	5		(4.8)		褐灰 7.5YR6/1	長石	回転ナデ・ナデ	
800		2-2	包含層	常滑	甕	5		(9.4)		褐灰 5YR4/1 褐灰 5YR5/1	白色粒子	回転ナデ	
801		2-3	包含層	土師器	不明	-		(3.8)	(9.3)	浅黄橙 10YR8/4	白色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	赤色顔料付着木葉痕
802		2-3	包含層	須恵器	坏蓋	30	(14.2)	(3.2)		灰白 7.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ	
803		2-3	包含層	須恵器	坏身	5	(8.8)	(1.8)		灰 7.5Y6/1	密	回転ナデ	
804		2-3	包含層	灰釉陶器	碗	20		(2.1)	6.4	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	
805		2-3	包含層	灰釉陶器	碗	10		(2.5)	(6.9)	灰白 5Y7/1	白色・灰色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	
806		2-3	包含層	灰釉陶器	碗	-		(5.0)	(8.15)	灰白 N6/	白色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	東遠江系スノコ痕
807		2-3	包含層	灰釉陶器	碗	20		(2.8)	8.4	灰白 2.5Y8/2	密	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
808		2-3	包含層	土師器	内耳鍋	5		(2.7)		浅黄橙 7.5YR8/4 にぶい黄橙 10YR6/	白色礫	ナデ	
809	65	2-3	包含層	土師器	外耳鍋	5		(3.45)		にぶい橙 5YR7/4	白色粒子	ナデ・指押さえ	
810	65	2-3	包含層	青磁	碗	20		(2.8)	3.7	灰オリーブ 7.5Y5/2	密	回転ナデ・削り出し高台	
811		2-3	包含層	山茶碗	碗	-	(14.6)	(14.6)		灰白 N8/	長石	回転ナデ	
812		2-3	包含層	山茶碗	碗	20		(2.15)	8.5	灰白 N8/	白色・灰色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	
813		2-3	包含層	山茶碗	碗	15		(2.8)	(8.2)	灰白 7.5Y8/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	転用硯か
814		2-3	包含層	山茶碗	碗	-		(2.0)	8.1	灰白 N8/	白色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	渥美湖西。籾殻痕
815		2-3	包含層	山茶碗	碗	15		(2.5)	6.7	灰白 7.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	
816		2-3	包含層	山茶碗	碗	-		(2.1)	(7.4)	灰白 N8/	2 ㎜長石	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	渥美湖西
817	65	2-3	包含層	渥美湖西	甕	5		(5.8)		灰白 N7/0 灰白 5Y7/1	白色・灰色粒子	ナデ・施文	施釉
818		3-1	包含層	土師器	台付甕	基部100		(2.5)		灰黄 2.5Y6/2 灰黄褐色 10YR5/2	白色・灰色粒子多。雲母少	ナデ・ハケ後ナデ	接合部径：7.5 ㎝ 搬入品か
819		3-1	包含層	須恵器	坏身	-	-	-	-	灰白 5Y7/1	白色・灰色粒子	回転ナデ	墨書か（底部外面）
820		3-1	包含層	須恵器	坏身	25	(15.0)	3.6	(10.8)	灰白 2.5Y7/1	2 ㎜以下白色小礫・黒色小礫	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転糸切り？	
821		3-1	包含層	須恵器	坏身	40	(16.25)	5.75	(13.0)	灰白 10YR7/1	白色・灰色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
822		3-1	包含層	須恵器	長頸壺	頸部 40		(9.3)		灰白 5Y7/1・灰白 7.5Y7/1	白色・黒色・褐色粒子	回転ナデ・ナデ	外面自然釉・絞り痕
823	66	3-1	包含層	山茶碗	碗	95	16.0	5.2 ～ 5.9	7.2	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色・褐色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転糸切り	渥美・湖西系重ね焼痕　自然釉
824		3-1	包含層	山茶碗	碗	20		(3.5)	(8.0)	灰白 5Y8/1	白色・灰色粒子	回転ナデ・回転糸切り・ナデ	渥美・湖西系籾殻痕
825		3-1	包含層	山茶碗	碗	30		(1.9)	(7.4)	灰白 2.5Y8/1	白色・黒色・褐色粒子	回転ナデ・ナデ	渥美・湖西系籾殻痕　重ね焼き痕自然釉
826		3-1	包含層	山茶碗	碗	40		(1.8)	(8.2)	灰白 2.5Y8/1	白色・黒色・褐色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系自然釉　高台砂目
827		3-1	包含層	山茶碗	碗	底部100		(2.1)	7.2	灰白 N7/	白色・黒色・褐色粒子	回転ナデ	渥美・湖西系重ね焼痕　高台砂目
828		3-1	包含層	山茶碗	碗	底部100		(1.9)	7.8	灰白 2.5Y7/1	白色・灰色粒子	回転ナデ	渥美・湖西系高台砂目
829		3-1	包含層	山茶碗	碗	50		(2.2)	(8.4)	灰黄 2.5Y7/2 灰黄 2.5Y7/2	白色粒子多。黒色粒子少	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系
830		3-1	包含層	山茶碗	碗	20		(1.8)	7.4	灰白 N6/	白色・黒色・褐色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系
831		3-1	包含層	山茶碗	片口鉢	10	(27.6)	(4.8)		灰白 5Y7/1	白色粒子多。黒色粒子・石英・3 ㎜灰色礫僅少	回転ナデ	尾張（知多）系
832		3-1	包含層	古瀬戸	折縁小皿	5	-	(1.2)		灰白 2.5Y8/2 釉：浅黄 5Y7/3	白色粒子	回転ナデ	
833	66	3-1	包含層	古瀬戸	碗	5	(13.0)	(2.6)		灰白 2.5Y8/2 釉：灰黄 2.5Y7/2	白色粒子	回転ナデ	施釉

第 23 表　赤土政所遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
834	66	3-1	包含層	古瀬戸	三筋壷	肩部	-	(15.3)	-	灰白 2.5Y8/1 釉：オリーブ黄 5Y6/3	白色粒子	ナデ・回転ヘラケズリ	
835	66	3-1	包含層	瀬戸・美濃	擂鉢	口縁 5	(22.0)	(1.6)		灰白 2.5Y8/2 釉：灰褐 5YR4/2	灰色粒子・褐色粒子	回転ナデ	大窯
836	66	3-1	包含層	瀬戸・美濃	擂鉢	底部 20		(5.6)	(10.0)	灰白 2.5Y8/2 釉：褐灰 5YR4/1	白色粒子多。石英少	回転ナデ・ナデ・摺り目	大窯 底面鉄釉
837		3-1	包含層	山茶碗	甕	-	-	(8.3)	-	黄灰 2.5Y6/1 灰白 2.5Y7/1	白色粒子多	ナデ・タタキ	渥美
838		3-1	包含層	常滑	甕	5	(34.8)	(8.7)		にぶい赤褐 5YR5/4・ にぶい褐色 7.5YR5/3	白色粒子	回転ナデ・ナデ	
839	66	3-1	包含層	青磁	碗	5		(1.9)		露胎：灰黄 2.5Y7/2 釉：灰白 5Y7/2	灰色粒子	回転ナデ	
840	66	3-1	包含層	青磁	碗	-	-	(2.8)	-	露胎：灰白 5Y8/1 釉：オリーブ灰 2.5GY6/1	白色粒子	回転ナデ	龍泉窯系（A6 類？）
841	66	3-1	包含層	青磁	碗	底部 5		(1.8)	(5.4)	露胎：灰オリーブ 5Y6/2 釉：灰白 5Y5/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	同安窯系
842		3-1	包含層	常滑	甕	5	-	(5.3)		灰赤 2.5YR4/2 にぶい赤褐色 2.5YR5/3	白色・灰色粒子	回転ナデ・ナデ	鉄釉か
843		2-1	撹乱	土師器	甕	5	(36.0)	(5.2)		にぶい黄橙 10YR7/2	白色・赤色粒子	ヨコナデ・ナデ	
844		2-1	SH301	土師器	甕	-	(25.8)	(3.3)		浅黄橙 108/3	赤色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ・ハケ目	
845		2-1	撹乱	土師器	坏	5	(12.8)	(3.0)		淡橙 5YR8/4	白色・赤色・褐色粒子、褐色礫	摩滅のため調整不明・ナデ	
846		2-1	撹乱	須恵器	坏蓋	5	(1.22)	(1.4)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
847		2-1	撹乱	須恵器	坏蓋	5	(13.8)	(1.45)		灰白 N7	白色粒子	回転ナデ	
848		2-1	撹乱	須恵器	坏蓋	5	(13.7)	(2.3)		灰 N6/0	白色粒子	回転ナデ	
849		2-1	撹乱	須恵器	坏蓋	5	(14.0)	(2.1)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ	
850		2-1	撹乱	須恵器	坏蓋	5	(13.05)	(1.7)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ	
851		2-1	撹乱	須恵器	坏身	5	(9.8)	(2.6)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ	
852		2-1	撹乱	須恵器	坏身	5	(15.8)	(5.3)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子、白色礫	回転ナデ	
853		2-1	撹乱	須恵器	壷	5		(1.7)		灰白 5Y7/1 黒灰白 10YR4/1	白色・黒色粒子	回転ナデ	
854		2-1	撹乱	須恵器	広口壷	5	(20.6)	(4.7)		灰白 N7	白色・灰色粒子	回転ナデ・波状文？	
855		2-1	撹乱	灰釉陶器	碗	5		(2.2)	(7.0)	灰 N6/0	白色・黒色粒子、4 ㎜白色礫	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
856		2-1	SH01	灰釉陶器	碗	20		(1.75)	(5.8)	灰白 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	東遠江系。重ね焼き痕
857		2-1	撹乱	灰釉陶器	碗	10		(2.1)	(6.8)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ	重ね焼痕・自然釉
858		2-1	撹乱	灰釉陶器	碗	5		(2.45)	(9.3)	灰白 7.5Y7/1	白色・黒色粒子、白色礫	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	重ね焼痕
859		2-1	撹乱	灰釉陶器	壷	5		(4.3)	(13.3)	灰白 5Y7/2	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	施釉
860		2-1	撹乱	須恵器	碗	10		(1.55)	(6.2)	灰白 N8/0	白色・黒色粒子、黒色礫	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
861		2-1	撹乱	山茶碗	小皿	30	(7.4)	(1.5)	(3.8)	灰 N6/0	白色・褐色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系
862		2-1	SH01	山茶碗	碗	10	(13.6)	(2.7)		灰白 N8/0	白色粒子、長石粒	回転ナデ	渥美・湖西産
863		2-1	SH01	山茶碗	碗	10	(15.0)	(2.8)		灰白 N8/0	白色粒子	回転ナデ	渥美・湖西産
864		2-1	撹乱	山茶碗	碗	5		(2.1)	(6.5)	灰白 N7/0	白色・黒色粒子、6 ㎜灰色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	東遠江系 重ね焼き痕
865		2-1	撹乱	山茶碗	碗	5		(1.7)	(6.8)	灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
866		2-1	撹乱	山茶碗	碗	5		(1.65)		灰白 N8/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系
867		2-1	撹乱	山茶碗	碗	5		(1.4)		灰白 N8/0	白色・灰色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	
868		2-1	撹乱	山茶碗	碗	10		(2.5)	5.3	灰 N6	白色粒子、白色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	東遠江系 重ね焼痕・スノコ痕
869		2-1	撹乱	山茶碗	碗	5		(1.6)	(6.0)	灰 N6	白色粒子	回転ナデ・ナデ	東遠江系
870		2-1	撹乱	山茶碗	碗	10		(2.25)	(6.5)	灰 N6/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	東遠系 重ね焼痕　籾殻痕
871		2-1	撹乱	山茶碗	碗	5		(2.65)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	重ね焼痕
872		2-1	撹乱	山茶碗	碗	5		(2.0)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	ナデ・回転ヘラケズリ？	

第 24 表　赤土政所遺跡出土木製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	グリッド	遺構 層位	分類群	器種名	器種 細分名 1	器種 細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
79	40	2-1	P27	SD403 下層	農耕土木具	鋤	一木	二又	古墳前 ～中期	柾目	イチイガシ	(101.3)	(14.3)	柄 2.8 身 2.4	
80	40	2-1	P28	SD403 下層	編み具 ・紡錘具	編台	錘		古墳前 ～中期	芯持材	ヤマグワ	11.4	7.2	6.1	
81	40	2-1	P29	SD403 下層	建築部材	梯子			古墳前 ～中期	芯去材	ツブラジイ	(162.4)	(8.2)	5.4	
82	40	2-1	P27	SD403 下層	武器・武具 ・馬具	剣	鞘		古墳前 ～中期	柾目	スギ	27.7	3.4	1.3	
83		2-1	P28	SD403 上層	建築部材	礎板・ 根絡み			古墳前 ～中期		クリ	22.1	10.65	7.4	割材。炭化 圧痕
84	40	2-1	P29	SD403 下層	工具	作業台			古墳前 ～中期	芯持材	コナラ属 アカガシ亜属	39.45	20.4	10.6	
85		2-1	P28	SD403 上層	建築部材	礎板・ 根絡み			古墳前 ～中期	芯去材	ツブラジイ	39.7	13.4	4.7	割材
86		2-1	P28	SD403 上層	建築部材	礎板・ 根絡み			古墳前 ～中期	芯去材	クリ	23.3	16.5	7.5	
209		1	R30	SB202-P1	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯去材	クリ	(31.25)	(18.4)	(15.8)	
210	46	1	QR30	SB203-P6 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	クリ	(50.2)	24.0	22.6	
211		1	R30	SB203-P8 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	クリ	(34.3)	15.1	(14.4)	
212		1	Q30	SB204-P2 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安		ヒノキ	(32.5)	(23.8)	(14.4)	割材
213		1	R30	SB204-P7 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯去材	クリ	(29.3)	17.0	11.0	
214		1	R30	SB204-P8	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	柾目	ヒノキ	16.45	25.0	4.4	
215		1	Q30	SB204-P10 覆土	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	板目	スギ	23.4	14.2	5.7	
216		1	Q30	SB204-P10 覆土	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	板目	スギ	21.6	11.35	5.2	
217		1	Q30	SB205-P3 覆土	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	芯去材	クリ	(32.55)	(19.9)	(17.9)	
218		1	Q30	SB205-P5 覆土	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	柾目	ヒノキ	16.0	15.0	3.8	
219		1	Q30	SB205-P5 覆土	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	板目	ヒノキ	16.2	19.3	4.5	
220		1	R30	SB205-P11	建築部材	柱			奈良末 ～平安		サワラ	(32.3)	(18.3)	(12.55)	割材？
221		1	Q29	SB208-P8	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	コナラ属 コナラ節	(50.3)	13.5	10.1	
222		1	Q29	SB209-P3	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯去材	クリ	(24.7)	16.6	14.3	
223	46	1	Q30	SB210-P1 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯去材	クリ	(52.2)	25.5	19.2	
224		1	Q30	SB210-P1 覆土	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	芯去材	クリ	26.1	10.7	3.0	
225		1	Q30	SB210-P1 覆土	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	芯去材	クリ	24.6	22.3	6.0	
226		1	Q30	SB210-P2 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安		クリ	31.5	14.8	11.2	227 が乗る
227		1	Q30	SB210-P2 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯去材	クリ	(35.5)	22.4	23.3	
228	46	1	Q30	SB210-P3 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	クリ	(40.7)	19.1	16.7	
229	46	1	Q30	SB210-P3 覆土	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	板目	クリ	40.0	15.1	3.5	228 が乗る
230	46	1	Q30	SB210-P4 覆土	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	クリ	(54.9)	24.4	23.2	
231		2-1	P29	SB211-P2	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	ツブラジイ	31.3	18.3	18.3	
232		2-1	P29	SB211-P2	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	板目	クリ	22.3	13.9	4.0	231 が乗る
233		2-1	P29	SB211-P2	建築部材	礎板・ 根絡み			奈良末 ～平安	柾目	クリ	37.1	9.3	2.7	231.232 が乗る
234	46	2-1	P29	SB211-P3	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	クリ	(45.8)	23.3	18.5	
235		2-1	P29	SB208-P10	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	スダジイ	(33.85)	14.9	12.15	
236	46	2-1	P29	SB211-P5	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	クリ	(43.5)	21.8	19.0	
237		2-1	P28,29	SB211-P6 SB212-P6	建築部材	柱			奈良末 ～平安	板目	スダジイ	33.0	13.2	5.0	
238		2-1	P29	SB211-P1 SB212-P3	建築部材	柱			奈良末 ～平安	芯持材	クリ	(28.8)	(25.1)	(21.5)	

第 24 表　赤土政所遺跡出土木製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	グリッド	遺構 層位	分類群	器種名	器種 細分名 1	器種 細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
239		2-1	P28	SB212-P1	建築部材	柱			奈良末～平安	芯持材	ツブラジイ	(25.8)	19.0	9.3	
240		2-1	P28	SB212-P2	建築部材	柱			奈良末～平安	芯持材	クリ	(31.9)	20.3	17.9	
241		2-1	0P28	SB214-P2	建築部材	柱			奈良末～平安	芯持材	クリ	(35.5)	23.2	14.7	
242		2-1	P28	SB214-P8	建築部材	柱			奈良末～平安	芯持材	クリ	(35.2)	16.7	14.7	
243		2-1	P28	SB214-P7	建築部材	柱			奈良末～平安	芯持材	クリ	(31.8)	21.1	14.2	
432	55	2-2	025	SD206	祭祀具	形代	その他		奈良末～平安	板目	ヒノキ	12.7	4.1	0.5	
433	55	2-2	025	SD206	祭祀具	齋串？			奈良末～平安	板目	スギ	(14.5)	(2.3)	0.7	
434	55	2-2	025	SD206	祭祀具	齋串？			奈良末～平安	板目	スギ	(12.0)	2.0	0.4	
435	55	2-2	025	SD206	祭祀具	齋串？			奈良末～平安	板目	スギ	(15.7)	2.1	0.7	
436	55	2-2	025	SD206	祭祀具	齋串			奈良末～平安	板目	スギ	(22.7)	2.1	0.45	切り欠き
437	55	2-2	025	SD206	祭祀具	齋串			奈良末～平安	板目	ヒノキ	(7.65)	1.8	0.5	
438	55	2-2	025	SD206	祭祀具	齋串			奈良末～平安	板目	ヒノキ属	38.9	2.1	0.4	
439	60	2-2	025	SD206	祭祀具	形代	武器形？		奈良末～平安	板目	ヒノキ	(44.3)	3.0	1.0	圧痕
440	55	2-2	N25	SD206	祭祀具	形代	武器形？		奈良末～平安	板目	スギ	(28.6)	7.7	1.4	
441	56	2-2	025	SD206	容器	底板（蓋板）			奈良末～平安	板目	スギ	72.5	(25.7)	1.1	孔 2 箇所 木釘
442	56	2-2	025	SD206	容器	底板（蓋板）	曲物	曲物底板	奈良末～平安	板目	スギ	(48.3)	(11.3)	1.1	木釘 4 箇所
443		2-2	025	SD206	容器	底板（蓋板）	曲物	曲物底板	奈良末～平安	板目	スギ	(58.2)	(12.4)	1.2	木釘 1 箇所
444		2-2	025	SD206	容器	底板（蓋板）	曲物	曲物底板	奈良末～平安	板目	スギ	(60.9)	(12.4)	0.8	木釘 3 箇所
445	56	2-2	025	SD206	容器	底板（蓋板）	曲物	曲物底板	奈良末～平安	板目	スギ	(31.3)	(10.5)	1.0	孔
446	56	2-2	025	SD206	容器	底板（蓋板）	曲物	曲物底板	奈良末～平安	板目	スギ	(17.5)	(4.6)	0.9	孔 2 箇所
447	56	2-2	025	SD206	容器	底板（蓋板）	曲物	曲物底板	奈良末～平安	板目	ヒノキ	21.2	21.0	0.9	木釘 4 箇所
448	56	2-2	025	SD206	容器	底板（蓋板）	曲物	曲物底板	奈良末～平安	板目	ヒノキ	35.3	12.4	2.2	楕円形
449-1		2-2	025	SD206	容器	側板			奈良末～平安	板目	ヒノキ	87.2	1.4	0.3	切り欠き
449-2		2-2	025	SD206	容器	側板			奈良末～平安	板目	ヒノキ	(91.0)	6.2	0.3	切り欠き
449-3		2-2	025	SD206	容器	側板			奈良末～平安	板目	ヒノキ	(16.3)	5.3	0.3	切り欠き
449-4		2-2	025	SD206	容器	側板			奈良末～平安	板目	ヒノキ	(64.5)	6.2	0.3	切り欠き
449-5		2-2	025	SD206	容器	側板			奈良末～平安	板目	ヒノキ	(57.0)	1.5	0.25	切り欠き
449-6		2-2	025	SD206	容器	側板			奈良末～平安	板目	ヒノキ	(61.1)	6.0	0.3	切り欠き
449-7		2-2	025	SD206	容器	側板			奈良末～平安	板目	ヒノキ	(75.7)	6.5	0.3	切り欠き
450	57	2-2	025	SD206	容器	槽	刳物		奈良末～平安	柾目	サワラ	(49.3)	(16.0)	12.65	横木取り 長方形
451	57	2-2	025	SD206	容器	槽	刳物		奈良末～平安	柾目	イチイガシ	43.4	16.45	(4.15)	横木取り 長方形
452	57	2-2	025	SD206	容器	槽	刳物		奈良末～平安	柾目	スギ	31.4	(8.35)	(5.95)	方形
453		2-2	025	SD206	容器	槽	刳物		奈良末～平安	柾目	スギ	(20.2)	(8.8)	(5.8)	横木取り 方形
454	60	2-2	025	SD206	容器	槽	刳物		奈良末～平安	柾目	スダジイ	(7.2)	(5.0)	(6.1)	横木取り 炭化
455		2-2	025	SD206	食事具	箸			奈良末～平安	板目	スギ	12.8	1.2	0.6	
456		2-2	025	SD206	食事具	箸			奈良末～平安	板目	ヒノキ	(14.5)	0.8	0.7	
457	58	2-2	025	SD206	農耕 土木具	鍬	曲柄 鍬身	平鍬	奈良末～平安	柾目	イチイガシ	48.8	17.1	1.9	緊縛痕
458	58	2-2	025	SD206	工具	槌	横槌		奈良末～平安	芯持材	ヤマグワ	(32.85)	(6.45)	(6.55)	

第 24 表　赤土政所遺跡出土木製品観察表

挿図No.	図版No.	区	グリッド	遺構層位	分類群	器種名	器種細分名 1	器種細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
459	58	2-2	N25	SD206	工具	槌	掛矢		奈良末～平安	柾目	コナラ属アカガシ亜属	(32.6)	(14.85)	(6.85)	孔(6.9×6.35㎝)二次転用
460	60	2-2	O25	SD206	農耕土木具	大足	枠木		奈良末～平安	柾目	スギ	(18.5)	4.5	2.0	孔3箇所緊縛痕
461	60	2-2	O25	SD206	農耕土木具	馬鍬	台		奈良末～平安	板目	ヒノキ	51.8	8.6	6.5	孔3箇所
462	58	2-2	O25	SD206	農耕土木具	馬鍬	台		奈良末～平安	板目	イチイガシ	(42.4)	7.9	6.7	孔3箇所
463	60	2-2	O25	SD206	武器・武具・馬具	馬具	荷鞍	輪木	奈良末～平安	柾目	サンゴジュ				
464	58	2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	追柾目	ツブラジイ	97.7	12.9	4.3	
465	57	2-2	N25	SD206	調度	その他・不明			奈良末～平安	芯去材	サワラ	(79.6)	6.0	2.8	木釘・孔・楔焦痕
										芯持材	サワラ	19.7	(14.8)	3.3	圧痕
466	56	2-2	O25	SD206	服飾具	履物	下駄		奈良末～平安	板目	スギ	24.2	11.3	1.6	孔3箇所
467	60	2-2	O25	SD206	服飾具	履物	下駄	連歯(一木)	奈良末～平安	板目	イヌマキ属	18.8	9.1	4.1	焦痕
468	58	2-2	O25	SD206	編み具・紡錘具	糸巻具	桙	腕木	奈良末～平安	柾目	ヒノキ	29.8	2.0	2.5	孔1箇所
469		2-2	N25	SD206	農耕土木具	田舟			奈良末～平安	板目	スギ	(76.5)	(22.6)	(10.1)	焦痕
470	58	2-2	N25	SD206	農耕土木具	田舟			奈良末～平安	芯持材	ケヤキ	(15.0)	(6.45)	(6.65)	横木取り
471		2-2	O25	SD206	農耕土木具	田舟			奈良末～平安	板目	スギ	(89.45)	(36.5)	(12.1)	一部炭化
472	59	2-2	O25	SD206	建築部材	扉			奈良末～平安	柾目	ユズリハ属	(112.15)	(23.7)	(8.45)	
473	59	2-2	O25	SD206	建築部材	梯子			奈良末～平安	芯持材	クスノキ科B	(48.2)	16.0	4.5	段部厚:8.9
474		2-2	O25	SD206	建築部材	その他・不明			奈良末～平安	芯持材	ユズリハ属	(55.1)	10.4	(5.6)	焦痕
475	59	2-2	O25	SD206	建築部材	その他・不明			奈良末～平安	柾目	イヌマキ属	(33.0)	6.6	(6.25)	炭化
476	59	2-2	N25	SD206	建築部材	垂木			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	(22.4)	7.4	7.45	炭化
477		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	72.0	8.3	6.9	
478		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	ツブラジイ	60.0	(7.6)	(6.0)	
479		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	ヒサカキ	(65.8)	4.2	3.4	
480	55	2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	134.0	39.0	4.0	
481	55	2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	164.4	8.2	7.6	焦痕
482	60	2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	板目	イヌマキ属	15.5	6.0	3.0	
483		2-2	N25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	(40.0)	4.6	4.1	
484		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	サカキ	(38.2)	(4.8)	(4.5)	
485		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	48.1	5.3	4.5	
486		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	31.0	2.9	2.0	
487		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	サンゴジュ	81.8	3.6	3.4	
488		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	117.0	4.8	4.5	
489		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	114.8	2.6	2.5	
490		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	100.2	2.7	2.5	
491	55	2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	192.0	5.2	5.3	
492	58	2-2	O25	SD206	工具	箭(楔)			奈良末～平安	芯持材	ツブラジイ	(13.6)	4.6	2.6	
493		2-2	O25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	27.0	8.1	7.5	
494		2-2	N25	SD206	土木材	杭			奈良末～平安	芯持材	コナラ属クヌギ節	60.9	5.7	7.0	

第 24 表　赤土政所遺跡出土木製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	グリッド	遺構 層位	分類群	器種名	器種 細分名 1	器種 細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
495		2-2	O25	SD206	施設材	導水施設	木樋		奈良末～平安	芯持材	ツブラジイ	(143.1)	22.8	(15.0)	
496	60	2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	柾目	スギ	44.6	3.3	1.3	焦痕
497		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	柾目	スダジイ	(56.9)	(6.4)	1.6	
498		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	柾目	センダン	52.3	11.3	3.6	
499		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	板目	スギ	58.5	16.4	1.9	
500		2-2	N25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	柾目	イチイガシ	(59.3)	(18.2)	4.4	
501		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	板目	ヒノキ	(124.4)	25.7		孔痕
502		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	板目	イヌマキ属	80.5	(17.3)	4.7	
503		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	柾目	イチイガシ	83.7	9.8	2.7	焦痕
504		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	柾目	センダン	93.2	(15.6)	2.3	
505		2-2	O25	SD206	その他	加工材	残材		奈良末～平安	芯持材	サカキ	19.9	13.8	12.5	
506		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	割材	イヌマキ属	31.8	11.9	7.0	
507		2-2	O25	SD206	その他	加工材	芯持材		奈良末～平安	芯持材	イヌガヤ	37.7	14.7	15.3	
508		2-2	O25	SD206	その他	加工材	分割材		奈良末～平安	柾目	ツブラジイ	47.6	8.4	4.2	
509	59	2-2	O25	SD206	建築部材	柱			奈良末～平安	芯持材	タイミンタチバナ	188.4	11.4	10.4	
510	55	2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	ヒノキ	5.1	3.5	0.3	
511	55	2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	ヒノキ	9.6	1.0	0.3	
512		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	スギ	12.1	1.9	1.1	
513		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	ヒノキ	7.4	6.3	1.5	
514	60	2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	ヒノキ	39.35	(8.6)	4.7	孔 2 箇所
515		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	芯持材	アカガシ亜属	41.1	13.4	11.9	
516		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	スギ	(17.65)	3.55	0.7	ほぞ孔
517				SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	柾目	スダジイ	57.7	4.7	3.3	切り欠き
518	60	2-2	N25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	柾目	スギ	(23.3)	(10.7)	1.8	孔 7 箇所
519		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	柾目	クスノキ	(25.8)	9.7	6.5	炭化
520		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	イヌマキ属	34.3	3.0	1.5	切り欠き 3 箇所
521		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	芯持材	イヌマキ属	(23.0)	4.4	3.8	上部径：4.3 ㎝
522		2-2	N25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	エゴノキ属	(36.35)	(23.45)	(7.2)	
523		2-2	N25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	芯持材	ケヤキ	(5.65)	(15.95)	(19.3)	
524	60	2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	芯持材	イヌガヤ	(74.6)	(31.35)	5.55	
525	55	2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	イヌマキ属	(6.25)	3.3	0.9	
526	60	2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	柾目	クスノキ科 B	(6.5)	3.8	1.5	一部炭化
527		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	柾目	イヌマキ属	16.8	2.75	2.1	
528	60	2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	スギ	19.1	2.1	0.8	上下端にほぞ孔 3 箇所
529	60	2-2	N25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	スギ	21.25	2.75	1.8	孔 6 箇所
530		2-2	O25	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	板目	スギ	26.2	2.2	1.1	

第 24 表　赤土政所遺跡出土木製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	グリッド	遺構 層位	分類群	器種名	器種 細分名 1	器種 細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
531		2-2	025	SD206	用途不明品	その他・不明			奈良末～平安	柾目	クリ	(32.7)	3.9	1.2	
563		3-1			畦畔材	杭				芯持材	サカキ	34.5	4.1	3.85	
564		3-1			畦畔材	杭				芯持材	クロマツ	36.75	4.2	3.8	
593		3-1			杭					芯持材	コナラ属アカガシ亜属	(27.32)	3.8	3.75	
697		3-1		SR110	杭					芯持材	クロマツ	(15.85)	4.1	3.2	
698		3-1		SR110	杭					芯持材	クロマツ	(21.1)	3.3	(1.6)	
699		3-1		SR110	杭					芯持材	マツ属複維管束亜属	(26.45)	2.8	2.7	
700		3-1		SR110	杭					芯持材	アカマツ	(26.2)	3.3	3.3	
701	63	3-1		SR110	杭					芯持材	マツ属複維管束亜属	(36.0)	2.8	2.7	
702		3-1		SR110	杭					芯持材	マツ属複維管束亜属	(36.5)	3.3	3.0	
703		3-1		SR110	杭					芯持材	クロマツ	(32.7)	3.3	3.3	
704		3-1		SR110	杭					芯持材	マツ属複維管束亜属	(28.0)	3.85	3.4	
705	63	3-1		SR110	杭					芯持材	アカマツ	(27.3)	2.6	2.5	
706		3-1		SR110	杭					芯持材	クリ	(37.3)	3.7	3.6	
707	63	3-1		SR110	杭					芯持材	スギ	41.05	5.95	3.8	
708		3-1		SR110	杭					芯持材	アスナロ	41.3	5.6	3.3	緊縛痕
709		3-1		SR110	杭					芯持材	エゴノキ属	(50.5)	4.15	3.9	
710		3-1		SR110	杭					芯持材	トネリコ属	(37.15)	5.7	(3.0)	
711	63	3-1		SR110	杭					芯持材	クロマツ	(61.8)	3.5	3.3	
712	63	3-1		SR110	杭					芯持材	アスナロ	(45.5)	4.7	4.6	
713	63	3-1		SR110	杭					芯持材	マツ属複維管束亜属	(33.6)	8.8	8.75	
714	63	3-1		SR110	杭					芯持材	スギ	(52.45)	5.8	5.0	
715	63	3-1		SR110	杭					芯持材	マツ属複維管束亜属	(51.7)	5.6	5.2	
716	63	3-1		SR110	杭					芯持材	マツ属複維管束亜属	(49.7)	6.6	6.4	
717		3-1		SR110	杭					芯持材	アカマツ	(37.9)	4.85	4.85	
718	63	3-1		SR110	杭					柾目	スギ	(41.85)	8.2	4.0	
719	63	3-1		SR110	杭					板目	スギ	53.0	5.15	6.2	ミカン割り材？
720	63	3-1		SR110	杭					板目	スギ	(61.8)	4.55	5.0	ミカン割り材？
721	63	3-1		SR110	杭					板目	スギ	(64.3)	8.15	6.25	ミカン割り材？
884		3-1			杭					板目	スギ	27.9	4.3	4.0	
885		3-1			杭					芯持材	サワラ	(43.35)	5.0	4.45	
886		3-1			杭					芯持材	ヒノキ	(38.0)	5.8	2.9	
887		3-1			杭					芯持材	アスナロ	(32.5)	5.7	4.7	
888		3-1			杭					芯持材	スギ	(52.4)	6.6	6.1	

第 25 表　赤土政所遺跡出土石器・石製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	遺構・層位	グリッド	器種	最大長	最大幅	厚	重量（g）	石材	備考
94	42	2-2	第４面直上	025	有孔円盤滑石製模造品？	1.9	2.85	0.32		緑色片岩（天竜川水系）	
146		2-1	SK309	Q28	矢柄研磨器？	(4.28)	(3.9)	1.8		流紋岩質凝灰岩	推定直径：5.6 ㎝　孔径：1.9 ㎝
246	47	1	SK203		砥石	(7.8)	(6.8)	(2.72)		細粒砂岩（大井川水系か）	
264	49	2-1	SK211 覆土		棗玉	1.65	1.2	0.9	1.0	琥珀	孔径 0.2㎝
429	54	2-2	SD206 覆土	N25	石錘	15.8	6.9	6.4		中粒砂岩	
430	54	2-2	SD206	025	有孔磨製石製品	(5.35)	(2.45)	0.6		緑色片岩（天竜川水系）	未成品
785	54	2-1	排水溝	P28	尖頭器	(2.4)	2.8	1.05		珪質粘板岩	
878	65	3-1	第１面包含層		砥石		(4.7)	2.3		凝灰岩 or シルト岩	表面摩滅

第 26 表　赤土政所遺跡出土土製品観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構・層位	グリッド	器種	最大長	最大幅	厚み	色調	備考
149	45	2-1	SD06	Q29	土錘		1.7	3.25	にぶい黄橙 10YR7/3	
308	49	2-1	SK08	Q29	土錘		1.85	4.65	灰白 2.5Y8/2	
621	62	1	SX103		土錘		3.02	6.1	にぶい黄橙 10YR7/3	
724	62	1	SP78	Q29	土錘		1.45	3.6	にぶい黄橙 10YR7/3	

第 27 表　赤土政所遺跡出土金属製品等観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構・層位	グリッド	種別	最大長	最大幅	厚み	備考
331	49	2-1	SK210	P28	鉄滓	3.45	2.55	1.9	
332	49	2-1	SK210	P・Q-28	鉄滓	3.3	3.45	1.7	
333	49	2-1	SK210	P・Q-28	鉄滓	7.08	6.4	2.68	
431	54	2-2	SD206		鉄滓	2.5	3.7	1.45	
751	66	1		Q30N	鉄滓	2.27	3.4	2.08	
786		2-1			釘	7.4	0.8	0.7	
873		2-1	攪乱		鉄鍋	口径 (25.2)	残存高 2.4		
875		2-1	攪乱		不明	3.5	3	0.25	廃材か
876	66	2-1	攪乱	P27	鉄滓	3.75	4.05	2.1	
877	66	2-1	攪乱	P26・27	鉄滓	1.8	2.83	2.1	
879	66	3-1			煙管	5.3	0.95	0.9	真鍮製
880	66	1		Q29	銭貨				文久永寶
881	66	2-2			銭貨				文久永寶
882	66	2-2		026	銭貨				元祐通寶
883	66	2-2		026	銭貨				

第 28 表　赤土政所遺跡掘立柱建物計測表

遺構名	区	グリッド	主軸方向	間数		規模		面積	柱痕	備考
				桁	梁	桁	梁			
SB201	1	R-30・31	N-27°　-E	2	(2)	4.5	-	-	○	柱根、土器 (182)
SB202	1	R-30・31	N-27°　-E	3	(3)	5.25	-	-	○	柱根 (209)、土器 (183)
SB203	1	Q-29・30	N-27°　-E	5	3	5	-	-	○	柱根 (210・211)、土器 (184)
SB204	1	Q・R-30	N-33°　-E	3	3	5.3	4.7	24.9	○	柱根 (212・214) 礎板 (215・216) 土器 (185・186)
SB205	1	Q-29・30	N-31°　-E	5	3	8.3	4.7	39.0	○	柱根、礎板 (217・218) 土器 (188 ～ 194)
SB206	1	Q-29・30	N-28°　-E	(3)	3	-	4.4	-	○	土器 (187・195・196)
SB207	1	Q-29・30	N-61°　-E	(3)	2	2.9	-	-	○	土器 (197)
SB208	2-1	Q-29	N-27°　-W	4	3	4.5	7.5	33.75	○	柱根 (221) 土器 (198 ～ 200)
SB209	2-1	Q-29	-	(1)	(2)	-	-	-	○	柱根 (222)
SB210	2-1	Q-30	-	(3)	-	-	-	-	○	柱根 223・226 ～ 230) 礎板 (224・225)、土器 (201)
SB211	2-1	P-28・29	-	(1)	(3)	-	-	-	○	柱根 (231・234 ～ 236) 礎板 (232・233)、土器 (202)
SB212	2-1	P-28・29	-	(1)	(3)	-	-	-	○	柱根 (238 ～ 240) 礎板 (237) 土器 (203・204)
SB213	2-1	P-29	-	(1)	(3)	-	-	-		礎板
SB214	2-1	O-28 P-27・28	-	(1)	(3)	-	-	-		柱根 (241 ～ 243)，礎板 土器 (206 ～ 208)
SB215	2-1	P-27	-	(1)	(3)	-	-	-		
SB216	2-1	P-27・28	-	-	-	-	-	-		
SB101	1-1	R-30	N-15°　-E	-	2	-	-	-	○	土器 (595・596)
SB102	2-2	N-24	-	-	-	-	-	-		土器 (594
SB103	2-2	N-24	-	-	-	-	-	-		

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
1	74	4		弥生土器	深鉢	5		(3.5)		明赤褐色 2.5YR5/6	白色・淡橙色粒子	摩滅のため不明瞭・羽状文・キザミ	
2	74	4		弥生土器	深鉢	5		(4.5)		灰白 10YR8/2	白色・褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ハケ・ナデ・指押さえ	拓
3	74	5-1	SD101 上層	土師器	坏	90	13.10	4.6	6.1	にぶい橙 7.5YR7/4	褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・指押さえ	
4	74	5-1	SD101 上層	土師器	坏	98	13.2	4.1	6.5	浅黄橙 7.5YR8/4	褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・板ナデ・指押さえ	
5	74	5-1	SD101 上層	土師器	坏	75	(13.7)	3.55	6.7	にぶい橙 5YR7/3	褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・指押さえ	
6	74	5-1	SD101 上層	土師器	坏	95	12.9	4.25	5.8	橙 5YR7/6	白色・褐色粒子	摩滅のため不明明瞭・回転糸切り	
7		5-1	SD101 上層	土師器	坏	25	(12.8)	3.65	(4.0)	橙 5YR7/6	赤色粒子、白色・灰色礫	摩滅のため不明	
8	74	5-1	SD101 上層	土師器	坏	100	13.1	3.6	7.0	にぶい橙 7.5YR7/4	褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・指押さえ	外面煤付着
9	74	5-1	SD101 上層	土師器	坏	75	12.1	3.75	7.0	にぶい黄橙 10YR7/3	白色・褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・指押さえ	
10	74	5-1	SD101 上層	土師器	坏	100	12.4	3.4	6.2	橙 7.5YR6/6	褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・指押さえ	
11		5-1	SD101 上層	土師器	坏	15	(11.5)	2.8		にぶい褐 7.5YR5/4	赤色粒子多	摩滅のため不明	
12	74	5-1	SD101 上層	土師器	碗	30		(4.2)	6.5	橙 5YR7/6	褐色粒子	摩滅のため不明	
13		5-1	SD101 上層	土師器	高坏	25		(4.75)	(8.3)	橙 7.5YR7/6	褐色粒子	摩滅のため不明	
14		5-1	SD101 上層	土師器	高坏	30		(6.2)		橙 5YR7/6	赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ヘラケズリ・ナデ	
15	74	5-1	SD101 上層	土師器	壷	8	(27.2)	(3.3)		浅黄橙 7.5YR8/4	白色・灰色粒子	摩滅のため不明	
16		5-1	SD101 上層	土師器	甕	15	(16.6)	(4.9)		橙 7.5YR7/6	白色・褐色粒子、灰色礫	摩滅のため不明瞭・ナデ・ハケ	
17	74	5-1	SD101 上層	土師器	台付甕	10	(22.5)	(2.8)		灰白 10YR8/2	白色・灰色・赤色粒子	ヨコナデ・ハケ	
18		5-1	SD101 上層	土師器	台付甕	5	(25.2)	(3.2)		灰白 10YR8/2	白色・黒色・赤色粒子	ヨコナデ・ナデ・ハケ	
19	74	5-1	SD101 上層	須恵器	甕	10		(3.55)		灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ヘラナデ	孔径 1.9 ㎝ 自然釉
20		5-1	SD101 上層	山茶碗	碗	20		(2.2)	(6.4)	灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ	墨書 重ね焼き痕
21	74	5-1	SD101 上層	灰釉陶器	碗	100	14.3	4.7	7.6	灰黄 2.5Y7/2	白色・黒色粒子、5 ㎜礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	墨書土器 (側「賀」 底「□」) 灰釉浸け掛け 転用硯か　ソダ痕
22	113	5-1	SD101 上層	灰釉陶器	碗	10	(12.2)	4.2	(7.0)	灰白 N7/0	白色・黒色粒子、5 ㎜礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	外面施釉
23	113	5-1	SD101 上層	灰釉陶器	碗	45	(13.75)	4.5	(6.6)	灰白 10YR7/1	白色・黒色粒子、6 ㎜礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	外面施釉　火ぶくれ 重ね焼き痕
24		5-1	SD101 上層	灰釉陶器	碗	15	(14.0)	(4.05)	(6.8)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り	
25		5-1	SD101 上層	灰釉陶器	碗	65	12.5	3.9	5.5	灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	灯明皿に転用か 内面煤付着
26		5-1	SD101 上層	灰釉陶器	碗	75	12.3	3.85	6.25	灰白 N7/0	白色・黒色粒子、灰色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	灰釉浸け掛け
27		5-1	SD101 上層	灰釉陶器	碗	30	(14.9)	4.3		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	内面施釉　火ぶくれ 重ね焼き痕
28		5-1	SD101 上層	灰釉陶器(無釉) or 山茶碗	碗	40	(14.8)	4.4	6.7	灰白 N7/0	白色・黒色粒子、8 ㎜礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	内面重ね焼き痕
29		5-1	SD101 上層	山茶碗	輪花碗	45	(15.4)	6.15	7.4	灰白 N7/0	白色・黒色粒子、4 ㎜礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	輪花 4 箇所
30		5-1	SD101 上層	山茶碗	輪花碗	10	(15.4)	(4.2)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子、4 ㎜礫	回転ナデ	29 と同一個体
31		5-2	SD101 上層	土師器	坏	20	(12.2)	3.9	7.8	灰黄褐 10YR5/2	雲母粒	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	内黒
32	75	5-2	SD101 上層	土師器	坏	100	12.0	3.5	6.0	にぶい黄橙 10YR7/2	雲母粒	ナデ・ミガキ	内黒
33		5-2	SD101 上層	土師器	坏	30	(12.2)	3.2	(5.1)	灰黄 2.5Y7/2	灰色粒子	ナデ・ミガキ	内黒
34	75	5-2	SD101 上層	土師器	坏	55	12.0	3.8	9.0	橙 7.5YR7/6	赤褐色粒子	摩滅のため不明	

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
35	75	5-2	SD101 上層	土師器	坏	50	(11.8)	3.6	(7.1)	橙 5YR7/6	灰色・赤色粒子	摩滅のため不明	
36	75	5-2	SD101 上層	土師器	坏	100	13.8	3.55	14.0	浅黄橙 7.5YR8/4	赤褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・指押さえ	
37		5-2	SD101 上層	土師器	高坏	20		(7.3)		にぶい橙 7.5YR7/4	灰色・赤色粒子	摩滅のため不明	
38		5-2	SD101 上層	土師器	高坏	30		(4.8)		橙 5YR6/8	赤褐色粒子多。白色粒子少	摩滅のため不明瞭・工具（棒状）ナデ	
39		5-2	SD101 上層	土師器	高坏	30		(6.0)	(8.6)	橙 7.5YR7/6	灰色・赤色粒子	摩滅のため不明	
40	75	5-2	SD101 上層	須恵器	甕	40		(25.8)		灰白 N7/	白色・灰色粒子	回転ナデ・タタキ	最大径：(32.8) ㎝
41		5-2	SD101 上層	須恵器	甕	5		(5.2)	(14.0)	灰 N6	白色・黒色粒子	ナデ・ヘラケズリ・タタキ	内面自然釉 火ぶくれ
42		5-2	SD101 上層	須恵器	短頸壺	5	(10.6)	(5.4)		灰 N6	白色 ・黒色粒子	回転ナデ	
43		5-2	SD101 上層	須恵器	坏身	10		(1.5)	(11.0)	灰 N6/	白色粒子、4 ㎜白色礫	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
44	75	5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	35	(15.0)	5.0	6.4	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	灰釉刷毛塗りか。 清ヶ谷窯産 火膨れ　重ね焼き痕
45		5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	60	13.4	3.85	(7.0)	黄灰 2.5Y6/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	内面自然釉（重ね焼きの最上段か）
46	75	5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	50	(13.4)	3.5	6.8	灰白 2.5Y8/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	宮口窯か
47	75	5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	60	13.05	3.9	(6.8)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	灰釉浸け掛け
48		5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	20	(12.8)	4.05	(6.8)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	内面重ね焼き痕
49	75	5-2	SD101 上層	山茶碗	小碗	85	117	3.5	6.55	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り後ナデ	東遠江系
50	76	5-2	SD101 上層	山茶碗	碗	85	13.2	4.2	6.35	灰白 2.5Y8/1	白色・褐色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り後ナデ	
51		5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	10		(2.0)	7.0	灰白 N8/		回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	宮口窯産か
52		5-2	SD101 上層	山茶碗	碗	30		(3.9)	(7.0)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ後ナデ	
53		5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	20		(2.2)	6.3	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	内面重ね焼き痕 籾殻痕
54	76	5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	90	14.2	4.6	7.1	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	墨書 （側「才」　底「才」） 内面煤付着
55	76	5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	10		(1.6)		灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	墨書（「田ヵ」(男？)） 内面重ね焼き痕
56	76	5-2	SD101	灰釉陶器	碗	15		(3.2)	(6.9)	灰白 N8/	密	回転ナデ・ナデ・回転糸切り後ナデ	墨書（「上」）
57	76	5-2	SD101 上層	灰釉陶器	輪花碗	80	15.0	6.8	7.85	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子少	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	輪花 4 箇所 内面墨痕か
58		5-2	SD101 上層	灰釉陶器	碗	10		(3.2)	(11.3)	灰白 N7/	2 ～ 5 ㎜白色礫	回転ナデ	
59		5-1	SD101 下層	土師器	坏	20	(14.8)	5.2	(8.4)	外　にぶい黄橙 10YR7/2 内　黒 2.5 Y 2/1	灰色・褐色粒子。石英多	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	内黒 外面煤付着
60	76	5-1	SD101 下層	土師器	坏	35	(10.8)	(3.3)		灰黄 2.5Y7/2	白色・褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ミガキ	内黒
61	76	5-1	SD101 下層	土師器	坏	95	11.7	3.85		にぶい橙 7.5YR7/3	褐色粒子	ナデ	
62		5-1	SD101 下層	土師器	坏	30		(4.0)		橙 7.5YR7/6	白色・褐色粒子	摩滅のため不明	
63		5-1	SD101 下層	土師器	坏	20	(12.3)	3.35		橙 7.5YR6/6	白色・赤色子・黒色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
64		5-1	SD101 下層	土師器	坏	30	(13.4)	3.0		にぶい橙 5YR6/4	白色・赤色・黒色粒子	ヨコナデ	
65	76	5-1	SD101 下層	土師器	坏	100	12.9	3.3		にぶい橙 7.5YR6/4	褐色粒子	摩滅のため不明	
66	76	5-1	SD101 下層	土師器	甕	10	(27.6)	(9.0)		灰白 10YR8/2	白色・褐色粒子、2 ㎜白色礫	ナデ・板ナデ・ハケ・ヨコナデ	最大径：(28.0) ㎝
67	76	5-1	SD101 下層	土師器	甕	10	(21.5)	(12.85)		明褐灰 7.5YR7/2	褐色粒子、4 ㎜礫	ナデ・指押さえ・ハケ・ヨコナデ	最大径：(21.9) ㎝
68	76	5-1	SD101 下層	土師器	甕	60	(17.4)	(11.5)		明褐灰 7.5YR7/1	白色・褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	最大径：(17.5) ㎝
69	76	5-1	SD101 下層	土師器	甕	10	(21.7)	(22.0)		灰白 10YR8/2	褐色粒子、5 ㎜礫	板ナデ・指押さえ・ハケ後ナデ・ヨコナデ	最大径：(8.6) ㎝

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
70		5-1	SD101下層	土師器	甕	10	(17.5)	(5.3)		にぶい橙 7.5YR7/3	褐色粒子、4 ㎜礫	ナデ	
71	77	5-1	SD101下層	土師器	台付甕	10		(4.55)		にぶい橙 2.5YR6/4	白色・褐色粒子、4 ㎜礫	摩滅のため不明	
72	76	5-1	SD101上層	弥生土器	壷	頸部 90		(6.1)		外：灰白 10YR8/2 内：黄灰 2.5Y5/1	灰色・赤色粒子	摩滅のため不明	
73	77	5-1	SD101下層	土師器	ミニチュア土器	45		(5.4)		橙 5YR6/6	褐色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・指押さえ	最大径：8.0 ㎝
74		5-1	SD101下層	土師器	ミニチュア土器	45	7.0	2.9		橙 5YR7/6	赤色粒子	ナデ	
75	77	5-1	SD101下層	土師器	ミニチュア土器	90	6.3	2.65		にぶい橙 7.5YR7/3	褐色粒子	ナデ	
76	77	5-1	SD101下層	土師器	ミニチュア土器	100	6.4	2.65		にぶい橙 7.5YR7/4	褐色粒子	ナデ	
77	77	5-1	SD101下層	土師器	ミニチュア土器	95	6.6	2.5		橙 5YR7/6	褐色粒子	ナデ	
78	77	5-1	SD101上層	土師器	ミニチュア土器	底部 80		(2.9)	(4.4)	黒褐色 2.5Y3/1	灰色粒子、石英	ナデ・ヘラキリ？	ヘラ記号か 黒色
79		5-1	SD101下層	須恵器	坏身	40		3.8		灰 5Y6/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
80		5-1	SD101下層	須恵器	坏身	15	(15.6)	(4.75)		灰 5Y6/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
81		5-1	SD101下層	須恵器	坏身	40	(12.7)	(3.4)		灰 5Y4/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
82		5-1	SD101下層	須恵器	短頸壷	10	11.85	(1.8)		灰 7.5Y6/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	外面自然釉
83	77	5-1	SD101下層	須恵器	盌	30		(6.3)		灰 5Y6/1	白色・褐色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	最大径：(9.1) ㎝
84		5-1	SD101下層	須恵器	壷	20		(5.4)		黄灰 2.5Y6/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ・工具ナデ	内面自然釉
85		5-1	SD101下層	須恵器	壷	20		(12.0)		灰 7.5Y6/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り	最大径：(17.5) ㎝
86		5-1	SD101下層	灰釉陶器	碗	20		(1.65)		黄灰 2.5YR6/1	白色・褐色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	転用硯 スノコ痕
87		5-1	SD101下層	灰釉陶器	碗	65	(15.4)	(4.9)		灰 10Y5/1	白色・黒色粒子、5 ㎜礫	回転ナデ・回転糸切り	灰釉浸け掛け。 重ね焼き痕
88	78	5-1	SD101下層	灰釉陶器	碗	100	12.8	3.75		灰白 10YR8/1	白色・黒色粒子、4 ㎜礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	灰釉浸け掛け
89		5-1	SD101上層	灰釉陶器	碗	10		(2.2)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り後ナデ	火ぶくれ 重ね焼き痕
90	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	100	11.6	3.5	5.5	にぶい橙 7.5YR6/4	白色・黒色・赤褐色粒子	ナデ・指押さえ	
91	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	100	11.0	3.5	7.0	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色粒子多。白色・黒色粒子	ナデ・工具ナデ・指押さえ	
92	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	98	11.0	3.6	6.1	橙 5YR6/6	赤色粒子多。白色・黒色粒子	ナデ	
93	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	80	11.7	3.9	9.3	にぶい黄橙 10YR7/3	白色・赤色粒子、雲母粒	ナデ・指押さえ	
94		5-2	SD101下層	土師器	坏	30	(11.6)	3.6	(7.0)	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色粒子多。灰色粒子	ナデ	
95	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	95	11.8	3.4	8.0	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子多。白色・黒色粒子、雲母粒	ナデ・指押さえ	
96	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	50	(11.2)	3.2	(7.2)	橙 5YR6/6	赤色粒子多。白色・黒色粒子	ナデ	
97	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	90	11.0	3.5	5.8	にぶい橙 7.5YR7/4	黒色・赤色粒子	ナデ	内外面赤彩
98		5-2	SD101下層	土師器	坏	30	(11.5)	3.0	(6.0)	にぶい黄橙 10YR7/3	灰色・赤色粒子	ナデ	内面赤彩か
99		5-2	SD101下層	土師器	坏	20	(11.9)	3.7	(6.8)	にぶい橙 7.5YR7/3	灰色・赤色粒子	ナデ	内面赤彩
100		5-2	SD101下層	土師器	坏	20	(11.2)	3.8	(3.4)	にぶい橙 7.5YR7/3	灰色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
101		5-2	SD101下層	土師器	坏	25	(10.8)	(3.9)		橙 7.5YR6/6	白色・黒色・赤色粒子	ナデ	内外面赤彩
102		5-2	SD101下層	土師器	坏	25	(11.5)	(3.7)	(6.0)	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子多	ナデ・指押さえ	
103		5-2	SD101下層	土師器	坏	25	(11.0)	(3.7)	(5.6)	にぶい黄橙 10YR7/3	灰色・赤色粒子	ナデ	内面赤彩か
104		5-2	SD101下層	土師器	坏	20	(11.4)	(3.05)	(7.4)	にぶい橙 .5YR6/4	白色・黒色・赤色粒子		
105		5-2	SD101下層	土師器	坏	20	(13.8)	(4.9)		にぶい褐 7.5YR5/3	赤色粒子多。白色・黒色粒子	ナデ	
106		5-2	SD101下層	土師器	坏	20	(12.0)	(3.4)	(8.8)	にぶい橙 7.5YR6/4	白色・黒色・赤色粒子、雲母粒	ナデ	
107		5-2	SD101下層	土師器	坏	20	(10.9)	3.4	(5.0)	橙 5YR6/6	白色・黒色・赤色粒子	ナデ	
108	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	98	11.6	3.4	6.9	にぶい橙 7.5YR6/4	白色・黒色・赤褐色粒子	ナデ・指押さえ	底部外面黒斑
109	78	5-2	SD101下層	土師器	坏	90	12.1	3.8	4.8	にぶい橙 7.5YR6/4	白色・黒色・赤色粒子	ナデ・工具（ハケ状）ナデ	内外面赤彩か

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
110		5-2	SD101 下層	土師器	坏	25	(11.5)	3.0	(6.0)	にぶい黄橙 10YR6/3	灰色・赤色粒子	ナデ	
111		5-2	SD101 下層	土師器	坏	30	(11.7)	(3.9)	(6.4)	にぶい橙 7.5YR6/4	灰色・赤色粒子	ナデ・指押さえ	
112		5-2	SD101 下層	土師器	坏		10.1	2.9		橙 5YR6/6	白色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	内面漆付着
113		5-2	SD101 下層	土師器	坏	20	(11.4)	(3.6)	(7.2)	にぶい橙 7.5YR6/4	白色・黒色・赤色粒子、雲母粒	ナデ	
114		5-2	SD101 下層	土師器	坏	20	(13.6)	3.4	(7.0)	にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色粒子	ナデ	
115	78	5-2	SD101 下層	土師器	坏	95	12.5	4.1	5.6	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ	口縁部煤付着
116	78	5-2	SD101 下層	土師器	坏	95	12.9	3.2	6.0	にぶい黄橙 10YR7/3	赤色粒子多。白色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭・ナデ	
117	79	5-2	SD101 下層	土師器	坏	98	11.4	4.4	6.0	にぶい橙 5YR7/4	白色・黒色・赤褐色粒子	ヨコナデ・回転糸切り	墨書土器（「守ヵ」）
118	79	5-2	SD101 下層	土師器	坏	60	11.6	3.65	7.0	にぶい黄橙 10YR7/3	白色・黒色・赤色粒子、雲母粒	ナデ	内面赤彩
119		5-2	SD101 下層	土師器	碗	25	(13.4)	5.1	(6.8)	灰黄 2.5Y7/2	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・指押さえ	
120		5-2	SD101 下層	土師器	碗	15		(2.55)	(8.8)	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色粒子多。雲母粒少	回転ナデ・ナデ	
121		5-2	SD101 下層	土師器	碗	30		(2.0)	7.0	にぶい橙 7.5YR7/3	灰色・赤色粒子	ナデ	
122		5-2	SD101 下層	土師器	碗	10		(1.35)	(7.8)	にぶい橙 7.5YR6/4	白色・黒色・赤色粒子	回転ナデ・ナデ	外面漆付着か
123		5-2	SD101 下層	土師器	皿	25	(12.8)	22.0	(9.4)	にぶい黄橙 10YR6/4	白色・黒色・赤色粒子	ナデ	
124	79	5-2	SD101 下層	土師器	坏	98	12.6	3.3	5.6	にぶい黄橙 10YR7/2	白色・灰色・褐色粒子、雲母粒	ナデ・ミガキ	内黒 木葉痕
125	79	5-2	SD101 下層	土師器	坏	90		(3.25)	6.0	にぶい黄橙 10YR7/3	白色・黒色・赤色粒子、雲母粒	ナデ・ミガキ	内黒 内面漆付着
126		5-2	SD101 下層	土師器	坏	30	(12.8)	3.25	(5.8)	にぶい黄橙 10YR7/2	白色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・ミガキ	内黒
127	79	5-2	SD101 下層	土師器	坏	50	(13.0)	4.3	5.7	灰白 10YR8/2	白色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・ミガキ？	内黒
128	80	5-2	SD101 下層	土師器	坏	95	12.3	3.7	6.4	にぶい黄橙 10YR6/3	白色、雲母粒	ナデ・ミガキ	内黒
129	80	5-2	SD101 下層	土師器	坏	50	(11.0)	3.55	6.0	灰黄褐 YR6/2	白色粒子、雲母粒	ナデ・ミガキ	内黒
130	80	5-2	SD101 下層	土師器	坏	90		(4.2)	5.6	にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒子、雲母粒	ナデ・ミガキ	内黒
131	80	5-2	SD101 下層	土師器	鉢	100	15.0	10.4	7.0	にぶい橙 7.5Y6/4	白色・黒色・赤色粒子	ヨコナデ・ナデ・工具ナデ	最大径：15.4 ㎝
132	80	5-2	SD101 TR9 東 下層	土師器	壷	20	(14.4)	(6.0)		にぶい橙 7.5YR7/4	灰色・赤色粒子、5 ㎜礫	摩滅のため不明	
133	80	5-2	SD101 下層	土師器	甕	5		(4.5)		灰黄 2.5Y7/2	灰色・赤色粒子	ナデ・指押さえ	内外面赤彩
134	80	5-2	SD101 下層	土師器	壷	－	－			灰白 5Y8/1	白色・褐色粒子	ナデ	
135		5-2	SD101 下層	土師器	甕	10		(4.1)	8.8	にぶい橙 7.5YR7/3	白色・黒色・赤色粒子、2 ㎜礫	ナデ・ハケ・ヘラケズリ	木葉痕
136	81	5-2	SD101 下層	土師器	甕	30	24.4	(10.3)		にぶい黄橙 10YR7/2	白色・黒色・赤色粒子	ヨコナデ・ナデ・指押さえ・ハケ	最大径：(26.0) ㎝
137		5-2	SD101 下層	土師器	甕	5	(26.2)	(4.8)		にぶい黄橙 10YR6/3	白色・黒色・赤色粒子	ナデ・ヨコナデ・ミガキ板ナデ・ハケ	
138		5-2	SD101 下層	土師器	甕	10	(23.0)	(9.0)		にぶい黄橙 10YR6/3	白色・黒色・赤色粒子	ナデ・ヨコナデ・ミガキ・板ナデ・ハケ・指押さえ	最大径：(23.6) ㎝
139		5-2	SD101 下層	土師器	甕	5	(22.4)	(4.7)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色・黒色・赤色粒子	ナデ・ヨコナデ・ミガキ・板ナデ・ハケ	
140	81	5-2	SD101 下層	土師器	ミニチュア土器	70		(4.6)	1.6	橙 2.5YR7/6	赤色粒子多。白色粒子少	ナデ	最大径：(23.6) ㎝
141	81	5-2	SD101 下層	土師器	ミニチュア土器	95	7.4	2.6	2.9	橙 5YR6/6	赤色粒子多。白色・黒色粒子	ナデ	手捏ね
142	81	5-2	SD101 下層	土師器	ミニチュア土器		(6.4)	2.05		浅橙 10YR8/4	赤色粒子、石英	ナデ	手捏ね
143	81	5-2	SD101 下層	土師器	ミニチュア土器	70		(2.4)	3.5	にぶい黄橙 10YR7/2	白色・黒色・赤色粒子	ナデ・指押さえ	手捏ね
144	81	5-2	SD101 下層	土師器	ミニチュア土器		(3.2)	2.15	2.4	にぶい橙 7.5YR7/4	白色・赤色粒子	ナデ	手捏ね
145		5-2	SD101 下層	土師器	高坏	45		(5.9)	7.4	橙 7.5YR7/6	赤色粒子多。灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・工具（棒状）ナデ	
146	81	5-2	SD101 下層	土師器	高坏	45		(5.5)	8.85	にぶい橙 5YR6/4	赤色粒子多。灰色粒子	ナデ・工具（棒状）ナデ	
147		5-2	SD101 下層	土師器	高坏	45		(4.9)	9.5	にぶい橙 7.5YR6/4	白色・黒色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・工具（棒状）ナデ	
148	81	5-2	SD101 下層	土師器	高坏	40		(5.6)	8.3	橙 5YR6/6	赤色粒子多。白色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・工具（棒状）ナデ	

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
149	81	5-2	SD101 下層	土師器	高坏	20		(8.4)	(11.4)	橙 5YR7/6	灰色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
150	81	5-2	SD101 下層	土師器	高坏	40		(8.8)	8.0	橙 5YR6/6	赤色粒子多	摩滅のため不明瞭・ナデ・工具（棒状）ナデ	
151		5-2	SD101 下層	土師器	高坏	30		(7.6)	(8.9)	にぶい橙 5YR7/4	赤色粒子多	ナデ	
152		5-2	SD101 下層	須恵器	坏蓋	20	(9.7)	(3.55)		灰 5Y4/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	灰釉刷毛塗り
153		5-2	SD101 下層	須恵器	坏身	10	(9.8)	(3.7)		灰 N6	白色・黒色粒子	回転ナデ	外面自然釉
154		5-2	SD101 下層	須恵器	坏身	5		(2.5)		灰 7.5Y6/	白色粒子	回転ナデ	
155		5-2	SD101 下層	須恵器	坏蓋	80	17.5	5.1		青灰 5PB5/1	密	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	天地逆で焼成か
156		5-2	SD101 下層	須恵器	坏蓋	15	(13.2)	(1.4)		灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	内外面摩耗（使用痕か）
157		5-2	SD101 下層	須恵器	坏蓋	10	(16.8)	(1.5)		灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
158		5-2	SD101 下層	須恵器	坏身	20	(13.6)	3.6	(10.5)	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
159		5-2	SD101 下層	須恵器	坏身	10		(0.8)	(9.0)	灰 5Y6/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	転用硯か
160	81	5-2	SD101	須恵器	高坏	20		(7.1)		灰白 N7/0	白色・黒色粒子	回転ナデ	湖西窯産
161		5-2	SD101 下層	須恵器	短頸壷	15	(8.4)	(6.8)		灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ	最大径：(9.4) cm 自然釉
162	82	5-2	SD101 下層	須恵器	短頸壷	10	(9.5)	(5.5)		灰 N5	白色・赤色粒子	回転ナデ	星川窯産か
163	82	5-2	SD101 下層	須恵器	短頸壷	15	(13.3)	(5.85)		灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ	湖西窯産か 外面自然釉
164		5-2	SD101 下層	須恵器	壷	10	(11.6)	(11.5)		灰黄褐 10YR6/2	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	最大径：(19.6) cm
165	82	5-2	SD101 下層	須恵器	長頸壷	20	8.4	(9.55)		灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ	湖西窯。自然釉
166		5-2	SD101 下層	須恵器	長頸壷	20		(9.0)		青灰 5PB6/1	白色粒子	回転ナデ	外面一部自然釉
167		5-2	SD101 下層	須恵器	壷	肩部 15		(2.1)		灰白 N7/ 釉：オリーブ灰 2.5GY6/1	白色粒子、石英	回転ナデ・ナデ・櫛刺突文	外面施釉
168	82	5-2	SD101 下層	須恵器	壷	60		(15.1)	11.0	明青灰 5PB7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	最大径：20.2 cm 内面自然釉
169		5-2	SD101 下層	須恵器	壷	10		(3.5)	(9.2)	灰 5Y4/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	スノコ痕　自然釉 火ぶくれ
170		5-2	SD101 下層	須恵器	甕	20		(3.7)		灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・櫛刺突文	270 と同一個体 外面降灰
171	115	5-2	SD101TR9 西下層	須恵器	甕	-	-			灰 N5/	白色粒子・5 mm礫	回転ナデ・波状文	
172	82	5-2	SD101 下層	須恵器	壷	20	(22.2)	(9.9)		灰 N5/	白色粒子	回転ナデ	口縁部自然釉
173	82	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	皿	90	14.4	3.2	7.0	灰白 7.5Y7/1	灰色粒子、5 mm白色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り後ナデ	墨書（側・底「夫」） 転用硯か
174	82	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	50	14.6	4.6	7.0	灰白 N8/	白色・白色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	墨書（「平」（朱墨）） 灰釉浸け掛け。 内面重ね焼き痕・摩耗
175	83	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	85	14.7	5.4	7.3	灰白 2.5Y8/1	灰色粒子、 4 mm以下白色礫	回転ナデ・ナデ	墨書（「馬ヵ」） 宮口窯産か 内面に動物の爪痕
176	83	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	30		(3.4)	7.05	灰白 2.5Y8/1	灰色粒子、 2 mm以下白色礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	墨書（「馬」） 転用硯
177	83	5-2	SD101	灰釉陶器	碗	100	13.2	3.95	6.6	灰白 2.5Y8/1	灰色粒子	回転ナデ・ナデ	墨書（「万」） 宮口窯産か
178	83	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	10		(1.65)	(8.2)	灰白 7.5Y7/1	白色・灰色粒子	回転ナデ・ナデ・静止糸切り	墨書（「万」） 内面施釉
179	83	5-2	SD101	灰釉陶器	碗	5		(3.0)		灰白 2.5Y8/1	密	回転ナデ	墨書
180	83	5-2	SD101	灰釉陶器	碗	65	12.8	5.3	7.2	灰白 5Y8/1	6 mm以下白色小礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	墨書（「二」）
181	84	5-2	SD101 下層	山茶碗	碗	35	(13.2)	4.3	(7.0)	灰白 5Y7/1	灰色粒子、 5 mm白色小礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	墨書（「本ヵ」） スノコ痕？
182	84	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	95	12.8	4.3	7.1	灰白 5Y8/1	灰色粒子、 8 mm以下白色小礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	墨痕　灰釉浸け掛け 内面重ね焼き痕 火ぶくれ
183	84	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	80	14.6	4.85	7.0	灰白 N8/	灰色粒子、 2 mm以下白色小礫	回転ナデ・ナデ	灰釉浸け掛け
184		5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	10	(12.8)	(4.65)		灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ	内面重ね焼き痕 擂鉢に転用か
185		5-2	SD101	灰釉陶器	碗	75	12.7	3.9	6.4	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	清ヶ谷窯産 ソダ痕
186		5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	40	(12.2)	3.15	6.2	灰白 10YR8/2	白色・黒色・赤色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	
187	84	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	碗	10		(1.7)		灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
188	88	5-2	SD101 下層	灰釉陶器	短頸壷蓋	10	(10.7)	(1.8)		灰白 2.5Y8/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	転用硯
189		5-2	SD101 下層	灰釉陶器	短頸壷	15	(9.7)	3.55		灰白 N8/ 釉：灰白 2.5GY8/1	白色粒子、石英	回転ナデ	外面施釉
190		5-2	SD101 試掘坑	土師器	坏	30	(12.9)	3.5	(6.0)	にぶい橙 5YR7/4	灰色・赤色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	
191		5-2	SD101 試掘坑	土師器	坏	30	(12.0)	3.55	(9.2)	橙 5YR7/6	灰色・赤色粒子	摩滅のため不明	
192		5-2	SD101 覆土	土師器	坏	50	(11.2)	3.4	(7.6)	にぶい橙 7.5YR7/4	白色・灰色粒子	ナデ・ヨコナデ	外面煤付着 内面焦げ付着
193		5-2	SD101 試掘坑	土師器	甕	5	(23.0)	(7.0)		灰黄褐 10YR6/2	灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ・ヨコナデ	最大径：(24.0) ㎝
256	88	5-2	SD301	山茶碗	小皿	50	7.65	1.6	5.0	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子多	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	墨書
257	88	5-2	SD101-4 覆土	山茶碗	碗	45		(2.5)	(7.7)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り後ナデ	墨書
258		5-2	SD301 覆土	灰釉陶器	碗	10		(3.1)	(7.8)	灰白 5Y7/1 釉：2.5Y7/1	石英	回転ナデ	内面施釉
259		5-2	SD302	土師器	坏	45	(12.2)	3.75	(6.2)	橙 2.5YR7/6	赤色粒子多	摩滅のため不明瞭・ナデ	
260		5-2	SD302 覆土	灰釉陶器	碗	5		(2.6)		灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ	東遠江系 外面施釉
263	88	5-2	SX101	灰釉陶器	碗	95	12.4	3.7	6.8	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子、4 ㎜以下礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	内面重ね焼き痕
264		5-1		山茶碗	碗	40		(5.5)		灰白 2.5Y7/1	褐色粒子、5 ㎜白色小礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	内面重ね焼き痕
265		5-1		須恵器	坏	30	(14.2)	4.6		灰白 N7	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	
266		5-1		山茶碗	碗	20		(1.75)		灰 N6/0	白色・褐色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り後ナデ	
267		5-1		灰釉陶器	碗	35	(11.8)	(3.9)		明褐灰 7.5YR7/2	白色・褐色粒子、5 ㎜礫	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	
268	88	5-1		灰釉陶器	碗	70	(12.3)	(3.9)		灰白 2.5Y8/1	黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り後ナデ	灰釉浸け掛け 浜北産か
269		5-2		土師器	坏	50	(10.8)	3.6	(5.6)	橙 5YR6/6	赤色粒子多	ナデ	
270	88	5-2		須恵器	甕	20		(7.0)		灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ・櫛刺突文	最大径：(8.2) ㎝ 170 と同一個体
271		5-2		山茶碗	碗	20		(2.5)	(6.2)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・回転糸切り	渥美湖西
298	100	3-2	包含層	弥生土器？	壷	底部 70		(3.3)	(6.2)	灰 N5/	白色粒子、7 ㎜白色礫	摩滅のため不明	
301	102	3-2	SR201 下層	弥生土器	壷	－	－	－	－	灰黄褐 10YR6/2	白色粒子、2 ㎜以下礫多	櫛状工具による羽状刺突文	
302	102	3-2	SR201 下層	須恵器	甕	20		(2.75)		灰白 2.5Y8/1	白色粒子	回転ナデ・ヘラ描文	
303		3-2	SR201 下層	弥生土器	壷	肩部 20		(4.5)		灰白 2.5Y8/1	白色粒子、2 ㎜以下礫	摩滅のため不明	
304		3-2	SR201 上層	土師器	蓋？	10	(21.0)	(1.8)		外：橙 2.5YR6/6 内：にぶい橙 5YR6/4	石英多。白色・灰色粒子	ナデ	高盤か。内外赤彩
305	102	3-2	SR201 上層	土師器	坏	60	(10.2)	(3.55)		浅黄橙 7.5YR 8/4	白色・赤色粒子	ナデ	
306		3-2	SR201 下層	土師器	坏	10	(11.4)	(3.1)		にぶい橙 7.5YR7/4	4 ㎜以下赤褐色礫、灰色粒子	摩滅のため不明・ヨコナデ・ヘラミガキ？	須恵器模倣
307		3-2	SR201 下層	土師器	坏	10	(12.0)	(3.6)		橙 5YR6/6	白色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
308		3-2	SR201 下層	土師器	坏	10	(11.3)	2.5		淡橙 5YR8/4	白色・赤色粒子	摩滅のため不明	須恵器模倣
309		3-2	SR201 上層	土師器	坏	50	(11.2)	4.1	(6.0)	浅黄橙 7.5YR8/4	灰色・褐色粒子多。石英少	ナデ・ヨコナデ	外面赤彩
310		3-2	SR201 上層	土師器	坏	25	(10.6)	3.3	(6.7)	にぶい橙 7.5YR7/4	灰色・褐色粒子多。石英少	ナデ・ヨコナデ	
311	102	3-2	SR201 下層	土師器	坏	70	(11.8)	3.8		橙 7.5YR7/4	赤褐色粒子、石英	ナデ・ハケ	
312		3-2	SR201 上層	土師器	坏	30	(11.4)	3.45	(6.4)	にぶい黄橙 10YR7/3	赤色粒子、雲母粒	ナデ・ハケ・板ナデ？	内黒？
313	102	3-2	SR201 上層	土師器	坏	50	12.1	3.6	6.3	浅黄橙 10YR8/4	黒色・褐色粒子多。石英少	ナデ・ヨコナデ	ヘラ記号「×」
314		3-2	SR201 上層	土師器	坏	40	(11.4)	3.3	(9.0)	浅黄橙 7.5YR8/4	白色・褐色粒子。石英少	ナデ・ヨコナデ	外面赤彩
315	102	3-2	SR201 上層	土師器	坏	100	11.9	3.6	8.0	にぶい橙 5YR7/4	褐色・黒色粒子、石英多	ナデ・ヨコナデ	
316		3-2	SR201 上層	土師器	坏	40	(11.9)	(3.55)		外：灰黄褐 10YR6/2 内：にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒子	摩滅のため不明	内外面赤彩 外面煤付着
317		3-2	SR201 下層	土師器	坏	10	(12.4)	3.6		浅黄橙 10YR8/3	白色・灰色粒子	摩滅のため不明・ヨコナデ	内外面赤彩か
318		3-2	SR201 下層	土師器	坏	30	(12.6)	(3.6)		橙 5YR7/6	灰色・赤褐色粒子	摩滅のため不明	
319		3-2	SR201 上層	土師器	坏	40	(12.5)	3.85		灰白 10YR8/1	雲母粒	摩滅のため不明	内外面赤彩か
320		3-2	SR201 上層	土師器	坏	20	(12.6)	3.2	(9.4)	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子。石英少	ナデ・ヨコナデ	外面赤彩

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
321	102	3-2	SR201 下層	土師器	坏	70	12.8	3.8	9.6	外：灰褐 5YR4/2 内：橙 5YR7/6	白色・赤褐色粒子、雲母粒、石英、7 ㎜礫	摩滅のため不明	内外面赤彩・煤付着
322		3-2	SR201 上層	土師器	坏	15	(13.0)	3.5	(9.4)	にぶい橙 7.5YR6/4	石英多。 褐色・灰色粒子	ヨコナデ・ナデ	
323	102	3-2	SR201 下層	土師器	坏	14	(13.4)	3.8	(9.2)	灰黄 2.5Y7/2	白色粒子僅少	ナデ・ハケ・ヨコナデ	
324		3-2	SR201 上層	土師器	坏	30	(14.2)	3.2	(9.8)	にぶい黄橙 10YR6/3	石英多。 白色・灰色粒子	摩滅のため不明	内面赤彩
325	102	3-2	SR201 上層	土師器	坏	60	(13.1)	3.45		灰黄 2.5Y 7/2	白色礫	摩滅のため不明	
326	102	3-2	SR201 上層	土師器	坏	70	13.1	4.1	9.7	にぶい褐 7.5YR6/3	雲母粒多。 白色・灰色・褐色粒子	摩滅のため不明	ヘラ記号　煤付着 内外面赤彩
327	102	3-2	SR201 下層	土師器	坏	50	(14.0)	4.8		にぶい橙 7.5YR7/3 赤彩：橙 2.5YR6/6	石英、雲母粒	ヨコナデ・ミガキ	内外面赤彩
328		3-2	SR201 下層	土師器	皿	15	(14.4)	1.95	(10.0)	にぶい橙 7.5YR6/4 赤彩：にぶい赤褐 2.5YR5/4	白色粒子、雲母粒僅少	ヘラミガキ・ヨコナデ・ナデ	内外赤彩
329	103	3-2	SR201 上層	土師器	器台	脚部 60		(5.25)		外：灰 N 6/ 内：浅黄橙 7.5YR 8/3	白色・灰色粒子	摩滅のため不明瞭・ナデ	4 方向に円形透かし
330		3-2	SR201 下層	土師器	高坏	坏部 20		-	-	橙 2.5YR7/8	白色・赤褐色粒子	摩滅のため不明	須恵器模倣坏か
331	103	3-2	SR201 下層	土師器	高坏	脚部 40		(7.2)	(9.2)	橙 2.5YR7/8	赤色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
333	103	3-2	SR201 下層	土師器	高坏	脚部 70		(10.05)	12.4	浅黄橙 7.5YR8/6	灰色・赤褐色粒子	ナデ・ヨコナデ？	
332	103	3-2	SR201 下層	土師器	高坏	脚部 70		(12.7)		にぶい橙 5YR7/4	2 ㎜以下礫	ナデ・ヘラケズリ？	基部径：3.25 ㎝
334		3-2	SR201 上層	土師器	高坏	脚部 70		(4.5)		橙 2.5YR6/8	白色・赤色粒子	摩滅のため不明	
335		3-2	SR201 上層	土師器	高坏	脚部 25		(2.4)	(10.4)	橙 5YR6/6	灰色・褐色粒子。 雲母粒少	摩滅のため不明	
336	103	3-2	SR201 下層	土師器	高坏	脚部 70		(4.2)	(7.7)	橙 5YR7/6	2 ㎜以下赤褐色礫、赤褐色粒子	摩滅のため不明	
337		3-2	SR201 下層	土師器	高坏	脚部 85		(4.6)	(8.0)	橙 2.5YR7/6	赤褐色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
338		3-2	SR201 下層	土師器	高坏	脚部 30		(3.65)	(6.55)	橙 5YR7/6	白色・赤褐色粒子	摩滅のため不明	接合部径：1.9 ㎝
339		3-2	SR201 下層	土師器	高坏	脚部 40		(4.35)	8.0	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子、雲母	摩滅のため不明	
340		3-2	SR201 下層	土師器	高坏	脚部 80		(6.6)		にぶい橙 5YR6/4	灰色粒子僅少	摩滅のため不明・ヘラケズリ	基部径：2.65 ㎝
341	103	3-2	SR201 上層	土師器	高坏	脚部 70		(7.15)	8.8	外：橙 5YR 7/6 内：にぶい黄橙 10YR7/2	白色・橙色粒子	摩滅のため不明	
342	103	3-2	SR201 下層	土師器	高坏	90	14.2	11	(8.5)	橙 2.5Y7/6	白色粒子、雲母粒、2 ㎜以下黒色礫	摩滅のため不明瞭・板ナデ（ハケ状工具）・ナデ	
343		3-2	SR201 上層	土師器	高盤	脚部 30		(9.2)	(11.8)	橙 2.5YR6/6	白色・灰色・褐色粒子多。雲母粒	ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	内面赤彩か
344		3-2	SR201 下層	土師器	甑	10	(25.8)	(9.0)		にぶい橙 7.5YR6/4	赤褐色粒子	ハケ目・板ナデ・ナデ	
345	103	3-2	SR201 上層	土師器	甑	10		(10.1)		浅黄橙 7.5YR8/3	灰色・赤褐色粒子	摩滅のため不明	
346		3-2	SR201 下層	土師器	甑	把手 100				にぶい黄橙 10YR7/2	白色・赤褐色粒子。 雲母粒僅少	ナデ	
347		3-2	SR201 上層	土師器	甑	把手 100	-	-	-	にぶい黄橙 10YR7/2	白色・赤色粒子	ナデ	台付甕の接合部か
348		3-2	SR201 下層	土師器	甑	把手 100				にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子、2 ㎜以下礫	ナデ	
349	104	3-2	SR201 下層	土師器	甑	把手 100	-	-	-	明褐灰 7.5YR7/2	白色・灰色粒子		
350		3-2	SR201 上層	土師器	壷	10	(15.3)	(3.1)		にぶい橙 5YR6/3	灰色・赤褐色粒子	摩滅のため不明	
351		3-2	SR201 下層	土師器	壷甕	25		(1.9)	(4.9)	にぶい黄橙 10YR7/3	白色・赤褐色粒子、2 ㎜以下礫多	摩滅のため不明	
352		3-2	SR201 上層	土師器	坏身	15	(9.8)	(2.25)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ	湖西窯か
353		3-2	SR201 下層	土師器	壷	15	(18.8)	(4.6)		浅黄橙 7.5YR8/4	白色・灰色粒子、雲母粒	摩滅のため不明	
354		3-2	SR201	土師器	壷	20		(4.35)	(6.5)	外：にぶい黄橙 10YR7/1 内：灰 N5/	白色粒子、5 ㎜以下礫	摩滅のため不明	
355		3-2	SR201 上層	土師器	甕	20	(20.4)	(4.2)		外：灰黄褐 10YR5/2 内：灰褐 7.5YR6/2	白色粒子・雲母粒多。黒色粒子少	ナデ・板ナデ・ハケ・ヨコナデ	頸部径：(17.2) ㎝
356		3-2	SR201 上層	土師器	甕	15	(22.4)	(3.4)		にぶい橙 10YR7/3	白色・灰色粒子	ヨコナデ・ナデ	頸部径：(18.3) ㎝
357		3-2	SR201 上層	土師器	甕	20	(22.2)	(5.7)		外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：灰黄褐 10YR6/2	白色・黒色粒子、雲母粒多。	ナデ・板ナデ・ハケ・ヨコナデ	頸部径：(17.8) ㎝
358		3-2	SR201 下層	土師器	甕	15	(21.5)	(5.25)		にぶい橙 7.5YR7/3	白色・赤褐色・黒色・灰色粒子	ハケ目・ヨコナデ	頸部径：(17.2) ㎝

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
359	103	3-2	SR201 上層	土師器	甕	15	(28.2)	(6.3)		灰褐 7.5YR5/2	白色・黒色粒子、雲母粒多。	ナデ・ハケ・ヨコナデ	外面一部煤付着
360		3-2	SR201 下層	土師器	甕	5	-			にぶい黄橙 10YR7/2	雲母粒、石英	ヨコナデ	
361		3-2	SR201 上層	土師器	甕	30		(6.7)	6.8	外：浅黄橙 7.5YR8/ 内：にぶい橙 5YR7/4	白色・赤褐色粒子、雲母粒少	ナデ・ハケ	底部外面黒斑
362		3-2	SR201 上層	土師器	台付甕	基部 100				にぶい黄褐 10YR5/3	白色・赤色粒子、雲母粒	ハケ・ナデ	基部径：7.9 ㎝。外面煤付着
363	103	3-2	SR201 上層	土師器	台付甕？	台部 30		(6.7)	(11.6)	にぶい橙 7.5YR7/3	赤色・灰色粒子	ナデ・板ナデ・ヨコナデ	煤付着
364	104	3-2	SR201 下層	土師器	甕	95	13.3	7.0	12.75	にぶい黄橙 10YR7/2	白色・赤色粒子、石英、雲母粒	ナデ・ハケ・ケズリ？・指押さえ	外面黒斑
365		3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	45		(2.7)	(6.2)	灰黄 2.5Y7/2	白色粒子	ナデ・板ナデ	手捏ね土器
366	104	3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	台部 100		(3.1)	2.6	にぶい橙 7.5YR7/3	白色粒子僅少	ナデ・板ナデ？	手捏ね土器
367		3-2	SR201 上層	土師器	ミニチュア土器	把手 100	-	-	-	にぶい黄橙 10YR7/3	白色・赤色粒子	ナデ	
368	104	3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	90	(8.3)	4.1		にぶい橙 5YR6/4	白色粒子、石英	摩滅のため不明瞭・ナデ・指押さえ	
369		3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	50		(3.4)		橙 2.5YR6/6	灰色粒子	摩滅のため不明・ナデ	
370	104	3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	頸部 100		(2.6)		にぶい黄橙 10YR7/2	白色・赤褐色粒子僅少	摩滅のため不明・ナデ	ミニチュアか
371	104	3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	95	8.1	5.8	4.4	にぶい黄橙 10YR7/2	石英、雲母粒、長石	ナデ・ハケ・ヘラケズリ・板ナデ	
372	104	3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	60		(5.95)		灰黄 2.5Y7/2	白色粒子僅少	摩滅のため不明瞭・指押さえ	
373		3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	15		(4.55)		灰白 7.5YR8/2	白色・赤褐色・灰色粒子	摩滅のため不明	
374		3-2	SR201 下層	土師器	ミニチュア土器	15		(5.95)		にぶい橙 7.5YR7/4	黒色・赤褐色粒子僅少	摩滅のため不明・ナデ	最大径：(8.4) ㎝
375		3-2	SR201 下層	須恵器	坏蓋	35	(11.1)	3.8		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
376		3-2	SR201 上層	須恵器	坏蓋	摘み 100		(2.25)		灰白 N 4/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
377		3-2	SR201 上層	須恵器	坏蓋	30	(13.7)	2.5		灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	つまみ部径：1.9 ㎝
378	104	3-2	SR201 上層	須恵器	坏蓋	80	13.8	3.45		灰白 N7/	白色粒子多。石英少	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	つまみ部径：2.1 ㎝
379		3-2	SR201 下層	須恵器	坏蓋	10	(13.6)	(1.9)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ	
380	115	3-2	SR201 下層	須恵器	坏蓋	30	(13.0)	(1.65)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	転用硯か（内面墨痕）
381		3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	30	(12.7)	3.65		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	重ね焼き痕
382		3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	15	(10.9)	(3.9)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
383		3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	15	(10.1)	(2.9)		灰 N5/	白色・赤色粒子	回転ナデ	
384		3-2	SR201 上層	須恵器	坏身	20	(10.0)	(2.35)		灰 N4/	白色粒子	回転ナデ	湖西窯か
385		3-2	SR201 下層	須恵器	壷	15	(19.7)	(4.2)		橙 2.5YR7/6	白色・赤色・灰色粒子、5 ㎜礫	摩滅のため不明・ハケ	
386		3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	10	(8.1)	(2.35)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
387	105	3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	40	(13.2)	3.7	(8.1)	灰 N5/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
388	104	3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	30	(14.8)	4.05	(10.9)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
389		3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	15		(1.7)	(11.7)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	
390	115	3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	30		(2.45)	(11.0)	灰 N5/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	
391		3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	40		(1.7)	(13.6)	褐灰 10YR4/1	石英、雲母粒	回転ナデ・ナデ	
392		3-2	SR201 下層	須恵器	長頸壷	40		(2.6)	(8.6)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ヘラナデ	内面自然釉
393	104	3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	50	(17.8)	5.9	(14.1)	灰白 2.5Y7/1	石英、雲母粒	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	墨書（「月嶋」）
394	105	3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	60	12.3	4.35	8.6	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	墨書（「澤□」）
395	105	3-2	SR201 上層	須恵器	坏身	80	12.4	3.5	8.2	灰 N5/	白色粒子多。石英少	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラキリ	
396		3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	20		(3.2)	(8.5)	灰白 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	
397	105	3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	40	(14.0)	3.35	10.6	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ	墨書（「(瓦篇に器)」）
398	105	3-2	SR201	須恵器	坏身	25	(14.0)	4.05	(11.1)	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	墨書（「益人」）

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
399	105	3-2	SR201 下層	須恵器	坏身	25		(1.65)	(10.3)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	墨書(「川上」か)
400	106	3-2	SR201 下層	須恵器	高坏	脚部 70		(8.6)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	基部径:(4.4) cm
401	106	3-2	SR201 下層	須恵器	高坏	脚部 50		(7.55)		灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ	２段２方向透かし
402		3-2	SR201 下層	須恵器	高坏	脚部 30		(4.0)		灰 N4/	白色粒子	回転ナデ	基部径:(4.0) cm ２段２方向透かし
403		3-2	SR201 下層	須恵器	高坏	脚部 30		(2.3)		灰 N5/	白色粒子	回転ナデ	基部径:(4.0) cm
404		3-2	SR201 下層	須恵器	盌?	30		(3.75)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ	
405		3-2	SR201 下層	須恵器	壷	肩部 5		(4.5)		灰 N7/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
406		3-2	SR201 下層	須恵器	短頸壷	20	(10.3)			灰 N4/	石英	回転ナデ	
407		3-2	SR201 下層	須恵器	壷瓶類	肩部 20		(7.8)		灰赤 2.5YR4/2 オリーブ灰 2.5GY6/1	石英	回転ナデ	自然釉
408		3-2	SR201 下層	須恵器	甕	5	(23.0)	(4.45)		灰白 N7/	白色粒子、白色礫	回転ナ D	
409		3-2	SR201 下層	須恵器	壷	頸部 15		(4.1)		灰 N6/ オリーブ灰 2.5GY6/1	白色粒子	回転ナデ	自然釉
410		3-2	SR201 下層	須恵器	甕	頸部 15		(7.3)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ	内面煤付着 (破損後二次焼成か)
411		3-2	SR201 下層	須恵器	甕	-	-	-	-	黄灰 2.5Y5/1	白色粒子、石英	回転ナデ・波状文	
412		3-2	SR201 下層	須恵器	甕	-	-	-	-	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・タタキ	
413		3-2	SR201 下層	須恵器	平瓶	頸部 30		(9.4)		灰 N5/	白色粒子	回転ナデ	頸部径:(9.9) cm
414		3-2	SR201 下層	須恵器	平瓶	頸部 30		(6.2)		灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ	頸部径:(6.7) cm
415		3-2	SR201 上層	須恵器	平瓶	20	(10.4)	(2.6)		灰 N8/	白色粒子	回転ナデ	内面自然釉
416		3-2	SR201 下層	須恵器	壷	40		(3.0)	4.0	灰 N8/	白色粒子、 ２㎜以下白色礫	回転ナデ・ナデ・ ヘラケズリ	スノコ痕
417	106	3-2	SR201 下層	須恵器	壷	底部 80		(3.9)		灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	ヘラ記号「×」
418		3-2	SR201 下層	須恵器	壷	40		(3.0)	4.8	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラケズリ	ヘラ記号か
419		3-2	SR201 下層	須恵器	壷	底部 40		(2.65)	(6.8)	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	
420	106	3-2	SR201 下層	須恵器	長頸壷	底部 100		(3.7)	(10.0)	灰 N5/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	ヘラ記号
421	106	3-2	SR201 上層	須恵器	横瓶	30		(15.1)		灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・カキメ・ 回転ヘラケズリ・指おさえ	最大径:(15.2) cm 焼きぶくれ
422	106	3-2	SR201 下層	須恵器	甕	-	-	-	-	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・タタキ	別個体熔着
423	106	3-2	SR201 下層	灰釉陶器	長頸壷	体部 20		(13.5)		外:灰オリーブ 7.5Y6/2 内:灰白 5Y7/1	白色粒子、石英、 7 ㎜礫	回転ナデ・回転ヘラケズリ	外面施釉
424	106	3-2	SR201 上層	灰釉陶器	長頸壷	肩部 50		(6.8)		外:灰オリーブ 5Y6/2 内:灰黄 2.5Y7/2	黒色粒子多。白色粒子、 雲母粒少	回転ナデ・ナデ	外面施釉
425		3-2	SR201 下層	灰釉陶器	壷	頸部 15		(8.0)		外:灰赤 2.5YR4/2 内:灰 N4/	石英	回転ナデ	自然釉
426		3-2	SR201 下層	灰釉陶器	碗	25		(1.9)	(7.1)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・ナデ	
442	108	3-2	SR202	土師器	坏	100	11.1	3.6		にぶい橙色 5YR7/4	赤褐色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ	外面黒斑
443	108	3-2	SR202	須恵器	坏蓋	100	16.1	3.98		灰 N5/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	墨書(「太」) 重ね焼き痕 つまみ径:2.4 cm
444		3-2	包含層	土師器	坏	20	(13.0)	3.7	(9.1)	浅黄橙 10YR8/3	白色粒子、雲母粒	摩滅のため不明瞭	内外赤彩か
445		3-2	包含層	土師器	坏	10	(12.3)	3.23		橙色 2.5YR7/6	赤褐色粒子	摩滅のため不明明瞭	摩滅
446		3-2	包含層	土師器	坏	15	(12.0)	2.65		にぶい橙 5YR7/4	白色粒子僅少	ヨコナデ・ナデ	赤彩。摩滅気味
447		3-2	包含層	土師器	甕	25	(19.4)	(3.15)		浅黄橙 10YR8/3	赤褐色・黒色粒子	ヨコナデ	摩滅
448		3-2	包含層	土師器	甕	20	(20.9)	(5.85)		にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒子、 径 3 ㎜以下礫多	ヨコナデ・ハケ	摩滅
449		3-2	包含層	土師器	甕	20	(22.0)	(2.9)		にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒子、雲母粒、 2 ㎜以下礫	ヨコナデ	
450	100	3-2	包含層	土師器	坏	80	8.9	5.55		にぶい 10YR7/2 暗灰 N3/	褐色粒子・石英	ナデ・板ナデ・指押さえ	型成形か
451		3-2	包含層	土師器	台付甕	台部 25		(3.45)	(7.6)	浅黄橙 7.5YR8/3	白色粒子	摩滅のため不明瞭	
452		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	15		(3.6)	(7.1)	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	内面重ね焼き痕 焼きぶくれ
454		3-2		瀬戸美濃	稜皿	-	-	-	-	灰 5Y6/1	白色粒子	回転ナデ	
455		3-2	SB105-P1	灰釉陶器	碗	10		(1.5)	(6.0)	灰白 2.5Y7/1	黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	内面重ね焼き痕
456		3-2	SB105-P5	土師器	坏	25	(10.6)	(3.0)		橙 5YR6/6	白色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ナデ	摩滅　外面煤付着

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
457		3-2	SB107-P2	土師器	甕	5	(18.5)	(3.5)		灰白 10YR8/1	灰色小礫	ヨコナデ	
458		3-2		土師器	坏	25		(1.55)	(7.2)	灰白 5Y7/1	赤色粒子	回転ナデ・回転糸切り	
459		3-2		須恵器	甕	10	(22.4)	(3.3)		灰 N6/	黒色粒子	回転ナデ	内面降灰
460		3-2		須恵器	甕	－	－	－	－	黄灰 2.5Y6/1	白色粒子	回転ナデ・櫛描波状文	
461		3-2		灰釉陶器	碗	70	(10.8)	(3.0)		黄灰 2.5Y6/1	白色粒子	回転ナデ	清ヶ谷窯産？
462		3-2		灰釉陶器	壷	10	(12.4)	(2.15)		灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ	
463		3-2		灰釉陶器	碗	10		(1.25)	(6.6)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
464		3-2		灰釉陶器	碗	15		(1.5)	(6.0)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子僅少	回転ナデ	宮口窯産？
465		3-2		灰釉陶器	碗	15		(1.7)	(7.4)	灰白 N7/	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り	回転糸切り 重ね焼き痕
466	107	3-2		灰釉陶器	碗	10		(2.25)	(6.0)	にぶい黄橙 10YR7/2	白色粒子僅少	回転ナデ・回転糸切り	底部外面ヘラ記号
467		3-2		灰釉陶器	碗	20		(2.15)	(7.6)	褐灰 7.5YR5/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	東遠江系？ 重ね焼き痕
468		3-2		山茶碗	小皿	30	(9.2)	(1.25)		灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ	渥美・湖西
469		3-2		山茶碗	小皿	15	(10.4)	(2.2)		灰 5Y6/1	黒色粒子	回転ナデ	東遠江
470		3-2		山茶碗	碗	10	(15.8)	(3.2)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ	東遠江
471		3-2		山茶碗	碗	30		(1.9)	(8.0)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系 籾殻痕
490		3-2	SD105	土師器	甕	15	(19.6)	(2.1)	(16.3)	灰白 10YR8/2	白色・灰色粒子	回転ナデ・ナデ	
491		3-2	SD105	灰釉陶器	長頸壷	10		(3.7)		灰白 2.5Y7/1 釉：2.5Y6/3	白色・黒色粒子。 石英僅少	回転ナデ・回転ヘラケズリ	平瓶か
492		3-2	SD105	灰釉陶器	水瓶	25		(3.6)	(8.4)	灰黄褐 10YR5/2	白色粒子多。 黒色粒子少	回転ナデ・ナデ	内面自然釉
493	110	3-2	SD105	灰釉陶器	長頸壷	把手 100	－	－	－	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	ナデ	自然釉
494	108	3-2	SD105	灰釉陶器	碗	30	(16.4)	(4.3)	(8.0)	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ ヘラケズリ	内面重ね焼き痕
495		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	30	(16.4)	5.8	(7.6)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子。石英僅少	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	
496		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	10	(15.0)	(4.6)		灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ	内面煤付着
497		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	25		4.0	(9.2)	灰白 10YR7/1	白色・黒色粒子。 石英少	回転ナデ・ナデ	転用硯か　籾殻痕 重ね焼き痕
498		3-2	SD105	山茶碗	碗	40	(17.2)	5.8	(9.0)	灰白 5Y8/1	白色・黒色粒子。 石英僅少	回転ナデ・ナデ	重ね焼き痕
499		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	10	(14.6)	(1.9)		灰白 5Y2/1 灰オリーブ 5Y6/2	白色粒子	回転ナデ	清ヶ谷窯産か
500		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	15	(14.8)	(2.6)		灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子。 石英少	回転ナデ	
501		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	25		(2.3)	(9.2)	灰白 10YR7/1	白色・黒色粒子。 石英僅少	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	転用硯か 重ね焼き痕
502		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	20	(13.7)	4.2	(7.4)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	重ね焼き痕
503		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	15		(1.2)	(5.6)	灰白 10YR7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	内面降灰
504		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	25		(1.5)	(6.4)	灰白 5Y8/1	白色・黒色粒子。 石英僅少	回転ナデ・ナデ	
505		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	25		(1.8)	(6.5)	にぶい黄橙 10YR7/2	白色粒子。黒色粒子、 石英僅少	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	
506		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	15		(1.4)	(7.7)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ	東遠江系
507		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	10		(1.9)	(7.2)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子。 石英僅少	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	重ね焼き痕
508		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	25		(2.3)	(7.8)	灰白 10YR7/1	白色・黒色粒子。 石英僅少	回転ナデ・ナデ	清ヶ谷窯産 重ね焼き痕
509		3-2	SD105	灰釉陶器	碗	70		(1.9)	(5.4)	灰 N6/	白色粒子多。 黒色粒子僅少	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り後ナデ	
510		3-2	SD105	山茶碗	小碗	－				灰白 2.5Y7/1	白色粒子	ナデ	
511		3-2	SD105	山茶碗	碗	底部 100		(2.2)	(4.6)	灰白 5Y7/1	白色粒子多	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	
512		3-2	SD105	山茶碗	碗	40		(1.9)	(6.2)	灰 5Y6/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	東遠江系
513		3-2	SD105	山茶碗	碗	20		(1.85)	(4.8)	灰白 5Y7/1	白色粒子多。 雲母粒僅少	回転ナデ・回転糸切り	尾張（知多）系
514		3-2	SD105	山茶碗	碗	85	17.0	5.2	7.6	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	渥美・湖西系 内面微かに墨痕 籾殻痕　重ね焼き痕
515		3-2	SD105	山茶碗	碗	25		(1.8)	(6.8)	灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子。 石英僅少	回転ナデ・ナデ	内面重ね焼き痕
516		3-2	SD105	山茶碗	碗	20		(2.2)	(6.2)	黄灰 2.5Y6/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ	
517		3-2	SD105	山茶碗	徳利	30		(2.15)	(10.0)	灰 N6/	白色粒子多。石英少	ナデ・ヘラケズリ	渥美・湖西系
518		3-2	SD105	山茶碗	鉢	5	(22.2)	(1.9)		灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ	渥美・湖西系
519		3-2	SD105	青磁	碗	－	－	－	－	露胎：灰白 2.5Y8/1 釉：明緑 7.5GY7/1	白色粒子	回転ナデ	
520	108	3-2	SD105	白磁	碗	底部 100		(1.2)	4.0	灰白 2.5Y8/1 釉：灰白 2.5Y8/2	白色粒子。石英少	回転ナデ・回転ヘラケズリ	墨書（「夫」?）

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
521	108	3-2	SB104-P1	古瀬戸	卸皿	10	(12.6)	2.5	(12.6)	灰黄 2.5Y7/2 釉：オリーブ 5Y6/3	白色粒子僅少	回転ナデ・卸目	摩滅
522	108	3-2	SB104-P1	古瀬戸	卸皿	30	(15.4)	3.8	(7.4)	灰白 5Y8/1	白色・黒色粒子僅少	回転ナデ・回転糸切り・卸目	ソダ痕
523	108	3-2	SD105	古瀬戸	折縁大皿	-	-	-	-	灰白 5Y7/1 釉：浅黄 5Y7/3	白色粒子	回転ナデ	
524		3-2	SD105	瀬戸美濃	天目茶碗	10	(12.0)	(6.6)		にぶい黄橙 10YR6/3 釉：黒褐 7.5YR3/2	白色粒子、石英多	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
527		3-2	SK112 覆土	志戸呂	丸碗	底部 100		(2.95)	3.8	にぶい赤褐 2.5YR5/3 釉：暗赤褐 2.5YR3/3	白色粒子、石英	回転ナデ・ヘラケズリ	
528		3-2	SK112 覆土	志戸呂	擂鉢	5	-	(3.8)		釉：赤灰 2.5YR4/1	石英	回転ナデ・摺り目	
529		3-2	SK113 覆土	志戸呂	擂鉢		(30.6)	(1.9)		暗赤褐 2.5YR3/3	白色粒子、石英	回転ナデ	
530		3-2	SK117 黒色土	土師器	坏	25	(13.7)	3.45	(9.7)	にぶい橙 7.5YR7/4	橙色・白色粒子	摩滅のため不明	
531		3-2	SK117 黒灰色土	山茶碗	碗	30		(1.45)	(4.5)	灰白 N8/	石英	回転ナデ・ 回転糸切り後ナデ	渥美・湖西系 内面降灰　籾殻痕
532	110	3-2	SK117 黒灰色土	須恵器	坏身	底部 70		(1.4)	(9.9)	灰白 7.5Y7/1	密　白色粒子	回転ナデ・ 回転糸切り後ヘラケズリ	転用硯か
533	110	3-2	SK117 SD105	陶器	鉢	10	(26.9)	(9.1)		灰 N6/	6 ㎜石英	回転ナデ・ナデ	
535		3-2	SK119	山茶碗	碗	25		(2.5)	(9.6)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ	渥美・湖西系 内面降灰　籾殻痕
536		3-2	SD104 覆土	陶器	甕	10		(16.2)		灰 6/	石英	回転ナデ	
537		3-2	SD104 覆土	灰釉陶器	壺	-	-	-	-	灰白 N7/ 釉：明オリーブ灰 2.5GY7/1	白色粒子、石英	回転ナデ	外面施釉
538		3-2	SD104	山茶碗	碗	底部 100	(3.3)		7.0	青灰 5B6/1	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系　籾殻痕
539		3-2	SD104 覆土	山茶碗	碗	底部 100		(4.05)	(7.1)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	渥美・湖西系 籾殻痕
540		3-2	SD104 覆土	山茶碗	碗		2.8		(8.4)	灰白 5Y8/1	白色粒子、石英	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系 重ね焼き痕　籾殻痕
541	108	3-2	SD104	山茶碗	碗	20	(2.3)		(6.8)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・ 回転糸切り後ナデ	渥美・湖西系 重ね焼き痕　籾殻痕 ソダ痕
542		3-2	SD104 覆土	山茶碗	碗		(3.6)		(7.9)	灰白 5Y7/1	白色粒子、石英	回転ナデ・ナデ	渥美・湖西系 重ね焼き痕　籾殻痕
543		3-2	SD104 覆土	陶器	甕	-	-	-	-	暗灰 N3/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・タタキ	渥美
544		3-2	SD104 覆土	陶器	甕	-	-	-	-	灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・タタキ	渥美
545	108	3-2	SD104 覆土	瀬戸美濃	天目茶碗		(2.3)		(12.0)	にぶい黄橙 10YR7/3 釉：にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子	回転ナデ	大窯
546	108	3-2	SD104 覆土	瀬戸美濃	建水		(7.2)		(11.4)	にぶい黄橙 10YR6/ 釉：黒褐 7.5YR3/2	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラケズリ	大窯
547		3-2	SD104 覆土	志戸呂	徳利		(3.2)		(4.8)	橙 7.5YR6/6 釉：褐 7.5YR4/4	白色粒子・石英	回転ナデ・回転ヘラケズリ	渥美・湖西系 重ね焼き痕
550		3-2	SD102	山茶碗	碗		(1.9)		(8.05)	灰白 5Y8/1	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系
551		3-2	包含層	土師器	坏	45	(12.3)	3.6	(4.8)	外：灰白 2.5Y8/1 内：暗灰 N3/	白色粒子	摩滅のため不明	内黒
552		3-2	包含層	土師器	坏	15	(12.0)	3.65		にぶい黄橙 10YR7/2	白色粒子	ナデ	
553		3-2	包含層	土師器	坏	25	(11.4)	3.45		黄橙 7.5YR7/8	白色・赤褐色粒子	摩滅のため不明	
554		3-2	包含層	土師器	坏	30	(13.0)	4.0		灰白 2.5Y7/1	白色粒子	ナデ	
555		3-2	包含層	土師器	坏	20	(13.4)	3.9	(6.6)	橙 7.5YR7/6	白色粒子僅少	摩滅のため不明	
556		3-2	包含層	土師器	坏	35		(3.35)	(5.8)	橙 5YR7/6	白色粒子	摩滅のため不明	灰釉陶器模倣 摩滅
557		3-2	包含層	土師器	坏	95		(3.05)	(6.7)	浅黄橙 10YR8/3	白色粒子	摩滅のため不明	灰釉陶器模倣
558		3-2	包含層	土師器	坏		(12.8)	4.4	(6.7)	灰白 2.5Y8/2	白色粒子	摩滅のため不明	灰釉陶器模倣
559		3-2	包含層	土師器	高坏	脚部 50		(6.1)		浅黄橙 7.5YR8/4	赤色・白色粒子	摩滅のため不明	接合部径：2.8 ㎝
560		3-2	包含層	土師器	甕	25	(20.8)	(7.15)		浅黄橙 10YR8/3	白色・褐色粒子	ヨコナデ・ナデ	
561		3-2	包含層	土師器	壺	口縁 5	(18.9)	(2.9)		浅黄橙 10YR8/3	白色粒子	ヨコナデ・ハケ目	
562		3-2	包含層	土師器	甕	10	(21.8)	(5.0)		浅黄橙 7.5YR8/4	白色・灰色・褐色粒子多。3 ㎜礫・雲母少	摩滅のため不明	
563		3-2	包含層	土師器	甕	-		(15.2)		にぶい黄橙 10YR7/3 赤彩：にぶい赤褐 2.5YR5/4	黒色・白色粒子、雲母粒	ヨコナデ・ハケ目・不明	頸部径：(15.2) ㎝。 外面赤彩
564		3-2	攪乱	土師器	ミニチュア土器	45	(6.2)	2.35	(1.1)	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子、石英	ナデ	
565		3-2	包含層	土師器	ミニチュア土器？	-				橙 5YR7/8	灰色粒子	ナデ	長径：2.47 ㎝ 短径：2.07 ㎝
566		3-2	包含層	須恵器	壺	頸部 30		(8.5)		灰黄 2.5Y6/2	白色粒子僅少	回転ナデ	頸部径：(5.2) ㎝
567		3-2	包含層	須恵器	壺	10		(5.3)		灰 N5/	白色・黒色粒子	回転ナデ	

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図 No.	図版 No.	区	遺構 層位	種別	器種	残存率 (%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
568		3-2	包含層	灰釉陶器	壷瓶類	頸部 10				外：明赤灰 2.5YR7/2 内：灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ	最大径：(4.4) cm 自然釉
569		3-2	包含層	灰釉陶器	平瓶	5		(6.9)		灰白 2.5T7/1	白色粒子	回転ナデ	頸部径：(7.6) cm 自然釉
570		3-2	包含層	灰釉陶器	水瓶	20		(3.1)	(9.1)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	内面自然釉
571		3-2	包含層	灰釉陶器	壷	頸～体部 20		(8.5)		灰 N6/	白色粒子		頸部径：(8.1) cm 自然釉
572	111	3-2	包含層	須恵器	甑	体部 10		(16.95)		灰 N6/	白色粒子	回転ナデ・ナデ・回転ヘラケズリ・ 棒状工具による調整	最大径：(25.0) cm
573	110	3-2	包含層	灰釉陶器	碗	30		(3.7)	(8.1)	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	清ヶ谷窯産か 底部外面に墨痕 重ね焼き痕
574		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	10		(1.65)	(7.1)	灰白 5Y7/1 釉：灰オリーブ 7.5Y6/2	白色粒子僅少	回転ナデ	重ね焼き痕 内面施釉
575		3-2	包含層	灰釉陶器	小碗	60		(1.65)	(5.1)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	東遠江系か
576		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	60		(2.2)	(6.8)	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り後ナデ	清ヶ谷窯 重ね焼き痕
577		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	35		(1.9)	(6.2)	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系か
578		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	30		(2.05)	(7.2)	灰白 N/7	白色粒子	回転ナデ・ 回転糸切り後 回転ヘラケズリ	
579		3-2	表土	灰釉陶器	碗	50		(2.25)	(6.4)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	重ね焼き痕
580		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	15		(2.1)	(5.7)	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ	清ヶ谷窯産か 重ね焼き痕
581		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	30		(2.8)	(7.1)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	東遠江系 重ね焼き痕
582		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	30		(2.15)	(8.1)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子、5 ㎜白色礫	回転ナデ・回転ヘラケズリ	清ヶ谷産か 重ね焼き痕
583		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	30		(2.25)	(6.7)	灰白 N7/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系 重ね焼き痕
584		3-2	包含層	灰釉陶器	皿	60		(1.6)	(8.0)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	重ね焼き痕
585		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	35		(2.5)	(7.6)	灰白 5Y7/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	重ね焼き痕
586		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	20		(2.7)	(8.95)	灰白 2.5Y7/1	白色・灰色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
587		3-2	包含層	灰釉陶器	碗	30		(2.5)	(7.85)	灰白 N7/	白色・灰色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	清ヶ谷窯産か 重ね焼き痕
588		3-2	包含層	灰釉陶器	皿	10	(15.8)	(2.2)		灰白 2.5T7/1	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
589	110	3-2	包含層	灰釉陶器	段皿	65	(18.6)	3.1	9.1	灰 5Y7/1	白色・黒色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ・ 回転糸切り	転用硯か
590	112	3-2	包含層	山茶碗	小碗	40	(8.2)	(2.1)	(4.2)	灰白 5Y6/1	白色粒子、石英少	回転ナデ・ナデ	東遠江系
591	115	3-2	包含層	山茶碗	小皿	60	(8.7)	2.0	4.4	灰白 N8/	白色粒子、石英	回転ナデ・回転ヘラケズリ	渥美・湖西系 墨書か
592	112	3-2	包含層	山茶碗	小皿	45	(8.5)	1.7	5.0	黄灰 2.5Y5/1	白色粒子少。石英僅少	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ	東遠江系
593		3-2	包含層	山茶碗	小皿	90	7.4	1.7	3.7	灰 6/	白色粒子少。石英僅少	回転ナデ・ナデ・ 回転糸切り	東遠江系
594		3-2	攪乱	山茶碗	小皿	50		(2.1)	(3.4)	灰白 10YR7/1	白色・灰色粒子	回転ナデ・ナデ・ ヘラケズリ？	
595		3-2	包含層	山茶碗	小碗	底部 100		(1.65)	5.4	灰白 5Y8/1	長石、6 ㎜礫	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系
596	110	3-2	包含層	灰釉陶器	碗	60	12.9	2.95	7.5	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子、 5 ～ 8 ㎜白色礫	回転ナデ・回転糸切り	重ね焼き痕
597	112	3-2	包含層	山茶碗	碗	15	(17.0)	(4.3)		灰白 2.5Y7/1	白色・黒色粒子少。 石英僅少	回転ナデ	東遠江系
598	112	3-2	包含層	山茶碗	碗	25	(15.8)	5.5	(7.6)	灰白 N7/	白色・黒色粒子	回転ナデ・ナデ	東遠江系　籾殻痕
599	112	3-2	包含層	山茶碗	碗	30		(2.9)	(7.6)	灰 N8/	白色・黒色粒子少	回転ナデ・ナデ・ 回転ヘラケズリ？	東遠江系 重ね焼き痕
600	112	3-2	包含層	山茶碗	碗	30		(2.0)	8.4	灰白 5Y6/1	白色粒子、石英僅少	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系 重ね焼き痕　煤付着
601	112	3-2	包含層	山茶碗	碗	35		(3.3)	8.4	灰白 2.5Y7/1	白色粒子、石英少	回転ナデ・ナデ・回転ナデ・ 回転糸切り後ナデ	東遠江系 重ね焼き痕
602	112	3-2	包含層	山茶碗	碗	30		(2.2)	7.0	灰白 N6/	白色粒子、石英少	回転ナデ・回転糸切り	東遠江系　転用硯か 重ね焼き痕　籾殻痕
603		3-2	包含層	山茶碗	碗	30		(2.85)	(7.2)	灰白 5Y7/1	白色・黒色粒子。 長石僅少	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系 内面焼き台の痕跡
604		3-2	包含層	山茶碗	碗	底部 100		(2.3)	8.05	暗灰 N3/	長石、石英	回転ナデ・ナデ	渥美・湖西系 外面煤付着　籾殻痕
605	115	3-2	包含層	山茶碗	碗	底部 95		(1.95)	7.1	灰白 N7/	白色粒子、石英	回転ナデ・回転糸切り	重ね焼き痕
606		3-2	包含層	山茶碗	碗	底部 60		(2.0)	(8.0)	灰白 N8/	白色粒子、石英	回転ナデ・ 回転糸切り後ナデ	渥美・湖西系 籾殻痕
607		3-2	包含層	山茶碗	碗	30		(2.3)	(7.1)	灰白 N8/	白色粒子	回転ナデ・回転糸切り	渥美・湖西系
608		3-2	包含層	山茶碗	碗	底部 80		(2.3)	7.7	灰白 N7/	石英、4 ～ 7 ㎜礫	回転糸切り・ 回転糸切り後ナデ	渥美・湖西系 籾殻痕
609		3-2	包含層	山茶碗	碗	30		(3.25)	6.9	灰白 N8/	石英	回転ナデ・ 回転糸切り後ナデ	渥美・湖西系 重ね焼き痕

第 29 表　一反田遺跡出土土器観察表

挿図No.	図版No.	区	遺構層位	種別	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	色調　内面・外面	胎土	調整・技法	備考
610		3-2	包含層	山茶碗	碗	30		(2.5)	6.4	灰白 5Y7/1	白色粒子、石英	回転ナデ・回転糸切り後ナデ	渥美・湖西系
611	111	3-2	包含層	山茶碗	鉢	15	(30.2)	(8.9)		灰 N6/	白色粒子多。3 ㎜長石	回転ナデ	東遠江系
612	111	3-2	包含層	山茶碗	甕	5	(30.6)	(5.6)		灰 N/6	白色・黒色粒子、白色・黒色礫多	回転ナデ	東遠江系
613	111	3-2	包含層	山茶碗	甕	10	(24.2)	(2.8)		黄灰 2.5Y6/1	2 ㎜以下白色礫、白色粒子粒子多	回転ナデ	東遠江系
614		3-2	包含層	山茶碗	鉢	底部 20		(5.4)	(15.6)	灰白 2.5Y7/1	白色粒子多。石英僅少	ナデ・回転ヘラケズリ	東遠江系
615		3-2	包含層	山茶碗	甕	10	(27.2)	(6.05)		灰 5Y6/1	2 ㎜以下白色礫、白色粒子多。石英僅少	回転ナデ	東遠江系
616	111	3-2	包含層	白磁	端反碗	-	-	-	-	露胎：灰白 N8/ 釉：灰白 N8/	白色粒子・黒色粒子僅少	回転ナデ・ヘラ描き	
617	111	3-2	包含層	青磁	碗	-	-	-	-	露胎：灰白 N8/ 釉：明緑灰 7.5GY7/1	白色粒子僅少	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
618	111	3-2	包含層	青磁	碗	-	-	-	-	露胎：灰白 N7/ 釉：オリーブ灰 2.5GY5/1	白色粒子僅少	回転ナデ	蓮弁文
619		3-2	包含層	常滑	片口鉢	10	(33.6)	(6.5)		外：灰褐 5YR4/2 内：褐灰 5YR5/1	白色粒子多。石英少	回転ナデ	
620		3-2	包含層	常滑	甕	底部 20		(3.4)	(18.7)	外：灰褐 5YR4/2 内：黄灰 7.5Y5/1	白色粒子、雲母	回転ナデ・ナデ・タタキ	
621		3-2	包含層	土師器	鍋	-	-	-	-	灰白 7.5YR8/2	白色・灰色粒子	ヨコナデ	伊勢型　外面煤付着
622	111	3-2	包含層	瀬戸美濃	天目茶碗	底部 40		(1.0)	(4.4)	灰白 2.5Y8/2 釉：灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	回転ナデ	鉄釉
623		3-2	SR201 上層	志戸呂	蓋	摘み 100		(1.3)		外：にぶい赤褐色 2.5YR 5/4 内：橙 5YR 6/6	白色粒子	回転ナデ・回転ヘラケズリ	
624	111	3-2	包含層	志戸呂	不明	95	7.1	3.2	4.2	露胎：灰白 10YR7/1 釉：灰オリーブ 5Y4/2	白色・黒色粒子少	回転ナデ	
625	111	3-2	包含層	瀬戸美濃	猪口	70	(6.0)	3.7	2.7	露胎：灰白 2.5Y7/1 釉：灰オリーブ 5Y6/2	白色・黒色粒子	回転ナデ	
626	111	3-2	包含層	瀬戸美濃	花器？	95	長：12.8 短：3.4	3.6	長：13.0 短：4.5	露胎：灰白 2.5Y7/1 釉：明オリーブ灰 2.5GY7/1	白色粒子少	回転ナデ・ナデ	
627		3-2	包含層	瀬戸美濃	擂鉢	15	(31.6)	(9.59		外：灰赤 2.5YR4/2 内：にぶい赤褐 2.5YR4/3	白色粒子多。灰色粒子少	回転ナデ・摺り目	
628		3-2	包含層	陶器	不明	5	(25.6)	(3.2)		灰白 5Y7/1 釉：灰 N4/	白色子・黒色粒子	回転ナデ	

第 30 表　一反田遺跡出土木製品観察表

挿図No.	図版No.	区	グリッド	遺構層位	分類群	器種名	器種細分名 1	器種細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
194	85	5-1	ED23	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			柾目	ヒノキ	17.25	(3.7)	0.4	墨書
195	85	5-1	ED23	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			柾目	ヒノキ	15.45	2.4	0.25	
196	85	5-1	ED23	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			柾目	スギ	(21.4)	3.4	0.26	
197	85	5-1	ED23	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			柾目	ヒノキ	22.8	2.05	0.3	墨書
198		5-1	D2	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			板目	スギ	(28.4)	2.1	0.25	
199		5-1	ED23	SD101 覆土下層	祭祀具	齋串				柾目	ヒノキ	(9.3)	1.25	0.5	
200		5-1	ED23	SD101 覆土下層	祭祀具	齋串？				柾目	ヒノキ	(9.9)	2.75	0.4	
201		5-1	ED23	SD101 覆土下層	その他	棒状				柾目	ヒノキ	(8.9)	1.35	1.0	
202		5-1	ED23	SD101 覆土下層	その他	棒状				板目	ウツギ属	-	0.8	0.4	
203		5-1 ・2	C3	SD101	その他	棒状				板目	コナラ属 コナラ節	(7.4/ 5.4)	0.8	0.4	
204		5-1	ED23	SD101 覆土下層	その他	加工材				板目	イヌマキ属	11.2	2.9	0.85	
205		5-1	ED23	SD101 覆土下層	その他	加工材				柾目	アカマツ	(13.0)	0.8	0.6	
206		5-1	ED23	SD101 覆土下層	その他	加工材				芯持材	ウラジロ	(8.0)	0.55	0.3	
207	85	5-1	D2	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	鳥形			柾目	ヒノキ	(12.9)	3.45	0.35	
208	87	5-1	D2	SD101 覆土下層	工具	槌	掛矢？			芯持材	コナラ属 クヌギ節	頭部 16.1 柄 (14.8)	頭部 29.4 柄 3.0	頭部 12.8 柄 3.8	
209	86	5-1	D2	SD101 覆土下層	容器	底板 (蓋板)				柾目	ヒノキ	16.45	8.6	0.75	樺紐

第 30 表　一反田遺跡出土木製品観察表

挿図No.	図版No.	区	グリッド	遺構層位	分類群	器種名	器種細分名 1	器種細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
210	86	5-1	ED23	SD101 覆土下層	容器	皿	挽物			柾目	ヒノキ	口径 (17.8)	底径 (15.8)	1.05	
211	86	5-1	ED23	SD101 覆土下層	容器	底板(蓋板)				柾目	サワラ	9.9	10.1	0.7	木釘 6 箇所
212	86	5-1	ED23	SD101 覆土下層	容器	皿	挽物			柾目	ヒノキ	口径 22.5	底径 17.6	1.95	漆碗
213	86	5-1	ED23	SD101 覆土下層	容器	皿	挽物			柾目	ヒノキ	口径 (22.7)	底径 (20.4)	1.56	漆碗
214		5-1	ED23	SD101 覆土下層	その他	加工材	残材			柾目	イチイガシ	11.1	6.7	4.3	
215		5-1	ED23	SD101 覆土下層	用途不明品	その他・不明				芯去材	モモ	(6.1)	3.0	1.2	
216	87	5-1	ED23	SD101 覆土下層	容器	側板				板目	スギ	(34.2)	4.3	0.65	樺紐　漆碗？
217	87	5-1	D2	SD101 覆土下層	農耕土木具	馬鍬	台と歯			台木：芯持材 歯：板目	コナラ属アカガシ亜属	台木 (46.3) 歯 (8.1)	台木 6.6 歯 1.9	台木 5.8 歯 2.5	
218	87	5-1	D2	SD101 覆土下層	農耕土木具	鋤	組み合わせ鋤身	平鍬		板目	イチイガシ	(32.5)	16.6	1.7	
219	85	5-2	C3N	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			板目	ヒノキ	(35.2)	3.4	0.6	
220	85	5-2	C3	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			柾目	ヒノキ	(25.0)	2.0	0.5	
221		5-2	C3	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			柾目	ヒノキ	16.1	2.25	1.45	
222	85	5-2	C3	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			柾目	スギ	(14.5)	2.7	0.3	
223	85	5-2	B3	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	人形			板目	ヒノキ	16.0	(2.0)	0.3	
224		5-2	C3	SD101	祭祀具	形代	人形？			柾目	ヒノキ	(7.3)	1.1	0.3	
225	85	5-2	C3	SD101	祭祀具	齋串				板目	スギ	(17.05)	1.1	0.3	
226	85	5-2	C3	SD101 覆土下層	祭祀具	齋串				柾目	ヒノキ	(20.7)	2.4	0.35	
227	85	5-2	C3	SD101 覆土下層	祭祀具	齋串				柾目	ヒノキ	(20.8)	1.6	0.35	
228		5-2	C3	SD101	祭祀具	齋串				柾目	ヒノキ	(9.95)	2.8	0.45	
229		5-2	C3	SD101	祭祀具	形代	その他			柾目	ヒノキ	22.1	1.0	1.0	
230		5-2		SD101 覆土下層	その他	棒状				芯持材	ウラジロ	(7.4)	0.4	0.35	
231	85	5-2	C3	SD101	祭祀具	形代	馬形			柾目	ヒノキ	2.2	(7.3)	0.25	
232	86	5-2	B3	SD101 覆土下層	容器	底板(蓋板)				柾目	サワラ	(17.15)	(17.75)	1.0	
233	86	5-2	C3	SD101 覆土下層	容器	底板(蓋板)				柾目	スギ	(25.5)	(11.05)	1.2	木釘 8 箇所 孔 1 箇所
234	86	5-2	C3	SD101	容器	底板(蓋板)				柾目	ヒノキ	(10.15)	(3.55)	0.7	
235	86	5-2	C3	SD101 覆土下層	運搬具	背負子	背負梯子爪あり型	縦木		追柾目	ケヤキ	口径 (23.45)	底径 (18.05)	1.7	
236	87	5-2	C3	SD101	容器	皿	挽物			芯持材	エノキ属	(27.25)	(12.45)	2.8	
237		5-2	C3	SD101	用途不明品	その他・不明				柾目	アカマツ	11.8	2.2	1.6	
238		5-2	B3	SD101 覆土下層	用途不明品	その他・不明				板目	アカマツ	(17.4)	2.4	1.2	
239		5-2	B3	SD101 覆土下層	土木材	杭				芯持材	イヌマキ属	(30.9)	(3.6)	3.0	
240		5-2	B3	SD101	土木材	杭				柾目	シャシャンボ	(19.8)	3.9	2.5	
241		5-2	B3	SD101 覆土下層	用途不明品	その他・不明				柾目	イチイガシ	(20.2)	7.1	2.6	
242		5-2	B3	SD101 覆土下層	その他	加工材	残材			柾目	イチイガシ	(7.4)	7.6	6.2	
243-1	87	5-2	B3	SD101 覆土下層	容器	側板				板目	ヒノキ	(16.25)	(42.4)	0.65	
243-2	87	5-2	B3	SD101 覆土下層	容器	側板				板目	ヒノキ	(15.6)	(38.75)	0.65	
244	87	5-2	C3	SD101	施設材	導水施設	木樋			芯持材	イチイガシ	(135.8)	22.2	16.8	
245		5-2	C2S	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	その他			柾目	ヒノキ	27.9	3.8	0.23	
246		5-2		SD101 覆土下層	祭祀具	形代	その他			板目	ヒノキ	(21.7)	3.85	0.45	
247		5-2	C3	SD101	祭祀具	形代	その他			柾目	ヒノキ	(11.0)	(2.55)	0.15	
248		5-2	C3	SD101	祭祀具	形代	その他			柾目	ヒノキ	(8.6)	2.45	1.8	
249		5-2	B3	SD101 覆土下層	祭祀具	形代	その他			板目	ヒノキ科樹皮	(13.8)	(1.8)	0.2	
274		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	コナラ属アカガシ亜属	23.2	2.6	2.5	
275		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	イヌビワ	(28.4)	2.55	2.5	

第 30 表　一反田遺跡出土木製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	グリッド	遺構 層位	分類群	器種名	器種 細分名 1	器種 細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
276		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	スダジイ	32.1	2.75	2.9	
277		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	トネリコ属	41.8	2.3	2.25	
278	100	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	ビワ	44.4	2.6	2.3	
279		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	ヒサカキ	47.55	2.2	1.8	
280	100	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	クマノ ミズキ	5139	2.65	2.4	
281	100	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	コナラ属 アカガシ亜属	(75.6)	2.35	2.35	
282	100	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	イボタノキ属	(78.85)	3.65	3.25	
283	99	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	スダジイ	(75.6)	4.8	4.7	
284	99	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	タイミン タチバナ	75.1	4.5	4.5	
285	99	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	タイミン タチバナ	75.65	4.45	4.4	
286	99	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	ツブラジイ	(64.45)	3.7	3.9	
287	100	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	ツブラジイ	(52.15)	3.6	3.45	
288		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	コナラ属 アカガシ亜属	47.0	4.55	3.3	
289		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	サカキ	(35.4)	3.85	3.7	
290		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	イボタノキ属	37.0	2.75	2.7	
291	99	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	タイミン タチバナ	(85.6)	4.3	4.2	
292	99	3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	サンゴジュ	94.9	4.5	3.6	
293		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	タイミン タチバナ	(101.8)	4.8	4.2	
294		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	アワブキ	103.8	4.8	4.2	
295		3-2		SA302	施設材	畦畔材	杭			板目	クリ or シイ	(16.2)	2.9	1.9	
296		3-2		SA302	施設材	畦畔材	杭			芯持材	スダジイ	(32.2)	3.0	2.9	
297		3-2		SA302	施設材	畦畔材	杭			芯持材	ヤナギ属	(35.2)	3.7	3.65	
299	100	3-2			武器・武具・馬具	弓	素木弓			芯持材	イヌマキ属	(23.55)	1.5	1.5	
300		3-2		SA301	施設材	畦畔材	杭			芯持材	クロマツ	(20.6)	3.8	4.0	
428	107	3-2		SA203	農耕土木具	鍬	曲柄 鍬身？			追柾目	コナラ属 アカガシ亜属	(36.0)	21.95	1.4	
429	107	3-2		SA201	用途不明品	その他・不明	杭			板目	クスノキ	(25.5)	19.25	3.0	
430	107	3-2		SR201	施設材	護岸材	杭			芯持材	イヌマキ属	26.55	4.3	3.9	
431	107	3-2		SR201	施設材	護岸材	杭			芯持材	サカキ	(51.75)	4.65	3.7	
432	107	3-2		SR201	施設材	護岸材	杭			芯持材	イヌマキ属	36.4	5.5	5.35	
433	107	3-2		SA204	施設材	護岸材	杭			芯持材	サンゴジュ	105.5	4.7	3.95	
434	107	3-2		SA205	施設材	護岸材	杭			芯持材	イヌマキ属	(103.65)	5.45	5.3	
435	100	3-2		SR201	施設材	護岸材	杭			芯持材	クリ	(45.1)	7.3	3.7	
436	100	3-2		SA201	施設材	護岸材	杭			芯持材	イヌマキ属	(32.2)	(6.9)	(4.3)	
437	100	3-2		SA202	施設材	護岸材	杭			板目	クリ	(24.1)	(5.2)	(2.4)	
438	100	3-2		SA202	施設材	護岸材	杭			芯持材	コナラ属 アカガシ亜属	(27.9)	3.4	3.2	
439	100	3-2		SA202	施設材	護岸材	杭			芯持材	コナラ属 アカガシ亜属	(38.0)	6.3	6.1	
440	100	3-2		SA202	施設材	護岸材	杭			芯持材	スダジイ	(45.7)	6.4	5.45	
441	100	3-2		SA202	施設材	護岸材	杭			芯持材	コナラ属 アカガシ亜属	(58.45)	5.45	4.95	
472	109	3-2		SB101	建築部材	柱	掘立柱 建物			芯持材	スダジイ	(45.75)	28.75	32.6	
473		3-2	P2	SB102-P2	建築部材	礎板・根絡み				板目	クロマツ	15.8	8.7	2.6	
474		3-2	P3	SB102-P3	建築部材	礎板・根絡み				板目	マツ属 複維管束亜属	(12.2)	(7.5)	1.2	孔
475		3-2	P3	SB102-P3	建築部材	礎板・根絡み				柾目	マツ属 複維管束亜属	23.55	5.2	3.6	孔
476		3-2	P3	SB102-P3	建築部材	礎板・根絡み				板目	カキノキ属	33.0	10.0	4.85	
477	109	3-2	P3	SB102-P3	建築部材	礎板・根絡み				板目	アカマツ	10.85	10.5	5.35	
478		3-2		SB102-P3	建築部材	礎板・根絡み				板目	コナラ属 アカガシ亜属	14.45	7.65	4.1	
479		3-2		SB102-P4	建築部材	柱	掘立柱 建物			芯持材	スダジイ	(18.8)	28.5	30.65	
480	109	3-2		SB102-P4	建築部材	礎板・根絡み				追柾目	クロマツ	26.7	10.1	1.8	
481	109	3-2	P4	SB102-P4	建築部材	礎板・根絡み				芯持材	クロマツ	(40.8)	11.8	12.15	
482	109	3-2		SB102-P5 SB103-P1	建築部材	礎板・根絡み				板目	ツガ属	26.85	(19.55)	5.7	孔 2 箇所

第 30 表　一反田遺跡出土木製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	グリッド	遺構 層位	分類群	器種名	器種 細分名 1	器種 細分名 2	年代	木取り	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
483	109	3-2	P5	SB102-P5 SB103-P1	建築部材	礎板・根絡み				芯持材	クロマツ	23.15	13.1	3.3	
484		3-2	P7	SB102-P7	建築部材	礎板・根絡み				板目	クロマツ	21.5	(20.2)	3.2	
485		3-2	P7	SB102-P7	建築部材	礎板・根絡み				板目	ツガ属	18.2	(12.9)	4.0	
486		3-2	P7	SB102-P7	建築部材	礎板・根絡み				板目	クスノキ科 A	27.8	8.2	5.7	
487		3-2	P5	SB105-P5	建築部材	礎板・根絡み				板目	スダジイ	34.25	17.65	7.4	
488		3-2		SB106-P2	建築部材	礎板・根絡み				板目	クリ	(15.1)	5.5	1.65	
489		5-1		SP084	容器	底板（蓋板）				板目	イヌマキ属	(14.05)	(10.3)	0.45	
526		3-2		SD105	施設材	護岸材	杭			芯持材	サカキ	35.45	9.75	8.9	
534	110	3-2		SD117	容器	椀	挽物			板目	ケヤキ	口径 (14.35)	底径 (18.05)	-	
549		3-2		SD104	施設材	護岸材	杭			芯持材	マツ属 複維管束亜属	(85.6)	4.3	4.05	

第 31 表　一反田遺跡出土石器・石製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	遺構・層位	グリッド	器種	最大長	最大幅	厚	重量（g）	石材	備考
252	84	5-2	SD101 下層	C3	砥石	9.8	5.9	6.2		砂質粘岩（菊川水系か）	
261	88	4		?	石鏃	(2.2)	(1.6)	0.45		チャート	
272	88	5-2	表土除去	C3	砥石	(4.9)	2.5	1.75		ホルンフェルス	孔径 :0.32 ㎝
262	88	5-2 区	SX101	B3･C3	敲石	(5.6)	(9.95)	1.9		中粒砂岩	
273	88	5-2	包含層		砥石	(5.35)	5.0	3.8		珪質流紋岩質凝灰岩	
427	106	3-2	SR201 上層		砥石（転用）	7.7	6.3	0.9			
629	111	3-2	第 1 面包含層		砥石	(6.95)	(2.25)	(1.7)	(25.3)		

第 32 表　一反田遺跡出土土製品観察表

挿図 No.	図版 No.	区	遺構・層位	グリッド	器種	最大長	最大幅	厚み	色調	備考
253	84	5-2	SD101 下層	C3	土錘		1.05	4.48	灰 N4	
254	84	5-2	SD101 上層	C3	土錘		1.65	3.7	橙 7.5YR7/6	
255	84	5-2	SD101 下層	C3	土錘		0.95	3.8	にぶい黄橙 10YR7/2	

第 33 表　一反田遺跡出土金属製品等観察表

挿図 No.	図版 No.	区	遺構	グリッド	種別	最大長	最大幅	厚み	備考
250	84	5-2	SD101		耳環	2.65	2.65	0.55	
251	84	5-2	SD101 下層		鉄鏃	9.05	1.95	0.25	
453		3-2	I14SE		鉄滓	2.4	2.55	1.4	
548		3-2	SD104		鉄滓	3.2	5.3	2.3	

第 34 表　一反田遺跡掘立柱建物計測表

遺構名	区	グリッド	主軸方向	間数		規模		梁÷桁	面積	柱痕	備考
				桁	梁	桁	梁				
SB101	3-2・3	I-13	-	-	-			-	-		
SB102	3-2・3	I-13・14	N-55°-E	4	1						
SB103	3-2・3	I-13・14	N-50°-E	(2)	(1)						
SB104	3-2・3	H・I-15	N-39°-W	1	(2)					○	
SB105	3-2・3	H・I-14	N-53°-E	4	2					○	
SB106	3-2・3	I-15	N-51°-E	(3)	2					○	
SB107	3-2・3	I-15	N-35°-W	-	-			-	-	○	

第 35 表　赤土政所遺跡出土木製品樹種等一覧表

遺物No.	区	遺構	遺物の種類	プレパラートNo.	樹種
W359	2-2	SD206	垂木	14461	イヌマキ属
W368	2-2	SD206	建築材	14463	イヌマキ属
W134	1	SX103	杭	15674	マツ属複維管束亜属
W124	1	SX103	杭	15675	クリ
W164	1	SB203-P7	礎板	15678	イヌマキ属
W127	1	SX103	杭	15680	アカマツ
W180	1		礎板	15681	スギ
W165	1	SB203-P7	礎板	15683	スダジイ
W181	1	SB202-P2	柱根	15686	クリ
W015	2-1	SB212-P2	礎板？	15687	ツブラジイ
W126	1	SX103	杭	15688	クロマツ
W162	1	SB203-P7	礎板	15691	イヌマキ属
W013-1	2-1	SB212-P1	礎板	15693	スダジイ
W137	1	SX103	杭	15694	マツ属複維管束亜属
W155	1	SB210-P4	礎板？	15696	クリ
W130	1	SX103	杭	15697	マツ属複維管束亜属
W161	1	SB203-P7	礎板	15698	イヌマキ属
W044	2-1	SB211-P4	礎板	15699	スダジイ
W010	2-1	SB214-P3	礎板	15702	スダジイ
W133	1	SX103	杭	15704	マツ属複維管束亜属
W032-1	2-1	SB212-P8	柱根	15705	クリ
W123	1	SX103	杭	15706	サカキ
W117	1	SX103	杭	15707	クロマツ
W023-4	2-1		柱根	15708	クリ
W032-2	2-1	SB212-P8	柱根	15709	クリ
W034	2-1	SX217	柱根	15710	クリ
W129	1	SX103	杭	15711	アカマツ
W131	1	SX103	杭	15713	マツ属複維管束亜属
W166	1	SB203-P7	礎板	15714	ツブラジイ
W045	2-1	SB211-P4	礎板	15715	スダジイ
W119	1	SX103	杭	15717	マツ属複維管束亜属
W023-3	2-1		柱根	15719	クリ
W048-1	2-1	SB212-P4	礎板	15723	クスノキ
W163	1	SB203-P7	礎板	15733	イヌマキ属
W192	1	SB202-P7	柱根	15734	イヌマキ属
W039-5	2-1	SB214-P2	礎板	15737	サンゴジュ
W039-6	2-1	SB214-P2	礎板	15738	サンゴジュ
W039-7	2-1	SB214-P2	礎板	15739	サンゴジュ
W122	1	SX103	杭	15743	アカマツ
W135	1	SX103	杭	15744	スダジイ
W039-4	2-1	SB214-P2	礎板	15746	サンゴジュ
W039-2	2-1	SB214-P2	礎板	15747	サンゴジュ
W012-3	2-1	SB212-P1	加工材	15751	スダジイ
W039-1	2-1	SB214-P2	礎板	15754	サンゴジュ
W013-2	2-1	SB212-P1	加工材	15758	スダジイ
W048-1	2-1	SB212-P4	礎板	15759	クスノキ
W072-1	2-1	SD403	礎板？	15765	スダジイ
W072-2	2-1	SD403	礎板？	15766	スダジイ
W072-3	2-1	SD403	礎板？	15767	クリ
W072-4	2-1	SD403	礎板？	15768	コナラ属クヌギ節
W072-5	2-1	SD403	礎板？	15769	スダジイ
W072-6	2-1	SD403	礎板？	15770	コナラ属クヌギ節
W072-7	2-1	SD403	礎板？	15771	コナラ属クヌギ節
W072-8	2-1	SD403	礎板？	15772	スダジイ
W072-9	2-1	SD403	礎板？	15773	クリ
W072-10	2-1	SD403	礎板？	15774	コナラ属クヌギ節
W072-11	2-1	SD403	礎板？	15775	クリ
W072-12	2-1	SD403	礎板？	15776	スダジイ
W160	1	SB203-P8	礎板	15777	ヒノキ属
W059	2-1	SB212-P7	礎板	15783	クリ
W215	1	SB204-P8	礎板	15793	クリ
W243	2-2	SD206	杭	15798	イヌマキ属
W252	2-2	SD206	杭	15800	イヌマキ属
W136	1	SX103	杭	15801	クリ
W008	2-1	SB214-P1	柱根	15802	クリ

遺物No.	区	遺構	遺物の種類	プレパラートNo.	樹種
W006	2-1	SB214-P6	柱根	15803	クリ
W176	1		柱根	15806	クリ
W195	1	SB201-P8	柱根	15807	クリ
W012-1	2-1	SB212-P1	礎板	15808	ツブラジイ
W012-2	2-1	SB212-P1	加工材	15809	スダジイ
W167	1	SB203-P7	礎板	15810	ツブラジイ
W011	2-1	SB214-P4	柱根	15812	クリ
W007-1	2-1	SB214-P6	加工材	15816	スダジイ
W007-1	2-1	SB214-P6	加工材	15817	スダジイ
W070	2-1	SB208-P11	柱根	15826	コナラ属コナラ節
W075	2-1	SD403	礎板	15827	サンゴジュ
W076	2-1	SD403	礎板	15829	サンゴジュ
W090	1	SX103	杭	15830	マツ属複維管束亜属
W092	1	SX103	杭	15831	ヤブツバキ
W089	1	SX103	杭	15832	クロマツ
W095	1	SX103	杭	15833	コナラ属コナラ節
W104	1	SX103	杭	15838	マツ属複維管束亜属
W101	1	SX103	杭	15840	クロマツ
W106	1	SX103	杭	15841	クスノキ科A
W091	1	SX103	杭	15843	マツ属複維管束亜属
W103	1	SX103	杭	15844	ヤナギ属
W112	1	SX103	杭	15845	マツ属複維管束亜属
W100	1	SX103	杭	15846	クロマツ
W102	1	SX103	杭	15847	アカマツ
W108	1	SX103	杭	15848	クロマツ
W080	2-1	SD403	礎板	15851	スダジイ
W066-1	2-1	SB211-P3	礎板	15854	スダジイ
W066-2	2-1	SB211-P3	礎板	15855	スダジイ
W066-3	2-1	SB211-P3	礎板	15856	ツブラジイ
W213	1	SB208-P8	柱根	15866	クリ
W311	2-2	SD206	杭	15871	イヌマキ属
W078	2-1	SD403	礎板	15882	スダジイ
W077	2-1	SD403	礎板	15887	スダジイ
W132	1	SX103	杭	15924	クリ
W125	1	SX103	杭	15925	クリ
W023-1	2-1		柱根	15926	クリ
W023-2	2-1		柱根	15927	クリ
W048-1	2-1	SB212-P4	礎板	15932	クスノキ
W048-1	2-1	SB212-P4	礎板	15933	クスノキ
W048-1	2-1	SB212-P4	礎板	15934	クスノキ
W048-1	2-1	SB212-P4	礎板	15935	クスノキ
W048-1	2-1	SB212-P4	礎板	15936	クスノキ
W004-2	2-1	SB214-P8	礎板	15939	コナラ属コナラ節
W004-3	2-1	SB214-P8	礎板	15940	コナラ属コナラ節
W005	2-1	SB214-P6	礎板	15942	コナラ属コナラ節
W039-3	2-1	SB214-P2	礎板	15946	サンゴジュ
W033	2-1	SK218	柱根	15953	同定不可
W128-1	1	SX103	杭	15956	スダジイ
W128-2	1	SX103	杭	15957	スダジイ
W068	2-1	SB208-P10	礎板	15958	コナラ属コナラ節
W004-1	2-1	SB214-P8	礎板	15959	広葉樹樹皮
W377		SD206	斎串	15813	スギ
W118	1	SX103	三又	15753	ヤナギ属
W283	2-2	SD206	箸	13895	スギ
W324	2-2	SD206	曲物	15891	ヒノキ
W200	1	SB202-P6	折敷	15909	イヌマキ属
W313	2-2	SD206	加工材	13915	ユズリハ属
W058	2-1	SB212-P7	加工材	15676	クリ
W022	2-1	SB212-P3 SB211-P1	加工材	15677	スダジイ
W031	2-1		加工材	15679	クスノキ科B
W191	1	SB202-P7	加工材	15682	スダジイ

第 35 表　赤土政所遺跡出土木製品樹種等一覧表

遺物No.	区	遺構	遺物の種類	プレパラートNo.	樹種
W024	2-1		加工材	15684	クスノキ科 B
W175	1	SB204-P10	加工材	15685	クリ
W199	1	SB202-P6	加工材	15689	クリ
W055	2-1	SB212-P7	加工材	15690	クスノキ科 B
W021	2-1	SB212-P3 SB211-P1	加工材	15692	スダジイ
W020-1	2-1	SB212-P3 SB211-P1	加工材	15695	スダジイ
W185	1	SB202-P3	加工材	15700	イヌマキ属
W056	2-1	SB212-P7	加工材	15701	クリ
W028-1	2-1		加工材	15703	クリ
W047	2-1	SB211-P5	加工材	15712	ツブラジイ
W037	2-1	SX217	加工材	15716	クリ
W116	1	SX103	板材	15718	マツ属複維管束亜属
W049	2-1	SB208-P1	加工材	15720	クリ
W025	2-1		加工材	15721	スダジイ
W030-1	2-1		加工材	15722	クリ
W114	1	SX103	棒状	15724	クリ
W171	1	SB203-P3	木片	15725	クロマツ
W035	2-1	SX217	加工材	15726	クリ
W036-1	2-1	SX217	加工材	15727	クリ
W036-2	2-1	SX217	加工材	15728	クリ
W036-3	2-1	SX217	加工材	15729	クリ
W120	1	SX103	棒状	15730	アカマツ
W051	2-1	SB208-P1	加工材	15731	クスノキ
W019	2-1	SB212-P3 SB211-P1	加工材	15732	スダジイ
W153-2	1	SB210-P4	加工材	15735	クリ
W041	2-1	SB211-P2	木片	15736	クリ
W042-1	2-1	SB211-P2	木片	15740	スダジイ
W183	1	SB202-P3	加工材	15741	スダジイ
W121	1	SX103	棒状	15742	マツ属複維管束亜属
W040	2-1	SK218	加工材	15745	クリ
W057	2-1		加工材	15748	クスノキ科 B
W028-2	2-1		加工材	15749	クリ
W182	1	SB202-P2	加工材	15750	コナラ属アカガシ亜属
W028-7	2-1		加工材	15752	クリ
W177	1		木片	15755	クリ
W042-1	2-1	SB211-P2	木片	15756	スダジイ
W028-4	2-1		加工材	15757	クリ
W147	1	SB210-P2	加工材	15760	クリ
W143	1	SB210-P2	加工材	15761	クリ
W142	1	SB210-P2	加工材	15762	クリ
W223	1	SB104-P2	加工材	15763	スダジイ
W220	1	SB106-P6	木片	15764	スダジイ
W145	1	SB210-P2	加工材	15778	クリ
W148	1	SB210-P2	加工材	15779	クリ
W144	1	SB210-P2	加工材	15780	クリ
W052	2-1	SB211-P6 SB212-P6	加工材	15781	クリ
W053	2-1	SB211-P6 SB212-P6	加工材	15782	クリ
W061	2-1	SB211-P2	加工材	15784	スダジイ
W063-1	2-1	SB211-P2	加工材	15785	スダジイ
W063-1	2-1	SB211-P2	加工材	15786	スダジイ
W063-1	2-1	SB211-P2	加工材	15787	スダジイ
W063-1	2-1	SB211-P2	加工材	15788	スダジイ
W146	1	SB210-P2	加工材	15789	クリ
W188	1	SB202-P10	木片	15790	コナラ属アカガシ亜属
W189	1	SB202-P10	加工材	15791	コナラ属アカガシ亜属
W214	1	SK203	加工材	15792	スダジイ
W217	1	SB204-P8	加工材	15794	クリ
W218	1	SB203-P5	加工材	15795	クリ
W219	1	SB207-P7	加工材	15796	コナラ属アカガシ亜属
W222	1	SB209-P4	加工材	15797	スギ
W245	2-2	SD206	割材	15799	ヒノキ

遺物No.	区	遺構	遺物の種類	プレパラートNo.	樹種
W354	2-2	SD206	端材	15804	イヌマキ属
W178	1		木片	15805	クリ
W209	1	SB208-P6	加工材	15811	コナラ属コナラ節
W038	2-1	SX217	加工材	15814	クリ
W050	2-1	SB208-P1	加工材	15815	クリ
W321	2-2	SD206	割材	15818	イヌマキ属
W344	2-2	SD206	割材 (炭化)	15819	コナラ属アカガシ亜属
W042-1	2-1	SB211-P2	木片	15820	同定不可
W042-1	2-1	SB211-P2	木片	15821	同定不可
W042-1	2-1	SB211-P2	木片	15822	同定不可
W236	2-2	SD206	樹皮素材	15823	サクラ属樹皮
W071	2-1	SD304	加工材	15828	アカマツ
W099	1	SX103	棒状	15834	クスノキ科 B
W113	1	SX103	板材	15835	ツガ属
W083	2-1	SD403	板材	15836	カキノキ属
W097	1	SX103	板材	15837	ツガ属
W094	1	SX103	棒状	15839	クロマツ
W111	1	SX103	棒状	15842	マツ属複維管束亜属
W082-1	2-1	SD403	板材	15849	ツブラジイ
W082-1	2-1	SD403	板材	15850	スダジイ
W202	1	SB205-P2	加工材	15852	ヒノキ
W211	1	SB205-P1 SB206-P4	加工材	15853	ツブラジイ
W087	2-1	SD403	棒状	15857	イヌマキ属
W296	2-2	SD206	加工材	15858	スギ
W298	2-2	SD206	割材	15859	スギ
W096	1	SX103	棒状	15860	クリ
W109	1	SX103	板材	15861	ツガ属
W235	3-1	水田 419	板材	15862	イチイガシ
W308	2-2	SD206	端材	15863	イヌガヤ
W093	1	SX103	板材	15864	スダジイ
W193	1	SB202-P5	加工材	15865	スダジイ
W323	2-2	SD206	端材	15867	イヌマキ属
W115	1	SX103	棒状	15868	クリ
W259	2-2	SD206	端材	15869	スギ
W310	2-2	SD206	端材	15870	イヌマキ属
W315	2-2	SD206	板材	15872	スギ
W098-1	1	SX103	板材	15873	ツガ属
W098-2	1	SX103	板材	15874	ツガ属
W098-3	1	SX103	板材	15875	ツガ属
W098-4	1	SX103	板材	15876	ツガ属
W098-5	1	SX103	板材	15877	ツガ属
W098-6	1	SX103	板材	15878	ツガ属
W098-7	1	SX103	板材	15879	ツガ属
W098-8	1	SX103	板材	15880	ツガ属
W098-9	1	SX103	板材	15881	ツガ属
W204	1	SB209-P3	加工材	15883	クリ
W206	1	SB206-P2	加工材	15884	ヒノキ
W210	1	SB207-P3 SB206-P3	加工材	15885	コナラ属コナラ節
W338	2-2	SD206	加工材	15886	ヤマザクラ
W246	2-2	SD206	割材	15888	イヌマキ属
W312	2-2	SD206	端材	15889	イヌマキ属
W314	2-2	SD206	加工材	15890	スギ
W107	1	SX103	棒状	15892	アカマツ
W205	1	SB206-P2	加工材	15893	ヒノキ
W281	2-2	SD206	燃えさし	15894	スギ
W294	2-2	SD206	端材	15895	ヤナギ属
W179	1		木片	15896	スダジイ
W194	1	SB202-P5	加工材	15897	ツブラジイ
W208	1	SB208-P6	加工材	15898	コナラ属コナラ節
W326	2-2	SD206	加工材	15899	ヒノキ
W239	2-2	SD206	端材	15900	イヌマキ属
W280	2-2	SD206	端材	15901	イヌマキ属
W322	2-2	SD206	端材	15902	イヌマキ属

第 35 表　赤土政所遺跡出土木製品樹種等一覧表

遺物No.	区		遺物の種類	プレパラートNo.	樹種
W328	2-2	SD206	板材	15903	スギ
W332	2-2	SD206	加工材	15904	ツブラジイ
W234	3-1	水田 419	板材	15905	イヌマキ属
W207	1	SB206-P2	加工材	15906	クリ
W110-1	1	SX103	棒状	15907	クリ
W110-1	1	SX103	棒状	15908	クリ
W203	1	SB205-P2	加工材	15910	アスナロ
W276	2-2	SD206	端材	15911	イヌマキ属
W069	2-1	SB208-P10	加工材	15912	クリ
W027	2-1		加工材	15913	スダジイ
W029	2-1		加工材	15914	クリ
W172	1	SB203-P3	木片	15915	クリ
W197	1	SB202-P6	加工材	15916	ツブラジイ
W198	1	SB202-P6	加工材	15917	スダジイ
W285	2-2	SD206	薄板	15918	イヌマキ属
W154	1	SB210-P4	加工材	15919	クリ
W184	1	SB202-P3	加工材	15920	イヌマキ属
W168	1	SB204-P3 SB205-P4	木片	15921	クリ
W026	2-1		加工材	15922	クリ
W277	2-2	SD206	端材	15923	イヌマキ属
W264	2-2	SD206	薄板	15928	スギ
W196	1	SB202-P6	木片	15929	スダジイ
W256	2-2	SD206	薄板	15930	ヒノキ
W028-10	2-1		加工材	15931	クリ
W190	1	SB202-P7	加工材	15937	ツブラジイ
W153-1	1	SB210-P4	加工材	15938	クリ
W238	2-2	SD206	端材	15941	イヌマキ属
W030-1	2-1		加工材	15943	クリ
W030-1	2-1		加工材	15944	クリ
W030-1	2-1		加工材	15945	クリ
W028-3	2-1		加工材	15947	クリ
W028-5	2-1		加工材	15948	クリ
W028-6	2-1		加工材	15949	クリ
W028-8	2-1		加工材	15950	クリ
W028-9	2-1		加工材	15951	クリ
W378	2-2	SD206	加工材	15952	クマノミズキ
W020-2	2-1	SB212-P3 SB211-P1	加工材	15954	スダジイ
W329	2-2	SD206	割材	15955	イヌマキ属

第 36 表　一反田遺跡出土木製品樹種等一覧表

遺物No.	区	遺構	遺物の種類	プレパラートNo.	樹種
W166	5-2	SD101	杭	13622	イヌマキ属
W335	3-2	SB102-P3	礎板	14999	クマシデ属イヌシデ節
W507	3-1		杭	15000	ヒサカキ
W138	5-2	SD101	杭	15250	コナラ属コナラ節
W153	5-2	SD101	杭	15257	ムクロジ
W180	5-2	SD101	杭	15261	クロマツ
W195-1	5-2	SD101	杭	15270	スダジイ
W197	5-2	SD101	杭	15272	イヌマキ属
W199	5-2	SD101	杭	15274	イヌマキ属
W301	3-2	SD105	加工材	15277	クリ
W384	3-2	SA301	杭	15280	イボタノキ属
W383	3-2	SA301	杭	15281	コナラ属アカガシ亜属
W378	3-2	SA301	杭	15282	サカキ
W376	3-2	SA301	杭	15283	コシアブラ
W373	3-2	SA301	杭	15284	ヒサカキ
W372	3-2	SA301	杭	15285	コナラ属アカガシ亜属
W362	3-2	SR201	杭	15286	コナラ属アカガシ亜属
W352	3-2	SB103-P2	礎板	15287	スダジイ
W352	3-2	SB103-P2	礎板	15288	スダジイ
W352	3-2	SB103-P2	礎板	15289	コナラ属コナラ節
W352	3-2	SB103-P2	礎板	15290	スダジイ
W346	3-2		柱	15291	スダジイ
W344	3-2		柱	15292	マツ属複維管束亜属
W343	3-2		柱	15297	スダジイ
W342	3-2		礎板	15298	スダジイ
W336	3-2	SB102-P3	礎板	15299	マツ属複維管束亜属
W332	3-2	SB102-P3	礎板	15300	マツ属複維管束亜属
W019	5-1	SD101	杭	15310	ゴンズイ
W020	5-1	SD101	杭	15311	コナラ属クヌギ節
W021	5-1	SD101	杭	15312	コナラ属コナラ節
W025	5-1	SD101	流木	15315	コナラ属クヌギ節
W045	5-1	SD101	杭	15322	アカマツ
W046	5-1	SD101	杭	15323	コナラ属クヌギ節
W047	5-1	SD101	杭	15324	クリ
W048	5-1	SD101	杭	15326	イヌマキ属
W066	5-1	SD101	杭	15330	イボタノキ属
W071	5-1	SD101	杭	15333	サカキ
W090	5-1	SD101	杭	15349	コナラ属クヌギ節
W094	5-1	SD101	杭	15351	マツ属複維管束亜属
W095	5-1	SD101	杭	15352	コナラ属コナラ節
W096	5-1	SD101	杭	15353	マツ属複維管束亜属
W112	5-2	SD101	柱	15361	イヌマキ属
W120	5-2	SD101	木樋？	15368	クリ
W121	5-2	SD101	杭	15369	サンゴジュ
W129	5-2	SD101	杭	15372	コナラ属アカガシ亜属
W331	3-2	SB102-P3	礎板	15377	マツ属複維管束亜属
W331	3-2	SB102-P3	礎板	15378	マツ属複維管束亜属
W331	3-2	SB102-P3	礎板	15379	マツ属複維管束亜属
W335	3-2	SB102-P3	礎板	15380	コナラ属コナラ節
W335	3-2	SB102-P3	礎板	15381	マツ属複維管束亜属
W324	3-2		柱	15401	クリ
W484	3-2		柱	15402	クリ
W483	3-2	SB104-P6	柱	15403	クリ
W319	3-2	SB102-P7	礎板	15404	クリ
W315	3-2	SB102-P7	礎板	15405	クリ
W314-1	3-2	SB102-P7	礎板	15406	クリ
W407	3-2	SA301	杭	15408	カキノキ属
W410	3-2	SA301	杭	15409	ツブラジイ
W412	3-2	SA302	杭	15410	ヤナギ属
W414	3-2	SA302	杭	15411	スダジイ
W415	3-2	SA302	杭	15412	クスノキ科 A
W417	3-2	SA302	杭	15413	ヤナギ属
W418	3-2	SA302	杭	15414	サカキ
W422	3-2	SA302	杭	15415	スダジイ
W424	3-2	SA302	杭	15416	ヤナギ属
W426	3-2	SA302	杭	15417	ヤナギ属
W427	3-2	SA302	杭	15418	ヤナギ属
W428	3-2	SA302	杭	15419	スダジイ
W429	3-2	SA302	杭	15420	ヤナギ属
W431	3-2	SA302	杭	15421	ツブラジイ
W432	3-2	SA302	杭	15422	ツブラジイ
W434	3-2	SA302	杭	15423	ヤナギ属
W435	3-2	SA302	杭	15424	サンゴジュ
W433	3-2	SA302	杭	15425	スダジイ
W436	3-2	SA302	杭	15426	イボタノキ属
W439	3-2		杭	15427	マツ属複維管束亜属

第 36 表　一反田遺跡出土木製品樹種等一覧表

遺物No.	区		遺物の種類	プレパラートNo.	樹種	遺物No.	区		遺物の種類	プレパラートNo.	樹種
W440	3-2		杭	15428	コナラ属コナラ節	W351	3-2		杭	15825	スダジイ
W441	3-2		杭	15429	スダジイ	W051	5-1	SD101	斎串	13498	スギ
W442	3-2		杭	15430	エノキ属	W109	5-2	SD101	斎串	14989	ヒノキ科
W443	3-2		杭	15431	マツ属複維管束亜属	W041	5-1	SD101	祭祀具	15321	スギ
W446	3-2		杭	15432	コナラ属コナラ節	W022	5-1	SD101	農具	15313	コナラ属コナラ節
W459	3-1	SR110	杭	15433	マツ属複維管束亜属	W065	5-1	SD101	曲物	14985	ヒノキ
W464	3-1	SR110	杭	15434	アカマツ	W162	5-2	SD101	曲物	14994	ヒノキ
W466	3-1	SR110	杭	15435	イヌマキ属	W168	5-2	SD101	曲物	14995	ヒノキ
W477	3-2	SA202	杭？	15436	コナラ属アカガシ亜属	W198	5-2	SD101	曲物	15273	ヒノキ
W482	3-2	SA302	杭	15437	ヒサカキ	W003	5-1	SD101	曲物	15303	ヒノキ
W487	3-1		杭	15438	イボタノキ属	W011	5-1	SD101	曲物	15305	ヒノキ
W488	3-1		杭	15439	クマノミズキ	W012	5-1	SD101	曲物	15306	ヒノキ
W490	3-1		杭	15440	クマノミズキ	W013	5-1	SD101	曲物	15307	ヒノキ
W491	3-1		杭	15441	スダジイ	W016	5-1	SD101	曲物	15308	ヒノキ
W492	3-1		杭	15442	スダジイ	W017	5-1	SD101	曲物	15309	ヒノキ
W493	3-1		杭	15443	マツ属複維管束亜属	W326	3-2	SB210-P4	曲物	15593	ヒノキ属
W502	3-1		杭	15444	スギ	W032	5-1	SD101	板材	14982	イヌガヤ
W503	3-1		杭	15445	アカマツ	W033	5-1	SD101	板材	14983	スギ
W504	3-1		杭	15446	アカマツ	W061	5-1	SD101	板材	14984	ヒノキ
W505	3-1		杭	15447	スダジイ	W085	5-1	SD101	板材	14986	クリ
W506	3-1		杭	15448	クマノミズキ	W086	5-1	SD101	板材	14987	スギ
W515	3-1		杭	15449	タイミンタチバナ	W101	5-1	SD101	板材	14988	ヒノキ
W461	3-2	SR110	杭	15570	エゴノキ属	W133	5-2	SD101	板材	14990	イヌマキ属
W516	3-1		杭	15572	コナラ属アカガシ亜属	W136	5-2	SD101	板材	14991	スギ
W454	3-2	SR110	杭	15574	アカマツ	W148-1	5-2	SD101	加工材	14992	クリ
W449	3-2		杭	15575	サワラ	W148-2	5-2	SD101	加工材	14992	クリ
W302-1	3-2	SD104	杭	15578	ヤナギ属	W148-3	5-2	SD101	加工材	14992	クリ
W460	3-2	SR110	杭	15580	スギ	W158	5-2	SD101	薄板	14993	ヒノキ
W302-2	3-2	SD104	杭	15584	ヤナギ属	W176	5-2	SD101	板材	14996	クリ
W472	3-2		杭	15590	クロマツ	W188	5-2	SD101	棒状	14997	ウツギ属
W447	3-2		杭	15594	スギ	W190	5-2	SD101	板材	14998	ウツギ属
W467	3-2	SR110	杭	15601	スギ	W192	5-2	SD101	板材	15248	ウツギ属
W448	3-2		杭	15603	アスナロ	W137	5-2	SD101	板材	15249	イヌマキ属
W471-1	3-2		杭	15605	クリ	W139	5-2	SD101	加工材	15251	コナラ属コナラ節
W471-2	3-2		杭	15606	マツ属複維管束亜属	W140	5-2	SD101	加工材	15252	イヌマキ属
W471-5	3-2		杭	15607	クロマツ	W141	5-2	SD101	加工材	15253	クリ
W471-4	3-2		杭	15608	マツ属複維管束亜属	W142	5-2	SD101	木片	15254	イヌマキ属
W302-3	3-2	SD104	杭	15609	ヤナギ属	W144	5-2	SD101	加工材	15255	コナラ属コナラ節
W361-1	3-2		杭	15610	ヒノキ	W152	5-2	SD101	板材	15256	イヌマキ属
W306	3-2	SK112	板材	15611	スギ	W160	5-2	SD101	板材	15258	アカマツ
W452	3-2	SR110	杭	15612	アカマツ	W156	5-2	SD101	板材	15259	クリ
W463	3-2	SR110	杭	15617	スギ	W159	5-2	SD101	板材	15260	ウバメガシ
W471-3	3-2		杭	15619	マツ属複維管束亜属	W184	5-2	SD101	板材	15263	スギ
W361-2	3-2		杭	15621	フジ	W185	5-2	SD101	加工材	15264	ヒノキ
W457	3-2	SR110	杭	15622	マツ属複維管束亜属	W186	5-2	SD101	板材	15265	スギ
W445	3-2		杭	15623	ヒノキ	W187	5-2	SD101	板材	15266	スギ
W302-4	3-2	SD104	杭	15624	ヤナギ属	W189	5-2	SD101	板材	15267	モクレン属
W302-5	3-2		杭	15625	ヤナギ属	W193	5-2	SD101	板材	15268	イヌマキ属
W470	3-2	SR110	杭	15631	マツ属複維管束亜属	W195-2	5-2	SD101	板材	15271	スギ
W485	3-1	SR110	杭	15637	マツ属複維管束亜属	W200-1	5-2	SD101	板材	15275	ヒノキ
W456	3-1	SR110	杭	15638	マツ属複維管束亜属	W200-2	5-2	SD101	板材	15276	ヒノキ
W468	3-1	SR110	杭	15639	アスナロ	W310	3-2	SK112	加工材	15278	クリ
W444	3-2		杭	15641	スギ	W312	3-2	SK113	加工材	15279	クリ
W500	3-1		杭	15643	サカキ	W001	5-1	SD101	板材	15301	ヒノキ
W462	3-2	SR110	杭	15645	スギ	W002	5-1	SD101	板材	15302	スギ
W458	3-2	SR110	杭	15647	マツ属複維管束亜属	W004	5-1	SD101	板材	15304	ヒノキ
W451	3-2	SR110	杭	15654	アカマツ	W023	5-1	SD101	加工材	15314	ヒサカキ
W455	3-2	SR110	杭	15655	スギ	W026	5-1	SD101	板材	15316	スギ
W469	3-2	SR110	杭	15656	スギ	W027	5-1	SD101	棒状	15317	アカマツ
W453	3-2	SR110	杭	15658	クロマツ	W030	5-1	SD101	板材	15318	同定不可
W486	3-2		杭	15662	クロマツ	W031	5-1	SD101	板材	15319	コナラ属樹皮
W479	3-2	SA202	杭	15664	クスノキ科C	W040	5-1	SD101	板材	15320	スギ
W467	3-2	SR110	杭	15667	クロマツ	W028	5-1	SD101	棒状	15325	ヤナギ属
W465	3-2	SR110	杭	15668	トネリコ属	W050	5-1	SD101	板材	15327	スギ
W308	3-2	SK112	杭	15824	スダジイ	W060	5-1	SD101	板材	15328	スギ

第 36 表　一反田遺跡出土木製品樹種等一覧表

遺物No.	区	遺構	遺物の種類	プレパラートNo.	樹種
W062	5-1	SD101	板材	15329	センダン
W067	5-1	SD101	板材	15331	スギ
W069	5-1	SD101	板材	15332	スギ
W072	5-1	SD101	板材	15334	マツ属複維管束亜属
W073	5-1	SD101	板材	15335	イヌマキ属
W075	5-1	SD101	板材	15336	ヒノキ
W076	5-1	SD101	板材	15337	イボタノキ属
W077	5-1	SD101	板材	15338	イヌマキ属
W078	5-1	SD101	板材	15339	エノキ属
W079	5-1	SD101	板材	15340	スギ
W080	5-1	SD101	板材	15341	アカマツ
W081	5-1	SD101	板材	15342	クマノミズキ
W082	5-1	SD101	板材	15343	コナラ属アカガシ亜属
W083	5-1	SD101	板材	15344	コナラ属アカガシ亜属
W087	5-1	SD101	棒状	15346	クロマツ
W088	5-1	SD101	棒状	15347	カエデ属
W089	5-1	SD101	棒状	15348	スギ
W091	5-1	SD101	板材	15350	スダジイ
W097	5-1	SD101	板材	15354	スギ
W098	5-1	SD101	板材	15355	ヒノキ
W099	5-1	SD101	板材	15356	ヒノキ
W100	5-1	SD101	棒状	15357	アカマツ
W108	5-1	SD101	棒状	15358	スギ
W110	5-1	SD101	棒状	15359	サクラ属
W111	5-2	SD101	棒状	15360	コナラ属コナラ節
W113	5-2	SD101	棒状	15362	イヌマキ属
W114	5-2	SD101	棒状	15363	コナラ属アカガシ亜属
W115	5-2	SD101	加工材	15364	イヌマキ属
W116	5-2	SD101	棒状	15365	イボタノキ属
W117	5-2	SD101	加工材	15366	コナラ属アカガシ亜属
W119	5-2	SD101	板材	15367	アカマツ
W125	5-2	SD101	板材	15370	ヒノキ
W127	5-2	SD101	棒状	15371	スギ
W130	5-2	SD101	加工材	15373	コナラ属クヌギ節
W131	5-2	SD101	板材	15374	ヒノキ
W134	5-2	SD101	加工材	15375	イヌマキ属
W196	5-2	SD101	加工材	15376	スギ
W413	3-2		加工材	15382	コナラ属コナラ節
W409	3-2		加工材	15383	ヒサカキ
W425	3-2		加工材	15384	ヤナギ属
W322	3-2		加工材	15385	スダジイ
W404	3-2		加工材	15386	コナラ属アカガシ亜属
W394	3-2		加工材	15387	ヒサカキ
W423	3-2		加工材	15388	コナラ属コナラ節
W370	3-2		加工材	15389	サカキ
W392	3-2		加工材	15390	ヤマグワ
W508	3-1		加工材	15391	クマノミズキ
W498	3-1		加工材	15392	ヒサカキ
W371	3-2		加工材	15393	サカキ
W381	3-2		加工材	15394	スダジイ
W408	3-2		加工材	15395	コナラ属コナラ節
W420	3-2		加工材	15396	スダジイ
W380	3-2		加工材	15397	クリ
W339	3-2		加工材	15398	ヤマザクラ
W438	3-2		加工材	15399	ヒサカキ
W325	3-2		加工材	15400	スダジイ
W400	3-2	SA301	横木	15407	クリ
W307	3-2		加工材	15450	クリ
W395	3-2		加工材	15451	ヒサカキ
W328	3-2		加工材	15452	マツ属複維管束亜属
W379	3-2		加工材	15453	クスノキ科B
W396	3-2		加工材	15454	スダジイ
W478	3-2		加工材	15455	コナラ属アカガシ亜属
W403	3-2		加工材	15456	コナラ属アカガシ亜属
W437	3-2		加工材	15457	ツブラジイ
W501	3-1		加工材	15458	クスノキ科A
W406	3-2		加工材	15459	ヒサカキ
W430	3-2		加工材	15460	ヤナギ属
W391	3-2		加工材	15461	ヒサカキ
W058	5-1		加工材	15462	イヌマキ属
W059-1	5-1		加工材	15463	スギ
W476	3-2		加工材	15464	コナラ属アカガシ亜属
W059-2	5-1		加工材	15465	同定不可
W024	5-1		加工材	15466	クマシデ属イヌシデ節
W495	3-1		加工材	15467	ユズリハ属
W497	3-1		加工材	15468	マツ属複維管束亜属
W510	3-1		加工材	15469	ヒサカキ
W496	3-1		加工材	15470	サカキ
W494	3-1		加工材	15471	ヤブツバキ
W489	3-1		加工材	15472	クスノキ科A
W513	3-1		加工材	15473	ウツギ属